西塩田時報

大正十二年六月三十日印刷納本
大正十二年七月一日發行
編輯兼發行人　長野縣小縣郡西塩田村先覺
　　樋口秀實
印刷所　山浦活版所
　　小縣小縣郡國指田村
發行所　西塩田青年團

發刊の辭

附鐵城の廢刊について

曰く貴重節約、生活改善、農村救濟、曰はく何々、曰はく何々と、耳ばれるところの言葉は數多くそして立派であります。けれども其等の提案が今日どの程度にまで、解決され實現されつゝあるでせうか。

私共はもつと深く考へなくてはならないと思ひます。

ある人たちは言ひます。「今日は已に思索の時期ではない。即ち實行に移るべきである」と。

それは正しい言葉であるかも知れません。けれども私共は斷へず思索し攻究しつゝ常に實行と創造との網を操つて行かねばならないではないでせうか。

立憲國の基礎は自治体にあります。自治体の基礎は村にあります。而も今日自己の村に於て講策され、實行され、又將來實現されるだらう事實に村民自身が餘りに無關心であることは驚くべき事實であります。私共は世界の大勢に通ずると共に自己の村況を知悉しなければなりません、知るところに批判が起り從て改造の方策が育まれます。

私共はこの意見の下に年一回の「鐵城」を廢し、年四回以上の時報を發行し、村内の狀況を細大洩らさず掲載して、戸毎に及び他鄉中の人たちに贈り、社會問題について私共の實生活について、より深き考察と攻究を煩はし相共に村治の發展と向上とに資したい考へであります。

新らしい酒は常に新らしい革嚢に盛られなければなりません。

こゝに到る階段としてなければならなかつた「鐵城」及びその創刊當時より培ふ爲に骨折られた諸先輩に厚く感謝の意を表はします。

幸に皆様の御賛同を得て私共のこの新らしい營みが無意義に終らない樣に祈り舛。

祝詞

西鹽田村長　齋藤重太郎

制度備はり物質貢ぎ得たりと雖も民心の覺醒なくば如何にして地方自治の有終の美果を收めることが出來よう民心の覺醒とは各人が共同生活に於ける連帶責任の感念乃至政治を理解するの智識と善惡を批判するの理性とを養成し以て人心の融和と活動とを促すの謂である實に地方の堅實なる發達を遂ぐるには地方人士の智德を增進するより急はない又之を個人の立場から觀ても智德にして備はらなければ眞の文化的享樂的の生計を營むに由なくて生存を無意義ならしむることゝなる殊に最近の世態は實に日進月歩であるから人生の各階級や時代を通して智德の啓發てうことは寸時も忽にすることが出來ない

今回我西塩田青年團の發刊になる西塩田時報が如何に本村民心の覺醒と智德の啓發を促進し自治の發展に貢獻するか今より大なる期待を以て囑望すると同時に健全なる發達を祈りて止まないのである發刊に當り一言して祝詞とす

發刊を祝して

小學校長　六川靜治

産川の上流に西塩田時報が生まれるとんだ御めいわくとは思ひますが、私もつい先頃此地に生まれた者、君と同年輩の運命を以て、同じ旅路にでかけませう。時報の君よ。お互生れたからには生きねばならぬ、そして、泣かねばならぬことや、笑はねばならぬこともありませう。けれどやがては立つこともできませう、歩むこともできませう。行ける處まで進まうではありませんか。

時。それは過去、現在、未來と流れ流れて場所。それも廣い宇宙の空間を占むる位置がない。

それも、はかりつくすことはできない。こうした無限の時と、空間の中に、時と、所とを同じくして、生れ出たお互の運命をば偶然だとは申しながら、ありがたい宿緣ではないかと喜びませう。

お互の命が、一刻一刻くり返しのない連續の中に、すべてをまかせねばならぬ、道行を考ふると、どんなに此一日の生活に、嚴肅の意味を感ぜられるかわかりません。暗夜聲なき時、靜かに目をつぶつて心の走るまゝにまかせて見ませう。たれか人生の嚴肅さを味はない者がありませうお互の生き行く道は、人形や、機械の運動ではないと思ひます。「明日」といふ樣な、なまぬるい時間に遂はされずに、現實の今こそ、如何に生くべきかが問題ではないでせうか。

かくあるべき世界よりも、かくあり得る世界を求めやうではありませんか。

論理の世界を超ゐた、彼方の体驗の世界に進みたいと考ひます。

論理や概念や抽象や分析や、等の矢も立たざる處に、生命の嚴肅さがあるのではありませんか。

時報の君よ。お互生れたからには生きねばならぬ、そして、泣かねばならぬことや、笑はねばならぬこともありませう。けれどやがては立つこともできませう、歩むこともできませう。行ける處まで進まうではありませんか。

《第壹號》

本年度　壯丁學力試驗問題

一、讀方及意義

1 せかいへいわ
2 長野縣知事
3 しんぶん
4 しょくぎやう

二、書取

1 しんたいけんさ
2 大正十二年月日（檢查月日記入）
3 郡（市）（町）村　氏名（本人住所氏名）

三、口唱暗算

1 12×4＋8＝
2 12×4＋28－15＝
3 白米一圓に付三升のとき九升の代幾何
4 一日一圓五十錢の賃錢にて六日働きその賃錢に何圓足せば十五圓となるか

四、試問

1 自治体とは何をいふか
2 人の本分は何か
3 各自が理想とする人物は誰か

●尋常科卒業の部

一、讀方及意義

1 古人の片言隻句も我が師なり
2 國を思ふ道に二つはなかりけり
3 眞の自治の精神に富めるものは公平無私地方公職の爲の適任者を擧ぐるを知りて其他には何等の私心を有せざる也

二、書取

生活改善、時間勵行、兵役の義務、親族會議、協同一致、

三、口唱暗算

1 337－178＋46＝
2 或人が六日働いて十圓八十錢の賃錢を得た同じ割合で十一日働けば幾らの賃錢を得るか

四、筆算

1 15×3/12＝
2 一町歩は何坪なるか
3 3 7/12＝
毎日九里づゝ歩くと十六日で行く所を毎日八里づゝ歩くと幾日かゝるか
4 日歩三錢を年利率に直すと何割何分何厘にあたるか

五、試問

1 自治体とは何をいふか
2 人の本分は何か
3 各自が理想とする人物は誰か

●半途退學ノ部ニ全

4 青年團の任務は何か

●半途退學の部

一、讀方及意義

1 地球、貿易、往復、
2 約束、職業、天長節、
3 役場へ稅を納めに行く

二、書取

1 端郡市町村氏名（本人住所氏名）
2 長野縣市廳商業兵隊天皇陛下萬歲
3 口唱暗算
1 13×4＋12＝
2 125－60＝
3 六十五時間は何日何時か
4 四人の大工が六日かゝつた仕事を三人でするには何日かゝるか
5 疊の表替をするに一疊一圓廿五錢いるとすれば二間四方のへやには幾らいるか

四、試問

1 自治体とは何をいふか
2 人の本分は何か
3 各自が理想とする人物は誰か

●高等科卒業の部

一、讀方及意義

1 春の初にかけて鳴く。鶯の鳴く音の宛轉玉を轉ばすが如きに似ず其の聲強く耳に響き渡り晴れ渡る空に長閑け花の盛りに聞くべきは鶯の聲にして五月闇の雲間にふさはしきはほとゝぎすの名乘なるべし
2 鏡に一物なく私心なくして萬象を照すに是非善惡の姿あらはれすと云ふことなし。
3 人心かゝらましかは白玉も火には燒かれざりけり
4 すべてのものは過ぎ去りてまたかへらず。この中にあつて多少なりとも「まこと」を殘すものは、ものと云ふべきである。

二、書取

勞資協調、議會憲政、國體擁護、身心鍛錬、

三、口唱暗算

1 年利一割ニテ貸付タル一ヶ年後元利合計八十八圓ヲ受取リタリ元金幾何ナルカ
2 一ヶ何圓ナルカ

四、筆算

1 二種ノ織物アリ一反ノ價甲ハ五圓五十錢乙ハ三圓七十五錢ナリ乙百五反ハ甲何反ト取替テヨキカ
2 華氏寒暖計九十八度ハ攝氏ノ何度ニアタルカ
3 三十歳ノ親ニ六歳ト一歳トナル三人ノ子アリコノ三子ノ年齡ノ和ガ親ノ年齡シカナルハ幾年後ナルカ
4 三角形ニテ坪數百五十坪アリ底邊ノ長サ二十間ナルトキハ高サハ幾間ナルカ

四、試問

1 自治体トハ何ヲ云フカ
2 人ノ本分ハ何カ
3 各自ガ理想トスル人物ハ誰カ
4 青年團ノ任務如何
5 普通選擧トハ何ゾヤ

●中學三年以上之部

一、次ノ漢文ヲ普通文ニ改メ其意義ヲ記セ
孔子曰良玉六寸幼好禮良學益振當師有長於道藝者則就而學焉苟十五而慨然立爲天下致太平之志五十而知天命以道自任

二、左ノ文ノ意義ヲ解釋セヨ
文ノ意義ヲ解釋セヨ
統一ニハ單ニ集合シタル多數ヲ一團ニシタル事ニテハ單ニ集合シタル多數ヲ一團ニシタル事ニテハ單ニ集合シタル多數ヲ一團ニシタル事ニテ

大正十二年度西鹽田村歳入出豫算表

●歳　入

一金三万五千二百九十六圓　歳入豫算高

●歳　出

一金二萬六千三百拾四圓　經常部豫算高
一金八千九百八十二圓　臨時部豫算高
歳出合計三萬五千二百九十六圓

内譯

◇歳　入

財産ヨリ生ズル收入	一二九〇圓
使用料手數料	五七六圓
國庫不渡金	二五八〇圓
交付金	六六八圓
縣費補助金	六六一圓
繰越金	一〇〇〇圓
雜收入	一五四四圓
村稅	二六五八〇圓
寄附金	二五〇圓
繰入金	一四七圓
合計	三五二九六圓

◇歳　出

（經常部）

役場費	四一八八圓
會議費	九三圓
土木費	三七一圓
小學校費	一三六四三圓
實業補習學校費	二六二五圓
傳染病予防費	四五圓
虎疫予防費	四〇圓
勧業費	一三〇圓
救助費	五圓
警備費	二五三圓
基本財産造成費	二四〇二圓
財産費	六二〇圓
諸稅負坦	一四〇七圓
神社費	八一圓
雜支出	一三圓
予備費	三九八圓
經常部計	二六三一四圓

◇臨時部

補助金	一三〇〇圓
土木費	一一五圓
村誌編纂費	四五〇圓
納附金	五〇圓
表彰費	一五圓
村債費	一三一三圓
警備費	一四七圓
財産費	二〇〇圓
教育費	八九八二圓
臨時部計	三五二九六圓
歳出合計	

納稅成績一覽表

村稅第一期　地租割第一期納期四月廿日

宅地一圓（地租）ニ付廿八錢

其他仝　六十六錢

納稅成績順位　優

大字山田調定額四百六十一圓七十五錢

四月二十日納額仝右仝額

仝　優

大字手塚調定額千百七十二圓五錢

四月二十日納額仝右仝額

（優）

大字十人調定額三百八十七圓六十八錢

四月二十日納額仝右仝額

（一）

大字新町調定額三百十六圓九十三錢

四月二十日納額二百九十七圓八十九錢

未納額十九圓四錢　、〇六〇〇強

四月二十七日未納額皆納完結

（二）

大字東前山調定額四百九十四圓二十五錢

四月廿日納額四百四十九圓六十七錢

未納額四十四圓五十八錢　、〇九〇二強

四月二十六日未納額皆納完結

（三）

大字西前山調定額六百八十圓四十六錢

四月二十日納額六百三圓二十二錢

未納額七十七圓二十四錢　、一一三五強

四月三十日未納額皆納完結

（四）

大字野倉調定額三百三十四圓七十二錢

四月二十日納額二百三圓三錢

未納額六十七圓十五錢　、二四八五強

四月三十日未納額皆納完結

村累計調定額三千七百八十三圓三十錢

四月廿日納額三千五百七十五圓二十九錢

未納額二百八圓〇一錢

四月三十日未納額皆納完結

田租第四期及縣稅地租割附加稅前半期分

縣稅地租割率

宅地地租一圓ニ付二十八錢三厘五毛

其他仝右六十九錢二厘

順　位　優　前順位　優

大字山田調定額五百九十九圓六十四錢

五月二十五日納右皆納　完

仝　優　前順位　優

大字十人調定額四百八十二圓二十錢

五月二十五日納右皆納　完

仝　優　前順位　二

大字東前山調定額六百十圓九十五錢

五月二十五日納右皆納　完

仝　壹　前順位　一

大字新町調定額三百九十六圓七十九錢

五月二十五日納三百九十圓三十一錢

未納額六圓四十八錢　、〇〇一六三強

五月二十七日未納額皆納　完

仝　貳　前順位　四

大字野倉調定額三百三十四圓七十二錢

五月二十五日納三百八圓四十七錢

未納額二十六圓二十五錢　、〇七八四二

五月二十九日未納分皆納　完

仝　三　前順位　三

大字西前山調定額八百五十九圓八十六錢

五月二十五日納七百七十四圓五十四錢

未納額八十五圓三十二錢　、〇九九二二

五月三十日未納皆納　完

調定外澤山組合分六圓四十二錢

追徴分十五圓〇四錢

村累計調定四千八百十三圓三十七錢

五月廿五日納四千六百九十五圓三十二錢

五月三十日未納分皆納　完結

此ノ日數五日間

各部落ニ於ケル納稅努力調査前二表結果優

大字山田大字手塚大字十人

惠まれた農事懇談會

本村農會主催にかゝる第二回農事懇談會は、去る三月十八日本村小學校第二講堂に開かれ、會長より提出せる別項諸問案に對し左の答申案議決され終て宴會に移り四時散會せり。當日會合せるもの村内一般階級を網羅し無慮二百人仲々の盛會なりき。

諸問案

本村農家の現況に鑑みより以上消費節約の餘地ありやゝ

ありとすれば其の方策如何。

前回の答申事項を一層具体的に普及實行する方策如何。

答申書

第一問に對する分

本村農家ノ現況ハ各自家庭内ニ於ケル日常生活ハ既ニ節約ノ餘裕ナシト雖モ、冠婚葬祭、其ノ他交際上ニ於テハ相當ニ節約ノ餘地アリト認ム。

一、本村矯風規約ハ着々其ノ歩ヲ進メタリト雖モ未ダ充分勵行セラレザル点アリヲ依テ既設實行委員ヲシテ一層活動セシメラレタキコト。

二、本村矯風規約ニ左ノ各項ヲ補足スルコト。

1、葬儀ノ節ハ蒸物ヲ全廢スルコト。

2、病氣其ノ他ノ見舞品ハ可成金錢ヲ以テスルコト。

3、病氣全快ノ場合ハ床上祝トシテ赤飯其ノ他ノ物品ヲ贈答セザルコト。

4、小學生徒及補習學校生徒ノ袴ハ木綿ニ限ルコト。

三、矯風規約ハ毎年各戸ニ配布シ其ノ徹底ヲ期スル樣村當局ニ建議スルコト。

第二問に對する分

前回ノ答申事項ハ各農事組合ニ於テ極力之ガ實行ニ力メ、其ノ成績ヲ會長ニ報告スルコト。

希望條件

一、公休日ヲ設クルコト

イ、一般農家ノ能率ヲ增進スルタメ一ケ月三日間ノ公休日ヲ定メ各種團体ノ會合ハ可成其ノ日ヲ以テスルコト。

ロ、養蠶ト普通農業トハ均等ナル奬勵ヲ望ム。

作物の病虫害について

作物の繁茂につれ病虫害の發生夥しく殊に蚜虫、テントー虫ダマシ、胡瓜の露菌病の類に至りては其の繁殖旺盛にして此を放任する場合は數日にして枯死し昨年の如き悲慘なる狀況を召致するに致るべし

木村農會に於ては此等の狀況に鑑み之れが驅除予防を徹底的に施行せしむべき方針にて目下此れが第一歩として一般病虫害驅除予防に使用すべき除虫劑、硫酸銅、石灰石油乳濟（調製品）等購入し實費にて提供し之れが驅除を勵行しつゝあり

客年ニ倣ヒ村農會ニ於テ秋蒔蔬菜種子共同購入致可目下準備中ニ付キ希望者ハ品種名ヲ記シ七月十日迄ニ各農事組合長ニ申出ラレタシト

統計ニ現レタ春蠶掃立枚數

白繭種　四千參拾參枚

黄繭種　七拾貳枚

◎關西視察旅行の獲物

竹下古道

○琵琶の湖上を過ぎ、春の八景を瀏覽するに比良の高嶽のみ冬の姿なりければ
　比良獨り溯邊の春におくれけり
○大和路に入りて　朝がすみひくや香具山うれび山
○手向山の八幡に額づきて　知月や我が眞心をたむけ山
○三笠山麓に杖を曳きて　春の旅降らばかさゝん三笠山
○笠置山を仰ぎて　山の昔偲べば春の寒きかな

◇學校より

職員の移動

新學期と共に西塩田小學校の職員にも左の通りの移動がありました。

校長　尾崎芳太　北佐北御牧小學校へ
花岡仙一郎　小縣和田小學校へ
山下才誌　小縣青木小學校へ
田中忠吉　小縣中塩田小學校へ
小山熊市　小縣長瀬小學校へ
西澤つね子　小縣室賀小學校へ
中澤まつよ　小縣神科小學校へ
村山要平　病氣退職
西島均一　退職
柳澤昇　退職(蠶業學校入學)

新任職員は左の通り

校長　六川靜治　上田小學校より
石森郁太　仝
滑水誠一郎　仝
小島正　小縣大門小學校より
井澤越　新任
青柳源之助　仝
瀧澤勇　新任
小山久士　仝
和田益巳　仝

本年度本村壯丁檢査日定

來る七月十四日午前七時三十分より小縣郡役所樓上に於て執行せらる因に本村壯丁者數は三十七名にして內三名寄留地に於て受檢前年假決者三名なりと。

壯丁試驗問題につき

近來各種の試驗問題が重大視され且論議されて居りますので、問題の撰擇については從來とはたいへん、趣が違つてきたかと思はれます。

從來の問題は只知識といふうち、記憶といふ一つの知力現象を見るより外氣がつかずに居りました、だから只むづかしい問題即ち難解とかいふことを目あてにしたのが、近來は生活にふれた問題即ちは現實に生活及思想の問題にふれてきたかと思ひます。どうかして全人格の動きを見たひといふ樣な風になつてきました。

此意味に於てこんどの試驗問題一般を考ひて見ると以前より進んだものではないかと考へられます。

試驗の答案に表はれた處から考ふると一般に、國語の理解よりは算術はよくないと思はれます、これは小學校時代を見てもやはり同じ傾向があります、つまり算術よりは國語の方が日常生活にふれた直接問題が多いからだと思はれます。

試問の問題については隨分考へねばならぬ事が多いと思ひます。自治体といふ事など案外わかつて居らないと感ぜられます。たいてい自治の精神といふ樣な意味に考へて居つた者が多い樣です。亦高等小學卒業の試問中「普通選擧とは何ぞや」といふ問題についても、案外わかつて居らない樣です。が是等は何れの方面から見ても余程考へねばならないと思はれます。「理想の人物は」といふ問題の答は隨分色々でありますが一番多いのは「乃木大將」でありました。他は政治家、實業家の名が一人宛位ありました。

此問題はあまりにむづかしい問題ではないかと思はれます、「理想」といふ意味が何をいふかが問題で容易に內容を決するに困難だと思はれます、「好きな人」位だらとうかと思はれました。

中學三年修了以上の問題は殊によい問題ではないかと考へます、受驗者も問題の意味が了解されて答案が出來た樣です。

(二)(三)の如きは全く字句の解釋を超ねて深い意味を探らんとする問題で、單に壯丁學力於て擧行した。來賓は長野縣蠶絲課長小縣郡長其の他村內有力者、各養蠶組合長、蠶種供給者、等廿七名、午前十時開會、型の如く式辭について創立以來の功勞者に感謝狀及紀念品を贈り、來賓の祝辭、記念撮影等の後宴會に移り後四時散會した。

尙當日の來賓祝詞の中には何れも「表彰を受けるとそれを絕頂として下り坂に向ふ傾あれば自重して益々努力せられん事を望む」と云ふ意味の警告のあつた事は注意に價すると思ふ。

寄附芳名錄

美しい表裝の本村芳名錄を拜見すると、一點一劃も疎にせず、大文字で墨鮮かに書かれてある、流石に芳名錄の名に恥じない。大正十一年以降の頁を開けると次の樣な文字が目に映る

一金壹百圓也　宮澤壽　男殿
一金壹百圓也　市村今朝太郎殿
一金參百圓也　武田助左衛門殿
一金參拾圓也　佐藤直　道殿
一金貳百圓也　樋口右　近殿
一無線電話受話機壹臺　仝　人　殿

村議逝く

本村々會議員曾根五市氏は四月以來胃癌にて療養中、去る五月廿日遂に永眠された、氏は明治廿八年選ばれて村議となり爾來今日迄實に二十一年、一日の如く村治の爲に貢獻されて來た。氏は尙此の外に大字總代其他公共の事に盡された功績尠くない殊に西塩田村外二ケ村財產組合林業委員として組合林の爲に着々計劃を立て、組合長に擧り、且つ身を挺して實際の事業に當る等、其の殘された功蹟は大なるものであつたと云ふ。

昨年信濃山林會主催間伐品評會開催の節は該審査員として各地の山野を跋涉し、若者をも凌ぐ勢だつたと云ふ。

行年五十六歲、本村治自の功勞者として洵に痛惜の至りだ。

□友人曾根五市大人のみまかり給ひけるを
かなしみて　武田正雄
夢にみつ現につゞきつなき歎に入りにし友を戀ひまさるかなみそに來つ役場へ集ふ度毎に見えぬは君か妻なりけり

手塚支部通信

青年會と婦人會の主催で例年の通り敬老會は梅花の薰る四月三日午前九時から手塚公會堂で開催された。

此日の招待員は七拾歲以上の高齡者と其の他有力者を合して五十有余名であつた。

で今日の一日を愉快さ滿足さで充實させてやる計劃のもとに蓄音機や會員の余興や淨瑠璃があつて尙晝食には婦人會手製の鮨が御馳走に膳に上つて一同は陽氣さと愉快さで大滿足の樣であつた。陽も傾いて肌寒さを覺ゆる三時過ぎには余興も盡きて樂しい享樂の一日敬老會は名殘惜しい樣に閉會された。

西行の戻り橋

(上香郷傳說童話小縣郡史談編四八頁)

昔々西行法師が、佐久の布引觀音から別所の北向觀音に廻らうとして、塩田の原を過ぎ山田峠にかゝつた。草青々として春風は衣を拂ふ。此原頭に四五歲ばかりの小供等が蕨を採つてゐた。法師戲むれて「小供らよ、わらび(蕨火)をとりて手を燒くな」と云ふた。すると子供等は直ぐに「法師さん檜笠(火ノ木笠)きて頭を燒くな」と云ふた。西行は何氣なしに通り越した。峠を下つて湯川が流れてゐる。此川に架けてある橋に片足を踏みかけたが、ふと此老法師がかの童達にすかさずやりこめられたとは抑も何事だ。此童は唯人ではあるまい。是れから先の旅も按じられると心に思ひ浮ぶと引き返して遂に橋を渡らなかつた。これから此橋を西行の戻り橋と云ふのである。間もなく峠を引かへして見れば最早先の童子等の形も見ゐなかつた。これは天狗の仕業かと、西行は飯つて來たのを喜んだと云ふことだ。

模範村と、然らざる村

案山子生

A村長――は、今年から〳〵飾りは七日迄として働かねばならぬ、いつ迄も正月氣分で居てはいけないと云ふて村中にフレを出してそうさせた。

B村長――は、正月位はうんと遊べたまには夜明もいゝだが体の毒にならぬ程度にしなくてはならぬ、又〳〵飾りは出來る丈奇麗にそうして、正月位は呑氣に一家揃ふて平和に暮せと云ふた。

A村長――は、十四日の物作りはしてはならぬそんな無駄の事をすると、罰金だぞ、それよりも蠶業の一つも余分に折れと云ふた、村中皆村長様の云ふ事をきいた。

B村長――は、物作りは最も縁起の善いものだ、中でも我が信州は繭で生活して行くんだからうんと繭玉をこさへろ、そして神に、祈れ、其の位熱心にならねば蠶も當らぬぞと云ふた、村中そうしてスバラシク繭玉が出來た。

A村長――は、正月〳〵と云ふて居てはならぬ、此の生存競爭のはげしい中で正月と雖も只安閑として居てはならぬ、居る奴はこの村には置かぬぞ、年中働け、時計の様に休まず働けと云ふた。

B村長――は、百姓は正月位遊ばないで何んとしよう、うんと遊べ、そして夏の忙しい時にうんと働けと云ふた。

A村長――は、盆と祇園をいつしよにやつた、そして只働きさへすればいゝと言つた、乾度今に、婚禮と、葬式をいつしよにやるかも知れぬ又赤坊が生れた時、穴を堀つて置くかも知れぬ。

B村長――は、祇園は祇園だ、盆は盆だいつしよにする事は出來ぬ、いつしよにする位なら、元旦に盆をもやれ、俺はそんな神や佛を、蔑にする事は出來ぬ、それよりも遊ぶ時はうんと遊び、働く時はうんと働く方がいゝと云ふた。

A村中は馬車馬の様に、只一身に働いて、そして非常に金をためた、だが年中ブツ通しに働いて居るので顔は青ずみ、青年に氣力は無く心が小さく成つて人間の萎縮病が出來た、又村一般に只金さへ金さへと云ふ氣風が溢滿した、だが郡長や縣知事からは模範村として幾度も表彰され尚褒美を貰ふた、此の事が大變村中が誇りらしい、今年は内務省や又、農商務省から御褒美をごつさり戴くと云ふモツパラの評判だ。

是に反しB村は遊ぶ時には何事も忘れそして遊ぶ、働く時には又うんと働いた、だがA村の様に金はためなかつた、其のかはり、村中平和氣分が溢れ、人の心は大きくいつも生き〳〵と今から何事か成さずんばと云ふ氣が滿ちて居る様だ、だが郡長や、縣知事からは非模範村とされ尚又新聞ではA村の模範と引き合せにされた。

扨てA村の今の有様がいつ迄續くか人間扱てもない〳〵ものづくし。何がないかと尋ねたら。酒を飲む人意氣地がない。飲まなきや一向元氣がない。其くせ飲んだらだらしがない。トント仕事に定りがない。あてにならない頼りない。世間の信用更にない。賤布にお金があつた事アない。家内子供はやり切れない。だから物言ひ絶間がない。まだ〳〵ない〳〵もの計りかり。醉ふたらざまない見つともない。足下あぶない力ない。大事な約束あてがない。トント秘密が守れない。そこで相手にしてがない。それも實際無理はない。ホントに仕様がない仕方がない。一生出世の望みがない。望みないからやけが出る。やけのヤン八喧嘩野郎、喧嘩口論やめた事はない。其の上身体も弱くなる、飲んであたら命事はない。四百四病の其の本も、貧の病ひの原因も、酒でないとは言はせない。百害百毒百厄の長と言はゝお酒を飲んで一つもろくな事はない。早く止めるに越す事はアない。止めたらホントニ世話がなくなりますので、需用家各位の德義心によつて本組の事業を幫助して戴きたいと思ひます。尚傳票に間違ひのある場合は、翌月又は翌々月に於て差引致しますので都合の出來る限り御納金を願ひます。

青年團のやうな一個の獨立團体が他の營利會社の手先きとなることは面白いことではありませんが、供給を受けた電力に對して賃金を拂ふことは當然であるし、どうせ集金係も必要である以上、會社よりその集金係に支拂ふ手數料は、それだけ自分たちの働きによつて受取ることは少しも疾しいことゝは考へられません。單に營利會社と結託して電燈料を取立てるものでないことを申上げて一般の御了解を願ひます。

禁酒

（完）

成功の人　樋口右近氏

本村出身樋口右近氏は雄圖を抱いて鄉關を出で、奮闘の生活を續けること十余年、みんごと成功の人として現在は英領加奈陀バンクーバの古屋商店の支店長であられると云ふ。此の程歸鄉せられて樋口みよし氏と華燭の典を擧げられた。

氏は歸鄉に際して本團の爲に金五拾圓を寄附された。本團は感謝を以つて之を受け、圖書館費の内へ入れて永く氏の志を記念する事とした。

◇編輯室より

△創刊号の編輯も幸と終へた。

△原稿は隨分多く集つたが大部分は紙面の都合上次号に廻さなければならなかつた御諒恕を乞ふ。

△原稿は分り易く潔然と書いて貰ひたい。句讀のないのは困る。

△次号の〆切は八月二十日であるから必ず書いて貰へたい。

電燈需用家各位へ

今年の五月から信濃電燈會社に交渉して青年團で電燈料の集金をする事になりました。それは川西全体です。勿論感うした働きによつて幾分でも年毎に嵩まる青年團の經費に當てたい考へからであります。是からは毎月其の月の電燈料を其の月の十五日から二十五日迄の間に集める事に致しますから該係が廻りましたなら御都合してお出し下さる様願ひます。時間の經濟から言つても二度も三度も足を運ぶ事は、行くものばかりでなくお互ひ利益にならないと思ひます。中には其の月の電燈料を其の月の滿たない中に拂す必要はないとお考の方もあるでせうが、會社との約束から云つても二十五日迄に納金する事になつて居りますので、需用家各位の德義心によつて本組の事業を幫助して戴きたいと思ひます。尚傳票に間違ひのある場合は、翌月又は翌々月に於て差引致しますので都合の出來る限り御納金を願ひます。

大正十二年度西塩田青年團歲入出豫算表

◎歲　入

一金四百四拾七圓也　歲入豫算高

◎歲　出

一金四百四拾七圓也　歲出豫算高

差引皆當

内譯

◎歲　入

一、會　費	三四七圓
二、補助金	一〇〇圓
合　計	四四七圓

◎歲　出

一、事務所費	一二圓
二、會議費	五〇圓
三、事業費	三七〇圓
四、補助費	一〇圓
五、豫備費	五圓
合　計	四四七圓

大正十一年度西塩田青年團歲入出決算表

歲入豫算高　一金四百七拾六圓拾錢

仝　決算高　一金貳百四拾四圓六拾六錢

歲出豫算高　一金四百七拾六圓拾錢

仝　決算高　一金貳百參拾六圓九錢

差引殘額　一金八圓五拾六錢

内譯

◎歲　入

科　目	豫算高	決算高	
一、會　費	三四七圓〇〇錢	二四四圓六六錢	
二、補助金	100.00	100.00	
合　計	四四七、〇	二四四、六六	

◎歲　出

科　目	豫算高	決算高	
一、事務所費	一〇圓〇〇錢	七圓二六錢	
二、會議費	四四、〇〇	三三、三五	
三、事業費	三九一、一〇	一八九、四七	
四、補助費	二六、〇〇	六、〇〇	
五、豫備費	五、〇〇	一	
合　計	四七六、一〇	二三六、〇	

旅で歌へる（抜萃）

武田正雄

○木曾の川口に到れる頃ほい天僅かに白く魚舟の歸り來るを見て

魚つる舟の燈火遠近に曉早し木曾の川口

○大廟に參拜して

千早振神に願をかけまくもかしこき御代をなほ祈るかな

○遙かに四條堰を望みて

益荒雄のひきし眞弓の弦の音は今の世までも尚響きけり

○男山八幡の神山より遠く宇治の里を見て

見渡せば宇治の里吹く風にかほりの通ふ心地こそすれ

○雪中三保の松原を眺めて

ふる雪に影もなつかし海越しにつゝきて遠し三保の松原

○宮城を拜して

年ふりし松の乘り枝の限りなき葉かつや御代の齡ならん

西塩田時報

大正十二年八月三十日印刷納本
大正十二年九月一日發行
編輯兼發行人　樋口秀實
印刷所　全縣上田市六二六　山浦活版所
發行所　全縣小縣郡西塩田村　西塩田青年團

時勢は青年の奮起を要す

歩兵中尉　木下三次郎

歐洲大戰の經驗に徵するに凡そ一國の國防は軍人軍隊のみの擔任すべきものに非ずして有事の日國家は人と物との全資源を擧げて國家總動員の下に戰爭に從事するに非ざれば之れを全ふし難きを明にするに至れり。然るに我國の一部に於ては世界大戰後戰爭を呪ひ戰爭の如きは再起する事なしとなし隨つて軍備の如きは最早必要なきものの如く思意し軍備の縮少を唱ふるは恰も新人であり名論であるが如く考へ社會主義共産主義の如きは既に世界の人心を支配したる實現の事柄の如く認むる風あるも實は然らず。

是等の思潮は歐洲戰前に行はれたるものにして今日の歐米の思潮は一變し一方軍備を整理し（歐米の軍備の整理は戰爭中大擴張せる軍備を戰後平時狀態に復歸するの整理とあるを適當とす我國の整理とは根本を異にするものなり）國力の恢復に努むると共に一方國防上の施設を忽にせず國民資源の向上に著意し國家の全機關一致して國民全般の教育訓練に力を盡し以て國際競爭場裏に優越の地歩を占め有事に際しては國防の完璧を期せんとせり。然るに我國の現狀は如何？數次の戰役を經國運の發展眞に見るべきものありと雖も內容の充實に至りては外形の進歩に伴はざるものあり。特に最近軍備の縮少の論一度喧傳せらるゝや深く眞味を考ふる事なく世界恒久の平和の實現なりとなし事實を疎にし國防を輕視し歐洲戰後は世界に國民的戰爭は起らざるものの如く判斷し軍國主義を有害無益の如く論じ帝國主義を呪ひ甚だしきは軍備半減を論じ國防不要を叫ぶに至れり。其の誤解をなさしめたる原因は多々あるべしと雖もその主なる原因の第一は國際聯盟の成立これなり。國際聯盟の成立は最早戰爭なきものゝ如く誤解するもその條令中には戰爭を禁ずるもの一つもなく唯戰爭の手續を緩慢ならしむるに過ぎず。甚だしきは國際聯盟を過信し軍備半減を叫ぶが如き暴論をなすもの無きにしもあらず。國際聯盟の元來の性質は現狀の維持を目標とせるものにして換言せば英米の保全に有利にして弱少國新興國に不利なり。恰も貧富の階級にこれを例へば富者は永久に富者たれ貧者は永久に貧者たれ現狀を打破する事なかれと規定せるに外ならず。又最近露國の大軍ボーランドに侵入せるも國際聯盟は何等これを阻止するを得ず又ギリシヤとトルコとの戰爭に於てケマルの祖國の爲めの奮起に際し國際聯盟は傍觀せるに過ぎず。それ等の二實例に徵するも國際聯盟なるもの將に空文に終らんとするを知るのみ。特に前米大統領ウイルソンの主唱になりその成立を見るの秋米國は調印を拒み脫退して知らざるが如し。奇怪と云ふべし。

第二は華府會議なり。華府會議は決して日本の平和の保證となるものに非ず。海軍問題は對外武力の均衡を失ひ加ふるに日英同盟は葬られ四國協定は英米の領土を保全するに有利にして、日米の衝突問題については毫も緩和することなく、何等言及せず。將來の日米問題はシベリア、支那問題なるに之等に關しては一言規定することなし。之を要するに、英米は軍備を充實し國防を完備し然る後華府會議に臨みたるなり。又知るべきのみ。最近英國はシンガポールに一大海軍根據地を米國は太平洋岸特にハワイに多額の經費を投じ、防備を急ぎつゝある事實は華府會議の規定に悖らざるや否や我が國の一大脅威にあらずして何ぞや。

之によつて之を見るに、國防不要論の如きは極めて無責任なる暴論といはざるべからず。軍備不要論或は恒久の平和論の如きは大洋を隔てたる國の一つの宣傳なり。吾人は對岸國の宣傳に乘せらるゝことあるべからず。凡そ一國の平和を維持せんとせば必ずや自國を守るに足るの軍備なかるべからず。一國の平和の保証を他國に依賴するが如きは極めて危險なりといふべし。吾人青年は時勢に覺醒し奮起せざるべからず。

外に東洋のバルカンなる支那あり。シベリア問題あり、內に思想問題あり、政治問題あり、社會問題あり、道德の頽廢あり、眞に國難といふべし。內協力一致國力の充實を圖り、外國際場裏に於て優越の地歩を占めざるべからず。之が爲先づ經濟界の危期を救はざるべからず。

一、射倖的に走り一獲千金偶發的成功の迷夢より覺醒し成金的氣分を脫せざるべからず。

二、消費節約を勵行し舊習を打破し好景氣時代の華美の風習を捨てざるべからず。

三、着實勤勉にして社會主義者の高唱する八時間勞働の如き要求は一考を要す。即ち原料に乏しく工業幼稚にして加ふるに勞働者の勞働時間の長きと勤勉なる点に於て支那人に及ばず。その体力と熱心と規律と優秀なる技能に於て歐米人に及ばざるの現狀は到底八時間勞働を以てして列國との競爭に打ち克ち得べきや否や。

四、誤まれる文化即ち文弱に流るべからずニキビ文士の生命とする戀愛至上主義を叫んで我國の道德を破壞し自己享樂に耽り優柔華美を好み体育を輕視し尙武の風を嫌ふが如き即ち之れ亡國的現象の第一歩なり。

五、宣傳に乘せらるべからず。新聞雜誌等の購讀に當りては嚴正なる批判的眼力を以てし取捨よろしきに從はざるべからず。直ちに之れを取つて事實を過信するが如きは危險これより大なるはなし。現今の新聞雜誌は販路の擴張に專らにしてあらゆる手段宣傳を以て誘引する狀商品と撰ぶ處なし。若し新聞雜誌を恰も教科書と同樣に之を考ふる如き事あらば誤れりと云ふべし。之れを要するに我々青年は歐米の現況に鑑み堅忍不拔の決心を以て率先勵起し体力を鍛練し勤儉の美風を養ひ尙武の氣風を養成し正義を持し帝國の進運を拓き眞の世界文化の建設に努力せざるべからず。時勢は青年の奮起を絕叫して止まず。

●イスカの嘴

○小縣郡農會事務所新築落成祝賀式擧行に當り中央の名優を招き上田劇場で各關係者に見せるさうだ

○これに要する多額の費用は町村農會產業組合農事組合に割當寄附を仰せつけるといふ。

○內務大臣の力說する消費節約、生活改善農村救濟の模範を垂れるのだらう

○實に有難いことでお上のお布令は一も二もなく服從するがいゝのだ。そうしないと模範村になりそこなうから

○縣會議員の選擧で又しばらくうるさいことだ。が俺たちにとつては何政黨の何人が當選しようが本統はかまはないどうせ當選御禮の通知一枚が最後で路で逢ても自働車の埃を吸はさせられるが落だ。

○重要な議案も尙待合で決定されることを知れば余りに馬鹿々々しくなる。

○けれども川西から慾をいへば二人いけなければ一人は是非出したい。候補者が二人も三人も名乘りを上げてワイ〳〵騷いでゐるとその一人さへも覺束ないことになる。シッカリするがいゝ。

○川西十ケ村を併合して一村にしたらといふ問題があるさうだ。

○こいつは面白いだらう。何でもやつつけてみるがいゝ。

○實業學校問題と同じ憂き目を見るやうぢあチト悲觀するテ

○他村の役場はどうか知らないが村の役場の一般入口を入て先づ驚くことはお役人様がズット高い所に構へてゐられる事だ

○俺のやうな背の高い奴でさへも尙ズット仰向かなければ親しく御役人の顏を拜め ない。まるで裁判所へいつたやうだ。

○背の小さい人などは遂お役人の顏を拜まずに用事を足すだらう

○少し話してゐると首筋が痛くなつて仕方がない。どうも少し官リヨウ的に見ゐて困る。只でも役場などは闘の高いところへこれでは益々親しみにくゝなりはしまいかと心配される

○私の考へでは普通の高さにまで床を張つたらどうかと思ひますが。

○兎に角村長樣に御願ひ申します。どうにか改造していただく譯にはまいりませんでせうか。

○序にもう一つお願ひいたします。こんど吏員に空席が出來たらどうか婦人を採用していたゞきたいことです。

○第一近頃やかましい婦人問題解決の上から見ても適宜のことですし。それに殺風景な役場の空氣を和げる効果は偉大のものだらうと存じます。事務はいかゞるしと一擧兩得です。

○そして事務的な頭の所有主であるよりも——さうであれば鬼に金棒ですが——美貌であることを條件とすることです。

○さうなると差當り私たちが用事にいつてみるがいゝ。

○何です……ソノ……ハイ首筋の痛む位は我慢します　エヘヽヽヽ。

春蠶の結果について

磯部郡技手談

本年の春蠶は天候の惡かつた割合に結果は良好であつた。今其原因を考究したい。之れは明年の經營上最も大切なる事である。何時でも從來の經驗を考へて將來に資し年一年と進歩して行かねばならぬ。

一、飼育の進歩　本春の結果を技術の進歩に重きを置く者がある勿論技術も進歩した埋薪の普及と云ひ、焚火の實行と云ひ、擴座給桑等の事も大いに改良せられた。交配種の取扱と習性を解得した。品種も統一せられた。然れども未だ之れを以て足りとせぬ中には上蔟に際して膿蠶を多く發したものである。繭中蛹蠶等も割合に多かつた。本年は一体に膿蠶系の害を受けたものが多い。將來此の病を發せぬことは修練せねばならぬ。蠶病中最も豫防の容易なるは「オシャリ」である。次に膿病である。

本年の良結果を技術の進歩のみと過信せば將來必ず不利の失敗を取るであらふ。余輩は飼育進歩の外有力なる他の原因を認むるのである。それは氣候と蠶種の關係である

二、氣候　蠶天又は降雨の日が多かつた。其の爲め夜間溫度が低下せぬ。元來交配種は稚蠶期に於て溫暖なることが最良である。夜間暖かなりし爲め生育も進み順調の經過を取つたのである。それに降雨の爲め桑葉も軟質にして蠶室内も乾燥に失せざりしにより蠶兒は充分飽食する事を得た。

三、蠶種　昨年生産した蠶種は一般に出來がよかつた。不良と認むるものは殆んどない。又本縣蠶種も覺醒して眞面目を以て精良種を製するに至つた。今日は寧ろ他府縣種に如何しきものが多くなつた。蠶種に原因する失敗のなかりしは未だ曾て見ざるところである。之により養蠶經營の第一出發点は蠶種の良きものを得ることは從來も將來も多言を要せぬ。

本年の蠶種の出來栄は昨年程でない。明春用蠶種は今より購入上に深き注意を拂はねばならぬ。

以上の如く養蠶技術も進歩したが氣候が過乾に失せず　蠶育に溫度の激變なく夜間溫暖なりしこと、葉質軟かなりしこと、蠶種の良かりしことが原因と認めねばならぬ。而して繭相場も高く收繭も多かりしが唯遺憾なりしは桑不足の爲め充分に給桑せざりし爲め繭層薄きもの等あり。高價の買入をなしたる等あり。將來桑園の改良と桑葉の需給關係を克く考慮して最善なる經營を致されたい。

◎方面委員の嘱託

本村助役竹下繁松氏は今回本縣方面委員を嘱託せられたり。

◎本縣の方面委員制度

本縣に於ては、社會改良の實を促進するの目的で、本年四月縣訓令第三十五號を以て方面委員制度を設置された、一体方面委員とは何であるかと云ふに、縣の設置規程で定められた或る一方面毎に一人宛の委員を置て、其の方面内の出來事に就て社會の安寧を保つべくいろ〳〵の世話をさせたり指導をさせて、家計上の事や、人事の相談や救濟保育、生計狀態の調査、戸籍の整理及び社會敎化等のあらゆる社會事業を斡旋せしむゝ機關である

此種の制度は他府縣には幾年も前から設けられて其名稱も色々ある、即ち保導委員救濟委員、公同委員、福利委員、地方改善委員、矯風委員、奉仕委員、共濟委員、濟世委員社會改良委員等名稱は異るが要するに委員の事業と目的は本縣の方面委員と同一であつて其委員を中心にして其の方面の社會の病根を豫防又は治療して互に共存共榮の實を擧げしむべく施設されたものである。

◎長野縣方面委員第一期事業

一、調　査
- 一般社會狀態ノ調査
- 生計狀態ノ調査（救濟保護ヲ要スルモノ）

二、指導救濟
- 紛議調停、人事相談、家政相談
- 相談
  - 負債整理、職業相談、貯金、保險
  - 購買組合信用組合ノ利用斡旋
- 救護
  - 生計費補給斡旋、災害救護
  - 窮民救助斡旋、軍事救護斡旋
  - 濟生會施療斡旋、醫師會施療斡旋、入院加療斡旋、消毒指導

三、兒童保護
- イ、姙婦保護。（姙産婦ノ注意、産婆斡旋）
- ロ、幼兒保護。（母子營養上ノ注意、保育上ノ指導、牛乳供給注意、托兒斡旋

災害信號の改正

西塩田消防組

本年八月二日縣令第五十四號ニヨリ災害信號左ノ通リ變更ニナリマシタカラ御承知ヲ願ヒマス

一、火急信號　○－○－○－○－○　（連續打信）
二、火災出場　○－○　（三点打信）
三、林野火災　○－○　（二点打信）
四、鎭　火　○○○○○○○　（一点打信）
五、演　習　○－○－○－○－○　（四点打信）
六、水災　○－○－○－○－○－○－○　（五点打信）

貰子里子ノ養育上ノ注意、健康相談所ノ利用斡旋）

ハ、特殊兒童ノ保護。（孤兒貧兒養育世話
被虐待兒保護、不良少年感化院入退院取扱
ニ、福利施設。（子供會、日曜學校、兒童遊園場等ノ設置、母親敎育施設、兒童保護會等組織）
四、戸籍整理
- イ、無籍者就籍
- ロ、戸籍間違整理
- ハ、内緣者私生子等整理
- ニ、其ノ他諸願届等ノ世話

五、社會敎化
- イ、生活改善
- ロ、地方改善
- ハ、免囚保護
- ニ、其ノ他社會公共的精神ノ鼓吹振作
- ロ、前項以外の下士にして任官したる翌年（志願に依らずして兵卒より下士に任官したる者は徵集せられたる翌年）より起算して十二年に滿たざるもの
- ハ、未だ敎育せざる補充兵（戰時輜卒隊に於て勤務したる補充兵役輜重輸卒、各兵科兵卒にして在隊三ケ月に滿たず現役より補充兵役に轉したるもの及敎育召集にして敎育終了前召集を解除せられたる者を含む）にして徵集せられたる翌年より起算し四年に滿たさる者
- ニ、豫備役下士にして陸軍補充令第三十七條の規定による勤務演習を終り少尉同相當官に任せらるゝ資格を具へたる者の簡閲点呼は之を行はず
- 三、勤務演習該當年の者は簡閲点呼を行はず（以下略す）

◎徵兵檢査の結果

本年徵兵檢査は去る七月十四日小縣郡役所に於て執行せられた、其の成績は左記の通りである。

受檢者三十一名

甲種　十六（内六名無名）
一乙　八　二乙　三
丙種　三　丁種　一

甲種合格者氏名

歩兵	九一	小林慶一郎	
歩兵	一五七	奥原信伊	
機（海）	四	大澤重巳	
輜輸	七四	兒玉小一郎	
計（海）	一	宮澤袈娑次	
歩兵	一〇五	吉澤豊	
砲工	一〇	小山豊	
歩兵	三	竹内延喜	
輜輸	三九	伊藤永吾	
	四	竹内多賀保	

◎簡閲點呼

本年簡閲点呼は九月九日午前七時半より中塩田小學校に於て執行される事になつて居ります右に參會を命せられた者は左の通りであります

既敎育者、元年但し勤務演習該當年につき輜重輸卒憲兵科のみ、三年、五年、七年、九年徵集

未敎育者、八年、九年、十年、十一年徵集に因点呼執行官は松本聯隊區司令官歩兵大佐勢三郎殿です

◎簡閲点呼の改正

（大正十二年一月二十四日陸軍省令第二号）

一、簡閲点呼は左に揭ぐる者の中豫備役後備役下士兵卒皈休兵及補充兵（未だ敎育せざる者を除く）に付一年置きに未だ敎育せざる補充兵につき毎年之を執行す

イ、兵卒にして徵集せられる翌年より起算し十二年に滿たざる者並に一年志願兵出身の下士兵卒にして入營の翌年（四月入營の者入營年）より起算し十二年に滿たさるもの

㊙西塩田村外二ケ村共有澤山財産組合の組織

本組合は元と澤山財産組合と稱し西塩田村の内大字十人東西前山手塚新町並に中塩田村の内五加上下本郷東塩田村の内柳澤部落の共同經營なりしが先般部落有財産整理の結果村有に皈屬したるを以て今回本縣知事の許可を得て新たに組合を組織し七月十九日初會の組合會を開き豫算並に規約等を決議し役員の選擧をなしたり

組合長　西塩田村長　齋藤重太郎
副組合長　西塩田村助役　竹下繁松
林業委員　樋口左近　宮澤久三郎　小出留十　樋田駒太郎　佐藤三郎

組合會議員

樋口左近	齋藤勇	武田正雄	
小出留十	宮原秋太郎		
宮澤友一	小宮山篤	曾根正一	
佐藤三郎	瀧澤重	池田文治	
倉澤喜内	齋藤廣次	宮澤久三郎	
北澤万次郎	上澤峯十	小林丈助	

尙ほ組合長の諸間機關として常務委員二名を置く事とし

中塩田村長遠藤月次郎　東塩田村長坂田六平の二氏を擧げたり

㊙西塩田村外二ケ村財産組合林

委員の補欠就任

同組合林業委員として功績多大なりし曾根五市氏逝去の事は前號に於て報道し置きたりしが今回其後任として西塩田村野倉瀧澤正江氏當選就職せられたり

學校だより

◎職員の移動

七月末に左の通り小學校の職員に移動がありました。

井澤　越君　退職
今井謙郎君　新任

同君は師範學校第二部を卒業されて本校へ新任されました。

◎教育時報廢刊

先年學校から特別に家庭へ、御知らせいたすために、西塩田教育時報といふ、印刷物ができて、年に三回とか出版さるゝわけでありますが、幸に本年から本村青年團諸君のお骨折りで西塩田時報ができましたので學校から特に一般に御知らせ申したひことは、此時報の一部をさかれて下さることになりましたから、これから色々の學校のことも此時報でお通知いたしますから御承知おきをねがひます。

◎兒童の体格について

本村の子供の体格があまりよくないといふことが、先年からも申されて居るのですから、特に五月行ひました檢査については色々調べて見ました。

兒童一人一人の狀況や其比較については通知表でおしらせしましたからこゝでは一般についての比較をして見たひと思ひます。

しかし表にあらはれたことから色々考ひてゆきますので絶對にあやまりないと申されませんから其邊も御諒察をねがいますことに比較をして見ますうち。身長。体重。胸圍。の三種が一番わかり易く思ひますから、この三通りだけ調べて見ます。

比較は、身体檢査平均表のうち

一、日本全國小學校兒童十八ヶ年間平均
二、長野縣下小學校兒童大正十一年平均
三、西塩田小學校兒童　大正十二年平均

の三種をあげて見ます。

一、身長

	(全國)	(縣下)	(本村)
七年 男	三五三	三五二	三五〇
女	三四八	三四九	三五二
八年 男	三六七	三六八	三六七
女	三六三	三六五	三六四
九年 男	三八二	三八六	三八七
女	三七八	三八二	三八〇
十年 男	三九八	四〇四	四〇〇
女	三九三	三九七	四〇四
十一年 男	四一二	四一六	四〇六
女	四〇八	四一二	四〇六
十二年 男	四二五	四二六	四二三
女	四二五	四二九	四二七
十三年 男	四四二	四四三	四四三
女	四四六	四四八	四四七
十四年 男	四五一	四五六	四五六
女	四五五	四六一	四六五

■手塚支部通信

我支部員卅余名は去る八月十七日上田驛發輕井澤下車　攝政の宮殿下を奉迎申上げた。それより淺間登山を企て翌十八日夕刻大元氣の裡に皈村した。

以上の表から身長だけ考ひて見ますと、本村の兒童の身長が全國平均よりも上位にあるものは

七年　女子　八年　女子
九年　男子　女子　十年　女子
十二年　男子　女子　十三年　女子
長野縣下の平均よりも上位にあるものは
七年　女子　九年　男子
十二年　男子　十三年　男子

二、体重

	(全國)	(縣下)	(本村)
七年 男	四六六六	四五八二	四五〇
女	四五〇〇	四四八六	四五〇六
八年 男	五一三三	五〇七一	五〇五
女	四九一九	四八三九	四八五九
九年 男	五三〇七	五二〇一	六一四〇
女	五二一六	五二六七	五六四〇
十年 男	六一三三	六一一〇	六一四〇

十一年	男	五九〇〇	五九五一	五五七
	女	六六五九	六八〇一	六六七三
十二年	男	七二六一	七三〇九	七三〇九
	女	七三六六	七三六六	七三九二
十三年	男	八〇〇三	八〇六一	七九三五
	女	八三二五	八三六〇	八二七二

◆淺間登山

小學校高等科生徒有志七十名（男三十九名　女三十一名）一般有志六十四名（男四十八名　女十六名）小學校職員九名（男六名　女三名）の淺間登山隊一行百四十三名は八月十五日午後六時半小諸口より登山した。十六日午前十一時經井澤へ下り午後四時上田へ到着無事解散した。

以上の表から本村兒童の体重が全國平均より上位にあるものは

七年　女子　九年　男子　女子
十年　男子　十一年　男子
十二年　男子　女子

三、胸圍

	(全國)	(縣下)	(本村)
七年 男	一七九	一八二	一八二
女	一七三	一七四	一八一
八年 男	一八五	一八七	一八八
女	一七九	一八一	一八三
九年 男	一九一	一九四	一九四
女	一八四	一八七	一九七
十年 男	一九八	二〇〇	二〇三
女	一九〇	一九四	一九四
十一年 男	二〇三	二〇七	二〇四
女	一九六	二〇〇	二〇〇
十二年 男	二〇九	二一〇	二一七
女	二〇三	二〇八	二一〇
十三年 男	二一六	二一〇	二一一
女	二一三	二一七	二一三
十四年 男	二一五	二一八	二一三
女	二一三	二一八	二一四

以上の表から本村兒童の胸圍が全國平均より上位にあるものは

七年　男子　女子　八年　男子　女子
九年　男子　女子　十年　男子　女子
十一年　男子　女子　十二年　男子　女子
十三年　男子　女子　十四年　男子　女子
長野縣下の平均より上位にあるものは
七年　男子　女子　八年　男子　女子
九年　男子　女子　十年　男子
十一年　男子
十二年　男子　女子
十三年　男子　女子　十四年　男子　女子

以上三種の表にあらはれたことから考ひてゆくと一般の總評といふことはできかねはしないかと思はれます。

只身長において女子が男子に比して平均より勝れて居ること。胸圍が一般に平均よりすぐれて居ること。十四年即はち高等二學年が平均よりよくない。事等より外各年齡毎に考ひて見ましてもあまり色々で其處に推定を下すことができないのであります。從つて特殊な原因を見いだそうとすることも困難ではないかと思われますけれどさらに細密にごの程度に平均と比べて優劣等があるとか或は各學年の發達の度合等の調べに至つてはまだハッキリしませんので、何れ調べを進めた決果申しあげ樣と思ひます。

小學校の教育は兒童の身体の發達に最とも注意して教育して行くわけですから常々是等の問題を考ひて參ります、殊に兒童の學業の成績如何も第一此身体の發達に關係して居りますから家庭におかれましても一層の御注意をしていただきどんな方面にも活動のでき得るからだの持主となる樣お互つとめたいと思ひます。

◎東前山支部通信

本村黒坂直右衛門氏は今般我支部の爲めに其の基本金の中へ金拾圓を寄附された尙氏は同時に婦人同志會へも寄附されたとの事である。

祇園祭

七月十五日塩野神社の祇園祭は例の通り盛大に擧行された。連日の雨に閉口してゐた村人も神輿の出る頃になつたらバッタリと雨が止んで神樣の有難さが一入強くひゞいた。尙來年は甲子祭で六十年に一度の大祭が執行されるそうだ。何はともあれ青年會も緊褌一番出來るだけの助力を致さうと思つてゐる。

◎本村の衛生に就て

本村の衛生狀態は漸次良好に向ひつゝありし處本年は殊に良好にて未だ傳染病患者の一人も出さゞる事は喜ぶ可き現象なり。想ふに村民各自の自覺に依つて春秋二季の清潔は勿論常に家の內外を掃除し飲食物に注意し進んで、公衆衛生を重んじ、自發的に豫防注射を腕行せる結果ならん

本年春季に於て腸チブス豫防注射を施行せる部落は手塚、西前山、山田にして皆進んで注射をせられたるは村の爲めに誠に喜びとする處なり尙村民全般が豫防注射を施行する迄に自覺せんことを望む。

最近五ヶ年間の傳染病患者の數を示せば左の如し

	腸チブス	仝上死亡	仝上治癒
大正七年	八名	二名	六名
大正八年	二十一名	一名	二十名
大正九年	二十一名	三名	十八名
大正十年	六名	一名	五名
大正十一年	三名	—	三名

（此內前年より持越一名あり）

以上の如くして一時は腸チブスの村と迄云はるゝ有樣なりしが豫防撲滅に力を盡くし一般の自覺に依つて益々良好なる成績を示せり

附記

本年は左記の如く衛生功勞者として表彰せられました誠に名譽の事であります

長野縣より表彰
西塩田聯合衛生組合長宮澤峯三郎
小縣郡聯合衛生會より表彰
西塩田村　竹ノ內衛生組合

○君たちは幸福だ

ヒコーキ

A——といふ有名な文學者が
他人の妻と情死した——と
新聞が書いてから數日の間に
かなり多くの若い人たちが死んでいつた
おゝ君たちA——氏の共鳴者崇拜家よ
自分の生命を斷てまでA——氏に倣つた
壯烈な君たちよ
君たちは本統に幸福だネー

かけがいのない生命を捧げることの出來る
それほど偉大な崇拜の對稱を持てゐることは幸福だ
たとひそれが氣狂や芝居氣であるにしても

他人の妻を橫取りして
私共は今平靜であると書く人や
男を拵へてとび出してから
あなた一人を殘してゆくのが可愛いさうで
ならないなんて書く人を
神樣のやうに信じてゐる君たちは
何といつても幸福だ

他人の妻と心中して
愛の極致は死だといふ
世の中には都合のいゝ哲學があるもんだ
この哲學を信ずる君たちにとつては
人が心中すると
自分も自殺しなければならないのか
これは又あんまり都合のよくない哲學だネ
けれども
信仰はあらゆるものを超越してゐるさうだから
君たちの死も矢張り絕對で
A——氏の死と同樣に光り輝くだらう

A——氏のやうな立派な人格者が增へて
君たちのやうな感心な青年が增へて
社會の改造に當るとき
文化とかウンカとかいふ言葉が使はれるんだネ
世界は安全だ
A——氏のやうな人が絕えない限り
君たちのやうな青年が絕えない限り
姦通と心中と自殺とが
永久に惠まれるだらうから——終——

○土地調査員推薦

土地の異動——例へば田を畑に變換したり畑を宅地に變換したりした時は三十日以內に屆出る事になつて居りますが、地圖の作製や書類の調製が解らない爲、往々無屆異動地を生じ爲に思はざる徵罰を受ける例が少なくありません。今回さうした異動地や臺帳面と實際反別との甚だしい差異を整理する爲に上田稅務署管內に土地調査員を置く事になりました。本村の調査員は左記十四名ですから土地異動等の際は御相談下されて速かに整理致される樣にして下さい。尙役場でも以前と全じく、異動土地の御相談に應じ、希望に依つては出張して丈量等も致し一般の便宜を圖りたいと思います。

土地調査員

佐藤三郎　瀧澤定巳　鷲原義男
宮澤兵部　吉澤廣治　金澤欣治郎
齋藤清人　樋口勇　山極博人
福田賢一郎　倉坂藤衛　竹下幸
荒井精一　內田文彌

❷九月の納稅
畑租雜地租第一期（國稅）
所得稅第一期（國稅）
小學校授業料第二期（村稅）
❸十月の納稅
自家用醬油稅前半期（國稅）
村稅戶別割第三期

○農事試驗場參觀の人々へ

本縣農事試驗場參觀者は年々增加するので當局に於ても之れが便宜を取斗ふべく每週火曜日と金曜日を案內日として今迄で通りの說明の外に特別便宜を與へることになつている。參觀者は左記事項了承の上遺憾なき樣期せられたい。

一、每週火曜金曜日を特別案內日と定め當日來場視察者に對しては其の希望により特に詳細なる案內說明をなす。
一、特別案內をなすべき期間は七月より十月末日迄とす。
一、案內時間は左の如し。
午前十時より一回　午後一時半より一回
一、場務の都合により案內を謝絕することあるべし。
一、宿泊參觀を希望するものは少くも一週間前に申出て、農事試驗場の承諾を受くべし。
一、試驗場に於て宿泊の希望に應ずるは農事視察を目的とする十名以上三十名以內の團體に限る。
一、其の他從前通り參觀者の來場を觀迎す

○お互に用心しませう

西塩田保安組合聯合會
西塩田聯合衛生組合

△組合當番は勤務を確實に勵行しませう
△火の用心を嚴重にしませう
△夏季も戶締を注意しませう
△夜中屋外に盜難の疑ある物を置かぬこと
△風紀を紊す者が入込んだら注意しませう
△不正の行商人には警戒しませう
△事故が發生したら協力して處置しませう
△常に飮食物に注意し生水を飮まぬ樣にしませう
△折々寢具を乾し衣服の洗濯をしませう
△時々入浴し體の淸潔を保たしめませう
△傳染病の發生地とは成べく交通を避けませう
△小兒の衛生に注意し寢冷をさせぬ樣にしませう
△其他不衛生の事は一切愼しみませう

幸に本年は傳染病患者も發生せず又盜難や火災を耳にせず、お互の爲に嬉びの至りであります。尙一層注意して禍を未然に防ぐ樣にしたいものであります。お互の生命財産を保護する事はお互の義務であることをそして油斷する所に大敵のある事を忘れない樣に致しませう。

○大正十二年七月二十日　村稅納入成績

優　前成績　優
大字山田調定額千四百八十二圓四十七錢
大正十二年七月二十日皆納
優　前　優
大字東前山千六百十三圓四十錢
全年七月二十日　皆納
壹　前　優
大字手塚三千六百四十四圓三十三錢
全年七月二十日未納八圓八十錢　○、○○二四
全年七月二十二日未納分納入　完了
大字十人千百二十五圓六錢　貳　前　優
全年七月二十日未納五十四圓九十四錢　○、○四八
全年七月三十日未納分納入　完了
此ノ日數十日
參　前　壹
大字新町千四百二十九圓四十二錢
全年七月二十日未納百五十九圓十八錢　○、一一一
全年八年三日未納分皆納　完了
此ノ日數十三日
四　前　三
大字西前山千九百九十九圓十三錢
全年七月二十日未納二百八十三圓三十五錢　○、一四一
全年八月三日未納分皆納　完了
此ノ日數十三日
五　前　二
大字野倉九百十二圓六十五錢
全年七月二十日未納百九十圓七十七錢　○、二〇九
全年七月二十六日未納分皆納完了
此ノ日數六日
村總納額收入日數十三日完結

◇編輯室より

◎どうも自分たちの考へてるやうな原稿が集らないので閉口する
◎繰返していふが時報の生命は支部の通信記事だ。繭が思たより取れたとか、桑が萎縮して困るとか、豚が何匹兒を產んだとか、何の會があつてどんなことが定つたとか、こんな新しい仕事を始めたとか、役場や學校に對する注文とか、將來に對する豫想とか、何でもいゝ。只氣取らないで簡明に書いて貰へばそれが何よりだ。詩歌民謠其他の文藝も勿論歡迎する
◎第一面の論說は每號村長校長等の名士に書いて貰ふよりも寧ろ村民諸君の衷心の叫びを載せたいと思ふ。ドシ〳〵書いて下さい。
◎投稿は誰でも構ひません。婦人でも小學校の生徒でも。なるべく多くの人たちが書いて下さることを望みます。
◎次號の〆切は十月二十日とする。取捨に困るほど投稿して欲しい
◎これは別の話だがソロ〳〵運動のシーズンに向ふ。野球庭球の器具は皆揃てゐるからぼん〳〵練習するがいゝ。十月中旬頃各支部のリーグ戰をやる積りである。
◎出鄕中の人たちの中調査の上住所の分つたところへは時報を贈てゐます。若しまだ屆かない向があつたら知人の方から其旨御知らせ下さい。直にお贈り致します

カメラ

◎婦人同志會では基本金を作るために寄附に歩いて三百有八十圓をせしめたさうだ○まことにお淺ましいことですぢやうか婦人解放運動なり參政運動なりに遠慮なく御活動あらむことを祈ります○近頃のやうに雜誌記者が多くなると晉人ゼノアの言葉が思ひ出される○自然は人間に一枚の舌と二個の耳とを與へた我々は話すだけの二倍を人から聞くべきだ○小學校職員生徒其他有志者の淺間登山には幸噴火口にとび込んだもの一人も無之由御安心下され度候○本年度壯丁檢查學力試驗に都長の前で本村の壯丁が懸命としてゐるのを皆懸命としてゐるのを讀んだので後に控へてゐる村長さんや校長先生の顏付——は現像失敗○小學校のあゝ女の先生は誠が若い上にカメンをかけて登校されるので上級の生徒と間違へられたまゝ〳〵喜劇を演ぜられるさうだ○なか〳〵勤勉家で生徒と一しよに水泳もする太公望の趣味もあるといふ。（カメラマン）

大正十二年十一月十日　西塩田時報　第拾壹號　（一）

西塩田時報

弱きものよ、汝の名は農民なり

——わが農村の人たちへ送る——

秀　三

農村の人たちよ——

有史以來といはれた大震火災があつてからもう二ケ月余經つた。人の噂も七十五日、たま〳〵襲來する余震にも腰を据へて動かぬ程に慣れて了つた。

それと同時に地震の話にも徹が生へて、その代りそろ〳〵寂しい自分の懐具合の方が心配になり出した。

無理もない貴方がた農村の人たち！

農村の人たちよ——

マア考へてみるがいゝ。今迄の貴方がたの生活を——

狡猾なる彼等都會人は貴方がたに向ふとき、「農は神聖である」といふ。「土に親むは善である」といふ。「百姓は呑氣でいゝ」といふ。

けれども其等は皆都會といふ一つの大きい資本家が、農村といふ勞働者の集團——搾取者たる彼等の爲には是非共必要なる人間——を巧に操る甘言に過ぎないのだ。

貴方がたの心の中に芽ぐむ自然の發達——社會主義的傾向——を、そしてそれ等を育む文化の侵入を出來るだけ阻止しようとする惡むべき巧言に過ぎないのだ。

農村の人たちよ——

けれども貴方がたは其等の提言に對して何といふ眞正直さであつたらう。それ等のおだてに甘々と乘せられて否内心は否定しながらも幾分は傳統の上にたつ諦めも手傳て格別惡い氣持もせず彼等のためには充分その目的をなさしめてゐたものだ。例へば彼等が俺たちは都會人だ、都會人は自働車を乘り廻すときそれが娯樂のためであるにしても凡て心要であるのだといふ一言で承認し、農村の貴方がたが偶に自働車に乘るのをみては何といふ贅澤だ考へてみろ君たちは百姓ではないかといつて說得する時にでさへも本統にさうだつけ、自分は百姓だつたといふ只一つの「偉大なる諦め」の下に凡て默從してゐたのではないか彼等はこの百姓といふ二千年來の言葉を如何に巧に利用したか。それ自身が幾年か前には矢張り百姓であつたことを棚の上に擧げて——

農村の人たちよ——

資本主義による結果は都會と農村との懸隔を益々甚だしくし、貧富の差をいよ〳〵大にするばかりだ。而も貴方がたはそれ程にまで虐げられてゐることをも知らず尙傳統の中に蠢動しながら周圍を考慮する暇もなしに頑迷なる年寄と共に苦痛の勞働を續けながら貯蓄し、失ひたる田畑と山林とを回收しようといふ無邪氣な煩悶に耽てゐたのだつた。會々この困襲の不徹底を自覺し都會に出で、自己の憧憬する人と物とに接しようとする青年を見ては目を見張つて大なる反逆者と考へたのだ。

農村の人たちよ——

貴方がたは都會に搾取される前に尙地方の地主富豪によつて搾取されてゐることを忘れてはならない。これについては、小作問題として現在盛に論ぜられてゐることだからこゝには言ひますまい。

兎に角貴方がたはこの二重搾取に逢つても尙能く沈默を續け、今日まで大した社會運動も惹起さなかつた耐忍强さには泌々と涙がこぼれる。加之貴方がたの先輩たちが社會運動を起すほど自覺し得なかつたよりもさうする力の無いまでに搾取されて來たかと思へば本統に心から悲しまないではゐられない。

農村の人たちよ——

貴方がたには本統に貴方がたのものとしての娯樂もなければそんな余裕さへもなかつたのだ。只管搾取するに任せた余りに遠慮深い謙讓の德の所有者ばかりだつた。せめて被搾取者の立場にゐる貴方がたにもつともつと貴方がたに近い慰安があつたらと考へさせられる。盆踊や田舍芝居など尤もさうゆう意義に適つたものと思ふものは直に禁止されて了ふのだつた。イタリヤに於けるあのタランテラは今でもまあどんなに彼の國の被搾取者たちに强い慰籍と力とを與へてゐることだらう。

貴方がたの前には只都會の流行遲れのローズ品か安芝居位が立派な文化として藝術として殘されてあるだけではないだらうか

農村の人たちよ——

アメリカでは前世紀の末葉已に農村社會學の講座が大學に設けられてゐる。其後各國共競てこれに對する施設をし、農村生活の發達、進化、組織について研究してゐる。けれども私たち日本には只農業立國といふ大きな看板だけはあるがどんな見事な計畫が策立されてゐるか——勿論社會學的に——知らない。あれば只消費節約、生活改善の宣傳に奈良丸を唸らせたといふ位なものだ。

農村の人たちよ——

一体今日の農村生活がこれ以上に節約が出來ると思てゐる役人の氣が知れない。否こゝが彼等の奸策であるのだ。出來ない迄も節約を强ひて餓死しない範圍で出來るだけ多く搾取しようとする若肉の策であるのだ。貴方がた先祖代々の百姓には一文の恩給も與へられないのに矢張り生活の爲に奔走する役人には僅かの年限で國家がその生活を保證するといふ有難い御規則なのだ。諸種の保險料や郵便貯金なども只地方の

東宮殿下御慶事記念植樹の勸め

村長　齋藤重太郎

來春吉辰ヲトシ御擧行アラセラル可キ我帝室ノ大典ハ、方ニ我々國家ノ慶賀祝福其赤誠ヲ竭ス可キ一大祥事ニシテ、此際大ニ記念的施設ヲ行ヒ以テ金甌無欠比類ナキ皇室ノ御繁榮ヲ祈リ奉ル可キ也。而シテ之カ施設ヲ企圖スルニ當ツテハ、宜シク實行完全ニシテ其成績永劫的ナルモノヲ選擇ス可キ者ナリト信ズ。植樹及造林事業ノ如キ最モ能ク此目的ニ適合スル者ト謂ツヘキナリ。蓋シ樹木ハ植栽後ノ保護撫育ニシテ其宜シキヲ得ンカ、歲ヲ閱シ日ヲ經ルニ從ヒ生長繁茂シ、益々雄偉壯麗ノ觀ヲ加ヘ記念ノ意義ヲシテ常ニ新ニシ且ツ强カラシムルノミナラズ、數十百年ノ後ニ至ラバ、棟梁ノ材ヲ產シ、子孫ヲシテ新ニ其意義ヲ更正味得セシムヘク、眞ニ恰好ノ記念ト信ス。而モ其事タル素朴質實ニシテ克ク聖旨ニ副ヒ奉ルモノト云フヘキニアラヤ。敢テ之カ實現ヲ全村ニ向テ勸奬セムトス。冀クハ村民諸君之ノ趣旨ニ贊同セラレ一段ノ力ヲ致サレムコトヲ。

農村の人たちよ——

それにしても貴方がたはどの位深く大きい心の持主だらう。今度の震災により澁澤子爵の所謂天譴によつて避難した人たち——平生かくも搾取され嘲罵されてゐた都會の罹災者に對して心からの義捐金品を幾重にも贈り反逆者たる同胞のために吾が身を忘れて世話をするなんて——キリストの愛よりも釋迦の慈悲よりもづつと大きい熱い心意氣ではないだらうか。

農村の人たちよ——

こんなことを書き始めたら切りがない。もう止めませう。

私たちは只「弱きものよ、汝の名は農民なり」。さうゆう言葉が絶えず私たちの周圍に瀰漫してゆくことを感ずるばかりだ。

農村の人たちよ——

ところへ今度の地震だ、何といつても大變動だつた。自然は矢張り偉かつた。天に背き地に背き人に背いた彼等都會人もこの自然の一喝の前にもろくも破れて常に虐げつゝ弃てゝゐた貴方がたに向つてどの•きの猫撫聲を出して救を求めた。偉大なる天譴だつた。社會主義者等が幾十年も懸て出來なかつたことを一瞬の間に爲し遂げて了つた犧牲は少し大き過ぎた感じはするがその爲に社會が赴くべき方向に例ひ一日でも早く到達したとすれば、或は單にさうゆう素因を作つたとすればそれだけでも全然無意義ではなかつたのだ。このざくさの中に成立した山本内閣が誰れにも出來さうもなかつた普通選擧を斷行するさうだ。偉いことだ。序にもう一つお願ひ申す。農村問題の解決を——

さて農村の人たちよ——

問題ではいけない。今日の都會文化をそのまゝ農村に持込むことが農村生活を擴充する所以では決してないのだ。又カントやベルグソンやアインスタインそのまゝでは徒に智的のブルジョア心理の青年を滿足せしめるに過ぎない。

即ち農村には農村自身の文化があるべきだ。貴方がたは人が手を貸すまで待てゐるだけではいけない。無意義なる遠慮は却て社會を退歩せしめる。いつ迄も搾取されてゐることは人生に對する冒瀆だ。新らしい思想を得、眞理に接したならば都會に出づる前に之を周圍の人たちに傳へて共に人間共存の權利を主張しなくてはならない。

貴方がたはこれ等の事實の前に先づ小兒の心に歸て靜かに自己とその周圍とを見詰めなくてはならない。そこには必ず貴方がたの心を展くべき何物かに面接するに相違ないから。——（一九二二・一一・八）

大正十二年十月十三日印刷納本
大正十二年十月十日發行
長野縣小縣郡西塩田村公會
編輯印刷兼發行人　樋口秀實
全縣上田市六二六
印刷所　山浦活版所
全縣小縣郡西塩田村
發行所　西塩田青年團

信用購買組合の發展

本村信用購買組合の事務所並に附屬建物新築落成式は十月十五日午後二時より新町座に於て執行された。組合長の開式の辭に次で工事委員長瀧澤清松氏より工事報告、來賓安藤郡長村長其他の祝辭組合員總代樋口寄位氏の答辭あり式終て祝宴會開催。極めて盛會であつた。

尚當日は兼ねて臨時總會を開き左の事項を協議決定した。

一、定款改正の件
一、出資金增額の件
一、產業組合中央金庫持口決定の件
一、組合員增募の件
一、全國購買組合聯合會加入の件
附　御慶事記念定額貯金募集について

稻の坪刈成績

本年も昨年に引續いて稻の坪刈をしました。本年は植付當時より七月中旬迄の雨天續きが災した上に耐病性の弱い品種だつた爲め稻熱病の被害多く著しい減收を示しました。今參考の爲めに二ケ年の成績を揭げると次の通りです。

品種	一坪刈籾重量	一升重籾重量
一關目羽二重糯	二升四合	二六〇匁
一關目羽二重糯	二升二合	二五七匁
一關目羽二重糯	二升〇合	二七〇匁
幾內早生六號取	二升二合	二五七匁
幾內早生六號取	二升〇合	二四六匁
幾內早生六號取	一升五合	二五〇匁
幾內早生六號取	一升〇合	二四六匁

大正十二年度
大正十二年度

品種	一坪容量	一升重量
關一百田	取出田	一升九六二六〇匁 一升七〇二七〇匁 一升九〇二六二匁

小學校の實習地は土質、水質、施肥量、品種等の關係で穗首稻熱病に罹りましたが、此の實習地は主として施肥量の稍少なかつたので病氣の被害は更に認められませんで唯一分の一百見出が倒伏したのみでした。

甘藍の破裂に就いて

度々人々から甘藍が破裂して困る、どういふ譯で？と聞かれますが是は既に成熟して收獲期に達したのに採取しない時氣候の暖かな爲めに尚生育を續ける爲めに起る現象であります。氣候が涼しければ過剩の養分を吸收する事が少いので破裂する事も少いのです。これが豫防としては一、仮植の回數を增すか二、播種期を遲らすか三、肥料を少しづゝ施すか四、發育の余り盛な時一株毎搖るか五、植付の際直根（牛蒡根）を切るか、六サクセッジョンのみを作らずに晩生のオータムキングが札幌大玉の何れを作るか此一より六までの何れかを行へばキット豫防の効果があると思ひます。

告示第二八號

衆議院議員選擧法第二十條ニ依リ、十一月五日ヨリ十五日間、本村役場ニ於テ衆議院議員選擧人名簿ヲ關係者ノ縱覽ニ供ス

大正十二年十月三十日

西塩田村長　齋藤重太郎

告示第二九號

畑租雜地租第二期分
所得稅第二期分
營業稅第二期分
縣稅地租附加稅後半期分
全　戶數割後半期分
全營業稅附加稅後半期分

右本月二十六日限リ徵收ス

大正十二年十一月二十日

西塩田村長　齋藤重太郎

現役補充兵證書授與式

去ル十月三十一日天長節祝日ニ左ノ通リ本年度現兵並ニ補充兵ノ證書授與式ガ擧行サレマシタ

◎現役兵ノ部

近歩三　小林慶一郎
歩五〇　伊藤永吾
歩五〇　竹内新次
歩五〇　吉澤豊
野砲一　小山豊
工一三　竹内延喜
大澤重己
宮澤袈裟次
成田巖
翠川龜逸
齋藤小三郎

◎補充兵ノ部

一乙輜輸　柳澤友雄
一乙輜輸　池田好人
一乙輜輸　福田數雄
甲輜輸　兒玉小一郎
甲歩　奥原信伊
一乙歩　武田助夫
一乙歩　佐藤強
二乙歩　中澤和作
二乙歩　成田巖
二乙歩　翠川龜逸
二乙歩　齋藤小三郎

出寄留兵隊サンニ

明年度本籍地外ノ聯隊區ニ寄留スル豫備役後備役將校准士官下士兵卒ニシテ寄留地ノ師管內ノ軍隊ニ於テ勤務演習ヲナサントスル者ハ來ル十一月三十日迄ニ寄留地所管ノ聯隊區司令官（將官佐官ニアリテハ寄留地所管ノ師團長）ニ願出テ下サイ

豫備役後備役兵卒勤務演習召集年次及日數表

各兵科兵卒		
豫備役後備役	第三年	三週間
豫備役後備役	第二年	三週間
豫備役後備役	第三年	二週間
豫備役後備役	第四年	二週間
豫備役後備役	第四年	三週間

看護卒及輜重輸卒		
豫備役後備役	第三年	三週間
豫備役後備役	第四年	二週間
豫備役後備役	第四年	三週間

各兵科補充兵		
補充役	第四年	三週間

召集年次ハ其役ニ入リタル年ノ翌年ヲ第一年トシテ起算スルモノトス

故曾根氏表彰さる

西塩田村外二ケ村財產組合では先に物故した林業委員曾根五市氏生前の功勞に報ゆる爲め表彰狀に併せて金貳百圓を贈つた

震災義捐金品調べ

九月一日！帝都の慘禍は、全く有史以來、未曾有のことで近代文明の精華を誇る日本の東京、否世界の大都會東京が一日一夜のうちに焦土と化してしまふた。

此の悲報傳るや擧村一致　破壞されたる東京、食に飢ゑたる避難民を救ふべく種々活動し惠まれた同情の品々は山と積まれ九月二十日迄に夫々發送を了した。

惠まれた金品は左の通りである。

▲金錢ノ部

一金五〇圓　大字十人
一金壹四三圓五〇錢　黑坂重市郎外六四名
一金八五圓九〇錢　宮澤熊市外五五名
一金壹八圓　瀧澤重外壹名
一金壹壹八圓貳〇錢　小林丈助外七四名
一金參七圓五〇錢　大字山田
一金參八圓一五錢　大字野倉
一金五〇圓　軍人分會
一金四〇圓　青年團
合計　金七百五拾壹圓貳拾五錢也

▲白米ノ部

參石四斗六升　小池德右工門外九名
壹石六斗　大字山田
壹石壹斗　小山久士外二名
四斗　小宮山篤外二名
二升　野倉區某氏ヨリ（芳名ヲ逸ス）

合計　六石五斗八升也

▲雜ノ部

	味噌 四斗樽	味噌 五斗樽	味噌 五升	味噌 計	茄子漬物 五斗樽	衣類
大字十人						七点
大字東前山	一	一〇	一二	六	二	二
大字西前山	一	五	五	六	四	二六
大字手塚	一	三	一	四	二	四
大字新町	二	四	一	六	二	八
大字山田	一	六	一	八	二	公
大字野倉	二	四	一	六	二	公
合計	六	二四	五	三五	一四	二七

夏秋蠶種掃立枚數ニ就テ

過日皆樣の御手下へ差しあげた蠶種掃立枚數調査小票に依て、調査された結果は左記第一表の樣な數字に現れます。其れを部落別にして見ると第二表の樣になります、これを以てこれを見るに、養蠶に依て得る金は農村の經濟を如何程迄支配するか、顧りみて驚くべきものがあります。

◆夏　純日本種　支那交雜種　合計
四〇枚　三六枚　二〇七枚　一枚　二〇三枚

◆秋　〃　〃　〃　〃
計　四〇　三六　五七六　二　五八〇六

第一表（夏秋蠶合セテ）

飼育戶數	掃立枚數
大字十人	四五三
全東前山	九七四
全西前山	七四八
全手塚	一五四〇
全新町	三七三
全山田	八〇九
全野倉	九〇九
合計	五八〇六

第二表（夏秋蠶合セテ）

飼育戶數	掃立枚數
大字十人	四五三
全東前山	九七四
全西前山	七六
全手塚	八〇
全新町	一五三
全山田	四六
全野倉	三七三
合計	八〇九
	九〇九
	六九
	五八〇六

駐在巡査更迭

今回西塩田駐在巡査左ノ通リ更迭サレタ

轉任　坂本茂市氏　上田市へ
新任　池田金弥氏　上田市カラ

蠶種寄附

今回竹內兼太郎氏ハ西塩田村養蠶組合聯合會ニ對シ明年度飼育春蠶種二十四枚寄附サレタ旨氏ハ曩ニモ夏蠶種四十八枚全會ヘ寄附サレタ事ガアル

縣農會篤農家懇談會

主催

來ル十八日十九日長野市ニ於テ開催サルベキ縣農會主催第七回篤農家懇談會ニ本村農會長齋藤重太郎氏及東組農事組合長竹下正信ノ二氏郡農會ヨリ推薦サレ出席スルコトニナツタ

塩田五ケ村聯合農產物品評會

標記品評會は來る十一月廿三日四日中塩田小學校に於て開催されることに成つた兩日共に一般の參觀を希望し尚ほ二十四日午前には賞狀授與式午後は縣技師の講演がある筈。

縣下養蠶組合大會

去る十月二十三四日松本市に於て縣下養蠶組合大會が開かれ塩田五ケ村よりは竹下繁松若林祐作片山眞平の三氏出席され大いに氣燄を揚げられた。

新町支部通信

◎氷上玉子神社昇格

新町氷上玉子神社は、今回指定村社に昇格された。九月二十五日、前日の雨はからりと霽れて秋光美しい日和であつた。村内名望職、區内有司者數十名參列、莊嚴裡に式典が執行された。區内小學生徒が式典の濟むまで長い間、眩しい程照りつける大前の庭に行儀よく整列してゐたのは可憐であつた。終つて區の公會場で盛大な祝宴があつた。

◎新町支部優勝

西鹽田青年團主催の第一回支部對抗野球戰に美事優勝の榮冠を得た新町支部では當夜（十月七日）當區公會場で優勝祝賀會を催した。時節柄小規模な催しではあつたが、各自の意氣は、はち切れんばかり、優勝旗を座の中央に飾つて戰ひのあとを語り合ひ歡を盡して散會したのは夜氣肌に冷たい十一時頃であつた。

◎稗抜き成績良好

今年は旱に亘つて稗抜が特に勵行された結果當區に於ても成績は頗る良好であつた。稻の波の上に稗の穗がピン〳〵抜け出してゐる田は殆ど見當らなかつたのは喜ばしい。然し溝川のへりや堤などに殘つてゐるのが稀に見られたのは此の擧の徹底を期する上に於て遺憾である。今後は更に一層の御注意あらんことを希つてやまない。

十人支部ノ視察旅行

九月二十八日我十人支部テハ、上田ヲ七時發ノ汽車デ長野ニ向ヒ、午前十時ヨリ詳細ナル案内ニソレテ、縣立農事試驗場ヲ視察シテ後デ持參ノ晝食ヲナシ、大本願ノ寶物其他ヲ觀覽シ、五時ヨリ信濃毎日新聞社ニ行キ、自分等ノ一日モ離ス事ノ出來ナイ新聞紙ノ出來上ル迄ノ經過、輪轉機ノ運轉等ヲ說明ト共ニ參觀シ了ツテ、其夜ハ白木屋ノ二階ニ、一同面白ク旅ノ勞ヲ慰メ合ツタ翌日ハ、川中島ノ八幡社ニ參拜シ其昔兩軍爭覇ノ跡ヲ思ンダ、コレカラ尚一里千曲川ヲ渡リ松代城趾象山先生ノ遺績ヲ訊ネ、河東鐵道ニテ歸途ニツイタ。

上田ニ下車シテ　同腹ヲ溫メ、暗イ田甫道ヲ走ル溫泉電車ノ電燈ノ下ニ、今度ノ旅行ノ收穫多カリシヲ語リナガラ家路ニツイタ。

（市）

東前山支部通信

過る十月五日午後七時より支部の定例會を兼ねて講演會を催した、講師は上田メソヂスト敎會牧師川村兵而氏

大震災を宗敎的方面より觀察して約一時間半に亘る講演は聽衆に何物かを握らせずにはをかなかつた

聽衆八十余名　午後九時閉會した

山田支部通信

十月廿日から七日間支部事務所に於て、珠算の稽古を催した。每夜二時間宛として寄算に重きをおき、それより徐々に開平まで進んだ。丁度こうした稽古が本年で六年程續いた、相當に効果はあつた事と思ふ。

補習學校より

六川校長

補習學校は、男子部十一月二十二日から、女子部は十二月一日から　始まります。補習敎育、殊に男子部の夜學と云ふものがあまりに効果がないといふ樣なことが一般に申されて居ります。全然効果がないといふことは云はれないでせうが、容易に効果をあぐるといふことが至難であるといふことはだれも　考へて居ります。それは現在の學校の組織から考へましても、又實際勉強しやうとする生徒にも原因があることゝ思はれます、永い間　學校生活といふことから離れて　家庭の仕事に從事する樣になつてからは、所謂學問的の修養といふことは其人々によつて不揃になつて參ります、同じ家庭の仕事に從事するについても　其生活し行く態度は決して一樣ではないと思はれます、只日のでるまゝに過ぎ行くのと深い人間の生活し行く道を　つきつめようとして行く人とは、其間、どんなに差があるかしれません。そうした經驗や修養の違つた、人たちが、亦出發点を同じにしようとするのですから、生徒自身から考へても　あまりありがたくはない事と考へられます　亦學校としても、晝間出來得ない組織の狀態にあるのですから、思ふ樣に出來かぬる事が多い事と思ひます。けれどこうした問題は、いつか展開すべき道があるべきだと信じます。近く川西だけで補習學校を經營したひ希望のありますのは其處にあるのであると思はれます。

只私どもはそうした、よい事の實現をはかると共に、現在の生活をも、出來うる力で充實せねばならぬと思はれます。私どもの道も、お互に出來得るだけの眞面目を以て生活に對せねばならぬではないかと考へます、補習學校に、こらるゝ人たちも、眞實に求めんとする態度でありたく思ひます。

以上

さんた間違

九月二十六日青年團幹事圖書館委員等十二名が午前中に書籍の購入を終り午後神科村山口に遠足を試みたときのことだ。

徒歩隊四名は先に出發し自轉車隊八名は輕快に興じながら折柄の曉い秋の陽を浴びてゾロ〳〵と練つていつた。ところが驚くなかれ全落部の青年二三十人が俺だちを取卷ひて今にもどうやら不穩の樣子。その譯だ考へてみれば今日は縣會議員選擧の前日だもの、恰度いゝ日にやつてきたものだすつかり小林氏の運動員にされて了つた。始は葡萄を食ひながら皆可笑しさを忍へてゐたがその中に野に出てゐるものまで着物を變へて集る騷ぎにどつと吹き出した。而し仕事を休んで警戒して貰ふのは氣の毒なので中の主立者二人を呼んで身元說明をやつたがいつかな、ゝしさうもない。K君の知人に譯を談して釋明して貰つて辛と避難した。それでもまだ部落の境を出る迄安全に護送された。聞けば上田の市街を出るか出ないに傳令が本部に走り八方から應援を頼んで守備したのだといふ。可笑しいことは可笑しいし、そうかといつてこれが晩のことならどうせ無事には歸れなかつたに違ひないと思ひながら又と得難いこの一大喜劇を大切な經驗としてカバンの中へ藏つた。案じながら前の四人を捜すとこれは又何のこつたい少し離れた林檎畑の入口に不良團休息所といふ張紙をして澁したもの。夕方埃を落す爲に揃つて別所へいつたとこゝろ〳〵でも亦湯の中にまで髭の生へたオッシャンたちに見張をされた。まるで鮮人騷ぎのやうだ。人間といふ職業がつく〳〵情なくなつたことを白狀する。

野球リーグ戰の趾

雨のためになやまされて伸び〳〵になつた青年團各支部野球リーグ戰は九月三十日及十月七日兩日に決行した。各選手の意氣の昂つたことゝファンの喜びとは素晴しかつた。

第一回戰　勝　東前山A——十　人　負
第二回戰　新町——山田　東前山——手塚

優勝戰　新町　七對〇　東前山

かくして榮ある優勝旗は遂に新町支部の手に歸した。

義捐金募集活動寫眞

吾西鹽田分會では去る十月二日三日の兩日義捐金募集の爲め新町座に於て京濱大震火災の活動寫眞を擧行した。該活動寫眞は松本キネマ館のもので興業關長が自身大火災中を萬難を排して撮影せるものである　從て觀覽者に多大の感動を與へたるは勿論　各位の期待に添ふた事と思ふ

每夜とも一千人以上の入場者があつて非常の盛況であつた。これに云ふのも村内其の他近郷各位の同情の發露であると分會員一同感謝の意を表する次第である

今回の活動寫眞に於ける收支決算表を左に

一金四〇八圓二〇錢五厘　收入合計
一金二九四圓九八錢　支出合計
一金一一三圓六二錢五厘　差引利益金
右利益金ノ內
一金五〇圓　松本輪隊區司令部ノ手ヲ經テ罹災地ヘ
一金七三圓六二錢五厘　本村社稱罹災者ヘ

西鹽田分會會計課

偶吟　鉄城庵

木曾路を過ぎけるに、滿谷の紅葉燃ゆんばかりにて、其の風光實に賞すべかりければ

◎紅葉のにしきや木曾の旅衣

◎天は妙を織るやもみちの綾錦

紺碧を流す木曾川に、兩岸の紅葉相映じて友禪の染模樣を見るが如かりければ

◎染織の配在巧まし龍田ひめ

車中同席せる女學生等の乞ひに折柄狩り來れる紅葉の枝を分け與ひける若人達の心を

◎もみぢ狩燃ゆる思ひをみやげ哉

名古屋萬松寺通の黃花園に菊人形を見て

◎菊万朶人千態のきそひかな

◎容姿にも文化を見たり菊競（ママ）

電氣工業博覽會場內「農村の電化」を見て

◎文明の實は結びけり豊の秋

愛知縣主催の全國桑苗品評會を見て

◎秋晴や復興謀る扶桑郷

朝鮮國境より

——不逞團襲撃の夜——

小山左京

待ちあぐんだ秋の紅葉も執念深い女の其れの様に、いつまでも深い紅を見せてゐる。秋の清朧とでも云ひたい様な日がかれこれ一週間も續いたであらう。今日の午後からは北領方面から盛んにはき出された黒雲がいつの間にか穴の様な　楚山の上空にどんより曇つて、いまにも降り出しはしないかと氣遣はれる様な空模様になつた。夕食喇叭の鳴つた頃は、午後の演習が終つて皆我先きにと入浴に驅けつける。そして大きな聲をして、今日の演習はなか〳〵情況がうつつたとか、突撃にアゴを出したとか、てんでに大ボラを吹いて居る、日夕点呼も無事に終つて、一日の勞苦を慰むべく狀袋の様な毛布の中へもぐり込む。何が樂しみと云つても此の一日の日課が終て寢についてから戰友と物語る位愉快な事はない。その話もいつか止んで班内は火の消えた様だ。

（尤も守備隊はランプだから消燈喇叭と共に眞暗になるけれど）

書加ゑる——今此の原稿を酒保の下士室で書いて居るとすぐ裏で銃聲三發——折柄岩山に落ちかゝつた朧月は淋しい光を營舍の窓に投けてゐる。何うしたことか今夜はどうしても寢れない。それからそれへと走馬燈の様に色々な思ひは續いた、丁度其の時衛兵の十時交代がした、間もなく守備隊の西北の小高い山の方向で物聲が聞えたその時あたりの寂寞を破つて非常呼集の喇叭？スハ一大事と眞暗のなかに飛び起きた　敵彈の的となるために点燈を許るさぬ。さて日頃守備隊の近傍に現るゝ不逞團の襲撃ならん。敵彈は小高い山の方向から雨あられの様に飛んで來る。沈着の素要を現すは此の時なりと。僅か云ふ間に裝具一切を整へて、銃を持つたまゝ裏の窓から第一番に飛び出した。何せ御國のために捧げた命。けれ共、つまらぬ不逞鮮人位に命を取られてたまるものかと、比較的彈丸のこない倉庫の裏に中隊長の來るのを待つた。すると僅か五分後に武裝した七八十名の兵員は集つた五十名計りの不逞鮮人は八幡山を占領して當守備隊を襲撃して居ると云ふ噂大變！　斥候に出るもの、機關銃を持つて出るもの、自分は二三日前腕を痛めたゝめに機關銃手であるが、第二分隊に加はつた。分隊長より彈藥の分配が終ると道路から邑門に出た。もう町の中は不逞鮮人が來たから氣を付けろと云いながら町を叛賊て走る奴もある。乳房をはなれたチヨコマンがギャ〳〵さはいて居る。やがて八幡山の麓で散開した。眞暗な上空を敵彈は物すごく通る。此方からも盛んに發する。小さいながらも初めての戰爭。自分は嬉れしいやら恐ろしいやら。敵は退却して苦もなく頂上を占領した。退却する敵に最後の突撃をしてかすかな月の光で良く見れば何時出かけて行つたか守備隊の兵隊さん。やゝ御苦勞だつたね。

近頃不逞鮮人が出るためこんな事がありました。昨晩も隊の歩哨が二時頃邑門巡察をして居ると二三十米突はなれた所で巡査に擊れました。如何に儉悪な情態であるかゞ何はれませう（是は今問題になつて居ります）

大相撲を見る

秋嶺

▼力より技よりも只肉魂の偉大に魂消喜ぶ人々
▼偉大なる此の肉体も日本に生び出でしものと心強きかな。
▼日の下の山開くてふ横綱の體に似合はぬやさしき眼かな。
▼出羽嶽の仕切るを見れば大いなる袋の如き腹は波打つ。
▼壯烈よ偉なる肉体美相撲さる繁張ぶりを見ればあかなく

村の傳說（群史余纂ヨリ）

其二

一、塩田の海

昔々神様の代に塩土翁が奥洲塩釜に往かれて塩の拵らへ方をお授けになりお皈りのみぎり塩土に寄り和世田神とお二神で又塩の拵へ方をお授けになつた其頃は塩田平は一面の海で水はまん〳〵としてゐた潮水を汲んだ所を濱場と云つて塩を焼いた所を釜屋敷と云ふた其後に地主の神が多くあらはれて御手洗を塩野井と云ひ其のあたりを塩野間又は塩沼又は「塩野はさま」と云ふて今に西塩田村の前山に殘つてゐる故に此地を塩田と云ふので中塩田村の小島は其頃中島であつて岩鼻が切れて海の水がひけるに從ひだん〳〵乾いて陸地となつた其荒れ水が埴科郡の坂木の横まくりに打ちあたつて其地を壊したとさあ

此傳說は地名說名の習俗より出でたるものにして傳說構成の時代は極めて新らしきを覺ゆ今尚塩に關する類似の地名を求むれば富士山村字塩の入中塩田村保野區字塩野及び塩吹別所村字塩水泉田村小泉區字塩野塩田川原浦里村越戸區字鹽の入同村浦野區字鹽の入等あり此地方田圃に出づるを今に沖へ行く若しくは浦へ行くと云ふ。

組合林視察會

西鹽田村外二ケ村財產組合では十月二十六日組合林の視察會を擧行した

會する者は林業委員、組合會議員、其の他關係者を併せて三十余名

午後二時視察は終了したそれより野倉公會場に於て祝宴會を開き日沒頃散會した。

村議逝く

前助役、村會議員山極九十郎氏は昨冬より臥床中のところ、九月十二日死去された。

塩野神社屋根葺替

本村前山の鄕社鹽野神社では本殿及勅使殿の屋根葺替の爲九月三十日其の筋へ認可出願せし處十月十六日附本縣知事より許可の指令があつたので十月二十七日より工事に着手する事となつた。

該神社の本殿及勅使殿の屋根は柿葺であつて明治二十三年に葺替したるものだと云ふから今年で三十三年目に相當する譯だ。

今回の葺替も矢張柿葺ではあるが、以前のそれとは趣を異にして、屋根平八寸飛びに三寸巾の銅板が葺込まれるので、これによると其の銅板より生ずる錄錆が防腐劑となつて五十年間の耐久は保儉附ださうだ。

尚此の工事に要する費用は千五百圓にて、十一月下旬には竣工する豫定だと云ふ。

震災殃死者追弔法會

本村前山寺、龍光院、中禪寺、無量寺の四ケ寺院主催の震災殃死者追弔法會が九月十七日午後三時より中禪寺に於て行はれた

村長以下役場吏員、區長、各種團体長其他一般有志者等多數參列した。

かうゆう試みはその當時芝の增上寺がいち早く執行した外地方では最初のことで、先づ本村四ケ寺院によつて先鞭をつけられたことは適宜の企てとして感謝すべきだ。

◎震災夜話

Y Z X

大震火災！　總てのものを倒し、あらゆる物を焼き盡さねば止まぬ大破壞がやつて來た。ボンベー最後の日が再現するとは誰か思ひかけやう。

×　×

着のみ着のまゝの儘に危く玉の緒を取り止めた人々の群！そこには何等の慾望もなく何等の邪念も去られ、自然の儘の人間として、ほんとうの人類的な平等觀ー人間同志と云ふ他に地位も職業も老若男女もない——に立つた事は絶大な人間味の體驗で無くて何だろう

×　×

虛榮と耽溺との腐爛した現代の都市生活を本質的に改造する神の試みか？　おゝそれは餘りに大きな試練な秋だ

壁の間に埋もれて一命を助かつた人は言ふ神の力と。安全地帶と思ふ廣場へ逃げてさえ救はれなかつた者も亦云ふ、神の惡戲と。ふざけ給ふな神よ、神の本体はそも如何

×　×

手提げ金庫を握つたまゝ梁の下敷となつた富豪があつたとか。金にのみ拘泥する者は金の爲に命を捨て、女に惱む者は女のために身を破る。そうゝそうだ河童は河に流れる。山で河童の流れた例しを聞かぬ。

×　×

專門家の發表する震源地が、川中島になつたり富士山頂になつたり、伊豆の大嶋が引込んだり、飛び出したり。おゝ前途遼遠なる科學の力！

×　×

罹災民救助のために白熱的同情の發露は嬉しい。米三升宛、味噌一重宛の大平等振りを發揮した積りの大不平等、貧者の一燈長者の萬燈、けちけちするな、共存共榮たるべきこの社會に於て。

×　×

救助の美名に名を借りて、何々會の寄附金品募集。今日は活動寫眞明日は音樂會、顯微鏡で見てもわからなかつた、陽炎の様な會までがおどり出す、貴名か？救濟か？眞に救濟の實を擧げんならば、もつと總べてが團結した大きな共同の力に依つてしたらどうじや、手を換へ品を換へは野師の常習會勞の拂賣は義捐の美しい心を傷つける

×　×

此の地方へ避難して來た人々の中、女子供や特別の事情あるものは別として、男一匹一人前の人間は、燒野と變つたバラックの東京へ大底歸つたと言ふ、天のこの試練に對して、精神的にも物質的にも第二の維新を作る改造の實をあげて貰ひたい。

◎一ツ

ヒコーキ

或る人がこんなことをいつてゐた——

「おれは馬鹿で
小林といふ人も知らない
山本といふ人も知らない
けれどもおれは只
小林といふ人が川西の人だといふから
何でもなしに
小林といふ人を書いた」

縣會議員選擧のあつたその翌日——

西鹽田信用購買組合より申し上げます

一、御慶事紀念貯金に就いて　皇太子殿下御成婚記念事業として縣下信用組合が一齊に御慶事記念定額貯金を實行する事になり、本村組合にても過日事務所並に附屬建物新築落成式を兼ね臨時總會擧行の際に組合長より御話しがありました如く夫れ夫れ準備を整へ貯金の積立に着手いたして居ります、御成婚の期日は關東地方の大震災の爲多少御變更がありましても記念事業の計畫には少しの變更も御座いません着々と實行すべきであります。此際經濟上から云へば猶更私共は出來得る限り節約して他日の備へに一方極力能率的生產をすることが急務であります。紀念貯金は五ヶ年後に一定の金額を受取る樣になつて居ります其の方法は五ヶ年後の拂戻額を二十五圓五十圓百圓貳百圓の四種となつて居ります。積立は毎月掛半年掛一年掛の三種と定めてあり利率は年七分が標準となつて居りますが本組合にては一齊に年八分の利率にて御預りする事になりました。定額貯金毎期拂込金額表を表せば次の通りです。

額面。利率	各期掛金額		
金額	毎月掛	半年掛	一年掛
	年利 八分	年利 八分	年利 八分
二十五圓	一圓二四	二圓〇二〇	三圓九四七
五十圓	二圓四八	四圓〇四〇	七圓八九三
百圓	四圓八一	八圓〇四二	一五圓七八五
二百圓	九圓六二	一六圓〇八二	三一圓五七〇

契約は一日も早い程皆樣御自分の御勝利です、まづ契約して第一回の掛金を拂込み下されば便利な定額貯金證書を差上ます掛金方法は毎月掛は毎月御契約期日に貯金證書と掛金を御出し下されば其處へ記入して差上ます半年掛一年掛も回數が多い少いのみにて同じ方法です、契約者は御子供さんでも御孫さんでもお祖父さんでもお祖母さんでも何方でも宜しいのです。

滿五ヶ年目に達したる時は御契約の額面金額を御渡しいたすのです。ですから萬一拂込遲延したる場合は相當遲延利息を載く事になつて居りますから左樣御承知下さい。

私共はこうして記念の爲五ヶ年の後一定額に達したる時は之を產業上經濟上に運用し吾人の敎育を進め、生活を改善し進んで公共事業即ち組合事業等を盛んにいたす事が出來ます。ですから個人的にも社會的にも此の上もない記念事業なので御座います。皆さん一日も早く　家族で一枚や二枚の定額貯金證書を手にいたし　皇太子殿下の御婚儀を擧つて御喜び申し上げると共に深く之れを銘記すべきであります。

◎御慶貯金に就いて

「遠き慮りなきものは近き憂へあり」

御承知の如く當組合にては當座、定期、据置團体家族等の貯金は創立以來取扱つて居りますが尙昨年より組合員の家に御子樣が生るれば組合より御慶びとして御祝儀を二十錢つつ付けて差上げて居ります、差上げた月より毎月二十錢なり五十錢なり積んで御出の方も御座いますし一年に二回なり四回なりと纏めて御積みの方も御座います其れは皆樣の御隨意で宜しいのです、即ち其の御子供さんの將來の爲なのですから多く御積の方は昨年生れた御子樣に何百圓と云ふ程積んで下さつて居る御方も御座います。こうして多少に拘らず年々實行しますれば五年なり十年なりの曉には百圓なり五百圓と纏まつた御金になります此々に立派な敎育資金御婚儀資金が出來る理けであります。こうして下さる事は親として當然の事だらうと存じます又御子樣のない方は御自分の御老後の爲めに貯金は是非共必要なので御座います。

世の中には貯金をなさい等と勸めれば貯金なんか借金して出來るものか等と一口に打

（裏面へ續く）

消してしまふ御方が御座います此れは大間違ひです「一錢二錢の僅かでも塵も積もれば山となる木の葉雫も海となる」例令零碎な御金でも長く御積みなされば其處に於て貯金の効果が現はれて來ます物事は始めが大切です其して長らく御積みになるのは出來るだけ良い利子に御取扱ひいたします。此の度の大震災の金融の行詰まつた場合に際しましても各信用組合は活動する事が出來ましたで組合事業なるものゝ如何に尊く特長のあるものかは此々に私が喋々と申す迄もなく皆樣は既に〳〵組合精神を御理解の御事と存じます。

本組合も郡下に於て十月十五日現在の五萬圓以上貯金額のある組合に數へられる樣になりました川西では中鹽田に次いで吾西鹽田と第二に指を屈する事が出來るやうになりました。これは組合員の自覺と御利用の賜と存じます。皆樣御自身の爲に御子息御娘樣の爲に續々と貯金下さる事を希望いたします。

◎購買部より

一、購買部も萬能主義を取り日に益々盛んに擴張し今日の樣に色々と間に合ふやうになりました、此れも組合員の皆樣の組合精神の理解と御利用とに外ならないのであります、本村の爲慶賀に堪へないのです、其して御婚儀とか御不幸用の纏まつた物品は御承知の如く特に御便宜を計つて居ります。ですから御入用の品物は何品に拘らず何時でもまづ第一に自分の組合を訪ねて有無を聞き然る後に他に求めらる樣に其して自分の店なのですから物品に割高のやうな品がありましたなら品質と代價とを比較し御調べの上御遠慮なく當局者へ御話し願ひたいのです理事者は組合員に精品を成るべく廉價にて供給しよう出來るだけ便宜を圖らうと何時も心配して居ります。

一、本年も年末には歲暮年始御使用の必需品を各部落へ一日位づつ出張廉賣をいたして御便宜を計る考へです日取は十二月十八日頃より二十四五日頃迄にて追つて日取確定の時は御通知申上ます。

一、冬物仕入に就きましても本組合は彼の關東震災前に色々と問屋と契約し置き非常に格安品を多く仕入いたしました即ち足袋類、各メリヤスシヤツ、股引類、毛腰卷、襟卷、帽子、ネル類、裏地等の實用品を、又綿類も澤山參つて居りますから、どうぞ御承知の上間に合ふ事は必ず組合を御利用なさい。

一、次に御用立金にしても購買品代金の御貸しにしても定められたる期日には必ず御拂込み下さる樣御願ひいたします。我が國民は未だ封建時代の思想が失せないそうです、故に權利義務の考へが極めて薄弱であり隨つて貸借關係に付いても權利義務との觀念が判然と了解されて居ない。金を借りるに當り何年何月何日迄に返すと約定した以上は其の日限には貸した人は遠慮なく取立る權利があり、借りた人は猶豫なく返濟する義務がありまず然るに期間が過ぎても返さないから催促をすれば其れを憎み恨み惡口を言ふ果ては感情の衝突で道で會つても知らん顏で通り過ぎると云ふ樣に苟くも借りたのは返濟の義務あり貸したる者は取立てる權利は當然の事でありますからお互に自己の信用上此の義務は何處迄も盡して戴きたいのであります。

當組合にても近く御催促に廻る事になつて居りますから滯納者は左樣御承知を願ひます。

組合員各位時節柄御身御大切に御活動下さい。

急告!!

◎西壚田時報の次號〆切を……**拾二月五日**とし來大正十三年**一月一日**に新年特別號を發行します

◎期日に遲れぬやう大方の御投稿を願ひます

◎尙年賀廣告も取扱ひますからなるべく御利用下さい。

西塩田時報

大正十二年十二月廿五日印刷納本
大正十三年一月一日發行
長野縣小縣郡西塩田村大字
編輯印刷兼發行人　樋口秀實
印刷所　山浦活版所
小縣小縣郡西塩田村
發行所　西塩田青年團

農村問題斷片

中澤多七

本紙前号に樋口君の農村問題に關する有益な文章を讀むことの出來たのを嬉しく思ふ。農村問題として纏まつた學的な考へは持合てゐないが斷片的な幾多の考へはある。

●歐米諸國には農村社會學と云ふ講座を大學に設けてあるとか。まことに羨望の限りではあるが學問と云ふものが西洋からの輸入である日本の學界に、歐米に於ても最近に設けられた農村社會學講座の、未だ設けられないからと云ふて更に不思議とするに足らない。又その中に農村社會學講座の移植を見ることだろう。然し乍ら飜譯を出でないそれ等の學問が輸入されたところで農村問題がどれだけ解決されるか？　そして農村がどれだけその爲めに利益するか？　知的ブルヂョアや階級の高尚な飜譯的遊戲となつて彼等の知識慾を滿足させるだけのものではあるまいか。

●日本には日本獨自の農村問題があると思ふ。私は西洋の農村狀態を知らない。隨つて歐米の農村問題は分らない。

人口過剩な島國日本と人口過少な大陸的歐米とは農村狀態も異り隨つて農村問題も差異あるに相異ない。

然し生活と云ふ具体的問題から必然の叫びとなつて起るところの農村問題としては共通なものであろう。

●自覺せる農民にとつては日本の農民は實に憂慮すべき狀態にある。然しそれは意識とせざるの相異のみで、その生活が極度に行詰つてゐることは爭はれない事實である。その經濟狀態はようやく頭の蠅を追ふか否かのやり繰りで全くの破産狀態にある。

小作人は勿論喰ひない。然し地主も喰ひないと云ふのが目下の農村經濟狀態だ。

●ジット農村の動靜を睹るに殆ど落着かない。どころか、こせ〳〵してゐる。露西亞人に睹る樣なでつしりした處がない。島國民の故でもあらうが私は生活不安の反影だと思ふ。光明のない不安な悲慘な生活のために落着て居られないのだ。

都會病乃至は文明病と言はれてゐる神經性病患に今の農村は殆どやられてゐる。

●現今の狀態では樋口君の書かれた樣に都會と農村は利害相反してゐる是ば正しい狀態ではない。

社會組織制度の不備に凡ゆる社會問題は因由してゐるのだ。

農村問題のみを單獨に解決することは勿論不可能なことだ。

新年を迎ふるに當りて

西塩田村長　齋藤重太郎

新なる年を迎ふると共に心意をも清新にして向上發展の首途を祝すると云ふことは例年の例であるけれども特に本年は心を新にして新年を迎へ併せて大覺悟を以て發展の臍を固むる必要がある。

客年九月一日の震災は我邦ありて以來の大慘害にして横濱市を烏有に皈せしめ帝都の三分の二を焦土と化せしめ災禍實に數十里に亙り家を失ひ産を蕩し生命を喪へるもの數、十萬なるは言ふに及ばず交通機關を破壞し産業を毀潰し財産を攪乱し延いて人心を惶惑せしむ。凡そ世界に悲慘事多しと云へども此の如きは唯一無に天の暴虐も亦甚しいではないか。殊に其の打擊が人体の腦天とも稱す可き帝都を撲たれしだけ殆んど全國的致命傷とも稱す可く日本文化の破壞にして亦東洋文化の破壞で其の損害全く金錢外に在り。されど斯かる國家の絶大厄難も一方よりこれを觀れば天の我邦を愛撫する無言の敎訓にして我邦の克く此の大災厄に耐へて速かに復興の業を大成し更に新鋭の氣を以て國家を興隆繁榮せしめ得るかの力試めしなりとせば厄難の必ずしも厄難ならず破壞は建設なり興國的國民たる者一厄災の爲めに決して挫折すべきでない。

然らば之れに處する途は吾人各自が相警めて其の分に應じ消費を節制し質實なる生活を維持する事が今後に於ける努力の基本でなければならぬ。

之れを要するに今後の産業界經濟界には花々しき競爭を實演す可き運命に在る故消極的には從來の放漫生活を引締めて奢移遊惰を警むると共に積極的には之れに處するの方法を講じ競爭に堪へ得るだけの素地を充分に拵へねばならぬと思ふ。一言所見を述べて各位の猛省を乞ふ。

都會と農村（地方）とはその利害が一致であるべきが正しき狀態であるのだ。

×農村問題を考へる人も視野を曠くして思索しないと扁狹な論議になることを失念してはならない。

●日本には農村あり、そして農業はあるが農産工業はない。原始的な農業を勤勉にやる國民（農民）は先づ文明國としては日本位なものだらう。

勤勉キンベンで親代々チツポケな田畑を原始的な道具でコチ〳〵と耕作してきたので遂に吾々農民には創造性と云ふものが化石してしまふた。今でも稼ぐに追ひつく貧乏なしだと思つてゐると豈はからんや、稼ぐに追ひつく貧乏ありだ。

田畑を耕鋤し作物を植へてそして收穫することは親讓りで知つてゐるが農産物に加工することを殆ど知らない。

●現在では農民位虐遇されてゐるものはあるまい。然しそれを不平にも思はないで忍受してゐるのは、なんと云ふ偉大なる寬容であろう、その偉大性は殆ど愚蒙に近いものだ。禮讃するに償するものだ。

●節約しろと言はれる。何を一体節約するのだ。今の農民生活に何一つ足りてゐるものはない。「不自由を常と思へば不足なし」と敎へ込まれて來た農民は、全く貧弱な物資に甘んじてゐる、それは幾分奢侈な生活をするものもあるが。それは彼等に眞の經濟的觀念が欠如してゐるのと一つは人情なのだ、吾々農民程粗衣粗食に甘んじてゐるものはない。

●日本人には眞實の經濟觀念がない。徹底した唯物思想なくして學問を西洋から移植し文化、工業を模倣してきたのだ、ほんとうの經濟的發展を遂げることが出來ないでしまつた、經濟觀念がないから慾望がないかと言へばさうではない、所謂馬鹿慾が深いのだ、金錢の前には盲目になるのだ。經濟人ではないからだ。（丁）

附言。——前号に掲げた農村問題に對する私見は漸くその序論に過ぎません。本論及結ろんは大方の諸賢と共にこれから深く研究してゆかれねばならないと考へます。抽象的なる一理論よりももつと詰きつめた具体的にまで進めて行きませう。

※數の御投稿を歡迎します。——秀三記——

謹賀新年

西塩田村役場
西塩田小學校
西塩田村軍人分會
西塩田婦人同志會
西塩田青年團
西塩田聯合衛生組合
西塩田村保安組合
西塩田消防組

謹賀新年

村會議員
佐藤清五郎
市村藤作
池田文治
黒坂重市郎
宮澤八十八
齋藤市太郎
倉澤喜内
齋藤廣次
武田正雄
小宮山篤藏
樋口勘一
宮澤友

謹賀新年

大字惣代
佐藤三郎
黒坂重市郎
宮澤熊市
瀧澤重
小林丈助
竹下照之助
曾根正一

謹賀新年

西塩田村長
齋藤重太郎

謹賀新年

西塩田小學校長
六川靜治

◆役場より

◎就學申立の件

本年四月一日小學校へ入學すべき兒童は大正六年四月二日生より大正七年四月一日生迄の者でありますが此者は其の保護者から正月末日迄に村長へ宛て就學申立書を出す規則に成つて居ますから御注意を願ひます

◎就學猶豫並免除願の件

病氣又は其他の事情の爲め就學不可能の者は其の保護者より正月末日迄に醫師の診斷書又は適當の証明書を添へて郡長宛の猶豫願又は免除願を役場經由で差出すのです此期日を過ぐると面倒ですから御注意下さい

▲一月の納税

△八一三圓三〇錢　大正十二年度田租第一期
納税日、十日
△二八四圓四〇錢　全年度所得税第二期
△八三八圓二五錢　全年度第二期宅地租
△一九〇圓一一錢　全年度縣税營業税後半期
△一〇二九圓四三錢　仝　仝雜種税仝
●納税日。二十五日

◎學務委員の當選

本村學務委員定員五名の處山極九十郎氏死亡後欠員中なりしが後任者選擧の結果宮澤友一氏當選就職せられました。

◎土地調査員會

十二月三日午前九時より當役場に土地調査員會を開く。竹下助役より土地測量に關する注意あり。屈書調製に關して諸般の打合せを了し、午後四時散會した。

◎臨時會計檢査

十二月五日午前九時より、役場に於て臨時會計檢査を執行した。立會人は樋口勘藏宮澤八十八、佐藤清五郎の各村議

本年七月以降の各收支に對して一々計算し何れも適法の收支なることを確め、午後三時檢査を終了した。

◎第八回勞資協調委員會

十二月十三日午後一時より例年の通り勞資協調委員會を役場に開く。委員は地主側小作人側各十五名宛、其の協調決定したる事項は左の通りであつた、

一、小作米の取引標準及勵行事項

△小作米一俵の重量（玄米の標準）
三百八拾匁乃至三百九拾匁

△玄米一俵の價格　三十錢五厘
九斗荷一駄　二十七圓四拾五錢

△俵裝の標準重量　一俵ノ全量二貫二百匁

△勵行事項

1 取引米には正味重量又は風袋重量を附する事（度量衡取締上）

2 一俵の重量三百九十匁以上の良米を納入したる小作人には地主より適宜の奬勵金品を贈與する事

二、小作桑園巻縮病被害地善後策に關する件

△地主と小作人の協定に依り小作料を輕減するか又は適當の方法を講ずる事。

以　上

◎徴兵適齡届

明治三十六年十二月二日より明治三十七年十二月一日迄に生れた男子は大正十三年徴兵適齡になりますから戸主より一月十日迄に本村役場へ該届書を御差出し下さい此届をしないと徴兵令に依り處罰せらるる事になります

尚寄留地に於て受檢希望者は一月中に寄留地の役所又は町村役場へ寄留地受檢通常願を出して下さい

◎披露式擧行

――表彰された東組農事組合――

舊臘二日東組農事組合に於ては縣野會より表彰された褒狀披露式を兼ね組合總會を開いた。郡長の農村問題に對する所感、齋藤村長、山極平太郎氏、井上投師、の祝辭等あり。近頃稀に見る盛況であつた。

◎養蠶組合生る

共同一致養蠶業の改善發達を圖るべく此程大字野倉に富久養蠶組合が生れた。既に手續を了して西塩田養蠶組合聯合會に加入する運びに成つていると云ふ。因に組合長は平林祐藏平山太長の二氏幹事は曾根正一坂口辰十兩氏なりと。

◎郡青年團講習會

昨年十一月二十一日より六日間郡聯合青年團講習會が別所の常樂寺で開催された。講師及日割は次の通り

午前　午後　夜

二十一日　二時集合　談話會
二十二日　半田先生　蠟山先生　課外講演
二十三日　蠟山先生　蠟山先生　茶話會
二十四日　平野先生　平野先生　研究會
二十五日　平野先生　半田先生　余興會
二十六日　談話會、解散、

此の外室伏先生も出講して下さる譯であつたが病氣の爲欠席される事の止むなきに至つた。

本村より出席者は左の通りである。

小林慶一郎　增澤利吉　市村金一郎
東川多壽男　横山寳　吉田信夫

◎講演會

昨年十一月二十八日午後二時より塩田五ケ村青年會聯合會講演會を開催しました、會場塩田劇場、中野正剛氏の「緊縮より暢展」へと題する二時間半の講演があつた。雨天の爲聽衆の少なかつたのは遺憾だつたが選ばれたる聽衆には何物をか與ふるところがあつたと信ずる。

●編輯室より

◎次號〆切期日を二月十日とする。盛に書いて下さい。

◎四月よりは毎月發行したいと思つてゐます、待てゐて下さい。

◎又歳を一つとりました。自分の歳を勘定してみると呆れて了ひます。

◎コセ〳〵しずにうんと遊びませう。

謹賀新年
大正十三年元旦
山浦活版所

謹賀新年

別所溫泉
花屋ホテル
電話局十三番

眺望絶佳

浴場二ケ所

謹賀新年

◇◇我社ノ目的

當製絲場ハ從來ノ下仁田社西塩田組ヲ繼承シ私利私慾ニノミ走ラス所謂共存ノ意義ヲ主眼トシ事業ヲ營ムヲ以テ目的トス

◇◇我社ノ方針

前記ノ目的ヲ達スルタメ原料繭買收ニ付テハ地方產出ノ良品ニ對シテハ標準價格以上ヲ以テシ工男女ノ給料工賃等又他社ニ比較シ優越ナル支拂ヲ辭セス特ニ前貸金ニ對シテハ一切無利息ヲ實行セリ

西塩田村新町

丸西製絲場

◇◇我社ノ事業成蹟

年度	就業日數	仝上延人員	生絲製造高	壹釜當製絲
十一年	二三〇日	四、九九七人	六九五貫七五五	壹梱九三
十二年	二一八日	六、三四二人	九五二貫五二〇	貳梱六五

表示ノ製糸工女數ハ四拾六人ニシテ三月中旬ヨリ十二月末ニ至ル期間之成績ナリ之レヲ當工場ノ四拾釜ニ割當テル時ハ前表ノ如ク壹釜當リ二梱六分五厘ノ成績ヲ揚クルニ至リ縣下同業者ノ成績ニ比較シ遜色ナキヲ見ルニ至リタルハ一ニ從業員諸君ノ奮勵努力ト地方有力家諸氏御援助ノ賜ナリト深ク感謝ニ堪エザル次第ナリ

◆火鉢を圍んで

冷泉

甲「幸福といふ樣な者が、そうして移動し且つ天災地變がくると、今迄の幸福が皆どこかへ行つてしまふ、その樣な事が目あてで、あくせくするといふのが幸福生活なんだネ。又文化生活といふことがたいへんいはれますが、あなたはよくわかつて居らないぢやないですか」。

乙「では君の考ふる幸福な生活、文化生活とは一たいなんだネ」

甲「それは君のとは全然ちがうさ、君の考へて居る樣な目だけで見へる者より外に何者もないと考へて居る樣な、內盲とは違ふさ」

乙「內盲とは、ひどいな」

甲「君は目が二つあるだらう、そしていつも外ばかり見て居るんだらう」

乙「きまつてるよ、外を見ない目がどこにあるものだ」

甲「神樣が目を二つ付けて下さつた事も知らないだらう、一つは外を見る目、一つは內を見る目、內とは心の內といふことなんだよ」

乙「だんだん馬鹿にするんだな」

甲「外の目に見へる者すべては消へてゆくんだよ、君は生きて居ると思つて居るか知らないが、實はそうではないだらう一刻一刻、お墓をさして進んでるぢやないか君の生きてることは、死の歩みではないか、只遲々たる如くなればこそ、ボンヤリして居るだらう」

乙「その位にして幸福や文化生活を話してくれ、讀んできくから」

甲「君の幸福は、要するに動物的の快樂ぢやないか、快樂は永久性のあるものだとは思ふまい、快樂は主觀なものだ己一人のものだ、今日の快樂は明日の快樂ぢやあるまい、そんなことを喜ぶは豚小屋へ行つても、鷄の園のなかでも、やつてるではないか、そんな快樂の追求で一生を終つたところで、あきらめらるゝかネ」

乙「すいぶん、氣吞になつてきたよ」

甲「君は君自身生きて居ることを自覺してゐるかネ」そして人間だといふ事も自覺されるかネ」

乙「自覺して居る樣な氣もするし、はつきりともしてゐないネ」

甲「すいぶんぼんやりして、くらしてゐるんだな、其日ぐらしの、でたらめ主義といふのだらう」

乙「まあそういふところもあるネ」

甲「君は君自身考ふる肉体の君を構成する意識を考へるだらう」

乙「それは考いるさ、意識があるもの、同じ者の樣に統一してゐる君の意識があるだらう」

甲「しかも變化して行く君の肉体を、いつも同じ者の樣に統一してゐる君の意識があるだらう」

乙「すいぶんむづかしくなつたんだな」

甲「其統一された意識の中に、君の個人的幸福など工もし得る、理性があるだらうそれだ、その堀り込んで行き、反省してゆき、自覺して行つた處に、ある理性、之れが芽をだすことができ、それが發育した時に、ほんとの幸が得らるゝことになるのだ、その理性は動物の慾求する幸福をも、己れの理性の法に從はしめねばやまない權威をもつてゐる、其理性は、時間や空間などに限られては居ない、時間や空間を超ねて、いつも活動して居るところのものだ、だから絕滅や消滅や、一時的のものぢやないのだ、

「孔子が人類幸福のために天の降した光りの遙照」といふも其の處だ」

「パラモン、が幸福到達の靈魂の巡靈であり完成なり」といふも其處だ

「釋迦が惠まれた涅槃に到達の自己否定だ」といふも其處だ

「老子、が幸福に達せんとする平和忍從の道」だといふも其處だ

「クリストが「神は隣の愛」愛こそ人に幸福を提供する唯一だ」と說かるゝも其處だ

乙「すい分ならべたつたネ、人生問題の展覽會みた樣に」

甲「けれど古人や哲人がいふはぬはどうでもよいお互の、心の中を堀り込んで行つて見たまへ、きつとそこに輝いた幸福が見いだされるに相違ない」

乙「とに角、少しはわかり始めた」

甲「まつり、分烈し易い意識で時間空間の間に消ねてゆく樣なことが。幻影にすぎない樣なことが。本物の幸福だといふ樣に迷はないことが第一だネ」

乙「フン」

甲「我々の生きて行くことが目的なんだらう其の生きてゆくといふことは理性的生活より外にはないだらう、目に見ゆる他の者は皆夫等の手段に使はれねばならないものだ、百人中九十九人幸福は認めるが一人は手段で、犧牲とならねばならぬ現由は考へられないぢやないか、百人が百人、幸福な生活で、矛盾しない樣なことでなくては、眞の幸福ぢやないと思ふよ、それには爭鬪や分烈する手段となるべき第二義の者を第一と思ふ誤りが原因してゐるんだらう、だから其樣な幸福に遠ざかりゆく人達が集まれば集まるほど人生は輝きのある生活となるだらうよ」

乙「まあその位にしてくれないか、又時があつたら文化生活論でもしてくれ」

甲「そうだ、此位にして、お互さらに考へて見やうよ、そう十分や二十分で解決できてはたいへんだからな」。

◎お願ひ

「昨年の三月小學校の音樂會の日、講堂で雜記帳（唱歌や天文の研究や伊那節など書いたもの）を見失ひましたが御存知の方は御知らせ下さい」

柳澤昇

正賀

資本金拾五萬圓

株式會社 前山銀行

頭取 宮澤丑太郎

正賀

組合長 齋藤重太郎

西鹽田信用購買組合

專務理事 箱田梅作

西澤官兵衛

○　はじめ

大なるの、ふりにし年は、はや去りて
仰げば高き、けさの空
初月のもとに、鎮まれる
御代をことほぐ、うれしさよ

○白鷄――夏の頃――

――朝とく、前に泊れるところより、峠越わて某れの村に入りけるに、はや起きいでし鷄の、翠の畑に遊べるさまの、繪の如きに、かの書題の「園家全慶」といふことも想はれて――

目もさむるばかりに白きにはとりの
みつよついつゝむつましげなり

◎講習會話

「この講習に來る講師は皆洋行するそうです今度蠶山先生も洋行する事になつたそうです」「そうなつたそうですなあ」「平野先生も又二三年の中に洋行するそうですよ」「小縣の講習に來る講師は皆洋行するのですよ、實際此處へ講師に來る事は洋行する事を證するやうなものですよ」「そうすると終には講師の方から頭を下げて講師にして下さいと云つて來るやうになるよ」ハハハハー。

「それからこの講習に來た講習生は良く結婚するそうですよ」「馬鹿云つてらー」一同どつと笑ふ。こんな話が始めて行つた二十一日の日に誰かの口からか發された。

「私は鹽尻村の沓掛ヒサシと云ふ者でヒサシとは喜ぶと書いて何時も喜んで居る譯ですがどうか宜しくお願ひ」それから右廻りにてんでに自分の村と姓名を述べたてどうぞ宜しくお願ひを繰返す、中には「私は某村の何某で未だ一人者ですがどうぞ宜しくお願い」なぞと云つて皆を笑はせるやつもある、こうして百人もの自己照會は面白く終つた。

こんな調子で會長も役員も幹部振らないで、總ての事をやつて呉れた事は講習生にいゝ氣分を與へた。

「夕べの秀逸は内村の人の芝居だなー」「實際垢ぬけて居たなあ、あれ位ひやるにやあよつぽど習はなけりや駄目だなー」。

「活辨も實際上手だつた、あの位なら、ほんとうの寫眞がうつれば、どうやら出來るせー」、「實際うまかつた」「畑へ行つても仕終やつて居る位でなければとても駄目だなー」、「三番目はあれだ、あの服着た人の「兎は耳長いつて歌つたあの人んのだ」「あれは滋野の人だぞー」。

こんな話が火鉢を圍んで居る群に交されたのは余興會のあつた明朝二十六日。

「去年の講習生の方が元氣あつたなー、今年の奴等ぐづ〳〵して居て仕樣がねー、朝なんか起きたつて布團など誰か片附けるからうーてな風をして居るし敷布が變に打返つたりなんかして居たつて足でけつちらだして當番でなけりや、やるもんじやあ無いと思つて居る、それだから朝起きて寢床片付けるに二十分も掛つてしまう、一般にグズ〳〵して居るなあ」。「そうさあ、そう云ふ風はある、然し去年は世話燒き過ぎたには燒き過ぎた、今年は世話はやかないなあー、だが元氣はない。

「皆若い者になつたなあ、去年は年寄な者も大勢居たつけが」

「そうだなー年の幅は狹くなつた」

「そうさ年の幅は狹くなつた」

何日の朝だつたか默つて聞いて居たら團長と副團長とがこんな話をして居た

「幹部が氣が利いたのが食事の當番に當つた南條さんが氣が利いたのが講習會場の隅に小さなボール紙の箱で假ポストを設け書いた葉書はその箱に入れる當番はそれを郵便局に持つて行く、又そこには講習生を信用して新しい葉書と切手が入つて居るてんでに錢を入れては持つて來るやうにしてある。事柄は小さいが講習生を信用したと云ふ所は殊に講習生にいゝ感じを與へた」と誰かが別れる前の演說の時言つた。

謹賀新年
十人
武田頭代商店
素麵部

謹賀新年
新町
梅光堂菓子舖

謹賀新年
新町
合資會社
綿屋商店

謹賀新年
東前山
松屋商店

謹賀新年
手塚
三河種專門
堀田養鷄場

謹賀新年
新町
大澤自轉車店

謹賀新年
新町
宮澤自轉車店

謹賀新年
西前山
瀧澤歌之助
養鷄場

謹賀新年

新館高等湯落成

別所溫泉
内湯
柏屋別莊

電話長十二番

屁

（芳聲に）

無名居士

◎

批評は各人の勝手である。甲は善と云ひ乙は惡と云ふ。Aは正と見Bは邪と觀ず。甲の善も乙の惡も眞理である。Aの正もBの邪もおんなじである。只甲は善とし乙は惡としただけの相違である。

甲に善であるから乙にも善であれと云ふ我儘は許さない。Aが正と見たからBも正と觀なければならないと云ふ道がない。眞理は惣てに眞理でなければならぬ。

◎

おい小僧。生意氣云ふな。おめの樣な奴に自由にされてたまるものか。抑々おめの樣な馬拔野郎の出しやばる幕ぢあない。女のけつでもなめて引つこんでゐろ。

◎

公職を利用して選擧に干渉するなんても つての外だ。遠慮なく葬つちまへ。何の遠慮がいるものか。高が男一疋位に。

◎

俺の君で君の俺か。同性の情死も亦宜なる哉か。ふるつてるなあ。

◎

頼みもせぬに生んでおいてやれ親不孝の惡黨のと云ふ。親なんて元來勝手なものだ

◎

「私は誰からも愛して貰ひたくありませんの」

嘘つけ。お前には愛して貰ふだけの資格がないのだ。自分の面を見てから物を云へ。七面鳥そつくりの面だ。

◎

宜しい宜しいあなたの胸にある事をすつかり云つてお終ひなさい。そしたらあなたの秘めた戀が滿されない迄も誰かがあなたの爲に泣いてくれるでせう。

◎

弱き者よ汝の名は農民なりか。贊成。弱き者よ汝の名も同じく農民か。結構。

■無題

木魚

私は自然のまゝに人生を過したい、裸形の人間其儘に。

夢の樣に、無意識の中に、女や酒に醉つて、或は思索に、（醉つた心地は惡くない。）此の世の中は、醉ひどれと〳〵の邂逅だ。ましてや醉ひどれの大工さんは、哲學や宗教をも建築した

此の大工さんの手に建てられた小屋の中には、又醉ひどれが住つて居る。

が、何れの小屋の醉ひどれも、自分計りが偉さうに。

だから、世の中は八釜しい。

だが、面白い醉ひどれの喧嘩、泣いたり笑つたり、夢の樣に、幻の樣に（夫れは確かな實在ではないらしい）。

其處に人生の妙味がある、自然味がある、他の凡てと同じ樣に。

（時には木石の樣に、純無意識に、或は野獸の樣に齒をむき出して衝動に生き若しくは神佛其ものの樣な）。

私は知つて居る、

吾等の凡ての行爲は神格に屬することを。

で、私は總てを善として肯定したい、

其處に、善と惡とを飛び超へて。　終り

■バラックの中より

あいじ

——樣

兎に角東京に來ました。燒け出された敗殘の東京へ！　逃げるやうな氣持になつて

現在の自分にかうするより外に生きる道が求め得られなかつたんです。眼の前に澤山殘されてゐるその仕事の一方を片附ける爲に嫌な土地を逃げたんです。

東京に來て三日ばかり當てどもなく暗い憂鬱と不安とを經驗しながら燒野原を、ばらつく街を彷徨者は歩きました。そして夜は冷いバラックの中で平和でない夜を過しました。

私は何ともいひ表せない悲慘そのものを象徴したやうな夜のシインを見ながら……私はかなり自身の姿を或る程度まで視凝ることが出來ました。今は店に入てその日その日をめまぐるしい生活の波にもまれながら不安なそしてメランコリアな氣分で重苦しい日を過してゐます。

誰にかも告げんすべなく泣き濡れて我は身悶ふバラックの夜に。

謹賀新年
株式會社
並木藥舗
上田市三好町

謹賀新年
新町
和方醫院

謹賀新年
新町
佐藤醫院

謹賀新年
中島榮知
山寺

謹賀新年
守慶運
中禪寺

謹賀新年
山崎了孝
龍光院

謹賀新年
西澤龍瑞
無量寺

謹賀新年
菱正宗
新町
武田酒店

西塩田時報

大正十三年三月廿五日印刷納本
大正十三年四月一日發行
長野縣小縣郡西塩田村発行
編輯印刷兼發行人　樋口秀實
印刷所　山浦活版所
發行所　西塩田青年團

勝利は何處へ！

中島榮知

流るゝ水の如く、萬有は轉變して行く、刹那に生があり、念々に滅がある、咲く花散る花、空行く月影、雲のたゞずまい、自然人事百般の現象は遷り遷り變り變る、無常は世の眞相だ。

過去と云ふも未來と云ふも現在の流れに外ならない。現在に對して曾有を過去と云ひ當有を未來と云ふに過ぎない。唯實在するものは現在の事實あるのみだ。何を苦しんで過去を追想して泣くのだ、何を樂しんで未來を豫想して喜ぶのだ、現在の刹那々々に自己の充實を計るのが最も近道で最も確實だ。

何が權利だ—、何が義務だ—、權利は自己の反影だ。義務は自己の力だ。義務の伴はない權利は暴權だ。何故に現代人は自己の不充實に心付かず徒らに權利の獲得にのみ焦慮するのか？、權利は決して他から賦與さる可き性質のものではない筈だ。必ず自己充實如何に依つて決定するものだ。

平等は萬人の希求する處だ。然し差別を無視した平等は吾々には最も希險だ。平等と差別は車の兩輪の如く、鳥の兩翼の如く片時も離れて單在するものではないのだ、夫れは理論ではない、自然の事實だ、力の充實した人々と平等の權利が不充實の人々に得られるならば夫れは一時的の暴權だ、永久の保證は得られない。權利の保證は刹那々々に自己充實に努力する人々にのみ限られた特權だ。

現今社會の實狀は雜多の社會問題が惹起され、平等の權利の主張者と差別の既得權主張者との間に、猛烈な鬪爭が行はれんとしつゝある。果して平等の權利の主張者は社會に向つて當然自己の權利を要求する程自己の力が充實して居るのか？、果して既得權主張者は權利の永久化する程社會的義務を盡して居るのか？、

要するに鬪爭は相互の無自覺無理解から生するのだ。自覺のない限り、理解の出來ない限り、鬪爭は永續する。而かも勝利の榮冠は鬪爭の相互何れにも與へられない。結局默々として刹那々々に自己充實に眞面目な人が最後の勝利者だ。

◆篤農家懇談會

塩田五ヶ村聯合農會に於ては四月六日西塩田小學校に於て篤農家懇談會を開催致す事になつた。方針は郡農會でやつた形式をとると云ふが、もつと純な飾けのない篤農家を集めて、しんみりと忌憚なく農家經濟其の他に就て懇談すると云ふ。

◆桑接木講習會了る

西塩田村農會主催の桑接木講習會は豫定通り三月十一日より十三日迄で三日間、手塚公會場に開かれた。受講生八十七名、講師は埴科郡五加村の出身で永年養蠶教師をしていた田中岡平氏である。氏は折々埴科訛を出して『そうするとエコ穗がヘチまふから芽が出ないで』皆んなを笑せた。

◆今月播種すべき主なる蔬菜

茄　三月中旬より四月上旬播種　種子は鮮黃色のものを選び一晝夜位微溫湯に浸し苗床に播種すること、苗床は廿五六度位の溫床又は冷床を設け床上二寸位の畦巾に播條を作てこれに播種すること

胡瓜　四月中旬に播種　茄に準じ二十二三度位に溫床を作り播種するか又は本畑に直播にすること

越瓜　胡瓜に準ず、二回位摘心をなし孫蔓八本を出しこれに結實せしめ、其の後は摘心摘花に注意すること

葱及葱頭　四月上旬冷床を設け三寸巾に條播すること

其の他牛蒡、蘿蔔、胡蘿蔔、馬鈴薯、甘藍、花擬葉、オクラ等である。

◆軍人分會より

三月十日午前九時より總會を開き左記を議定す

大正十三年度豫算
大正十三年度事業施設
評議員の改選

△仝日午後一時より戰病死者追吊法會執行
△竹下繁松氏　齋藤勇氏を名譽會員に推薦し其筋の承認を經たり
△正會員、山極國時、桑野政男、鷲原虎五郎氏は模範會員として各表彰狀を贈る
△左の四氏は本會の趣旨を賛し基本金へ寄付せらる

金參拾圓也　倉澤萬兵衛殿
金五圓也　齋藤　勇殿
金五圓也　竹下　繁　松殿
金五圓也　竹下虎五郎殿

◆大正拾參年度西塩田村分會收入支出豫算

收入
一金參百七拾貳圓也　收入豫算高
支出
一金參百拾貳圓也　經常部豫算高
一金六拾圓也　臨時部豫算高

◆大正拾參年度西塩田村分會經費收入豫算

款	項目	本年度豫算高
第一款	繰越金	三〇、〇〇〇
	一項　繰越金	三〇、〇〇〇
第二款	財産收入	三三、〇〇〇
	一項　基本財産收入	三三、〇〇〇
第三款	會費	二三〇、〇〇〇
	一項　會員分賦金	二三〇、〇〇〇
第四款	寄附金	七、〇〇〇
	一項　寄付金	七、〇〇〇
第五款	實費徵收	六六、〇〇〇
	一項　徵收金	六六、〇〇〇
第六款	雜收入	六、〇〇〇
	一項　雜　入	六、〇〇〇
	收入合計	三七二、〇〇〇

支出合計金參百七拾貳圓也
收入支出差引皆當

◆大正拾參年度西塩田村分會經費支出豫算

款　項　目	本年度豫算高
第一款　事務費	六二、〇〇〇
一項　旅　費	二五、〇〇〇
二項　雜　給	一五、〇〇〇
三項　需用費	二二、〇〇〇
第二款　會議費	一一〇、〇〇〇
一項　會議費	一一〇、〇〇〇
第三款　事業費	七三、〇〇〇
一項　購讀費	六、〇〇〇
二項　講話費	七、〇〇〇
三項　演習費	四五、〇〇〇
四項　競技會費	三〇、〇〇〇
五項　弔慰費	二、〇〇〇
第四款　基本財産造成費	五、〇〇〇
一項　基本財産蓄積費	五、〇〇〇
第五款　負　擔	三七、〇〇〇
一項　負　擔	三七、〇〇〇
第六款　豫備費	二五、〇〇〇
一項　豫備費	二五、〇〇〇
支出經常部計	三一二、〇〇〇
◆支出臨時部	
第一款　事業費	六〇、〇〇〇
一項　需用品共同購入費	六〇、〇〇〇
支出臨時部計	六〇、〇〇〇
支出總計	三七二、〇〇〇

◆二割增收の端緒

米の二割增を計るべく山田東組農事組合に於ては苗代を共同設置し、健全なる苗を仕立て、組合員に配付する事になつた。場所は山田字東田で管理は組合員中最も經驗ある人で、播種は條播機を用ひ坪三合蒔であると。因に郡より井上技師出張し諸般の打合せをなした。

◆蒟蒻の栽培

一反歩千圓を頭に畫ひて各地に蒟蒻の栽培が始じまつた、まだ成績は解らないが本村にも適地は少くない、栽培宣敷きを得ば必ず收益多く相當成績は上ると思もはれる。因に山田北組農事組合に於てはこれが栽培に着手した。

◆嫁さんが自働車で横付

兼て起工中であつた村道八木澤線が此の程竣成したので過る十八日山田滿願寺に於て開通式を擧行した。來賓は村長始め村會議員其の他八木澤惣代役場吏員でなか〳〵盛會であつた。いよ〳〵山田へも自働車で嫁さんがドッチからも行ける樣になつた。

和歌

槇の舍　武田正雄

伊勢の大廟より出雲の大社に詣でられたる友さちより數々繪はがき給りけるを嬉びて

△居ながらに遠きみおやの神々の御社拜む今日そうれしき

△ひらけ行く御代やはがきに繪も添へてあらはにしめすこと里のさま

村長殿より槇の舍と淨書せる標札を給りければ

△めぐまれし我か村おさの水莖のあと鮮かに見ゆる門かな

村道の開通をよろこひて

△並み行く御代に後れで里道をひらくは民のちからなりけり

△國民の心は常に直なれは道の曲りもなほさゝらめや

蝶

△面白き野邊のあそひのつかれにやさとのまかきにねむる蝶見ゆ

役場欄

◆事務報告（其ノ二）

一、土木

常設土木委員二名をして毎に管内を巡視せしめ道路、堤塘、橋梁河川の常時修繕を怠らず、尚は先年交通調査會の答申に基き道路計畫を立て書類圖面の完備に努めつゝあり一方改修工事新設工事等年々多きを加へ其延長左記の數字を示せり

十二年度改修路線　二線　延長壹千五間

年末現在路線　一、一五〇線　延長壹千三間

仝　橋梁　三九橋　延長壹五十二間

一、學務

小學校内部の監督及び教育能率の增進に就ては專ら六川校長に委任し小學教育補習教育ともに其の向上發展を期すべく校長及び學務委員の協力を俟て就學の督勵出席歩合の向上、教務の整理等機宜に應し適當の措置を怠らさるを以て其の成績遂年良好の傾あり

其他學齡簿の整理、學事報告等夫々相當の成績を收めつゝあり、今十二年末現在兒童數を擧くれば左表の如し

猶ほ社會風教の改善に就ては青年團、婦人會を指導督勵し各種講習會、圖書館の經營、時報の發刊等、時代の要求に遲れざらむことを期せり

區分	男生徒	女生徒	計
小學校 尋常科	三六八	二七六	五四四
小學校 高等科	四六	一〇〇	
實業補習學校 豫科	一〇二	一〇九	二一
實業補習學校 本科	三四	四二	八五
合計			

一、社寺

國體の精華を發揚して大和民族の粹を保全するには先つ神佛崇敬の思想を普及し國家の緩急に應して奉公の實を擧げさるべからさるを以て神社と寺院の隆興に就ては常に贊助協援を怠らず、逐年繁劇を來たす社寺事務に關しては敏速整理をなせり

當年度中に社寺に關する重なる事件左の如し

村社山田神社　九月七日付を以て幣帛供進の神社に指定せらる

村社王子社　仝月仝日付幣帛供進の神社に指定せられたり

中禪寺藥師如來　五月十八日付國寶に指定せられたり

猶ほ鄉社鹽野神社以下村社五社は部落有財產整理に伴ひ多大の財產を取得し當年度中登錄を了したるは敬神上大に喜ぶへき事にして亦記錄すべき事なりとす

一、林務

村有林二十五町五反八畝十七歩中既植地の保護手入並に天然造林の造成に就ては林業委員五名をして專其の任に當らしめ經營を怠らす部落有財產整理により村へ皈屬したる字澤山百八十余町歩の林野は本年、町村組合を組織し共同經營に移せり受托縣有林の經營は縣當局の指示に基き巡視員四名を督勵し保護經營の萬全を計り縣下に於ても模範林として推賞せらるゝに至れり其他個人經營の森林に就ても常に造林思想の普及に努めたる結果漸く林產物の輸出を見るに至り當年度の生產せる木炭のみにても實に二萬一千八十五貫を示すに到れり

一、戶籍

人口の增加と社會組織の復雜に伴ひ戶籍事務の劇頻するは年と共に著しき或あり此事務たる願書届書の受理發送等總て法令の定むる所に從ひ些の怠慢を恕さず常に裁判所の監督の下に研究調査を怠らず敏速且つ正確の處理をなせり

十二年末現在

戶數			
本籍	七二	二、〇〇三	
現在	七三	一、七二二	
人口	男	女	計
	一、七二二	一、七五二	三、四七三
一戶當リ人口			
本籍	五人二四		
現住	四人七二		

人口	男	女	計
	二、〇〇三	二、〇三八	四、〇四一
入寄留者	九九	九六	一九五
出寄留者	三二六	三〇四	六三〇

一、兵事

兵事に關する事務は政府の國防計畫に從ひ法令の改正異動頻繁にして之れが整理多忙を極む、壯丁の教養現役兵の慰問入退兵の送迎、在鄉兵の指導等は在鄉軍人分會並に兵役優待會と協力し遺憾なきを期せり本籍軍人數左の如し

大正十二年末現在本籍軍人數

陸軍	將校	下士卒	計
在鄉	三	二四四	二四七
現役	一	二六	二七
海軍	將校	下士卒	計
在鄉	一	一	一
現役	一	五	五

一、衛生

常に衛生組合を督勵し協力以て春秋二季の清潔法は勿論、虎疱の檢診、治療、種痘の接種、傳染病及結核の豫防に努めたる結果、傳染病の發生一名をも見ざりしは實に幸福とする所なりき

一、土地

土地の事務たるや逐年異動繁雜を增し地目地類の變換土木工事に伴ふ復雜なる分筆異動又は所有者異動等變遷極まりなく之が整理に就ては細心の注意と周到の用意を必要とせるを以て主任書記を督勵して敏捷に處理しつゝあり、今十二年末現在本村の有租地を示せば左の如し

種別	公有土地	私有土地	計
宅地	一四〇坪〇〇	二〇〇、七三坪七四	
田	六二〇五ッ	一八五、二七ッ	
畑	三八、九三、	三〇九、一〇七、	
雜地	五五、二〇〇、	四〇五、四二八、	
宅地以外ノ計	五九六、三三、	九〇〇、三〇〇、	
社寺有土地	一三五五坪七四ヶ	一八九八、八〇ッ	
田	三八八、五ッ	三二五、〇四、	
畑	七一、八二、	二四〇〇、九一、	
地	九五五、七一〇、	一五四、三三、	

◈四月の納稅

金參千七百八拾九圓四拾八錢

村稅第一期地價割

納稅日——四月二十日

一、稅務

稅務の正整と課稅の公平とは納稅義務者の好感を馴致し延いて納稅成績に影響する處大なるを以て細心の努力を以て公平なる賦課に努め且つ主任書記を監督勵奬事務の澁滯なきを期せり

大正十二年中定期及隨時に徵收したる稅額を示せば左の如し

稅別	調定金額	令書發付數	調定回數
國稅	九〇〇五円六一	六、四〇七	二〇
縣稅	一六、九四六、三一	五、五九七	四五
村稅	二七、九五六、四四	三、五六六	五三
計	五三、四八、一六	一五、四二	一一八

一、會計

會計の事務たるや町村行政上主要なる事務にして之が正否は一村の興廢に係る重務なるを以て請帳簿及び証憑の檢閱整理は極めて嚴正を守り村長例月之を檢查し且つ監督官廳よりの檢查官の檢閱を受け又別に村會議員立會の上臨時會計檢查を執行し其嚴正を期せり、金錢出納は懇切鄭重を旨とし支拂徵收共に敏速正確に注意せり

徵稅成績は大字惣代の斡旋と納稅組合の活動に依り納稅者の自覺漸く良好にして納期内の納入率は百分の百を示すに至れるは寔に喜ふべき現象なり

以上述ふる所は事務の一端にして詳細は村勢一班の統計表及び歲入出決算表に依り報告するの機會あるべきを以て爰に之を省く

❖財產表

大正十二年十二月末日現在

種目	數量	備考
山林	二十五町五反八畝十七歩	造林地
原野	壹畝拾壹歩	雜種地
畑	四反八畝貳歩	道テ造林地トナスベキ土地
宅地	百八拾六坪	役場敷地
仝	二千二百七十一坪	小學校敷地
仝	七百七十二坪	各大字公會場敷地
仝	木造瓦葺三棟	役場建物附屬建物共
仝	木造瓦葺十三棟	小學校舍附屬建物共
有價証券	額面二百圓	勸業債券十枚 愛縣債券一枚
現金	一万一千八百八十三圓十一錢	村基本財産
	六千六圓八十九錢	小學校基本財産

器具備品	備考
西塩田村外二ケ村共有財產組合財產	六千三百四十七点
林野耕地六百二十七ノ一反一畝一歩	此ノ財產ノ百分ノ三ノ權利
西塩田村外二ケ村共有財產組合財產	林野百八十一町五反畝廿六歩
病院一千十七坪	此財產ノ五百三分ノ四百八十二ノ權利
建物十一棟	
建坪三六四坪	
什器二百二点	
醫療器藥品百八十六点	

❖特志寄附

本村大字十人齋藤佐一郎氏は今回小學校備品の中へ金三十圓を寄附された

■土木委員選擧

本村では從來常設土木員二名の處土木事業の增加に伴ひ、條例を改正して之を三名とし、選擧の結果、瀧澤賢輔氏當選した。

■專務衛生委員選擧

專務衛生委員小林留次郎氏は三月十八日任期滿了の處、仝日の村會に於て選擧の結果、再び當選された。

■春季種痘施行

三月十五日十六日の兩日定期種痘を施行した。第一期（數へ年二才）のもの八十一人第二期（數へ年十才）のもの八十人、前年猶豫者二十三人であつた。

■徵兵檢查

大正十三年度徵兵檢查は來る四月二十六日午前七時半より郡役所に於て執行される事になつた。本村適齡者は三十一人で昨年に比すると三名の減少である

尙同日は本村の外に東塩田富士山の二村が共に檢查を執行される。

右提出候也

大正十三年二月二十七日

西塩田村長　齋藤重太郎

■鐵筋工事開始

村道前山線中塩野川に架けたる橋梁は、昨年八月大雷雨の際に破潰して其の儘であつたが、今回村會の決議に依つて該橋梁を鐵筋コンクリートで改築する事にした。

其の工事費豫算は千五百余圓で巾四十尺、長さ九尺、高さ十八尺の大規模なものだ。

尙甲子年に因んで甲子橋と名稱を附したいとは一般の希望だ。

◆新町支部通信

◆道路改修陳情　新町區内を通ずる道路が道幅狹く、曲折の多い惡道路である爲に、早晩必ず改修さるべきものであることは、久しい以前から問題にされてゐたところであつた。新町區では、二月二十六日、總會を開き、此の實現を期すべく決議し、村長に陳情するところがあつた。

◆寄附、御慶事記念の大國旗に對し、當區和方平吉氏は、總てを、梅澤菊太郎氏は球一對を寄附された。

◆祥雲寺屋根葺替、王子神社の南に在る祥雲寺の屋根葺替工事は、三月六日に起工され、此の程竣工を告げた。二十三日に落成のお祝があつた。葺萓一戸一駄宛の寄進にと依り工費百圓。

◆掲示板新設、軍人分會第五班と新町支部共同して、掲示板を區内三ヶ所に設置した。

◆支部會員勞働、新町支部では縣有林下草の拂下を受け、三月五日、ヾヤ切りを行つた。

◆蠶專校參觀、新町養蠶組合員は去る二月十四日、上田蠶絲專門學校を見學し、神益するところ多かつた。該見學の際、同校助教授樋口琢磨氏の御盡力下された事を深謝する。

◆野倉支部より

◆來る十五日は鎭守塩田水上神社の春季例祭に相當せるも當日は本村鄕社塩野神社に於て六十年に一回の甲子大祭を執行せらるに依り一日繰り上げ十四日に祭典を成す事に協定した

◆當支部では人心動もすれば軍事思想の輕薄に流れんとする秋に於て軍事思想の向上を計る爲め松本步兵第五十聯隊見學を決議した其の方法は成る可く全會員を見學せしめんとて一人金一圓宛の補助をし尙布望の者は七月半頃迄一圓内外を貸與する事にした。

◆當部落は御成婚記念事業として大字野倉字横道上に壹町步の個所を選定し扁柏を植栽すべく最早雜木伐採を了し四月中旬より植付けをなす事に決定した。

◆手塚支部通信

◆三月二十一日午前十時より第十三回敬老會を催した。青年會員婦人會員の面白い余興が二十いくつも行はれた。記念撮影があり心を込めたおひるの壽司までみんな祖父祖母たちの万足さうな顏をみたのは何よりも嬉しかつた、高齡者四十八名中四十五名の人が見ねられて非常に盛んだつた。

◆山田支部通信

早起會

◆山田支部では二月一日から四月十日まで早起會をすることになつた　方法はこうである。每朝當番が二人あつて、一人は振鈴を鳴らして村中を廻り一人は事務所に居て會員の起床したのを點呼するのである、そして會員は鈴を聞いて十五分以内に事務所へ駈け付け点呼を受け怠つて点呼を受けぬ者や當番にして其の任を果さぬ者は罰として繩一ボチを出すことになつてゐる此んな事が本年で七八年も續くがなか〳〵成績が好く本年も罰せられたものはまだ一人もない。

◆藤ノ木支部通信

◆藤ノ木婦人會は、二月二十六日副會長竹内よしの氏宅に、午前十時開會し、會長にかはり、竹内正一君の開會辭及び、會務會計の報告、二三決議事項にて晝食となし午後一時に再び開會す、藤ノ木衛生組合の副組長竹内孫一氏の、小縣郡聯合衛生組合よりの受賞の報告と、婦人の衛生に對して男子より最も必用なると、今後此褒賞に對し一層の努力を望み、六川校長の講話終りて余興として、義太夫數回及び、茶話等あり、此日は寒氣強きも、參會者非常に多く、午後五時會員相和して閉會す。

◆三月三日午後七時より信濃同仁會活動寫眞講演會を新町座に於て開催しましたところ豫期以上の盛會を得たのは誠に喜ばしひ次第でありました。

因に本部より成澤法學士中野夢影兩氏出張し縣より產業主事田中保氏出張し寫眞に就て熱辯を奮つてくれましたその間成澤法學士の講演及び鶴田菊江氏の琵琶彈奏がありました、しかし機械に故障が生じたが其の外の藝者の手躍りをする豫定だから當夜は賑かな宵祭りが出來ると思ふ。

◆お祭りの行列を飾る獅子に附くべきサヽラ踊りは可愛らしい小學校の尋一より尋五迄の生徒四十名がする事になつた。美しい花笠や、一定して着物やが青年婦人兩會員の手によつて造り上げられた。

◆小學校竝補習學校終卒業式

本年度小學校卒業式は過る二十三日午前十時より、仝補習學校は午後一時より夫々擧行された。本年度卒業生は小學校高等科男二十五名女二十六名、補習科は男二十七名女十九名であると。

謝恩會

二十四日母校に於て本年度卒業生が、恩師諸先生の勞を謝すべく謝恩會が開かれた色々の余興もあり盛會であつた。と

◆野鼠驅除施行

本村に於ては塩田五ヶ村の協定に基き三月十六日村内一圓に渉て野鼠驅除を施行した之れに要した藥品は硝酸ストリキニーネ三、五瓦入四〇本、麥蕎粉九斗五升　煎糖四斗である。

◆前收入役逝く

前收入役山下佐宗太氏は去る三月二十日動脈硬化症萎縮腎にて逝去された。

氏は明治四十三年十二月本村收入役に就職せられ、大正十一年十二月に至る迄、實に三期、十二年間の久しきに亘りて、その職にあり、今回其の身体を養ふべく退かれたるに。其の計報を聞くは實に痛惜の至りだ。

◆十人支部通信

◆十人支部にてはさきに大正七年に再健設した道しるべが今日までに及びたるが字の消去せるため社會一般に不便を感ずるに由り建換して便利を計りたり。

◆大字十人區にては御慶事記念として十人支部の手をへて區内七ヶ所に街燈を配置して御成婚當日より一齊に點火して以て一般の便を計つた。

◆東前山支部より

◆三月十六日、午前十時より前山寺に老人慰安會を催して七十歳以上の區内の老人十九名を招待した。簡單ではあつたが打ち寛いだ樂しい晝食を濟ませて午後一時より余興にうつた。

余興は昨年の例に倣つて全部會員の趣向に待つた。各自の其の得意の藝能を發揮して余興の總數二十三の多きに達した。劇に踊りに、音樂に、老人のほんとに樂しさうな面持を見る事が出來て嬉しかつた。

この日集るもの老若男女併せて百三十余名老人の慰安會は宛然大字全体の慰安デーか臨時大祭には煙火の打揚數が實に參百余發で、直經二尺の大煙火を三發揚げると云ふ二尺玉と云へば長野の惠比壽講に近年著しく人氣を集めてゐるが、小縣部では之が嚆矢で、非常な評判である。

尙三發の中一發は書の打揚、二發は夜の打揚で、晝間の煙火には其の巨大の玉の中に景品として手拭が三十反も這入ると云ふからその巨大さは想像するだに素晴らしいものだ。

◆大煙火！

四月十五日執行すべき、塩野神社の甲子臨時大祭には煙火の打揚數が實に參百余發で、直經二尺の大煙火を三發揚げると云ふ二尺玉と云へば長野の惠比壽講に近年著しく人氣を集めてゐるが、小縣部では之が嚆矢で、非常な評判である。

尙三發の中一發は書の打揚、二發は夜の打揚で、晝間の煙火には其の巨大の玉の中に景品として手拭が三十反も這入ると云ふからその巨大さは想像するだに素晴らしいものだ。

◆別所街道藤ノ木地籍内にある廣告板は今回位置を變更して北側へ建て替へた。廣告を張るにも又見るにも、今度の場所の方が具合いゝと思ふ。盛んに利用される事を望む。

◆大祭の宵祭りを賑かにしたいと云ふみんなの希望に依つて遂を組立てゝ、囃や躍りをする事に決定した。每夜々々練習を重ねてゐる。

◆西前山婦人會は、來る十二日午前より當區中彈寺に於て春季總會を開き諸般の報告役員の改選、終て中島榮松師及び校長先生其の他諸氏の有益なる講演があつた。

◎去る十三日塩野神社務所に於て、四月十五日執行さるべき甲子大祭の、臨時祭典季員會が開かれ寄附金の經過報告あり、終て祭典執行上に付き種々協義す。

協議の結果、庶務神事行列係余興係接對係等を設け、それぞれ準備に忙かはしい。

祭典當日の二尺玉「花火」さぞ見物であろう。

◆年年三月廿七日行わるべき、山林記念祭を都合にて十七日總會を兼ね執行されたゞなほ當日は十三日臨時祭典委員會にて、決定事項として協議されたる、種々なる祭典執行上の方針に付きての認定ならびに、縣社昇格に付きての協議あり。

◆西前山支部員は甲子大祭の準備にて非常なる意氣込みだ、總ての仕事も此の様な意氣でやつて行きたい。

◆西前山支部通信

◆西前山婦人會は、來る十二日午前より當區中彈寺に於て春季總會を開き諸般の報告役員の改選、終て中島榮松師及び校長先生其の他諸氏の有益なる講演があつた。

◎去る十三日塩野神社務所に於て、四月十五日執行さるべき甲子大祭の、臨時祭典季員會が開かれ寄附金の經過報告あり、終て祭典執行上に付き種々協義す。

協議の結果、庶務神事行列係余興係接對係等を設け、それぞれ準備に忙かはしい。

祭典當日の二尺玉「花火」さぞ見物であろう。

◆年年三月廿七日行わるべき、山林記念祭を都合にて十七日總會を兼ね執行されたゞなほ當日は十三日臨時祭典委員會にて、決定事項として協議されたる、種々なる祭典執行上の方針に付きての認定ならびに、縣社昇格に付きての協議あり。

◆西前山支部員は甲子大祭の準備にて非常なる意氣込みだ、總ての仕事も此の様な意氣でやつて行きたい。

◆通俗倫理講習會

青年團及び婦人會の主催にて、三月二十五日より三日間、上田中學校教諭、金井榮先生を聘して、倫理講習會を開催した。聽講先百七十余名、每日午後七時より午後十一時迄、熱心な、力の籠つた先生の講話は聽講生に深い何物かを與へた。

朝鮮人の結婚式

在平壌　山田寅夫

◇花嫁さんは三拜、婿どのは二拜半。

◇同姓の家と緣組せぬ朝鮮人の婚禮。「キミチ」の味を知らずして朝鮮を論ずるは間違ひだ」と喫呵を切つたと聞いた。澤庵の味の樣に淡白した處も良いが亦「キミチ」の辛味にも一種の味がある。辛味のよいところを一つ御知らせする。

「もう春だ」寒い朝鮮にも暖かい春が來たこれからが朝鮮人の結婚時期である。本町通りを提灯を先頭にして輿の行列をよく見受ける。朝詳人の結婚式は夜間に擧げるものと決つてゐる。それで「沙龍」即ち提灯が先頭になつて行くのであるとの事だ。內地の結婚式は嫁が婿の家に來て式を擧げる事となつてゐるが、朝鮮では之を反對に婿が嫁の家に行つて式を擧げる。

先づ婿が新婦の家に行く時、即ち結婚の門出に門前で實父が酒を一杯やるを禮禮を言ふのだ。そして會長に禮を守れ禮を失するな。」と言ふ訓戒が與へられる、冠服をつけて輿に乘り行列の提灯を先頭として出掛けるのである。

花嫁さんの家に着くと初めて新郎新婦の顏合せとなる。婿が西側に坐つて嫁が東側に坐を占める。嫁が先づ頭を三度下げる即ち三拜すると婿が二拜半を以て之に酬ゆる。「何處もでも告翔の麒羊」を尊ぶ處が面白い。それから仲媒と稱する婆さんの手によつて所謂三々九度の盃が行はれるのである。之が濟むと婿が持參した雁一番（生きたもの）を庭から放す。之は雁の如く死んだ後までも、共に添ひ合つてゐる樣にとの意味だそうだ。それから御馳走の膳が出る。從つて行つた人達は鱈腹喰ふ。兎に角其の晚初めて新郎新婦が褥を同じふするのである。そして三日間は嫁の家で暮す、四日目になると今度は、花嫁さんが女の供を連れて婿の家へ繰込むといふ段取である。持つて行く物は幣、雉、牛肉、雞などを紅紙包とするのである。到着して幣や先祖を拜んでから婿の家の家族の人人に一人々々面接の式がある。之でまあざつと式が濟む譯である。前にも言つた通り朝鮮では同性の處からは決して嫁を娶らぬ。例へば男が朴なら金とか李とか云ふ姓の家から娶る。面白いのは妓生を買ふにも同姓の女は買はぬ。それで妓生は客の前に出ても自分の本姓を云はない。いや云ふ事を欲しないらしい。相手が金なれば此方は朴だといふし、對手が朴なれば此方は金だと言ふ風だ。朴だとか金だとか、張だとか別段判か捺してある譯でないから出鱈目を言つて居ても判る筈がないのである。

◇注意◇

役場や農會の方で折々注意する事ですが、鷄や犬を放し飼にして非常に迷惑をかんじて居ると云ふことを方々で聞きますそれでは誠に困りますから鷄や犬に必ず放飼をしない樣にして下さい。そうでないと大きな損害と迷惑をお互に蒙りますから。

◇小人小言

山極博人

今年は前山で甲子大祭が行はれる。何しろ六十年に一度といふことで前景氣もなかなか盛んだ。六十年に一度といふから普通ぢやない、その得難い機會に出遭つた嬉しさ丈でも隨分とお祭の爲に骨折る氣にもなれるといふものだ。況んや其の年に元氣な若い衆として賑かせるといふのは嬉しさも格別のものであるに相違ない。或る程度まで賑かにやるもいゝ。然し待てよ、考へて見れば亦茲に問題が起きる。今世の中の景氣はどうだ。世の進むに隨つて各方面に金のかゝる問題のみが增へて來る。其の金の問題で國も縣も村も更に個々の家も同樣頭痛の種である。可隣な子供が軟かい頭を惱ますハーモニカ入學難の緩和も思ふ樣に調節出來ず、其の他道路でも產業の施設でも、衛生でも此のお金の爲に泣きね入りになつてゐるものが少くない。斯く各方面を切詰めて經費節減を叫んでも一戶當りの負擔がどれ程減じてゐるのだらう。人は亦口を開けば稅金の高いこと許りを言ふ。農家として是以上節約の餘裕があるかないかの問題にまで立入つて論議されてゐる時だ。然るに今度のお祭にはどうだ、數千といふ金が忽ち集まつたといふ。意外だ奇蹟だ、斯う言へば或は「馬鹿め金があるから出したんだ、奇蹟だなんだと人を馬鹿にするな」と叱られるかも知れない。之は申譯なし。自分の素寒貧を標準にしたぢやあ濟まなかつた。然しどう考へても不思議だ、亦考へ樣によつては眞に結構な現象である。此の位の餘裕があるなら敢て悲觀する必要がない。此の割合で行つたら地方費の膨張など問題になるものか。世の進運に伴ふ施設は多々益々辨せられること請合だ。先頃あるところで、村の要路に在る某氏から聞いたことだが、新前橋から山田へ通ずる道路が今以て出來ないのは、村として莫大の負擔をしなければならぬに依る、即ち地元の西蓋田として六千圓、一戶平均十圓の負擔をしなければならぬ。單に道路に就いて一戶當り十圓の負擔といふことは容易ならぬことであるから考慮せねばならぬ」と、成程無理もない話だ當事者の苦心の存するところをお察しする。けれども此の問題は今度のお祭の寄附金の出來に依つて解決された譯だ。假令六十年に一度とは言つても其の時限りの御祭ちやあないか。それに對してさへ、斯ういふ大金を奮發する餘裕があるなら、永久的の施設に對しては一層の理解と熱心を以てやつて呉れることは當然だ。そうすれば右の樣な屈託も畢竟杞憂に過ぎぬだらう。まさか村の人々がお祭騷きには惜しげもなく財出來るだけ犬を取締れ畜犬家の反省を促す

× ×

米國の女學生の中に消防隊が出來ていて火事教練は正課の一つだと。本縣あたりでは他山の石を學んではどうか

× ×

南安曇地方では祖先傳來の美田をもてあましているそうだ

農村は疲れはなはだしきか

× ×

病む夫と三人の子を抱かへて暮すに困たる貞女万引して捕はる。

ロシヤを救へと叫びたつた謂所貴婦人連一思なきか

× ×

笛吹けども人おどらず、徒らに春風躍る

◇陽炎

ひろと

銀がりし雪の淺間も陽炎の彼方に霞みぬ殘生のなかば

小疲れて堤にねころび崩え出づる草の匂ひを親しみにけり

今日殊に仕事出來たり荒れし手に膏藥つけつゝ心足る夕

すゝめがくる人の言葉にやすく〳〵とのりたる後の我は寂しき

折々に聽くこと多しされど我に爲し得ることゝありしや

山峽の小さき家に飼へる鷄石ころき川に水呷む

晝日に麥田を打てば吹く風の稍々寒けれど肌によろしき

◇補習學校より

今迄に自分の痛感したる事柄

◆トラピスト　一女補生

私は以前トラピスト生活（修道院）の活動寫眞を見ました。その前にも雜誌でトラピストの記事を讀みましたので、一入强い印象を殘しました。惱ましい俗界を脫して溫いあの聖母の胸に抱かれつゝ淨い淨い聖書の敎へに由つて惱ましい人生を純潔に淸く正しく愉快に生活する多勢の年若い信徒は私共平凡な生活に對して强い强い刺激と羨望とを與へます。憧れるとはなしに自然に崇拜されます。いつも聖書を握り胸に十字架をつけたその緊張した態度はその心は始終神に守られて居ます。この莊嚴にして床しいスタイルと意義ある淸い生活とは今尙宗敎界のパラダイス（樂園）として幻の如くハートに映じ永久に忘れられません。

されば人はどうしても信仰に生き聖母マリアの愛に縋つて洗練され淸淨された心と身體とを作らねばなりません。そして生ある限り淸く正しく美しく奮鬪を續けなくてはならぬ事を深く心の奧底に感ずる處であります。

◆農業從事の感想　一男補生

小學校を卒業して從事したばかりには實に愉快に感じ外の感じは起きなかつたが一年の後には又斯う考へた、これからの青年は徒に都會に憧れて空想を抱いて上京するものが多くなつて此の神聖な農業を打捨て往くのは嘆かはしく感じて居る。大に農村振興を計りたく思ふので……

自分は今後益々意志を鞏固にして農村振興を計り現在從事して居る青年と共に奮ひ立つて農業を深め巧妙な經營熟練した技能を養つて國家の發展國力の充實を期したいのであります。

◇るつぼの中に

無名居士

三月九日午後四時

無量寺の東南約二丁の所で郵使脚夫が犬にほねられて困ていた。三分——五分——犬は益々ほねる郵便や立往生氣の毒さを過きて、正しくこれ一場の喜劇

◇……◇▲今月號から次の人たちをお願して時報一切の仕事に當て戴くことにしました

◇……◇編輯雜記

手塚　樋口　勇　新町　山極博人

十人　武田虎　藤木　竹内丑雄

東前山　瀧澤詔　西前山宮澤兵部

山田　竹下照司　野倉　荒井精一

軍人會　荒井精一　農會　竹下　幸

學校　池田基寬　信購組合　金澤直人

役場　黒坂　勝

▲村中の人たちがもつと時報を利用して下さるやうを望みます。青年會が初めた仕事ですが、これは村全體の新聞であるのですから村の凡ての氣分の表はれであり たいものです。

西塩田時報

大正十三年四月廿五日印刷納本
大正十三年五月一日發行
編輯印刷兼發行人　長野縣小縣郡西塩田村大字
　樋口秀實
印刷所　山浦活版所
發行所　西塩田青年團
　今縣上田市六二六
　今縣小縣郡西塩田村

雜草

金井榮

◎ いゝ春になつた。嬉しくてしようがない。櫻が咲いた、生きて居てよかつた。と思ふ、白雄の句に、『人戀し灯ともし頃を散る櫻』と言ふのがある。矢張り信濃(諏訪)の俳人曾良の句に、『夜もすがら木枯きくやうらの山』といふのがある。此の人は芭蕉に奥の細道の旅に從つて、有名な、『行き〳〵てたふれ伏すとも萩の原』。といふ句をよんだ人である。佳い句だから思出したついでに附加へて置く。

◎ カントの生誕二百年祭が方々にある様だ。カントのあの嚴肅な道德的生活や學問三昧の無妻生活を目して、往々變態心理だといふ者がある。

吾々は時々すぐれた理想家を向ふ見ずであるとか、身分知らずであるとか、きじるしであるとか言つて嘲弄する事がある、愼み度い。

◎ 人生はなか〳〵思ふ樣には運ばない、それだからと言つても、いやといふ程現實に囚れて、惰して、行詰つて、なほ苦みらしい苦しみを感じない家畜の樣な人は空想家をも批難し能はざる筈である。まして優秀なる理想家をや。

人間は道伴れを欲するからと言つてもすぐれた人物の陷穽(おとしあな)ほりは見合せ度い。

◎ 「しきしまの大和男の子は火の子なり高き理想に今日も暮しつ」。

春光滿天又滿地。行かう。仲間よ老込む勿れ。

ロングフユロー歌つて曰く、「陣屋における咄の家畜となる勿れ、人生の戰場に於ける英雄たれ」。と

◎ ノートを開いたら次の歌が出て來た、武者小路實篤氏の創作だ。

我は鐵なり
鍛へられるに從つて、我は强くなるべし
我が彈力はますべし、我は鐵なり。
恐るゝことなし、惡魔よ、神よ、
我を鍛へよ、して我のいかに强くなり得るかを試みよ。

◎ 「龍宮の鐘が鳴るなり花ぐもり」。(許六)

春はいゝ。

「降る中にひがん櫻の盛り哉」。(一阿)

「千本が一時に落花する夜もあらん」(子規

櫻はいゝ、散るも佳、滿開も佳、はれによく、雨によい。

◎ 此の間某青年團の選擧革正の宣言書なるものを見た。文字の美は必ずしも道德上の正善を主張するものではない。

凡ての人の總べての場合の心理的善は悉くは倫理的善ではない。かの偉大なるカントも感性との永遠の戰を述べて居る。

成る程、すぐれた一貫の主義に生きる事乃至生きようとする事は難しい。しかしそれだからと言つても黨を組み勢を作りむやみに衆の力をかつて無反省にも正々堂々と御都合勝手な邪惡を振りまはす事、是が所謂「日本人の負けじ魂」かは知らぬが少々心に恥ぢて欲しい。三、四の主義を、七、八

の生活原理を採用するもよい、それが昨非今是であるならば。しかし群集心理で、無責任にも、明に間違つた事を大びらに押通されてはまた以て迷惑千萬である。近頃政談演說も有難くなくなつた、選擧權も忝けなく無くなつた「人格が滅びて政治が殘る」。政治は遠くなつて行く！

◆桑園改良補助要領

長野縣では桑園改良補助を十三年度から爲す事となつてゐるがその奬勵金交付に關する規程細目は次の如くである。

桑園改良奬勵金交付要領

一、桑園改良を奬勵する爲め養蠶組合又は之に準ずる團体に對し毎年度豫算の範圍内に於て奬勵金を交付す

町村農會町村養蠶組合聯合會に於て桑園の改良發達に關する事業を行ふ時は奬勵金を交付す

二、養蠶組合又は之に準ずる團体は養蠶戶數二十戶以上を以て組織したものたるを要す、但し特殊の事情あるものは此限りにあらず

奬勵金は前項の組合又は團体にして左の各號の一に該當する事項を行ふ場合に交付す

イ、桑園改植の計畫を樹て之に要する苗木を養成する爲め苗圃を設置する場合

ロ、桑園改植の計劃を樹て之に要する苗木を購入し改植を實施する場合

ハ、指導桑園を設置したる場合

三、奬勵金は左の割合を以て交付す

イ、苗圃を設置したるものは一反歩に對し五拾圓

ロ、苗木を購入し改植したる者は改植反別一反歩に對し金參圓

ハ、指導桑園を設置したるものは一箇所に對し金五拾圓

四、桑苗圃は一組合若は一團体に於て一團地五畝歩以上とし苗木購入の場合は一組合又は一團体に於て三反歩以上改植したる場合とし指導桑園は一町村一ヶ所一反歩以上とし

五、桑の品種は左の如し

(1)多胡早生、伊達市平、春日、改良早生、十文字、露國野桑、改良鼠返、一の瀨、甲撰、改良魯桑、淸十郎、扶桑丸、福島大葉、利桑、鶴田、嶋の內、飛驒桑、伊那桑、青魯桑、安曇桑、改良四方吹、四方吹、根小屋高助、

(2)鼠返、山中高助、小牧は桑苗の養成にありては大正十三年度及び大正十四年の生産に限り共同購入にありては大正十五年六月末日迄に改植したるものに限る

六、苗木の養成は接木、代出、取木の方法により別記の標準によるものとす

七、桑苗の養成に不適當なる地方の組合にありては同一郡内に委託し苗圃を設置するあとを得

桑苗圃設置標準

一、接木苗の畦間一尺八寸株間四寸とし反當り伏込數一万五千本にして成苗（改植に使用し得る程度に發育せる苗）一万本內外のもの

二、代出苗、畦間一尺八寸株間三寸とし反當伏込數二万本にして成苗一万五千本內外のもの

三、取木苗　反當九百本乃至千四百本內外植付けたる桑園にして一千株內外の親株を得られ伏込條數二万本內外なるものにして成苗一万六千本內外のもの

◆盛會なりし篤農家懇談會

廬田五ヶ村篤農家懇談會は豫定通り去る四月六日西廬田村小學校に於て開催せられた。出席者は篤農家八十五名に本村農事組合長、農區長、養蠶組合長、農會評議員等にして併て百五十名なりき。

先づ午前十時開會を宣し、當日の研究問題たる、「荒癈せる桑園の善處方如何」に就て懇談し別項答申書を議決した、終て縣農會技師渡部氏の農村問題と題する講演あり午後五時閉會せり

答申書

荒癈せる桑園の善處方法は既に論じ盡されたりと雖も實行方法に於ては尙ほ余地ありと認む、其の方法左の如し

村農會に對し

一、苗木の自給

農事小組合養蠶組合等に於て苗木の自給に關し着々其の歩を進めつゝあるも、村農會に於ては尙ほ一層之れが奬勵に力を致し極力督勵して優秀苗を多く生産する樣盡力せられ度事

一、合理的施肥

農家をして自給肥料を增製せしめ金肥の施用を避け同時に合理的施肥の配合方法を指導せられ度きこと。

一、速成桑園

目下の桑園現況に鑑み改植補植等最も適當の處置と雖も經濟上其の他種々の關係に因り其の完全を期するは難きことなり、之れが爲めに年々桑葉を減少し養蠶を少なからしむるは農家の最大痛事にして農會に於ては不足せる桑葉の補給策として、速成桑園の設置を奬勵せられたきこと。

一、專用桑園

桑樹の過度の伐採摘葉は萎縮病を益々蔓延せしむる原因なれば農會に於ては專用桑園を設置し過度の伐採摘葉を避ける樣指導せられ度きこと。

一、優良地の視察

本會の名義を以て他府縣或は他郡の優良地を視察し村農會は之に對し相當補助せられ度きこと。

本縣に對し

一、鼠返を本縣の奬勵品種の中に加入せらるゝ樣請願すること

一、改植桑園に對し一層交附金を增額せらるゝ樣請願すること

一、土壤調査を行ふべく申請すること

一、本縣の奬勵品種の分讓を請願すること

役場より

◆御慶事記念植樹

本村では豫定の記念植樹を去る四月十八日決行しました。場所は大字野倉字女神山で、約五反歩の面積へ落葉松一千五百本を植付けたのです。

林業委員、役場職員の外に村人の力を借りて、美しく植付けられました。何よりいゝ記念だと思ひます。

澤山財産組合でも二十一日に、字澤山の大駄留へ、扁柏千五百本を植栽しました。

◆寫志寄附

本村大字手塚、山下はる氏は亡父（前收入役山下佐宗太氏）の遺言により、小學校基本財産の中へ金四十圓を寄附されました

❸教育召集

來る六月一日より九十日間松本歩兵第五十聯隊へ教育の爲、左記の君は召集せらるゝ事になりました。洵に御苦勞な次第でありまして、御自愛の程をお祈り致します。

補充兵歩兵　奥原信伊君

❹視察團

本村の事業施設や、行政事務視察の爲、近頃他郡より著しく視察團が參りますが四月になつてからは左記三箇所より來場されました。

十二日　諏訪郡北部各村吏員村議十七名

十九日　下伊那郡伊賀良村々長外十四名

廿四日　上水内郡中郷村長外十名

❺秋季清潔檢査施行

本年度の清潔檢査は左記の日割により執行される事になりました。近頃衛生思想の普及に俱なつて、自發的に衛生に心掛ける樣になつた事はお互の爲に慶賀すべき事と思います

期日　四月廿九日　區域　十人　新町

仝　四月三十日　仝　山田　野倉

仝　五月一日　仝　手塚

仝　五月二日　仝　東西　前山

◆總選擧について

衆議院議員の選擧期日は五月十日で、投票場は本村役場であります。

當日は午前七時に投票を開始し、午後六時に閉鎖する事になつて居りますから有權者は日時をお忘れなく、尊き一票を棄權せずに信念ある候補者を議政壇上へ送る事を心掛けて下さい。

選擧に關する注意は近く內務省の印刷物が配布される事になつて居りますから、重ねてこゝには申しませんが、利慾や情實に捉はれないで神聖な選擧たらしめる事が、立憲治下の國民の權利であり、義務であると思ひます。

尙本村の有權者は確定當時は三百五十名でありましたが、死し失權者が五名出來ましたが爲、現在は三百四十五名であります。之を大字別にしますと、

十人　三十三人　東前山　四十五人

西前山　五十八人　手塚　九十五人

●五月ノ納稅

金八百拾參圓貳拾九錢

大正十二年度田租第四期分

金參千九百七拾圓五拾錢

大正十三年度縣稅地租附加稅前半頃分

納稅日　五月二十五日

山田　五十二人　野倉　三十三人

新町　二十九人

◆徵兵檢査合格者

前號に報告して置きました、本村の徵兵檢査は四月二十六日午前七時より郡役所に於て、東塩田、富士山二村と共に執行されました、其の結果壯丁三十一名中左記十四名が甲種に合格致しました。

兵種	抽籤番號	氏名
歩兵	一	小山久士
仝	八	酒井末治
仝	三三	樋口安惠
仝	五四	市村幸一郎
仝	七九	矢澤要吉
仝	二〇	吉池光元
仝	一一一	黒坂喜重
仝	一一九	竹內善吾
仝	一二二	增澤利吉
仝	一四二	小松勝巳
仝	一四四	坂口良
仝	一五三	竹下英
海軍機關兵	三	安藤武治
輜輸	五九	平林俊貞

◆縣稅實地檢査

本縣々稅檢査員相澤技手は四月二十四日二十五日に亘り本村の縣稅營業稅雜種稅の課稅物件に對し實地檢査をされました。役場より、福田書記が出張して、一緒に村內を巡視しましたが、課稅況は倉庫が若干あつたのみでありますが倉庫や畜犬で無屆のものがありましたら、此際屆出して下さい。

◆初めて投票に出る人の爲めに

五月十日は別項記載の通り衆議院議員の總選擧で本村にては役場樓上に投票記載所を設けられ、一人毎に選擧人は、清き一票を投票せらるゝのですが、初めてのお方は、豫め左の各項を御承知ある事がよいと思ひます

(1)投票は成るべく午前中に濟ます方が安心と思ひますがもし午後にせらるゝ方も投票閉鎖時間（午後六時）より遲くも一時間以上前に出來る樣注意方をお勸めします

(2)投票所に到らば先づ受付にかゝり投票記載所の入口（立會人の前）で必づ自分の氏名を述べ選擧人名簿の對照を受け投票用紙を係員より受取るのです、そこで設けられた記載所（筆墨のある机）で投票用紙へ被選擧人一名の氏名を記し投票管理者（村長）の前にある投票函へ入れるのです

(3)万一誤つて用紙を汚損したる時は係員へ申出して引換をする事が出來ます

(4)折角投票しても左に該當する投票は無効となりますから御注意なさい

イ、成規の用紙を用ゐざるもの

ロ、一投票中二人以上を記載したるもの

ハ、被選擧人誰なるや確認し難きもの

ニ、被選擧權なきものゝ氏名を記せしもの

ホ、被選擧人の氏名の外他事を記せしもの

但し官位職業又は敬稱の類は此限に非ず

◎本村投票所の投票立會人

左の四氏は本村投票所の投票立會人に選任せられました

小林留次郎　小宮山節　瀧澤清松　竹下照之助

◆大正十三年度縣稅營業稅雜種稅の課額に左の通り定められた。（八等地）西塩田村

營業稅		
物品販賣業	年稅金三、六〇	
同	四、四〇	
代理業	同	六、三〇
旅人宿業	同	〇、一八
賣藥請賣一方	同	年稅金二、五〇
工業稅		
職工	同	五、〇〇
染物業	同	二、五〇
炭燒業	竈一個	同

雜稅稅	
料理店業	年稅金五、〇〇
同	二、〇〇
飮食店業	同
同	二、七〇
理髮業	同
湯屋業	二、〇〇
演劇稅	日稅
興業稅	六、〇〇
同	四、五〇
遊技場	年稅
演劇場	六、〇〇
同	二五、〇〇
車稅	
人力車	年稅
荷積馬車二輪車	同
四輪車	同
荷積車中車	同
小車	同
水車絲繰釜	一個同
揚枠	一個同
挽臼	一個同
搗臼	一個同
自轉車	同
サイドカー付ハ本稅ノ倍額トス	
自動自轉車	同
家畜稅	
犬一頭ニ付	同
不動產取得稅	價格千分ノ二

三、〇〇	
一一、〇〇	
九、〇〇	
一、六〇	
〇、七〇	
〇、一二	
〇、一二	
〇、七〇	
〇、三〇	
四、〇〇	
一〇、〇〇	
一、五〇	

金庫稅	
高四尺四寸以上	年稅一〇、〇〇
高三尺五寸以上	同 七、〇〇
高二尺九寸以上	同 五、〇〇
高二尺四寸以上	同 三、〇〇
高二尺四寸未滿	同 二、〇〇
但シ高サハ足車ヲ除ク	
遊興稅一回金二圓以上消費額百分ノ五	
觀覽稅一人入場料二〇錢以上一錢	
三〇錢以上百分ノ五	
倉庫稅	
土藏造一坪ニ付年稅一〇錢	
木造一坪ニ付同 六錢	

◆分會記事

四月一日久敷當分會旗手たりし騎上內田文彌氏滿期退職せられ後任歩兵上等兵瀧澤謙氏就職せらる

四月三日帝國在鄉軍人會北信聯合大會を上田市に開催本縣知事祝辭加藤文學博士の聖旨を拜し國體の淵源に遡りて（宗教比較研究）の演說あり、同日帝國在鄉軍人會費を國庫負擔とする事を建議することに決す本村出席者佐藤分會長以下四名

四月廿三日上田招魂社執行同時に上小聯合分會銃劍術競技會あり本村出席選手左の如し歩兵上瀧澤謙氏全樋口岩次郎氏歩一驚原直意氏豫備歩上小林勝氏とす本日各選手奮戰努力により得点八点成績順位上本日優勝旗十二点仝郡浦里村に交附せらる本日出席者本村七人其他軍人遺族及齋藤村長とす

◆優良農會の視察

今回塩田五ヶ村聯合農會では農會主任五名をして優良農會を視察調査せしめることになつた、期日は五月一日頃で場所は國營松本蠶業試驗場、長野縣蠶業試驗場、松本支場、工業試驗場、島立村農會、和田村農會等である。

▼農蠶の礎▼

小縣郡技手櫻詰英夫氏は病て起稿中であつた農蠶の礎を此程脫稿し、希望者に實費頒布すると云ふ、希望者は村農會へ申込まるべしと。（定價金拾錢）

支部通信

◆野倉だより

◆當支部正會員竹内多賀保君は去る三月一日旭川輜重兵第七大隊へ入營せられ以后氣候風土の異る彼の地に於て軍隊教育を受けられつゝありしが在營滿期來る二日目出度歸鄉せらるゝ筈である

◆去る四月十日午後一時より事務所に於て虎眼檢診を執行せしに、受檢者三百八十四人の内患者重輕症計十二人にして昨年より患者五人の減少を見たのは喜ふべき現象である。

◆西前山

◎永い間豫期して居た、甲子大祭もすんだ。舞台とネリを組み立てたのに貳百人からの人夫がかゝつて居る。

◎終つて拾七日此の舞台にて、記念撮影をした。

◎去る拾八日午后舞台の爲に御苦勞して、下すつた大工さん、余興の先生其の他色々と御心配をして戴いた、村の人々を招待して間違もなく又總ての事が豫期以上に出來たと云ふ　本當に嬉しい喜びを分ちながら色々と其の日の事を物語つた。

◎まだ精算はしないが、今度大祭に使ふた青年會の費用も隨分かゝるつもりだの。

◆十人支部

◆支部婦人會では四月七日夜、本村受持巡査池田氏を招待して、衛生に關する講話會を催ふした、當夜は集會所に安置し有る、藥師様の發典であり尙ほ且つ一般人には甘茶を呈したので、聽講者はいつもに數倍し講話も非常に有益で且つ面白かつた終て副會長の選擧有り武田美奈氏當選した。

◆四月八日午前八時より支部員一同で、支部桑園の施肥及び畝田の田耕を行つた

◆我支部の大典記念文庫は農繁期になるに就き廿日夜を以て圖書貸出を中止した、同夜係員の慰勞會を催した

◆當支部では區内三箇所に新聞縱覽所が有着して神事が濟むと。優雅な獅子舞が始まり、それが終ると、獅子を園んで四十余人の花笠を冠つたサヽラ舞の子供が、笛と太鼓に合せて、調子揃へて踊り出した、サヽラを擦る音が少しの乱れもなくザーッ、ザーッと響いて行くので觀衆の感嘆の聲は柏子と共に廣庭の上空を埋めて少時は止むべくもなかつた。

こんなにも好評を博さうとは、夢にも思はれなかつたのに——

◎四月十八日には、おネリの前で、青年婦人兩會員が記念の撮影をした。そしてそのあ日と翌十九日とかかつて、すつかり終つ後片附を濟ました。

十九日には午後三時より關係者一同にて、おまるめをした。集ひしものは八十餘名総てが豫期以上に出來た事、お目出度かつた事等を互ひに嬉びつゝ。和氣と滿足とに包まれて。數十日來の苦勞を心ゆくまで犒ひ合つた。

◎大祭も濟んだ。六十年に一回と云へば、もうこの次の甲子祭に再會するものは、寥々暁の星の如く稀であらう。時の流れと、人生々活の短かさとがしみ〴〵嘆じられる兎に角無事に大祭は濟んだ。

十二日十三日の微雨に、若しや大祭當日が雨だつたら——と、村中の人達が心配したのだつたが、幸ひにして十四日十五日は拾ひ上げた様な好天氣だつたのは、抑〻村民の赤誠が神に通じた象徴だと嬉ばぬものとてはなかつた。

十六日には又雨が降つたのだから——

◎十四日—宵祭りの余興は一切青年會が引受けてしたのであつた。當夜は午後七時から掛舞台で豫定の余興をした、藝技の舞と青年婦人兩會員の劇や踊りが、立錐の余地もなくつめかけた數千の觀衆に心行くまで歡喜を與へ、滿足を味はせた。遙か離れた丘で打揚げる煙火は、六十年に一度の大祭の前夜を無限に華かに中空を飾つた。十二時も過ぎて余興は濟んだ。滿足と興奮とで飯つて行く觀衆を見送つて。自分達も又一ケ月余に亘つての勞苦の酬ひられた事と私かに嬉び合つた。

◎青年婦人兩會が專ら意を致した、小さい子供のサヽラ舞は、大祭當日の最も好評を博したものであつた。嚴肅な行列が宮に到

◆新町支部通信

◎敬老會、去る四月三日、新町支部は婦人會と共に、區公會場に敬老會を開催した。當區高齡者十五名、それに總代、顧問諸氏の列席によつて、一層意味多い慰安デーとなつた。午後の余興に入つてからは、余興を見んものと押寄せた人達が場の内外に充ち滿ちて盛會を極めた。心づくしの壽司や余興に老人も若やいだ氣分になつて大ニコニコ、滿足した顔を見ることが出來たのは何より嬉しいことであつた。

◎甲子大祭助ネリ、四月十五日の鄉社塙野神社甲子大祭に、當區では青年會が委託されて助ネリを出した。中老、子供等も參加して五十名、賑かな假裝ネリは喝采を博した。翌十六日には、ネリの屋台、其の他の附屬品を競賣に附したところ二十余圓に上つた。同日の慰勞宴會は心行くまで歡を盡し、數十日來の勞を慰するに充分であつた

◎松林間代、當區殖産社では、四月上旬、所有の中山の松林の間伐を行ひ、之を競賣した。

◎嬉しい話、當區の山田君は平素から溫厚な人であつた。昨年一月平壤衛戍病院に勤務以來、其の眞面目な勤務ぶりは賞讃されてゐたといふ。今年二月平壤聯隊に服役中の隣村某軍人が大患で同病院に入院した際山田君の篤い看護は近親も及ばない程であつた。某は幸ひに全快した、そして、山田君を再生の恩人として親に知らせた。國もとの兩親の歡びは非常なものであつたわざわざ、山田君の宅へ全快祝をとゞけたといふ。世智辛い世に。聞くも嬉しい話である。

◎御慶事記念植樹、王子神社拜殿の南に、御慶事記念として檜の若木二本が植へられた。先の御即位記念樹と相並んで愈々榮ゆることであらう。

◆東前山支部通信

◎ネリも青年會が出して組み立てた。話にこそ聞いて居たが今度の位に良く見た事は始めてだ、昔の者なればこそ、そうだ昔の者は此の様な者を殘して下すつた、自分達はなにを殘さねばならないであろう。

ネリは昔の金で七拾四圓舞台は七拾三圓かかつて居るそうだ、以てネリがどの位のものであるかわかるであろう。

余興等に支部員の熱心さは、すばらしいものであつた、練習の爲に幾夜も幾夜も別所へ通ふた者もあつた、或ひは村の者に教はる者本當にお祭でなければ誰れにも出來ない事であつた。

舞台とネリを組み立てたのに貳百人からの人夫がかゝつて居る。

◎終つて拾七日此の舞台にて、記念撮影をした。

◎去る拾八日午后舞台の爲に御苦勞して、下すつた大工さん、余興の先生其の他色々と御心配をして戴いた、村の人々を招待して間違もなく又總ての事が豫期以上に出來たと云ふ　本當に嬉しい喜びを分ちながら色々と其の日の事を物語つた。

◎まだ精算はしないが、今度大祭に使ふた青年會の費用も隨分かゝるつもりだの。

◆十人支部

◆支部婦人會では四月七日夜、本村受持巡査池田氏を招待して、衛生に關する講話會を催ふした、當夜は集會所に安置し有る、藥師様の發典であり尙ほ且つ一般人には甘茶を呈したので、聽講者はいつもに數倍し講話も非常に有益で且つ面白かつた終て副會長の選擧有り武田美奈氏當選した。

◆四月八日午前八時より支部員一同で、支部桑園の施肥及び畝田の田耕を行つた

◆我支部の大典記念文庫は農繁期になるに就き廿日夜を以て圖書貸出を中止した、同夜係員の慰勞會を催した

◆當支部では區内三箇所に新聞縱覽所が有着して神事が濟むと。優雅な獅子舞が始まり、それが終ると、獅子を園んで四十余人の花笠を冠つたサヽラ舞の子供が、笛と太鼓に合せて、調子揃へて踊り出した、サヽラを擦る音が少しの乱れもなくザーッ、ザーッと響いて行くので觀衆の感嘆の聲は柏子と共に廣庭の上空を埋めて少時は止むべくもなかつた。

こんなにも好評を博さうとは、夢にも思はれなかつたのに——

◎四月十八日には、おネリの前で、青年婦人兩會員が記念の撮影をした。そしてそのあ日と翌十九日とかかつて、すつかり終つ後片附を濟ました。

十九日には午後三時より關係者一同にて、おまるめをした。集ひしものは八十餘名総てが豫期以上に出來た事、お目出度かつた事等を互ひに嬉びつゝ。和氣と滿足とに包まれて。數十日來の苦勞を心ゆくまで犒ひ合つた。

◎大祭も濟んだ。六十年に一回と云へば、もうこの次の甲子祭に再會するものは、寥々暁の星の如く稀であらう。時の流れと、人生々活の短かさとがしみ〴〵嘆じられる兎に角無事に大祭は濟んだ。

十二日十三日の微雨に、若しや大祭當日が雨だつたら——と、村中の人達が心配したのだつたが、幸ひにして十四日十五日は拾ひ上げた様な好天氣だつたのは、抑〻村民の赤誠が神に通じた象徴だと嬉ばぬものとてはなかつた。

十六日には又雨が降つたのだから——

◎十四日—宵祭りの余興は一切青年會が引受けてしたのであつた。當夜は午後七時から掛舞台で豫定の余興をした、藝技の舞と青年婦人兩會員の劇や踊りが、立錐の余地もなくつめかけた數千の觀衆に心行くまで歡喜を與へ、滿足を味はせた。遙か離れた丘で打揚げる煙火は、六十年に一度の大祭の前夜を無限に華かに中空を飾つた。十二時も過ぎて余興は濟んだ。滿足と興奮とで飯つて行く觀衆を見送つて。自分達も又一ケ月余に亘つての勞苦の酬ひられた事と私かに嬉び合つた。

◎青年婦人兩會が專ら意を致した、小さい子供のサヽラ舞は、大祭當日の最も好評を博したものであつた。嚴肅な行列が宮に到

◆大正拾貳年度新聞縱覽所精算書

◆大正拾貳年度新聞縱覽所精算書

收入ノ部

一金拾八圓九拾錢也　賛成者戸數廿七戸

一金拾七圓六拾貳錢也　右新聞代總額

計金參拾六圓五拾貳錢也

支出ノ部

一金參拾參圓五拾錢也　本年度三新聞代

一金五拾錢也　縱覽所二ケ所謝禮

一金貳拾四錢五厘也　前年度不足受高

計金參拾四圓貳拾四錢五厘也

差引貳圓貳拾七錢五厘也　拾參年度操越

◆大正十三年度職員異同（小學校）

轉任及び退職者

佐藤しゆん氏　東塩田小學校へ轉任

田中爲藏氏　退職

和田益巳氏　退職

堀内平八郎氏　退職

以上

新任者

田中信義氏　上田市小學校より

土屋信氏　上水内郡若槻小學校より

廣田千枝氏　東筑摩郡坂北小學校より

小池茂氏　上田中學校卒業

◆貨物自働車

今回、倉澤喜内氏は米國より貨物自動車を購入し川西貨物自動車商會を組織し貨物運搬を開始した。因に事務所を新町西擴田信用購買組合に面して新築すべく計畫中である。

◆小學校大正十三年度部落別兒童調

（四月十日現在）

	尋一	尋二	尋三	尋四	尋五	尋六	高一	高二	計
東西東	男	六	九	四	五	八	四	九	八	七	五	三	三	六	二	八
東西東	女	四	四	八	六	七	五	二	三	五	八	五	六	八	八	八
西南北	男	一	〇	二	一	一	三	一	二	一	一	二	一	五	二	三
東西東	男	一	一	四	四	二	三	二	四	五	二	二	八	一	四	四
西東西	女	二	四	二	三	二	一	四	四	四	二	〇	一	三	五
手塚	男	二	二	四	三	六	〇	六	二	五	四	三	一	〇	四〇
手塚	女	四	二	一	四	二	二	〇	二	五	一	五	二	二	三	三五
山田	男	一	〇	二	一	一	三	一	二	一	一	二	一	五	二	三五
山田	女	三	一	四	四	二	三	二	四	五	二	二	八	一	四	四
野倉	男	二	四	二	三	二	一	四	四	四	二	〇	一	三	五
倉沢	女	二	二	二	四	三	六	〇	六	二	五	四	三	一	〇	四〇
西前山	男	四	二	一	四	二	二	〇	二	五	一	五	二	二	三	三五
東前山	女	三	三	三	三	四	二	〇	二	〇	四	四	二	三	五
新町	男	二	〇	一	三	四	三	〇	一	〇	〇	五	二	七	〇	二八
町	女	一	五	二	四	四	五	七	三	四	二	三	二	三	二	四七
十人	男	二	二	一	五	〇	二	四	二	二	一	〇	五	二	一	二九
十人	女	一	〇	二	一	〇	〇	〇	四	〇	二	三	〇	二	二	一七
計		三七	三九	四〇	四六	四二	四〇	四六	四九	四五	四四	三七	三五	五五	四五	六〇一

◆病害豫防の桑仕立方

小縣郡技手　橋本英夫

山形縣下に行はるゝ中刈無挙式仕立栽桑法は從來より根刈仕立、中刈仕立、高刈仕立、があるが何れも一時に伐採する爲桑樹の生理を害し萎縮病其他の病害を招く事になるのである。然るに此の中刈無挙式仕立は實に理想的に近い仕立方法である、先ず植栽した第二年目の春期發芽前七芽乃至十芽を殘して其他の枝條は切り捨てる、第三年目の春は枝條の三分の一即ち四芽乃至六芽を殘して發芽前に刈り取り其の三分の二を春蠶に給し殘つた三分の一から發育した桑條は春夏秋通して發育しつゝあるから其れを夏秋繭に給與するのである、第四年目の春も又三分の一を春刈りとし三分の二を春蠶に給與して行く仕立方法にして、前記の方法を繰返して行くのである。これによると夏秋蠶の專用桑園の別に必要なくしかも春夏秋蠶に供用して萎縮病を豫防し得る特長がある。同縣下に於ては現に根刈仕立桑園の六七年目乃至は六年目の桑園を同仕立法に改良して立派の桑園を作る處を余は實見した尚現在の根刈仕立に此の方法を以て改良實行する時は、從來萎縮病多かりし桑園も稍々減少し又同面積桑園の收葉二割以上の增收があると、山形縣蠶業試驗場の古山技師の實地案内を受けて拜見して歸郷せるが、我小縣郡内の目下の栽桑上に實行して見て實驗の上に山形縣の様な利益があるとすれば荒廢せる現桑園は立處に復興する事が出來様と思ふ。

◆甲子大祭雜觀

H Y 生

△當日、ネリの山車を挽くに道の惡い爲に其の苦心は一通りでなかつた。時々ひや〳〵することがあつた。惡道路の悲哀は斯んな際にもしみ〴〵感じさせられた。

△新町のネリに向つて合掌して拜んでゐる老人があつた。屋臺を神輿と思ひ違へたのらしかつた。

△ネリの前驅を横切つた不心得の若者があつた。一度目ならまだしも再度の注意にも耳をかさず、戻れと注意されても平氣で逃げて了つた。明らかにネリの神聖を侮辱してゐる。聞けば近村の某小學校の教員だそうな。斯んな不良性を帶びた奴が教育の任に當つてゐるのかと思へば、あゝ

△之程の大祭に事故も起きず、振舞酒に醉つて喧嘩などを初めてゐるものも見當らなかつたのは一般の德義心の向上とも見ねて結構なことであつた。

◆前年度山田部落補男生水田協同試作の概要(1)

一、苗代場所大字山田字槻の木

面積　約八坪　肥料　下肥二荷

品種　一、畿内早生六八號　二、撓田三、關取　四、一百見出、

浸種　五月五日　苗代掛五月十一日

播種量　坪四合　五月十二日早朝播種

二、本田　場所　大字手塚字横堰下

土質　粘質壤土

面積　二百五十坪

整地　馬耕(約四寸)春耕し

畦返　六月五日

水入　六月十九日午後

代掻　六月廿六日(三鍬掻)

插秧　六月廿八日(三―四本植)

肥料　堆肥約二百廿貫(水入前施)

豐年撒大豆廿貫(水入當日)

燐酸アルミナ十貫(田植當日)

木灰十二貫(一番除草ヲシテ)

一番除草　七月十七日　犧瓜ニテ耕起し

仝日手取

二番除草　八月一日午後　手取

三番除草　八月九日午前　落水シテ塗付

ケヲ行ヒテ三日間乾カシ十一日夕刻ニ至リ灌水

四番除草　八月廿三日午後落水シテ塗付

ケノ儘放置　廿五日灌水

落水　九月十七日溝掘リヲナス

カス

稻刈　十一月九日

稻扱　仝日ミノル式脫穀機ヲ用ヒ肥料ヲ調製（摺臼挽）

收量　二石一斗七升(四俵三斗七升)

小作米納入　十二月廿日

小作料　本田玄米二俵三斗

差引殘リ玄米二俵ト七升

◆甲子大祭より

四月十五日の大祭當日は實に麗らゝかな春日和だつた。

當日は午前九時にはすつかり勢揃ひが出來た。假宮の前での御神事が濟むと、嚴かな調子で行列の順序が讀み上げられた。乘馬の齋藤村長が先驅――續いて威儀容々たる鎗振り、薙刀振りが、威嚴を保つて進む、御輿の後には、可愛いゝ子鼠に曳かれる寶船のおネリが行き、雅びやかなる笛の音に獅子の行列、さゝらの舞子がしづ〳〵と續き、そして新町の賑かな假裝ネリや、手塚の念入りの大黒ネリや、不仁田社の小野道風のおネリ等が各自異色ある趣向を見せて見物人を嬉ませた。

行列に參加せる人員の總數は實に六百余名其の長さは長蛇の如く五丁余に及んだ。午前十時に假宮を發した行例は午後二時、漸く宮に到着した。

大鳥居から、神社の境内へかけて、集まつた人數は約三万と云はれた。その人込の中も嚴肅なる行列の「下に居れ！」の言葉の屆く所は皆脫帽して敬意を表してゐた。

神事が濟むと各ネリの余興が廣庭で行はれた。何れも見物人の喝采の中に無事終了して、榮ある大祭は夕陽と共に目出度濟んだのであつた。

◎大祭の呼物であつた。二尺玉が三發共不成功に終つたのは遺憾な事だつた。煙火を目標に來た者の中には、酷く失望された者もあつた事だらう。だが負傷者が一人もなかつた事は幸であつた

尺玉は七發共成功した。

二尺玉を除いては煙火も又いゝ出來榮だつた。

◎當日の賓客は實に二千余人で、缺席者は極く僅かだつた。接待係は隨分忙しい様だつたが、大勢に來て載けた事は何よりだつたと。みんな大嬉びであた。

◎大祭の記念に四月下旬の日を選んで、社有地へ、扁柏一千本の植付をするさうだ。その植樹には臨時祭典委員五十余名が出動するのだと云ふが。來るべき甲子大祭の頃には見上げる様な良材となつて、最もいゝ記念であると言はれてゐる。

◻祝時報發刊　一清

廣き世の眼鏡に花の明りかな

◻柳の心

苦は樂の種とやなりぬ畑打

◆一つの叫び

竹内生

△私達はなにもかも小さき胸に秘めて默つていたがいいのだろうか。なにもかも胸の扇を押開いて思ふまゝを言つたがいいのだろうかだがつまりは、大きな聲を立てず眞實に自分を凝視めてさい居ればいゝのかそれにしてはあまりいたましい人生じやないだろうか。長い久しい間社會的に。差別待遇を受けつゝ。と言つて今更こんな事言ふのは馬鹿々々しいけれど。因襲の久しきとは言ひこの偏見迷妄より來たこの惡風潮は明治大正の新時代に入つても。他の多くの舊思想と同じく一般社會人の腦裡にこびりついてはなれない。それでゐて。世界列國に向つて。

正義人道の見地から人種無差別を叫ぶなどはあまりに大なる矛盾じやないだろうか、こうした不合理極まる事は。人道上許さるべき事でせうか否々速かに打破すべきである實際私達はもつともつと。自由にならなければならない、解放されなければならない。いつまでも仕方が無い仕方がないと。言つたあきらめを捨てゝお互に個人としての人格を基礎として生活に思想に眞劍なる。努力こそ必要である。今や改造改善は。非常なる勢を以て叫ばれて居る今日水平運動等も要するに、放なき迫害から逃れようと團結して世に訴へ様とするのであつて一度關西に現れるや全國に波及して關東にも起つた。今后各地に起る事であろう而してその叫はさながら惡夢から覺めた人の様にその眼はかがやきその孔みは早いさきに既に現實を凝視めて不合理と缺陷とをみつめた。それを出發点としてして更に高遠雄大なる理想標幟をかかげ。燃ゆるが如き誠意と愷悌とを以て躍進せんとしてゐる必らずや眞劍なる努力あらば愚慢の彼岸に到達する時があらう。

見よ米國の今議會に於て黑人問題は通過したそれに對しての日本は何んと言つて居るか私がこの問題に就いて多くを語らずとも已に諸氏のよく知れるところである米國のこの差別的待遇に對し飽迄反省を促さんとし無禮なる行動に憤慨してゐる。それは當然の事なれども私達は堪へずそうした慘ましい迫害のもとに生活してゐるのだ。だが決して私達は世を恨む譯でもなし生を呪ふ譯でもないが人類愛の上から斷然因襲を捨て溫き心を以て憐れな一部同胞をこのぐん低から救ひ上げ而してお互に歩み寄つて平等と平和の境地を築き上げんことを望む

△和歌

槇の舍　武田正雄

西壕田時雜

異里の友もよろひ待たるらむ之の故郷の文の便りを

指おりて待つ友かきの歩からむ月に一度のたよりなりとは

倉一遠平先生の歡米視察

蠶飼する道のひとりし外つ國のさまはいかにと訪ひかしこき

異國の樣も親しくまのあたり我かくに人にかたりつぐしかな

四月九日井原貞義大人の予が茅屋を訪に給えれば

鄕代なれや雅人うしも山里の戸か伏屋を訪えそ給へる

槇の舍

横ほりにのひ力はなよ竹のふしもうろはぬ身にはあれとも

芳坂勇吉君の金婚式を賀して

萬代も榮ゐむ色そともなり早ふり立てゝ相生の松

出代りや人の人たる義理と情

花に來て見ても柳は柳かな

帆まかせの沖や晨開の日本海

西墟田時報

大正十三年五月廿五日印刷納本
大正十三年六月一日發行
編輯印刷兼發行人　長野縣小縣郡西墟田村大字
　樋口秀實
印刷所　全縣上田市六三六
　山浦活版所
發行所　全縣小縣郡西墟田村
　西墟田青年團

本村内先史時代及び原始時代に於ける
遺物と遺跡に就いて　（其の一）

佐藤知一

昨年と本年と各回一週間宛上田市小縣郡教育會の研究指導の爲めに、斯界の權威者鳥居龍藏博士（帝大敎授）が來られて十一年に先史時代（主として石器）本年に原始時代（主として古墳）とに分けて、先人の遺物と遺跡の實地調査の上種々なる考證があつて、此の方面研究者の爲めには、一段の光明がやゝいた事であらう。其の序に鳥居博士は本村招聘の懇望を容れられ、尙ほ前二回の實地調査中から研究材料に豊かな目星を注けた、西墟田村のことであるからとて、御多忙の御身ながら喜んで來て戴かれた事は眞に幸の至りであつた。

斯の學に少しの素養もなく研究もないホンの素人が此の大した題目のもとに筆を執らんとする事、餘りの無謀僭越大膽さ識者の嗤を免れまい、併し將來斯道研究者の露拂ひにもと試みる譯であるが、其の材料は言ふ迄もなく同博士の前年と本年の講演や、村内各所で實地に就いて話されたものを綜合して而かも抽出した斷片的なものである。讀む人諒せられん事を。

（文責在筆者）

去る五月八日。鳥居博士は親しく吾が西墟田に來られて、皇子神社―王子塚（新町）（五月三日）―小學校附近―王子塚（手塚）―棒名山（古墳）―中禪寺―鹽野神社―前山寺等を中心として、其の附近沿道に至るまで各方面に亘つて深切に調査考證なされた。

皇子神社（十八）

御神寶の一に石器時代の石棒の大形のものが奉祀されてゐる。是は日本全國到る處的の傳説として、傳へられてゐるも殊に土器類は其の種類も多いのである、石玄室（奥室）の有様、等型の通りである。羨道の部分蓋石で三枚許り掘取られて缺損してゐるが、其痕跡は遺つてゐる。

日本の此の種類高塚は英獨佛等北歐に見る其れ（ドルメン）の様に其れ程巨大な石材は使はないが、何もかも進歩した現在から見ても、思ひも寄らぬ巨石を高い所に上平に使用されてゐる、當時是が造營方法は始め奥室側壁を成るたけ長い石材で疊み外部は勿論内部の空虚な部分まで土砂を埋め物理的な斜面理法の應用で、あの巨石蓋石を順次入口から並べ更らに外部に高く土砂を盛つたもので、内部の石垣は蓋石の重さで一層堅牢になる譯である、後に内部の土砂を除き玄室内に石棺を安置して、亡き人を北枕仰向けに屈葬寝かせ、其の周圍に其の人生前使用した器物用具等を收め蓋をして入口を塞んで最後の別離を惜んだのであらう。貴人豪族が欲められた時には高塚の周圍に土偶又は埴輪偶像共の他を埋めた事は能く人の知る所である。

埴輪、器物類等の多く古墳から今も發掘されるは此れが爲めで、古墳が歴史的參考に偉大な資を供するも亦是れが爲である。

死人を葬る様式に種々あるが古墳時代は現在の埋葬に比べたら風葬に當つてゐる、普通は死後一旦假の棺廊に斂めて、高塚の營造後改葬したもの（洗骨葬もある）らしいが生前の裡に間似合はせて置く事もあつた。仁德天皇の御陵は天皇の御生前既に大工事のもとに偉大な前方後圓（瓢塚）が營まれてゐたそうである。

序ながら瓢塚の形式の日本に採られたのは仁德天皇以後推古天皇に到る頃まで〻帝都の中心地に貴族の御陵などに用ひられたのであつたが、其の流行が漸次地方に及んでゐる、併し地方の有力者が是れに倣つたは其れ以後の事であるから、新町王子塚も營造年代としては都に遠い信濃の事であるからズット後の事であらうと博士は言はれてゐた。王子塚（手塚）の古墳附近より彌生式土器祝部式土器、及水晶の球形の飾玉の發掘を見た。（以下次第）

王子塚（新町）（五月三四日調査）

此の王子塚は歴史的の傳説として、傳へられてゐるも殊に土器類は其の種類も多いのである、石玄室（奥室）の有様、等型の通りである。羨道の部分蓋石で三枚許り掘取られて缺損してゐるが、其痕跡は遺つてゐる。

日本の此の種類高塚は英獨佛等北歐に見る其れ（ドルメン）の様に其れ程巨大な石材は使はないが、何もかも進歩した現在から見ても、思ひも寄らぬ巨石を高い所に上平に使用されてゐる、當時是が造營方法は始め奥室側壁を成るたけ長い石材で疊み外部は勿論内部の空虚な部分まで土砂を埋め物理的な斜面理法の應用で、あの巨石蓋石を順次入口から並べ更らに外部に高く土砂を盛つたもので、内部の石垣は蓋石の重さで一層堅牢になる譯である、後に内部の土砂を除き玄室内に石棺を安置して、亡き人を北枕仰向けに屈葬寝かせ、其の周圍に其の人生前使用した器物用具等を收め蓋をして入口を塞んで最後の別離を惜んだのであらう。貴人豪族が欲められた時には高塚の周圍に土偶又は埴輪偶像共の他を埋めた事は能く人の知る所である。

埴輪、器物類等の多く古墳から今も發掘されるは此れが爲めで、古墳が歴史的參考に偉大な資を供するも亦是れが爲である。

死人を葬る様式に種々あるが古墳時代は現在の埋葬に比べたら風葬に當つてゐる、普通は死後一旦假の棺廊に斂めて、高塚の營造後改葬したもの（洗骨葬もある）らしいが生前の裡に間似合はせて置く事もあつた。仁德天皇の御陵は天皇の御生前既に大工事のもとに偉大な前方後圓（瓢塚）が營まれてゐたそうである。

序ながら瓢塚の形式の日本に採られたのは仁德天皇以後推古天皇に到る頃まで〻帝都の中心地に貴族の御陵などに用ひられたのであつたが、其の流行が漸次地方に及んでゐる、併し地方の有力者が是れに倣つたは其れ以後の事であるから、新町王子塚も營造年代としては都に遠い信濃の事であるからズット後の事であらうと博士は言はれてゐた。王子塚（手塚）の古墳附近より彌生式土器祝部式土器、及水晶の球形の飾玉の發掘を見た。（以下次第）

王子塚（手塚）

舊皇子神社境内であつた金井の古墳は本郡等に尤も類の多い物の一つである、特徴と見る可きものも別にないそうである、一般古墳の性質通りに、位置は山麓で開濶に向つて眺望の勝れた高燥な所である、羨道（入口）の向き方、高さ（未だ掘れるとの事）、長さ、蓋石の配列具合、側壁奥壁の疊み方玄室（奥室）の有様、等型の通りである。羨道の部分蓋石で三枚許り掘取られて缺損してゐるが、其痕跡は遺つてゐる。

日本の此の種類高塚は英獨佛等北歐に見る其れ（ドルメン）の様に其れ程巨大な石材は使はないが、何もかも進歩した現在から見ても、思ひも寄らぬ巨石を高い所に上平に使用されてゐる、當時是が造營方法は始め奥室側壁を成るたけ長い石材で疊み外部は勿論内部の空虚な部分まで土砂を埋め物理的な斜面理法の應用で、あの巨石蓋石を順次入口から並べ更らに外部に高く土砂を盛つたもので、内部の石垣は蓋石の重さで一層堅牢になる譯である、後に内部の土砂を除き玄室内に石棺を安置して、亡き人を北枕仰向けに屈葬寝かせ、其の周圍に其の人生前使用した器物用具等を收め蓋をして入口を塞んで最後の別離を惜んだのであらう。貴人豪族が欲められた時には高塚の周圍に土偶又は埴輪偶像共の他を埋めた事は能く人の知る所である。

埴輪、器物類等の多く古墳から今も發掘されるは此れが爲めで、古墳が歴史的參考に偉大な資を供するも亦是れが爲である。

死人を葬る様式に種々あるが古墳時代は現在の埋葬に比べたら風葬に當つてゐる、普通は死後一旦假の棺廊に斂めて、高塚の營造後改葬したもの（洗骨葬もある）らしいが生前の裡に間似合はせて置く事もあつた。仁德天皇の御陵は天皇の御生前既に大工事のもとに偉大な前方後圓（瓢塚）が營まれてゐたそうである。

序ながら瓢塚の形式の日本に採られたのは仁德天皇以後推古天皇に到る頃まで〻帝都の中心地に貴族の御陵などに用ひられたのであつたが、其の流行が漸次地方に及んでゐる、併し地方の有力者が是れに倣つたは其れ以後の事であるから、新町王子塚も營造年代としては都に遠い信濃の事であるからズット後の事であらうと博士は言はれてゐた。王子塚（手塚）の古墳附近より彌生式土器祝部式土器、及水晶の球形の飾玉の發掘を見た。（以下次第）

王子塚（新町）（五月三四日調査）

棒名山（古墳）―中禪寺―鹽野神社―前山寺等を中心として、其の附近沿道に至るまで各方面に亘つて深切に調査考證なされた。

皇子神社（十八）

御神寶の一に石器時代の石棒の大形のものを去る五月八日。鳥居博士は親しく吾が西墟田に來られて、皇子神社―王子塚（新町）（五月三日）―小學校附近―王子塚（手塚）―

（文責在筆者）

片的なものである。讀む人諒せられん事を。

りであつた。

がら喜んで來て戴かれた事は眞に幸の至

のことであるからとて、御多忙の御身な

原始時代（主として古墳）とに分けて、先人の遺物と遺跡の實地調査の上種々なる考證があつて、此の方面研究者の爲めには、一段の光明がやゝいた事であらう。其の序に鳥居博士は本村招聘の懇望を容れられ、尙ほ前二回の實地調査中から研究材料に豊かな目星を注けた、西墟田村のことであるからとて、御多忙の御身ながら喜んで來て戴かれた事は眞に幸の至りであつた。

斯の學に少しの素養もなく研究もないホンの素人が此の大した題目のもとに筆を執らんとする事、餘りの無謀僭越大膽さ識者の嗤を免れまい、併し將來斯道研究者の露拂ひにもと試みる譯であるが、其の材料は言ふ迄もなく同博士の前年と本年の講演や、村内各所で實地に就いて話されたものを綜合して而かも抽出した斷片的なものである。讀む人諒せられん事を。

（文責在筆者）

去る五月八日。鳥居博士は親しく吾が西墟田に來られて、皇子神社―王子塚（新町）（五月三日）―小學校附近―王子塚（手塚）―棒名山（古墳）―中禪寺―鹽野神社―前山寺等を中心として、其の附近沿道に至るまで各方面に亘つて深切に調査考證なされた。

皇子神社（十八）

御神寶の一に石器時代の石棒の大形のもの

一昨年と本年と各回一週間宛上田市小縣郡教育會の研究指導の爲めに、斯界の權威者鳥居龍藏博士（帝大敎授）が來られて十一年に先史時代（主として石器）本年に原始時代（主として古墳）とに分けて、先人の遺物と遺跡の實地調査の上種々なる考證があつて、此の方面研究者の爲めには、一段の光明がやゝいた事であらう。其の序に鳥居博士は本村招聘の懇望を容れられ、尙ほ前二回の實地調査中から研究材料に豊かな目星を注けた、西墟田村のことであるからとて、御多忙の御身ながら喜んで來て戴かれた事は眞に幸の至りであつた。

斯の學に少しの素養もなく研究もないホンの素人が此の大した題目のもとに筆を執らんとする事、餘りの無謀僭越大膽さ識者の嗤を免れまい、併し將來斯道研究者の露拂ひにもと試みる譯であるが、其の材料は言ふ迄もなく同博士の前年と本年の講演や、村内各所で實地に就いて話されたものを綜合して而かも抽出した斷片的なものである。讀む人諒せられん事を。

（文責在筆者）

去る五月八日。鳥居博士は親しく吾が西墟田に來られて、皇子神社―王子塚（新町）（五月三日）―小學校附近―王子塚（手塚）―棒名山（古墳）―中禪寺―鹽野神社―前山寺等を中心として、其の附近沿道に至るまで各方面に亘つて深切に調査考證なされた。

皇子神社（十八）

御神寶の一に石器時代の石棒の大形のもの

一昨年と本年と各回一週間宛上田市小縣郡教育會の研究指導の爲めに、斯界の權威者鳥居龍藏博士（帝大敎授）が來られて十一年に先史時代（主として石器）本年に原始時代（主として古墳）とに分けて、先人の遺物と遺跡の實地調査の上種々なる考證があつて、此の方面研究者の爲めには、一段の光明がやゝいた事であらう。其の序に鳥居博士は本村招聘の懇望を容れられ、尙ほ前二回の實地調査中から研究材料に豊かな目星を注けた、西墟田村のことであるからとて、御多忙の御身ながら喜んで來て戴かれた事は眞に幸の至りであつた。

斯の學に少しの素養もなく研究もないホンの素人が此の大した題目のもとに筆を執らんとする事、餘りの無謀僭越大膽さ識者の嗤を免れまい、併し將來斯道研究者の露拂ひにもと試みる譯であるが、其の材料は言ふ迄もなく同博士の前年と本年の講演や、村内各所で實地に就いて話されたものを綜合して而かも抽出した斷片的なものである。讀む人諒せられん事を。

（文責在筆者）

去る五月八日。鳥居博士は親しく吾が西墟田に來られて、皇子神社―王子塚（新町）（五月三日）―小學校附近―王子塚（手塚）―棒名山（古墳）―中禪寺―鹽野神社―前山寺等を中心として、其の附近沿道に至るまで各方面に亘つて深切に調査考證なされた。

皇子神社（十八）

御神寶の一に石器時代の石棒の大形のもの

一昨年と本年と各回一週間宛上田市小縣郡教育會の研究指導の爲めに、斯界の權威者鳥居龍藏博士（帝大敎授）が來られて十一年に先史時代（主として石器）本年に原始時代（主として古墳）とに分けて、先人の遺物と遺跡の實地調査の上種々なる考證があつて、此の方面研究者の爲めには、一段の光明がやゝいた事であらう。其の序に鳥居博士は本村招聘の懇望を容れられ、尙ほ前二回の實地調査中から研究材料に豊かな目星を注けた、西墟田村のことであるからとて、御多忙の御身ながら喜んで來て戴かれた事は眞に幸の至りであつた。

斯の學に少しの素養もなく研究もないホンの素人が此の大した題目のもとに筆を執らんとする事、餘りの無謀僭越大膽さ識者の嗤を免れまい、併し將來斯道研究者の露拂ひにもと試みる譯であるが、其の材料は言ふ迄もなく同博士の前年と本年の講演や、村内各所で實地に就いて話されたものを綜合して而かも抽出した斷片的なものである。讀む人諒せられん事を。

（文責在筆者）

去る五月八日。鳥居博士は親しく吾が西墟田に來られて、皇子神社―王子塚（新町）（五月三日）―小學校附近―王子塚（手塚）―棒名山（古墳）―中禪寺―鹽野神社―前山寺等を中心として、其の附近沿道に至るまで各方面に亘つて深切に調査考證なされた。

皇子神社（十八）

御神寶の一に石器時代の石棒の大形のもの

役場より

△財産組合視察會

西墟田村外二ヶ村財産組合では恒例に依り五月一日、組合林の視察會を催した。林業委員の案内で組合會議員、役場職員、各大字青年會長、其の他關係名譽職五十余名が、晩春の暖い陽の下に、年と共に伸びて行く扁柏や杉の林を見入つて、互ひに十數年間の苦心と將來の希望とを語り合つた。午後二時視察を了して、野倉公會場に、草鞋を解いた。簡單ではあつたが、わらびの肴で小宴會が催されて夕陽の沈む頃一同散會した。

尚この日、多年組合林の爲に盡力された、土屋文治郎、宮林善三郎兩氏が辭職せられしに依り、其の功勞に報ゆる爲め表彰式を行ひ左記の通り慰勞金を贈呈した。

記

一金貳百五拾圓　土屋文治郎
一金百圓　宮林善三郎

◆六月の納稅

一金四百五十八圓〇五錢　大正十三年度國稅營業稅前半期分
一金貳百四拾四圓八拾參錢　仝年度營業稅附加縣稅前半期分

納稅日　五月二十五日

◆篤志寄附

中墟田村土屋文治郎氏は去る五月二日、本村小學校基本金の中へ金五拾圓寄附された隣村の氏からこの御篤志に預つた事は、感謝に餘りある。

◆村會開會

五月八日午前十時より村會を開いて左記の件を議した

一、大正十三年度歲入出追加更正豫算の件
一、公金預入先決定の件
一、基本財產金繰入の件
一、土地買入の件
一、寄附採納の件
一、縣有林立木特貸出願の件

◆行政視察

本村齋藤村長は小縣郡町村長會の推薦により、浦里、神川の兩村長及び池田郡書記と共に、靜岡、愛知、三重、岐阜、福井、石川富山の諸地方へ行政視察に出掛ける事になつた。日程は五月吉日に上田を出發して、順を追ふて視察し、六月二日歸鄉の豫定である。

◆納稅成績（五月廿五日徹收）

縣稅地租割前半期、田租第四期

優

大字山田　大字手塚　大字野倉　皆納

壹

大字十人　滯納一人此金一四円八二

大字東前山滯納一人此金二一、〇九

貳

大字新町　滯納三人此金一二、三九

參

大字西前山滯納十一人金八七、七四

以上

滯納人員十六人

◆度量衡檢査

第一種取締度量衡檢査は六月二日午前八時より正午迄、手塚公會場に於て執行される正量取引をする上から言つて一般農家も檢査を受けて置く事が肝要だ。

◆土地檢査

五月三十日三十一日の兩日異動地實地檢査の爲上田稅務署員が來村される尚檢査を受くべき異動地は二十三筆で、手塚新町山田野倉に亘つてゐる。

◆福田書記退職

本村役場書記として大正八年以來勤務された福田賢一郎氏は家庭の都合上五月八日限り退職される事となつた。

村では條例の定むる所に依つて慰勞金を贈り尚火鉢一對を贈つて多年の勞苦を稿つた

△墟田五ヶ村農會事務研究會

五月三十日午前九時より富士山村役場に標記事務研究會が開催され郡役所より瀧澤郡書記、井上技師、倉澤技師、郡農會より工藤技手出席された。

會議の內容は墟田五ヶ村聯合農產物品評會の件で本年度の大体方針竝に審査員の推薦各部出品細則等の設定であつて、本年度の部類別及本村審査員は左の通りである。

A部類

第一部稻（多收前年に準ず）
第二部麥蕷（仝右）
第三部桑苗（新設苗代ヨリ審査ス）
第四部副業（前年通り）

B審査員

西澤茂一郎　瀧澤歌之助
小池恭太郎

△和歌

槇の舍主人

❷組ト稼ノ寒ヲシテ
はやしながらくさきにけり
年毎にのこる手もとのさきにけり
❸日澤地蟹泉にこひて
尋ねれば松風のやかた住むらむ
しらで清けきさまいなりけり
湯あみしてうれしきまでにうぐひすの
湯あみしてうれしきまでにうぐひすの
聲より近く河鹿なくなり
河鹿の聲を聞くぞうれしき
❹おそ霜のなりくありければ
遲しものふたゝび三度重ぬ來て
こがひの道も心うきかな

△墟田村會議員選舉

五月三十一日午前九時より墟田村役場に於て墟田村會議員選舉が行はれた。

投票管理者　墟田村長　齋藤重太郎
投票立會人　瀧澤清松
同　小宮山部
同　小林留次郎

投票事務員

西墟田村書記　黑坂勝
仝村　書記　荒井精一
仝村　書記　竹下幸

投票所ニ臨監シタル官吏左ノ如シ

小縣郡書記　白石喜太郎
小縣郡書記　久保藤一

選舉人名簿ニ登載セラレタル者ノ總數參百三百五十人投票シタル選舉人ノ總數參百十八人

投票管理者ハ此ノ投票錄ヲ作リ之ヲ朗讀シタル上投票立會人ト共ニ玆ニ署名ス

大正十三年五月十日

投票管理者
墟田村長　齋藤重太郎
投票立會人　竹下照之助
同　瀧澤清松
同　小宮山部
同　小林留次郎

投票ニ關スル訴訟ハ選舉ノ日ヨリ二十日以內ニ縣參事會ニ提起スルコトヲ得

投票ノ效力

△小學校身体檢査狀況

四月の末、兒童身体檢査が終りました。体格一般について、表はれた表から見ると縣下の平均より良好なる年齢の兒童は、

一、身長
　男子〈七年　九年　十年
　女子〈七年　八年　十年
　　十一年　十三年　十四年

二、体重
　男子〈七年　九年　十年
　　十一年　十三年
　女子〈八年　九年　十年
　　十四年

三、胸圍
　男子　七年　十年　十一年
　女子〈七年　八年　九年
　　十一年　十二年　十三年
　　十四年

以上の表から見ると、本村の兒童の体格が以前、心配された程のものでなく、却つて良好なる位置にありはしないかと思はれます、殊に　本年度壯丁檢査の成績の極めて、好成績なるを考へて見ても、將來此美しい山河に育まるゝ兒童が有望なる体格をもたるゝことができるだらうと思はれます學校としても、此方面には、できるだけの注意をもつて進まうと思います。

◇兒童數男女別に表はるゝ奇現象

一學校の兒童は凡そ男女數が等しいが又は男子の方が少し多いのが普通です、女子が男子より　多いのは　ごく　めづらしいですが　本村の兒童を調べて見ると、全たく　他には見られぬ現象があります、大正四年以前は　男子が女子より多いこと十五名より　三十九名でありましたのが　大正五年からは全たく　反對になつてきて居ります（勿論尋常六年迄の調べです）之れを表にかきますと、左の如くです。

	男子	女子	差
大正五年	二一四	二一二	八
六年	二一五	二二四	九
七年	二一二	二三五	二三
八年	二一三	二四三	三〇
九年	二一五	二五六	四一
十年	二二四	二六八	四四
十二年	二二六	二七七	五一
十一年	二二二	二六四	四二
十三年	二三四	二六九	三五

即はち　男子の數は増すことが殆んどないのに　女子は年々　増してきました、昨年五十一名の差となつたことは、他にはないめづらしいことです、だから、何れの學年も、女子が多かつたんです、處が本年度入學された、兒童は、男子が、四名多くなつてきましたため、差引、三十一名となりました、そして本年度の入學兒童の体格は縣下の平均より、皆よい成績に表はれてゐます

△御禮までに

先日の衆議院議員總選擧に際し、私達は深井功氏の立候補を聞きその經歷に於て人格識見に於て卷徹せる現今の農村を救ひ過渡期に立つ現代生活上の諸問題を解決する理想的人物として會員一致して推薦致しました。

幸ひに村内一般の皆様から早速御諒解と御贊成とを得陰に陽に厚い御援助を賜りました事は私達一同深く深く御禮申し上げる次第でございます。

私達が選擧に關係しましたのは今回が最初でございます。いろ〳〵御意見もありませうが不偏不黨の態度を以て理想の人物を推薦し活動することは決して青年の恥づべき行爲でないのみならず、これが普通選擧に到る第一歩でなければならぬと存じます。今回理想選擧を以つて押し通し而も當選の榮譽を擔ひましたことは深井氏の欣びは申すに及ばず私達も真心から感喜に堪へないのであります。

これも畢竟するに皆様の御自覺に據るものと國家の爲に光明を感せずには居られません、私達は飽くまで今日の態度を以て進み少なくとも混濁せる今日の選擧界を革正する爲には努力を惜しまない決心であります、厚く御禮を申上げると共に今後とも皆様の御後援を御願して止まない次第でございます。

各位　西蘆田青年團

支部通信

△新町支部

◆烏居博士調査。五月三日午前九時、内務省屬考古學者、鳥居文學博士が古蹟調査の爲に來られ、氷上王子神社を調査された。博士は紋付袴駒下駄といふ村夫子然たる扮裝で、極めて親しみ易い態度で小雨の中をあちこち奔走して詳細に調べられた結果、興味ある新らしい事實が示された。

塚の形が瓢形であるのは、千年以上を經た古いものであるといふ。神社の南に在る祥雲寺堂内の佛像が藥師如來の像であると言はれてゐたのが博士の鑑定によつて、觀音像があるとのことである。此の外の木像も朽ちた様になつて形が判然してゐないが可成古いものであるといふ。此の日塚の附近から埴輪の破片が發見された。亦、以前に此の近傍の畑から曲玉管玉を掘出した人もあつて此の日博士の鑑定を求めた。之等の事實を綜合して考へると、往古、此の邊には高貴の人が住んでゐたらしく、それに伴つて玉造りが居たとも考へられると言ふ。此の土地は上田平に續いて箕の形になつてゐて、京都の地形によく似てゐる。斯う言ふよい地形であるによつて、往古既に由ある人が住居を定め、從つて住民も多く此處に集まり、早く拓けたであらうとの話であつた。博士は參考の爲に寫眞も撮られた。尚、小學校からもアイヌ人の使つたといふ土器其の他數点を出して博士の鑑定を求めた。當日は村長以下役場員、小學校長、隣村小學校長諸氏も參例した。

△手塚支部通信

◆大字手塚臨時總會、五月二日午前九時から公會堂に於て、大字手塚臨時總會を開き、曩に辭職された正總代山極牛太郎氏の補缺選擧を行つた結果副總代桶口一氏が當選し、直に就任した。從て副總代が欠兎となつた爲續いて其の選擧會が開かれ、山極乾氏が當選就任した。

青年會では此の總會を好機として、曩に建議して協議員會の振り潰しに遇つた問題を、再び建議した所、協議の結果研究問題として、次會迄保留延期のことに決定した

◆記念祭、第一部消防組では、恒例により五月三日記念祭を執行した。午前十一時鎭守へ參拜、例によれば、舌喰池の提でポンプを操縦するのであるが、相憎雨天の爲是を中止した。若い人達は張合のない様な顔付をして居た、無理もない話だ。

午后一時、既に村會に於て採納決議になつて居た、明治二十二年購入の獨乙式第六號四輪車ポンプの告別式を事務所の庭で擧行した。購入以來幾多の火災に出動し、常に部員と共力して、人畜の生命、財産を拔助したことは枚擧に遑なく、實に名譽あるポンプである。終つて宴會に移り、村長、消防組頭、總代、退職者各位の列席を得て、盛會を極めた。

◆養蠶組合、樋之口、金井紺屋村、久保、堰口の四組合（手塚に於ける總て）は、お互に時間や、勞力や、費用を節約する爲に、春蠶種の共同催青を行つた。其の取扱戶數百十七戶、枚數、七百四十枚である。

△十人文部

◆我國考古學界の泰斗烏居龍藏博士は、五月八日當大字の村社皇子社に於て神宮氏子總代立會のもとに御神寶を拜觀された。尚其他古器物等の鑑定をされて記念の植樹をされた。

◆降霜　氣候不順なりし今年は、早くから降霜を懸念されてゐたが、去る五月十日より同二十日迄に六回の降霜あり、最も甚だしきは五月十三日にして全桑園青桑無く黑變したものもあつた。しかし全般を通じては約四割位の被害であらう。養蠶家は桑桑を抱て前途を憂慮して居る。

△西前山支部

◆今年の春蠶も五月拾四五日頃、大体の掃立は終つたが、當區なぞは、例の萎縮病の爲に昨年に比しざんなに大目に見ても。二割位は減じて居るだろうと、一般の豫想だ昨年は約二千六百九拾五貫の收護があつたが。今年も幸に昨年の様に上結果に行くものと見ても、五百參拾九貫の減を來し其處へ拾圓位にしか賣れないすれば、昨年の拾貳圓に比し、約壹萬圓の不足を生ずるわけだ。

大祭で御互の財布が疲れて居るのに、さて困つた事だ。幸に霜の害を逃れた事は不幸中の幸だつたが。今年は氣候も例年に比し乾燥して居る關係か、蠶も少しは耳にする、掃立てた蠶は上結果に行く様に、充分の注意をはらつて行きたい。

◆家畜の中で一番得のする計算のものは、兎だぞうだ。なにしろ食物は草でいゝんだし子供はうんと生むし。煙草の空箱位でも三ツや四ッはなんでもない。そうして草をほおり込んで置けばいいんだし、盛んに兎の得である事を考へて、うんと飼ふのだやつて居る人が自分達部落にある。そうして其の人の言葉に、養兎組合を組織して、一度に百頭でも二百頭でも市場へ出すんだそうだ。

先ず今年は自分が研究的に飼ふて見るとて兎の研究にはげんで居る。

編輯室より

◎今號には原稿の集りがほんとに少なかつた。從つて思はしい編輯が出來なかつたのは獨り編輯員の責任のみではない。

◎佐藤氏の「遺物と遺跡について」は十八枚に亘る長いものであつたが爲に二分して次號にのせる事にした。

◎鄕土研究の爲に嬉ばずに居られない。

◎蠶もそろ〳〵五齢期に入る、お互ひにウンと働いて見やう。

◎田植の暇にでも原稿澤山書いて貰ひたい。

（次號毎月十五日）

實生苗養成の注意

長野縣農會技師　新井健作

（イ）、種子　種子は可成發芽率に依るを可とす氣候風土の關係上早播を良とするを以て高知縣等の温地に於ける確實なる生産者に付擇約購入をなし、可成早播をなすに努むること肝要なり。

（ロ）、種子の良否鑑別　種子の良否鑑別は其種子固有の形狀色澤を有し大小不同なく齊一にして、重量一升二百匁内外のものを良とし、其重量著しく輕きもの或は色澤濁厚にして光澤なきものは良好ならず尚種子に付發芽ㇾ合調査の要あり。

（ハ）、苗圃　苗圃は日常風通し良き地を選ぶこと、土質は砂質壤土、若しくは壤土にして腐植質に富み、排水可良なるを可とす、砂地は根の發育良きも適當なる水利なければ乾燥に失する憂あり、又砧土地は乾燥すれば硬結して龜裂を生じ根の發育を害するが故に砂土又は粘土の極端なるものは客地法により土質を改良し、有機質肥料を充分に施すの要あり。

（ニ）、苗圃の整地　蒔代は普通五、六寸の深さに耕起し、土塊を碎き坪播にありては巾三尺内外の短冊形の畦を作り、畦と畦との間に巾一尺の通路を設け畦の周圍を三、四寸低く整地を行ひ、又條播にありては平耕して稍や整地を行ひ可成南北に向け一尺八寸つゝの間隔を置き五寸巾に二寸高の畦を作り蒔代を平垣ならしむ。

（ホ）、基肥　苗圃整地の際坪播にありては畦作り後、條播ありては畦作り前に於て一坪に付完熟せる堆肥二貫目に大豆粕二百匁を可成細末とし之に適宜木炭を混じ土壤に混和せしむ

尚整地後蒔代に對しては、播種の數日前數倍に稀釋したる腐熱人糞尿若干量或は菜種子粕の細末を坪當二、三十匁を施し置き人糞尿なれば乾く〳〵を待て土塊を叮嚀に紛碎し蒔代を極めて平坦ならしめ此處に播下す。

（ヘ）、播種　坪播は蒔代全面一樣に種子を播く法にして、多數の苗木を得らるゝも作業の不便竝に日光、温度、養分の不平等なる爲め發育不齊の欠点あり、之に反し條播は、播條を定めて種子を播下するを以て、苗木を得ること少なきも手入に便なると共に各苗木の發育齊一良好なるの利あり、播種量は種子の良否により斟酌を要するも確實なる種子なれば蒔代十坪に付五、六勺位とす

但し前年採種のものは發芽歩合減するを以て約五割增を適度とす若し密植に過ぐれば、間引の手數多きと苗の發育不良を來すを以て播種に當りては種子を疎密なく一樣に撒布すること肝要なり、普通便宜上四、五倍容の砂を混じて播下するを可とす播種を終れば篩を以て細土を厚薄なく一樣にかけ、更に全面に籾糠又は一寸位の切藁を撒布し、土塊の乾燥及び大雨の害に備ふべし

但播種後に於て鳥害の憂ある所は之が適當なる豫防を講ずること

（ト）、苗圃の管理　種子の發芽して子葉の開くのは播種後一週間前後なるも土壤の乾燥せるときは遲延を免れず、殊に過乾なるときは往々枯死することあり、故に乾燥の張合は適宜灌水を怠る可からず、此場合浸潤法に依り苗床の周圍に流水を注入するを便となすも、水利の便なきときは注水法により如露、柄杓等を以て上より水を灌注するを良とす。

之に用ゆる水は冷たき井水を避け流水を選ひ尚日中を避けて朝夕行ぶを可とす此法は一度始むるときは、降雨期迄連日續行するを可とす、苗圃の除草は降雨前又は細雨の際に於て、時々行ふを良とす。

苗の間引は二三葉を開舒したる頃より始め、數回に亘り九月頃迄に各苗の距離坪播にありては四、五寸條播にありては二三寸となす可し而して間引を行ひたる後は汚水若しくは腐熟せる人糞尿の稀薄液を施すを可とす。

斯して生産せる苗木數は反當坪播にありては五、六萬本、條播にありては四、五萬を得るものとす。

△海上より

横須賀　小林長命

拜啓　春も名殘惜しげに行かんとし、若葉も段々綠色に今日此頃は梢より初蟬の聞ゆる時節に相成り申候、御員御一同樣には定めし御壯健にて農事に奮勵の御事に遠察仕り候、不肖愚兵事住み馴れし軍艦春日を本月三日退艦し横須賀海兵團に假入團致し申候、此度海軍砲術學校普通科練習生に採用せられ十七日入校致し候間他事ながら御放心下され度候

時節柄御自愛專一に益々御奮闘の程を祈上草々

△御禮

高出にて　伊藤永吾

謹啓　每月時報を御送り下されまして有難く御禮申上ます。

私は四月一日より向ふ六ヶ月間、馬術蹄鐵術修業兵として分遣を命ぜられました。今は每日馬術作業をして居ります。

先は御禮旁々御報迄　早々不一

△前年度山田部落補男生水田協同試作の概要（二）

三、試作耕種所要勞働人夫

苗代　全部デ一人。

本田　畦返シ二人。堆肥運ビ一人二分

水入レ二人一分。施肥　二分。

田植　五人。一番除草二人七分

施肥（木灰）二分。二番除草一人

三番除草三人六分。

四番除草二人四分雀追一人五分

稻刈及稻扱　十二人

摺臼挽　三人五分

小作米納入（野倉迄）一人二分

計三十九人六分

四、收支計算

◇收入部

金一四圓七〇錢　生徒十二名出資金總額

金　五錢　稻穗屑若干賣却

金　一圓五〇錢　藁賣却

金　二〇錢　シイナ二貫五百目賣却

金二八圓〇〇錢　玄米一駄賣却

金　一圓八〇錢　玄米アラモト七升賣却

合計金四六圓二五錢也

◇支出部

金一〇圓五〇錢　本田肥料代

金二圓〇〇錢　本田代掻代

金一圓五〇錢　仝　馬耕代

金　六〇錢　豆粕二燐酸一ノ運賃

金　一〇錢　稻扱當日車ノ借賃

金二四圓七〇錢　出資金返濟

金　一圓〇〇錢　空俵五俵代

金　九〇錢　苗代田小作料

金　一六錢　雀逃ノ火藥代

合計金三一圓四五錢也

差引益金一四圓七九錢也

一人一日ノ平均日當三七錢三厘ノ割合

五、益金處分方法

一金九圓八十九錢五厘也

生徒十二名家業の傍、順次眞面目に熱心に働いたので、其の日當一報酬—として汗の滴つた尊い金、有意義に使つて貰ふといふ約束で、出勤日數に割り當て分配す。

一金四圓八十九圓錢五厘也

大正十三年一月九日午後山山區公會場に於て、共同實習の事業報告に併せて茶話會を催し勞を犒ふ費用に充つ。

（以上）

全國青年團民謠　空は青雲

北原白秋作謠

曲山田耕作作曲

1、空は青雲、わしらは若い
岩に子鷹の仰ぐよだ
さうだ〳〵、巢立ちの若鷹だ
いまに風切る鷹の羽だ

2、海ははばたく、わしらは若い
波にヨットの搖れるよだ
さうだ〳〵、南の風待だ
いまに乘り越す波の穗だ

3、古い國柄、わしらは若い
山と川とは搖籠だ
さうだ〳〵、生れの生へぬきだ
いまにお國の後繼だ

4、時はよい秋、わしらは若い
若い日本の起つ秋だ
さうだ〳〵、世界のしののめだ
いまにかがやく朝燒だ

5、何が辛からわしらは若い
心だてなら玉のよだ
さうだ〳〵、鋼鐵のひびくよだ
地から噴き出す眞淸水だ

6、伸びら耐へろ、わしらは若い
いづれ柱になる木だ
そうだ〳〵、見てゐろ、これからだ
いまに本國を背負ふ木だ

長野縣小縣郡

土地戶口其他

土地

| | | |

西鹽田村一覽表

大正十三年四月調

教育

教員

		計	本正教員	尋正教員	准教員	專用代用
人員	男	六	三	一	一	一
	女	一				
俸給最高	男	三〇	四五	七〇		
	女					
俸給最低	男	五〇	四五	四〇		
	女					
俸給平均	男	七四円一五	四五	五五円三三		
	女					

教育費

		計	小學校經常費
經常費	十二年度	一七、〇九五円	一四、六八五円
	十三年度	一六、二六八	一三、六四三
臨時費		三〇〇	
計		一七、三九五	一四、六八五円
十年度		一、三一四	一、二三三

大正十三年度

義務額超過月額		六一六円
經常費總額ニ對スル	經常小學校兒童一人當	二九、二〇三圓
經常費ニ對スル	市町村費ニ對スル小學校補助費	六一円七二
市町村費ニ對スル小學校補助費		四四、〇八%

其ノ他學校

		計	教員生徒	卒業者	經費
校數		八	五	一	一
教員	男	一〇四	一〇七	二	一
	女				
生徒	男	二八	二八	一	二、一〇六円
	女				一円七六五圓

青年團

名	會員數	基本財産
西鹽田青年團	二五三	五〇円
西鹽田婦人同志會	三〇七	四五〇
等	四八	三八四

圖書館

私立	一	一、六五七

年間ノ經費

事業大要	講演習會村報發刊体育	五五八圓
	講習話會敬老會	一三
	喫煙ノ弊風ヲ矯メ每月貯金ス	二五

館數

圖書數		二、三五〇
閱覽人員		一、三四
經費		青年團經營
備考		

勸業

生產物

		總價額	農產工產林產畜產水產鑛產
十二年		七三七、一三六円	
十一年		六四四、三〇〇	五九一、一五円
十年		四〇〇、五三四	五〇六、一〇〇
總價額		二六二、六四〇	二六二、六四〇

主要農產物

種類	作付反別	收穫高	價額	反當收穫高
粳米	一、四一五	三、五二八石	一〇七、九〇九円	二五〇〇合
糯米	三八	五二五	一、七二九	二三〇〇
大麥	五〇一	一、一二五	九、一一三	二四〇〇
小麥	一三六	二〇一	二、四一二	一四〇〇
大豆	一二五	一八	三、九二〇	一一〇〇
小豆	四三	四〇	一、〇〇〇	九五〇

農家戸數

自作		三、三六六
自作兼小作		四四七円
小作		八〇〇
計		四、一六六
農事小組合	組合數	六八三
	組合員數	二四
養蠶組合		八二六
計		三三五

主要工產物

種類	器械糸	座繰糸	玉糸	酒
工場數	一			
製造高	九二五瓦	二八	三五	二一〇石
價格	一、八二〇円	三、八〇〇	四、〇五〇	一、九八〇
職工男	三	一	一	一
職工女	四二			三
職工計	四五	一	一	三

養蠶

		飼養戸數	掃立枚數	收繭量	價額	蠶種一枚當
春蠶		五〇七	五、〇八六	二、三七一貫	二九、八八〇円	三、二〇〇匁
夏秋蠶		四一〇五	一、八六〇	三六、四五二圓	一九三、二三四	四、二〇〇匁
計		五一七	五、八〇六	二、三七一貫	二九、八八〇円	三、八〇〇
桑園	見積反別	二七四〇				
	製造戸數	二一、九五	普通蠶種枚數	一七、九七七円	普通蠶種價額	三〇四
	計	二七四九			原蠶種枚數	六〇八円
					原蠶種價額	一八五八五円
					價額計	

政

歲入歲出

歲入	土地	建物	立木	公債株券	現金	其他	計
基本財産價額	三、二九八円	三、二六〇圓	一〇、〇〇〇圓	二〇〇圓	一九、六四二圓		一七四、四一〇圓

歲入	交付金	補助金	寄附金	繰越金	計
	七六五	四七	三四〇	一、二〇九	三五、九六二

歲出	教育費	衛生費	勸業費	警備費	其他	計
	一七、五二〇	七九	三〇	三九	三五、九六二	

歲入	國庫下渡金	繰入金	其ノ他	計
	二、〇三〇	七八〇	一、四二	三五、九六二

歲出	公債費	寄附及補助費	其他	計
	一、三五	一九	一、三五八	三五、九六二

役場現品

	計
	一七四、四一〇圓

擔稅人員

	計
	一、七二五

兵事及衛生

壯丁及軍人會

檢查人員	合格者	甲	一乙	二乙	計
		三一	一八	二	九
	不合格者	丙	丁	戊	計
		二	一		二
軍人分會	會員總數	二六五	三七二圓		
	一ケ年經費	二六、一	一二圓		

衛生

		醫師	藥劑師	產婆	看護婦	種合德生組合長	仝上副長	仝上顧問	衛生組合數	仝上組長	仝上副長
		三	一	二	二	一	七	二	三五	三五	三五

受檢人員

		重症甲	重症乙	輕症甲	輕症乙	疑似症甲	疑似症乙	檢診百中患者一ケ年輕費
トラホーム		二、五六五	一	二	三四	二三	五	三	二六、一	一二圓

病名

患者	治癒	死亡	患者一人ニ對スル傳染病豫防費
	二	三	五	三	二六、一	一二圓

傳染病

	隔離病舍及傳染病
	市町村立 町村組合
	病舍病院 病床 病舍病院 病床

交通

道路

		國道	縣道	市町村道	計
		三一二丁	四八里	四九里	電車

通信

		郵便局所	電信電話	船	牛馬車	人力車	荷車	小船	自轉車	自動車
集配	有集配									
	無集配									
賣捌所			手電							
取扱所										
取扱所					乘車荷用				普通自動車	乘用荷用
車		五								
七										
三										
小計		一二六								
中		一七四								

摘要

一戸又ハ一人當

稅一戸當

		計	戸數割附加稅	一戸	一人
直接國稅		三、一六四円			
縣稅		三、七三	二六、九一	五、五二	
市町村稅		三、四八			
計		六七、三七			

經費一戸當

		市町村費總計	三六、二三〇円
役場費		五、九八圓	
教育費		五、七二	
衛生費		二五	
土木費		六、九六	
其他		一五、九二	

生產物總價

		一戸當	一、〇二一円	八九九円	五六二円
額	一戸當	米收穫高一人當	一、一七二合	一、三〇〇合	一、八五合
麥收穫高一人當			四七三	四一〇	二九五
田			二、六〇〇歩	二、三二九歩	三、三二九歩
畑			四、九〇〇	五、三二五	五、三二五
養蠶家一戸當收繭			八〇貫	八六貫	七一貫

養蠶家一戸ニ付桑園反別

		五、三〇五歩	四、六〇〇歩	四、五〇〇歩
金肥消費農家一戸當		九〇、〇〇〇錢	八二、〇〇〇錢	八五、〇〇〇錢
醫師一人ニ付人口		一、二五五	一、一八二	一、二〇〇
產婆一人ニ付戸數		一、八九五	一、七三二	一、七三二

貯金

		一戸當	一七、〇二一錢	一二六、七〇錢	九八、三二錢
	一人當		三二、二八	二六、三二	二〇、二九

備考

◆西壗田村

村長　齋藤重太郎
助役　竹下繁松
收入役　樋口寄位
書記　福田賢一郎
書記　黒坂勝
全　荒井精一
全　竹下幸
學務委員　六川靜治
全　箱田梅作
全　佐藤清五郎
全　黒坂重市郎
全　宮澤友一
衛生委員　小林留治郎
土木委員　保科由太郎
全　瀧澤重
全　瀧澤賢輔
林業委員　春原義勇
全　樋口勘藏
全　樋口左近
全　小林丈助
全　竹内平十
縣有林巡視員　小林丈助
全　春原義勇
全　樋口左近
大字總代　竹内平十
十人　佐藤三郎
全　手塚山極平太郎
全　新町小林丈助
全　山田竹下照之助
全　野倉曾根正一
村會議員　武田正雄
全　黒坂重市郎
全　宮澤友一
全　佐藤清五郎
全　倉澤喜内
全　齋藤廣次
全　市村藤作
全　宮澤八十八
全　樋口勘藏
全　小宮山節
全　小山清
全　竹下勝
全　竹下友三郎
全　荒井邦一
全　池良平
土地調査員　佐藤三郎
全　瀧澤定己
全　鷲原義男
全　吉澤廣次
全　宮澤兵部
全　金澤欣次郎
全　齋藤清人
全　樋口勇
全　山極博人
全　福田賢一郎
全　倉坂藤衛幸
全　瀧澤賢輔
全　竹下精一
全　荒井勘藏
全　内田文彌

◆西壗田村小學校

校長兼訓導　六川靜治
訓導　石森郁太
全　佐藤知
全　今井謙郎
全　田中信義
全　土屋信
全　齋藤夏花
全　小池かたる
全　鈴木千枝
全　若林理雄
全　清水誠一郎
全　青木信一
專正　小島正
代用　瀧澤勇
全　小山久士
全　小池茂
實補助教諭　池田基寬
專正　町田菊子
學校醫　和力平吉

◆西壗田村農會

會長　齋藤重太郎
農會惣代　坂口辰十
全　平林祐藏
全　小林乙作
全　山極國時
全　吉池作平
全　竹内巳代治
全　市村弘
全　宮澤友一
農區長　佐藤三郎
全　春原義勇
全　宮澤熊市
全　樋口一
全　小林丈助
全　竹内榮吉郎
全　竹下喜學
全　宮澤八十八
全　竹内豊次郎
全　竹下照之助
全　曾根正一
全　池田英五郎
監事　佐藤清五郎
全　齋藤市太郎
全　黒坂重市郎
全　小林丈助
全　瀧澤清吉
全　瀧澤清松
全　池田文治
事務員　宮澤喜熊
全　金澤直人
全　保科よしの
全　齋藤卓
農事組合長　佐藤捨次郎
全　齋藤洋爾
全　武田市左工門
全　佐藤倉太郎
全　竹内孫市
全　竹内豊次郎
全　黒坂直右工門
全　小出俊雄
全　池田繁雄
全　大庭宇次郎
全　鷲原廣平
全　安藤幸
全　腰田内匠
全　小松長次郎
全　瀧澤清吉
全　宮澤八十八
全　曲屋改正
全　黒坂幾三郎
全　白倉吉三郎
全　小山文太郎
全　市村弘
全　金澤欣治郎
全　山極乾
全　樋口勘藏
全　吉野茂七
全　齋藤東一郎
全　柳澤喜已治
全　宮澤友一
全　瀧澤清吉
全　宮澤八十八
全　小松長次郎
全　腰田内匠
全　安藤幸
全　鷲原廣平
全　大庭宇次郎
全　池田繁雄
全　小出俊雄
全　黒坂直右工門
全　竹内豊次郎
全　竹内孫市
全　武田市左工門
全　齋藤洋爾
全　佐藤捨次郎
全　竹内榮吉郎
全　竹下喜學
全　宮澤八十八
全　小林丈助
全　樋口一
全　宮澤友一
全　佐藤三郎
全　春原義勇
全　宮澤熊市
全　樋口一
全　小宮山節
全　武田正雄
全　市村弘
全　宮澤八十八
全　竹下亥地人
全　和方平吉
評議員　市村弘
全　黒坂哲太郎
全　竹内善治
全　瀧澤伴一郎
全　小林留次郎
全　福田庄一郎
全　瀧澤榮作
全　宮澤友一
全　春原種儀
全　竹下亥地人
全　黒坂哲太郎
全　東川喜茂
全　曾根正一
全　池田英五郎
監事　佐藤清五郎
全　齋藤市太郎
全　黒坂重市郎
全　小林丈助
全　瀧澤清松
全　瀧澤清吉
全　池田文治
事務員　宮澤喜熊
全　金澤直人
全　保科よしの
全　齋藤卓
全　野倉宍平
全　重田明
全　日向山極一
全　加羅利曾根茂雄
全　南吉池源一
全　宮上池田英五郎
全　新田竹内榮吉郎

◆西壗田信用購買組合

組合長理事　齋藤重太郎
專務理事　箱田梅作
理事　佐藤三郎
全　武田正雄
全　小宮山節
全　春原種儀
全　竹下亥地人
評議員　市村弘
全　黒坂哲太郎
全　竹内善治
全　瀧澤伴一郎
全　西澤八郎
全　竹下亥地人
全　東川喜茂
全　曾根正一
全　池田英五郎
監事　佐藤清五郎
全　齋藤市太郎
全　黒坂重市郎
全　小林丈助
全　瀧澤清松
全　瀧澤清吉
全　池田文治
事務員　宮澤喜熊
全　金澤直人
全　保科よしの
全　齋藤卓

◆西壗田消防組

組頭　齋藤勇
全代理　樋口寄位
一部長　小池恭太郎
二部長　東川近太郎
三部長　池田英五郎
四部長　若林貞夫
五部長　福田正雄
消防醫　和方平吉

◆西壗田村兵役優待會

◆西壗田郵便局

局長　山極八太郎
樋ノ口　樋口一
久保　瀧澤重
紺屋村　大口昌平
堰口　市村福太郎
富久平　林祐藏

◆西壗田村軍人分會

會長　佐藤知
副長　樋口寄位
理事　市村弘
監事　黒坂哲太郎
全　竹下亥地人
山極忠恕
全　樋口寄位
全　山極國時
武田市左衛門
班長　第一班長　齋藤洋爾
第二班長　瀧澤啓
第三班長　兒玉益貴代
第四班長　市村弘
第五班長　田村英雄
第六班長　竹下正信
第七班長　池田英五郎

◆西壗田婦人同志會

會長　樋口榮
副會長　齋藤夏花
幹事　武田みな
全　齋藤夏花
全　竹内信子

齋藤市太郎
池田文治
澤山財産組合會議員
樋口左近
武田正雄
小出留十
宮澤友一
曾根正一
瀧澤重
倉澤喜內
宮澤久三郎
福田駒太郎
齋藤勇
小宮山籍
佐藤三郎
池內文治
齋藤廣次
小林丈助
西鹽田村外二ヶ村財產組合會々議員
小林留次郎
瀧澤正江
齋藤市太郎
佐藤清五郎
瀧澤清松
黑坂重市郎
宮澤八十八
川西傳染病院組合會議員
武田助左工門
宮澤久三郎
瀧澤清松

◈所得稅調查員
齋藤重太郎

◈方面委員
竹下繁松

◈駐在巡查
池田金雄

產業統計調查員
武田市左工門
吉澤廣次
宮澤兵部
樋口勇
金澤欣次郎
中島吉五郎
齋藤清人
福田正雄

副會長　竹下繁松
評議員　武田正雄
全　春原義勇
全　宮澤八十八
全　瀧澤榮作
全　福田駒太郎
全　竹下照之助
全　瀧澤賢輔
全代議員　郡農會　齋藤重太郎
全豫備議員　竹下繁松
農會幹事　竹下幸吉
農會惣代　佐藤捨次郎
全　齋藤洋爾
全　武田市左工門
全　佐藤倉太郎
全　竹內孫市
全　竹內豐次郎
全　西澤官兵衛
農會惣代　安藤廣實
全　大庭宇次郎
全　小宮山宗壽
全　池田繁雄
全　小出留十
全　腰田內匠
全　小松長次郎
全　宮澤八十八
全　瀧澤清吉
全　柳澤喜巳治
農會惣代　西澤力
全　吉野茂七
全　樋口勘藏
全　市村弘
全　小池德四郎
全　山極乾
全　小山文太郎
全　齋藤一二三
全　保科由太郎
全　福田正雄
全　保科德吉
全　福澤利只
全　橫山健治
全　竹下正信
全　東川幾太郎
全　竹內海一郎

全　橫山健治　竹下幸吉　竹下盛一　竹內兼太郎　竹內海一郎　福田駒太郎　坂口辰十　山極國時　瀧澤伴一郎　官澤茂士　樋口榮　宮澤きよ子　兒玉たか子　鷲原よし江　小池かたゑ　戶澤よしの

◈西鹽田村聯合衛生組合
聯合會長　宮澤峯三郎
副長　大字總代　竹內巳代治
全　小林乙作
全　曾根清
全　小林吉良平
全　池田良平
全　竹內官次郎
組合長　武田市左工門
十人上村組合　武田繁太郎
下村組合　竹內官次郎
東前山竹ノ內　小宮山宗壽
全　下道　神戶大澤吉太郎
全　十二鷲原廣平
全　山岸小松新次郎
西前山　宮原保科嘉市郎
全　中原瀧澤歌之助
惣門　櫻井文彌
馬場　柳澤喜巳治
手塚上樋ノ口　樋口一
下樋ノ口　齋藤廣次
金井市村幸治
西紺屋村　山極乾
東紺屋村　瀧澤左內
上久保市村芳之助
下久保曲尾　競
上堰口　箱田茂作
中堰口　小宮山義次
下堰口　石川數代
新町王子　福田正雄
中組　福田玉之助
下組　山極嘉作
中組　金井清太郎
北組　竹下友三郎
東組　竹下寬一郎

◈村誌編纂會
會長　齋藤重太郎
幹事　竹下繁松
委員　武田繁太郎
全　宮澤丑太郎
全　宮澤久三郎
全　六川靜治
補助委員　樋口寄位
全　佐藤知
全　吉池源一

會長　齋藤重太郎
副會長　佐藤知
幹事　武田市左工門
全　西澤恒雄
全　安藤幸
全　瀧澤伴一郎
全　官澤茂士
全　齋藤東一郎
全　中澤仲次郎
全　樋口秀實
全　福田三政
全　小山清
全　齋藤好
全　齋藤慶巳
全　東川喜茂
全　內田文彌
全　吉池源一

◈西鹽田村養蠶組合聯合會
顧問　齋藤重太郎
會長　竹下繁松
副會長　西澤茂一郎
評議員　瀧澤重
全　宮澤武雄
全　齋藤洋爾
曾根清
養蠶組合長
山田
竹下繁松
宮本
西澤茂一郎
十人
齋藤洋爾
新町
中井嘉右工門
野倉第一曾根清
西前山　宮澤今朝太郎
前山　宮澤武雄
庚申　竹內善治

◈西鹽田青年團
團長　樋口秀實
副團長　黑坂勝
理事　竹下幸
全　荒井こま
曾根みのる
全　竹內むつ
全　竹下みつる
全　和方りつ
全　小林音次
全　山下とみ
全　樋口榮
全　宮澤きよ子
全　兒玉たか子
全　鷲原よし江
全　小池かたゑ
全　戶澤よしの
全　內田文彌
全　齋藤清人
支部長十人
佐藤彌
竹內仙太郎
藤ノ木
薪町　山極博人
東前山　黑坂勝
西前山　瀧澤敏雄
手塚　中澤多七
山田　竹下德人
野倉　山極盈
幹事（一名ハ支部長兼任）
武田駒之助
竹內丑雄
福田三政
鷲原義男
宮澤兵部
齋藤清人
市村金一郎
竹下照司
內田文彌
武田虎磨

文庫員
竹內丑雄
西澤恒雄
宮澤茂士
市村克人
市村金市郎
橫山實
東川多壽男
池田榮人

西蘆田時報

第七號
毎月一回一日發行
定價金三錢
廣告料一行金十錢

大正十三年六月廿五日印刷納本
大正十三年七月一日發行
長野縣小縣郡西蘆田村大字
編輯印刷兼發行人　樋口秀實
仝縣上田市六二六
印刷所　山浦活版所
仝縣小縣郡西蘆田村
發行所　西蘆田青年團

本村内先史時代及び原始時代に於ける
遺跡と遺物について（其の二）

佐藤知

榛名山

從來古墳なるや否やの問題であつた榛名山の、數の名所は博士は明らかに古墳であると言はれてゐた、王子塚との距離關係、位置形狀、頂きの掘開狀態、巨石の存在等は其の考證を資けたものであつた、果して其の後祝部瓮生式土器の發見を見た。附近の石橋の石材を使の上から石室の材料にまがはぬと確證された。附近日明塚の名稱始めて意味をなした樣ながし氣た。

古墳等の構造を見て思はるゝは、あの巨石を如何にもうまく使用した事と其規模の雄大さである、現在の人類さへ不思儀に思ふ樣な巨石的建設を數千年以前、言ひ合はせたものゝ如く地球上いたる所類似の点があるる、勿論原始民族に於ては其の箇性發達の程度に到らぬ、人類の普遍的性能がさうしたものとは思はれながらも、全地球上の余りの其れに驚かるゝものがある。埃及のピラミッド、オベリスク、北歐諸國のドルメン（古墳）、巨石記念物、東洋各地の古墳塋も其れである。石器の製作、巨石の建設物、原始時代に於ける東西兩洋の人類文化發達の歷程の相似点如何にも奇蹟の感がある。

蘆野神社

延喜式内郷社として由緒來歷の尊い神樣であるだけ、各時代に亘つて非常に多樣の御神寶、御資物が資藏されてある。拜觀するものをして得言はれぬ嚴肅さに自ら襟を正さしむる。その中原始時代に關係あるものとして御神寶御二柱の石棒、數ヶの勾曲玉、御一箱のヤノネなど原始時代其のまゝの太古から今日まで尊嚴いやましに遠く遙るけく崇敬置く能はざる神の象徵として（前にも記す）鎭護ましますかと神の國神ながらの御記念申すも畏い極みである。加ふるに數千年來鄉土祖先の面影を偲ばせて髣髴たらしめ胸中自ら或る深いものに突き當つてくる何物かがある。

博士は各御寶物に深い研究的興味に溢れて居られたが（石器に關してのみ記す）其の中の御矢の根、御曲玉の御樣起內容に特に目を注がれて學問的興味ある問題とされた。

矢の根は原始的なものゝ材料としては石鏃は勿論骨骼で作つたもの貝類で作つたもの種々あるが本村から發掘されたものには、黑曜石、蛋白石の石鏃である、尤も多い物は和田嶺に多く產する黑曜石を用てゐる石鏃として多い此の黑曜石の材料は石器原始時代既でに何等かの交通運輸の方法に依つて各地に送られたもので、其の分布區域は甚だ廣い。近く信濃各地方は言ふまでもなく關東地方一圓から北陸方面遠く美濃尾張關西地方に及んでゐる。本村内では、東前山、西前山、手塚、山田から發掘されてゐるが特に多い所は役場の裏の桑畑である、同所に其材料破片の亦非常に多いのは面白い事と思ふ。石礫のある所には必らず石器土器等とあることは想像に難くない理由があらう。

中禪寺、前山寺

中禪寺、前山寺、孰れも開基の古るい、由緒のある名刹であるから國寶に編入されてゐる藥師如來の御尊體、四角三重の古塔を始め、建築物、御佛体、佛書、古經、書畫、御朱印其の他の古器物のいづれも優れたるもののみの御寶物など、史的研究調査に非常に興がられて長い春の日も足らず惜まれる樣に思はれた。（石器に關係ないから記事略す）

其他一般村内考察

西蘆田の地を一目された博士は、自然地理的に原始民族の生活にふさはしい地であると言はれてゐた。人類生活上食物を欲求するやさか其の要素をなすこと今も太古も變りはない、併し原始的は免れないから海岸地は主として魚介、山嶽部は主として鳥獸果實が常食である、だから海岸には今も貝塚を遺して斯の學問研究に貢献してゐる、山間部では如何しても山岳に深い關係を保たなければならぬ。然も山のみには居住に不便が多い、隨つて山地平野の接續附近に居住したのは當然である、爾後漸次民俗發達と共に自然物のみでは不足を感じ、だん〳〵平野農に向つて農耕の道で突進する樣になる、吾が西蘆田が恰も其れに當事ば直ちに頷かれる。

加ふるに當時の民族は必要に迫つた生活問題以外に山麓に居住しつゝも開濶平坦地を見下ろし眺望の優れた高燥の位置の雄大さが好ましかつた、古墳位置形狀が明らかに證據立つてゐる。生前理想安住の位置を（或るは生前選定した事は前に記す）逝けるの爲に供したのが今の古墳である、どんな古墳でも登つて見れば直ぐ判かる。平地内のものは特別であるが手塚王子塚を始め棒名山、山田の北塚、山田峠の頂（八木澤分の古墳、西前山矢ノ倉（今は無い）の古墳悉く然るものだ。博士が御歸途山田を通られた御話しにあの村には幾つか古墳がありますネーと其の外に其の位置らしいものが多かつたからであらう。

本村内のみで是等の遺蹟遺物を通して考へて見ても少なくも常識的にさへいろ〳〵の歷史的事實が想像されて來る。

アイヌ式土器

小學校附近や東前山西前山の各所からアイヌ式土器や飾玉等の石器の發掘を見ては、アイヌの居住地であつた時代も思はれる。現在アイヌと言ふと北海道の一隅に憐れな歷史的標本民族に零落れてゐるが、その昔全盛時代には隨分榮えたものであつた。郡内としても滋野村などからは非常に多くの其の遺物が發見されてゐるし長村などには遺蹟もある。全國から見たら又一層如何に優勢期が誉つては有つたかを證據だてるものがある、信濃などはまだ〳〵中心地で殊に千曲川流域はその居住が非常に多かつた。本州地方東北部は勿論關東全圓關西地方は奈良京都に近い河内和泉に及び尚ほ四國の阿波邊りまでその遺蹟を殘してゐる。本村に發掘されたなどは殆んど當然の事になる。彼等はその後發達もせず大和民族に壓迫されて文化も作らず彼等が祖先の遺物と同樣に風俗や美術的模樣などまで今も其の儘原始的姿である。

石器時代及原始時代の遺跡と遺物

現在本村此の遺跡遺物と慥められたるもの或ひは其れらしいもの左の如くであるが、尚此の外にも多い事と思ふ。

A、石器

1 石棒

	所藏者	奉安所及發堀地
2	新町字細場江 一ケ	蘆野神社御神寶御二柱（大） 蘆野神社
	手塚字紺屋村 一ケ	瀧澤喜見藏氏
	手塚字立石 一ケ	小學校
	西前山字宮原 一ケ	樋口寄位氏
3	砥石（曲造に使用せしもの）	
	手塚字立石 一ケ	小學校
4	曲玉	蘆野神社御神寶
	新町字中村 一ケ(大) 一ケ(小)	小林長藏氏
	同所 一ケ(大)	田村英雄氏
5	管玉（竹玉）	
	新町字中村 一ケ	小林長藏氏
6	水晶玉	
	手塚皇子塚附近 一ケ	小學校
7	アイヌの飾玉	
	西前山字矢ノ倉 一ケ	小學校
8	ガラス玉	
	新町字中村 一ケ	小林長藏氏
9	石帶	
	東前山字箱田 一ケ	小池源吾氏
10	ヤノネ	
	手塚字立石 數十ケ	小學校
	西前山字矢ノ倉十數ケ	吉澤熊次郎氏
	山田字槻ノ木 十數ケ	
	東前山字箱田 六ケ	小學校
11	石棺材料	
	手塚字紺屋村 一ケ	石橋

B、土器（破片及完全に近いもの）

1	瓮生式土器	
	手塚字立石	破片多數 小學校
	同 字金井	同 同
	同 字樋ノ口	同 同
	同 字口明塚	同 同
	新町字王子	破片多數 小學校
	東前山字箱田	同 同
	同字下城戸	同 同
	十人字古屋敷	同 武田繁太郎氏
	同 字玉影	同 武田市左衛門氏
	山田字竹ノ裏	破片一ケ 小學校
	山田字原田	同 小學校
2	祝部土器	
	無量寺御寶物	無量寺
	手塚字立石	小學校
	同字金井皇子塚	小學校
	同字口明塚	小學校
	同字樋ノ口	小學校
	東前山字箱田	破片多數 小學校
	同字下城戸	同 同
	新町字王子	同 同
3	アイヌ式土器	
	手塚字立石	破片多數 小學校
	東前山字縦町	同 同
4	古瓦	
	新町字王子	破片一ケ 小林米作氏
	野倉字穴平	荒井精一氏

C 古墳

名稱	所在地
新町王子塚 一	新町字王子
手塚王子塚 一	手塚字金井
捧名山 一	手塚字口明塚
?山田北塚 二	山田竹ノ裏
?山田琵琶塚 一	山田字下打越
?不明 多數	西前山字矢ノ倉
?無名 一	西前山字宮原
?（六部隊 六	野倉字穴平）

（終）

役場より

◆村會招集

六月八日午前九時より左記の件議定の爲付會を招集して、何れも可決した。

一、大正十三年度縣稅營業稅納額議決ノ件
一、仝　年度仝　雜種稅納額議決ノ件
一、道路使用廢止諸問ノ件
一、土地處分ノ件

尙營業稅雜種稅納額決議書は左記の通りである。

◆本年度縣稅營業稅雜種稅納額決議書

物品販賣業
一金貳百拾九圓六拾錢　村位等級八等
四月一日現在賦課人員六十一人一人平均三圓六拾錢

此の賦課方法
一等　二人　各人納額八圓
荒井ますじ　島田實
二等　三人　各人納額六圓九拾錢
竹下龜次郎　東川慶包　大澤勇作
三等　七人　各人納額五圓五拾錢
宮澤今朝雄　栗林八重之助　中島房吉
橋詰けさ　山極久右衛門　前島安兵衛　横山健治
四等　六人　各人納額四圓五拾錢
增澤藤七郎　山下松藏　竹下善吉
山極伴藏　佐藤鶴治　曲尾改正
五等　九人　各人納額參圓六拾錢
田村英雄　吉田建尾　竹内富平　山極八三八　會根五市　竹下犀七　瀧澤鹿藏　東川幸太郎　山極嘉藏
六等　十人　各人納額參圓
西澤八作　中澤清重　安藤松五郎　小宮山國太郎　小山保長　金澤松立　荒井龜太郎　倉澤禮助　箱田宇十　小林はる
七等　十九人　各人納額貳圓五拾錢
小林米作　原田七太郎　曲尾恭三郎　小宮山芳太郎　中澤代重　竹内乙吉　畑中八郎治　齋藤廣次　横谷　助　太田つる　小林乙作　小野美佐雄　前島權太郎　池田廣　倉澤五市　小出爲作　山下幸平　齋藤靜江　竹下政右衛門
八等　五人　各人納額一圓五拾錢
早川政十　山田善雄　保科多一郎　宮澤はな　吉田みさ
代理業
一金八圓八拾錢
四月一日現在賦課人員二人平均四圓四十錢

此賦課方法
一等　一人　納額四圓八拾錢
佐藤祐平
二等　一人　納額四圓
宮澤丑太郎
請負業
一金貳拾五圓貳拾錢
賦課人員四人平均六圓參拾錢
小林喜藏　小林留次郎　福田留作　武田頭代
以上四人平均額ヲ賦課ス
旅人宿業
一金拾八圓九拾錢
賦課人員三人平均六圓參拾錢
一等　一人　納顏七圓　松尾善作
二等二人　仝　五圓九拾五錢　山極治喜太郎　齋藤もと
職工稅
一金九拾圓
賦課人員三十六人平均二圓五拾錢
一等六人　納額　三圓參拾錢　小松金治　小福田銀太郎　兒玉今朝次郎　市村龜次郎　桑野正春　與川榮作
二等　八人　納額貳圓九拾錢　福田富太　大島金太郎　荒井又十　黒坂三千代　山極嘉藏　小林佐作　酒井留平　安藤龜喜
十人　納額貳圓九拾錢　東川幸太郎　小林はる
三等　十人　納額壹圓五拾錢　鷲原万平　吉澤林松　坂口言智　西澤　求　千野松右衛門　白瀨桑太郎　梅澤傳治　中澤多作　樋口源吉
四等　八人　納顏貳圓　兒王一　櫻井文彌　山極團藏　石谷由太郎　青木重治　芳坂嘉重　齋藤久次郎　吉池源一
五等　四人　納額一圓五拾錢　畑中八郎治　倉澤倉平　柳澤乙次郎　市村常七
料理店業
一金拾五圓　賦課人員三人平均五圓
一等　二人　納額五圓三拾錢
梅澤菊太郎　樋口鐵藏
三等二人　納額壹圓五拾錢　小宮山芳太郎　横山健次
四等一人　納額壹圓　山極勝次郎
湯屋業
一金四圓　賦課人員二人　平均貳圓　松尾善作　會津ソミ
以上二人平均額ヲ賦課ス
理髮業
一金五圓四拾錢
賦課人員二人平均二圓七十錢
腰田福太郎　戸谷眞之助
以上二人平均額ヲ賦課ス

◉村民十訓

西塩田村長

一、凡て時間を空費せず期限を違へざる事
二、諸事の整頓は事務敏活の根本たるを忘れざる事
三、何事によらず親切叮嚀に取扱ひ些事と雖も粗略にせざる事
四、事を辨ずるには早計に失せず緩漫に流れず常に始を愼み終を全うするの心掛あるべき事
五、速に事を成さんと欲せば須らく自ら之を處辨すべき事
六、毀譽褒貶に顧慮するなく自己の所信に依り終始一貫以て事に當る可き事
七、事に樂み業に安んじ功を人に讓り勞を己に求むべき事
八、常に法規を遵守し上司の命令に服徒すべき事
九、公事に關しては私事を犧牲にするも敢て辭せざるの覺悟あるべき事
十、他の範を採り亦能く他の範となり長短相補ひ彼此相扶け村民訓を遵守し協同一致風俗の改善敎育の振興産業の奬勵勤儉貯蓄を實行し自治の發展を期すべき事

大井たま　宮下水太郎
二等　一人　納額四圓四拾錢
雨宮とく
飮食店業
一金拾貳圓　賦課人員六人平均二圓
一等一人　納額三圓五拾錢　東川幸太郎
二等二人　納額貳圓貳拾五錢

◉稅制整理協議會

六月十七八の兩日長野縣廳に縣稅々制整理に關する協議會かあつた。本郡よりは佐藤郡書記と本村齋藤村長とが出席された。本郡より提出に係る整理に關する意見は雜種稅に於て

一、荷積牛馬車（二輪車金千二圓を九圓に減、荷輪車金九圓を七圓に減）
一、自働自轉車金拾圓を拾五圓に增額
一、自働車稅
二人乘迄年稅金貳拾五圓に增額
一人を增す毎に金五圓を增課す
貨物自働車一噸迄年稅金參拾五圓に增額一噸を增す毎に金拾圓を課す
一、遊興稅に於て
一回金貳圓未滿を除くの條項を削除
新稅を適當とするものに於ては
一、旋風機稅
一、家屋建築稅
一、家屋建築稅
等であつた（賦課方法改正意見は省略）
尙縣では各町村長の意見を徵して整理を斷行する由であるが、この協議會に於て多數の贊成を得て有望なるものは、新稅に於て
一、旋風機稅
一、籠鳥稅
一、索道稅
廢止を適當とするもの
一、觀覽稅
一、備人稅
一、車　稅（農業專用のもの）
一、水車稅（臼數一個未滿）
其の他課目課額中增減を適當とするもの賦課方法の改正を適當とする意見等澤山あるも此處には省略する

◉郡長行政規察

六月十八日白石小縣郡長は行政視察の爲、岡田郡書記と共に來村されて役場事務の檢閱、小學校、信購組合等の視察を了され午後四時皈られた

◉竹下氏技術員に

本村農會幹事竹下幸氏は去る五月より農會技術員として採用される事になりました。氏の爲にお嬉びを申上げると共に村内皆樣御知らせ致します。

◉兵事雜報

豫備工兵一等卒坂口言智君は六月二十日より三週間勤務演習の爲め小千谷工兵第十三隊へ應召
豫備海軍一等兵曹宮澤喜熊君は六月十二日小縣郡役所に於て執行せられし簡閱点呼に參會せり
豫備騎兵一等卒福田邦治君は七月一日より三週間勤務演習の物め騎兵第二十三聯隊へ召集せらる
豫備步兵少尉瀧澤万治郎君、豫備步兵上等兵竹内英三郎君、豫備步兵一等卒小林珠喜君は勤務演習の爲め步兵第五十聯隊へ七月十五日より三週間召集せらる
本年度管閘点呼は來る八月二十八日東塩田小學校に於て執行せらるゝ事になりました
本年參會年次は既敎育では大正二、四、六、八、十年徵集兵で未敎育補育兵は大正九、十、十一、十二年徵集兵であります此日參會村は東塩田、中塩田、西塩田村の三ケ村

行政視察報告

西蘆田村長　齋藤重太郎

先に小縣郡町村長會の囑託を受け縣外行政視察をなす可く中村浦里池田神川の兩村長及び池田郡書記と共に五月二十四日出發し靜岡愛知三重岐阜滋賀福井石川富山の各縣下模範村の視察を了し六月一日飯村なしたるを以て其の一端を報告す

福井縣遠敷郡鳥羽村治蹟

本村は仝縣敦賀驛より大鳥羽驛まで鐵道の便あり郡役所の所在地たる小濱町を距る四里東北西の三面は山を以て圍まれ東西三十町南北二里總面積九百余町の內耕地三百余町歩にして其他は山林宅地なり

本村は親睦和樂の一農村にして民俗淳厚共同心に富み上下和合して未だ嘗て騷擾の事ありしを聞かす、貧富の懸隔甚しからず經濟狀態の平準を得たる事も亦特に注目に値す之を戶別割の賦課に見るに仝村戶數の中賦課の免除を受くるもの丶如きは一戶もなし前村長澤本常治郎氏は資性溫厚篤實にして德望あり、家は累代村の庄屋にして德を積むこと數代鄕黨の尊敬を受くること久しく夙に村民の心服する所たり、明治十四年九月を以て戶長に擧げられ、以來引續き村內公共の職に在り、後町村制の施行せらるゝや衆望を負ひて村長に推され小來勤續三十年勵精其職に盡瘁し最近老齡の故を以て職を辭せり書記以下吏員亦勤續者多く永きは明治十八年の戶長役場時代より勤續せるものあり何れも事務に忠實にして處理極めて敏活なり、殊に村民に接すること懇切丁寧にして諸願届書類の如き概ね吏員に於て作製の勞を執れり村民の信賴極めて厚く役場と村民との間は常に克く融和圓熟せり。

事務の整理は明治四十年役場處務規程を改正し收受文書は即日之を處理し定期報告物は月初めを以て役場內最も見易き場所に之を掲示し各係競ふて其期に後れざらんことを勉むるが故に晏て期限を怠りたることなし、簿冊の編綴又秩序井然たるものあり殊に整理規程以前の文書は往々編綴の當を得ざるものありしが使員一統早出晚退の執務時間以外に於て之が整理に努め遂に之を完成せり。

納稅成績の良好も亦美点の一にして明治二十七年以來一人の滯納者なし隨て會計事務も井然として整備し殆んど間然する所なし

本村は初めより納稅成績此の如く良好なりしにあらず嘗ては滯納の弊甚しき時期もありしが澤谷村長の就任するや深く意を之が矯弊に勉め、滯納者あれば仔細に其事情を調査し、情狀愍然なるものに在りては一時私費を以て立替へ、之が納付を了せしめ他日夫役に雇入れ又は便宜の方法を以て之を償還せしむ、而して其翌年度戶數割賦課等級を議定するに際しては深く愼重の老慮を加へ以て賦課の當を得せしめ且つ納稅義務の國民として重要なる所以を懇切に說示し納期前に區長をして區民の納稅金を取纏めしめ之れを村役場に納付するの方法を執り來りたる結果遂に今日の美風を馴致せるものにして其苦心の跡や眞に感す可きものなり。

敎育上の設備は素と四小學校ありしも孰れも規模狹小にして設備整はす隨て成績甚だ不良にして郡內の劣等に位し明治三十年の調査によれば就學歩合僅かに百分の十六に過ぎざりしを以て村民一同大に奮起し、同年を以て四校を併合して村內中央に一校を新設せり、然れども土地の狀況上已むを得ざるものありしを以て村內西部の南端に分教場を置けり、校舍の合併已に成りて更に高等小學校設置の必要に迫らんしも村費の膨張は之が實行を許さゞるものありしかば遂に村內を通じて三ヶ年を期し、四ヶ條より成る共同節約規約を締結して、之が勵行に努めたる結果遂ひ多額の礦金を得て其目的を達し、卅五年三月を以て增築落成を告げ、仝年四月より高等科を併置せり。其當時郡內に於て一村單獨の力を以て高等科を併置せるは是を以て嚆矢となす本村の敎育事務は是に於て長足の進歩をなし、示來或は校舍の增築運動場の擴張學校園の新設を爲す等設備益々整理し面目爲めに一新せり

又明治四十五年三月主婦會を設け村內の主婦を學校に集め知名の士を聘し講演講話會を開催す。

其他自治會を設け社會敎化並に自治諮問機關となし主婦勤儉蓄貯組合を組織し勤儉力行の美風を鼓吹し貯金をなし奉公の實を擧けつゝあり。

本村は戶數四百六十六戶人口三千三百九十四人にして主要物產としては米ござ繭生絲等なり。

（未完）

漫錄

齋藤村長等が行政視察の爲出張中名古屋に泊つた時の事だつた。某氏の案內で見掛の丶旅館に旅の草鞋を解いた。處がこの旅館は一見丶建物であつたが通された室は六疊位の狹い室だつた。一行四人は不氣嫌この上もなかつたさうだ。……

たま〳〵通りかゝつた女中に向つて「こゝで四人なんて泊る事が出來ますか」と一人が問ひかけると「六人迄泊つた事がありますす」と不愛相な返答をしてその儘行き過ぎた一行益々氣嫌を損ねてゐるとそこへ例の女中が宿泊料金票を持つて來た。

「何程の處にしますか？」宿替をしようかと浮腰になつてゐる處ではあつたが、これをつきつけられると替へる譯にも行かない。

「この邊の處でいゝよ」と言つて宿泊料を決定する處が不思議な事に彼等の態度が一變して廣い別間へ通されると共に絹布の座蒲團は持つて來る抱卷は持つて來る風呂へ案內して背中は流す、下には置かない接待振りに一行すつかり悅に行つて仕舞つた。

「あの宿は實際安いものだつた」とは池田郡書記の旅行談の一節

△別所の戶谷巡査部長は實に磊落寄偉の人物である。

御用心

1 火氣の取扱に細心の注意を拂ひ。

2 戶締を嚴重にし。

3 自轉車其の他の物件を夜は屋內に入れ置く樣御互ひに氣付きませう。

西蘆田保安組合

運動部より

本團では昨年來庭球部野球部を設けて大いに青年体育の奬勵をいたして居ります、どうか業務の暇をみてグランドに出かけ練習して下さると同時に清淨な大氣を一ぱいに吹り込んで赤銅の樣な身体をこしらへて來るべき活動のエネルギーを蓄積されんことを切望いたします。

尙今秋本村で開催される蘆田五ヶ村聯合農產物品評會當日には小學校庭で五ヶ村青年野球大會が行はれます。

我が野球部でも本年は橫山大庭などの新鋭も加つて大いに活躍の準備中です因に本年のメンバーは左の通りです。

島庭川庭藤澤坂山松口內澤坂
前大東大齊金墨橫小樋竹西墨
投捕一二三遊左中右

新農業夏期大學開講

現時我國產業の不振と之に伴ふ國民經濟生活の不安とに鑑み帝國農會及農事電化協會主催の下に之れが對策の一助として來る八月十一日（月曜）より八月二十四日迄で二週間輕井澤に於て新農業夏期大學を開講する事になつた。講師及題目聽講料は左の通りにして尙は科外講話として 靑柳榮司博士外九名士の講演ある筈。

1農業能率の增進　文學士 上野陽一
2新農業經營法　農學博士 橋本傳左衛門
3電氣學要綱　工學博士 中村幸之助
4灌漑排水　農學博士 上野英三郎
5機械農具　西ヶ原農事試驗場技師 廣部達三
宮城農事試驗場技師 水野夏一
6農村電化　工學士 佐藤雅
7最近電氣界の發達と其の將來　工學博士 澁澤元治
8農業の新會化　農學博士 那須皓

會費 入學金二圓 聽講料八圓

寄宿大學附屬寄宿舍五棟あり宿泊無料

食費、一日三食一圓二十錢滿圓及電燈代等は實費十五六錢

申込所、東京麹町區有樂町二ノ一帝國農會

〆切期日 七月二十五日

❖女の多い話

飛鳥生

前號に於て小學兒童が男子よりも女子の方が多い統計が現はれてゐるので聊か面白い研究材料になりました。

以下極く狹い範圍に私見を述べて見ます。御存知の通り日本全体から云ふと男子の方が多い。西洋は概して女子の方が多いやうです。或る人が男女の多少を見れば其の國の文野が分るといつたことに推論しますと貴村の如きは文化した村でありませうか。

併し餘り女子ばかり多くては困りますね、殊に農家などはそうです一國にしてもそう思ひます、尤もこれは私が女子に對する眞價を認めざる舊來の謬見かも知れませんがより適當して居ると思います。

一体貴村が、女が多くなる傾向がある、と云ふのは手近く申し上げますなら、女尊男卑、貴村の生活向が安樂で比較的女子の勞働の少ないのが一原因でありますまいか、少なくも貴村人が モット ますいものを召上つてモット勞働なさいましたら屹度男子の方が多くなるに違いないと信じます。」と語つた。

私はこれは戲談半分まじりに云つたのであると思つても僕の心から其の事を信ずるので多少根據もあつたのです。

今玆で如何なるものが男で如何なる者が女であるには尙ほ色々の原因即ち職業、習慣、貧富、品行、分娩の期節、土地及び氣候を始め、年齡、体力、体質、遺傳、其の他澤山ありませうが、つまりは男女兩性の生活様式より種々なる變化を來すと云ふことは證明することが出來ると思ひます。

●東前山支部より

△春蠶經過、

春蠶は一般に良い經過を辿つて六月十四五日頃より上簇し初めて二十日頃はすつかり上簇しきつた。一戸も殘らず條桑育である爲飼育中は樂であるが上簇の日の目が廻る程忙しい。そこで近所隣りの老若男女が病者を除いては皆その家へ集つて熟蠶を拾ふたり、蠶巢を立てたり棚を作つたりする忙しい乍らも慫慂した共同勞作は樂しいものだ。一家が濟むと次の家へ行く。今日は此處明日は彼處と各々上簇する家を廻つて行くのである。その間に飼育の狀況や管理の方法等をお互ひ話し合つて不知不識の中に研究を進めてゐる。

こうして相互扶助の精神はこゝには依然として育てられてゐる。

委縮病の爲に掃立枚數の減つた事は止むを得ない事として警戒したが爲に大した桑不足にならなかつたのは先ずよかつた。

多少の例外はあるけれど……。

△夏蠶掃立準備

又間もなく夏蠶を掃立ねばならぬ、糸價が低落したからとて豫定の計畫を止す譯にゆかぬ。いゝ時があれば悪い時もあると諦めて養蠶家は矢張り養蠶事業を永續すべきだ夏蠶は十日前後の掃立が最も多い宮本養蠶組合では六月末日から催青に着手した。

△農休み

一先ず春蠶を上げて、田植を濟ませて、こゝ仕事の一切と云ふ處で慰勞休暇のある事は實際樂しい事だ。當區では五日に注繩下し」と云つて祇園祭の下準備をする。過ぎし年の古い注繩を新らしく取替へて午後は御神酒が出るのが例だ。そして翌六月七日と農休みをするのだ。

△祇園祭は七月十五日だ。夏蠶に忙しい折柄ではあるが、古例に依つて嚴かな祭式が執行されると云ふ。

●新町支部通信

氷上王子神社御齋田の耕耘は新町支部で擔任して數年來繼續してゐる。本年も六月廿三日田植を行つた。面積三十歩。

●狂犬病豫防に就て

池田巡査

本年一二月各府縣に於て發生せる數は三百六頭の多きに及びたる狀況にして最近上田市に狂犬一頭發生せるを以て何時交通の關係上其病毒傳播するやも測り難きを以て畜犬飼養主にありては、十分の注意を拂はれ同病の疑ひある場合は速に其筋に届出でふたり、豫防警戒せらるゝ樣にして下さい、尙近來畑等を荒すが如き聲を耳にするは遺憾とする處である故に此際飼養主に於かれては顎輪又は金屬製の牌標なきものは至急附せられ尙人畜を咬傷の虞あるもの若くは咆哮狂騒する癖あるものは鎖を以て繫留し嚥口具を施す樣にして下さい、顎輪又は牌標を附せざる犬は、之を野犬と看做し捕殺せられますと無慮八九萬圓の減收になる、今年に於ける農家の經濟はどう支配されるか見物であらう。

●何う支配されるか農村の經濟

本村に於ける大正十三年度の春蠶掃立枚數は別表の通り三千三百四十三枚にして昨年に比し七百六十三枚を減じている、一枚當り四貫目の收繭あるものとして打算する時は一萬三千三百七十二貫にして前年に比すれば五千百六十貫を減じている價格に於て前年度は十二圓内外なるに本年は八圓五十錢内外にして貫當り三圓五十錢減になんこんな處から打算して前年の春蠶收入に比すると無慮八九萬圓の減收になる、今年に於ける農家の經濟はどう支配されるか見物であらう。

●春蠶掃立枚數調

純粹種（指定品種）交雜種

日本種	支那種	歐州種	國蠶支四	國蠶支三	國蠶支二	國蠶支一	國蠶歐七	國蠶歐九	其他	合計
中	巢	世界一	國蠶支四	國蠶支四	國蠶支二	國蠶支一	國蠶歐七	國蠶歐九	其他	合計
大諸柱	信州飛白	國蠶支七	國蠶支七	國蠶支七	國蠶支七	國蠶支七	國蠶支七	國蠶支七	其他	合計
87枚	蛾	枚	蛾	枚	蛾	枚	蛾	枚	蛾	枚
19	77	22	6	15	2572	80	423	15	5	28
蛾	枚	蛾	枚	蛾	枚	蛾	枚	蛾	枚	蛾
77	22	6	15	2572	80	423	15	5	28	26
枚	蛾	枚	蛾	枚	蛾	枚	蛾	枚	蛾	枚
30	24	2572	80	423	15	5	28	1	25	3285
蛾	枚	蛾	枚	蛾	枚	蛾	枚	蛾	枚	蛾
24	2572	80	423	15	5	28	1	25	3285	58

黃繭種合計　白繭種合計　合計　3343　58　5

●集計表

調査區別	養蠶戸數	掃立枚數 白繭種	掃立枚數 黃繭種	掃立枚數 合計	備考
第壹區	貳九	壹八七		壹九〇	前年ト比較△減
第貳區	貳九	壹七七		壹八參	△九七
第參區	四六	貳九壹		貳九壹	△參
第四區	參八	貳參四	壹四	貳參四	△七八
第五區	四〇	貳五六		貳五六	△兩殿下の英姿を拜するの榮を得申し候。
第六區	參四	貳四九		貳四九	△五壹
第七區	參四	貳四七	壹壹七	貳五八	△參五
第八區	貳參〇	貳參七	壹四	貳四四	△四參
第九區	參九	壹五五	壹四	壹五五	終りに、青年團諸賢の御健康を祈り上候。
第一〇區	貳壹	壹貳九		壹貳九	△九四
第一一區	參壹	壹九五	四	壹九貳	△九五
第一二區	壹八	壹七	五	貳八	△參〇
第一三區	參參	貳四參		貳四參	△七
第一四區	貳七五		四	貳七九	△六參
第一五區	參壹		五八	參四參	先づは御禮まで。
合計	四八參	貳八五		五六	不一

●御禮

東京にて　桑野政男

拜啓　度々時報御送付下され、青年團の御厚志の程感謝の念に耐ねず候。殺風景なる帝都に在りて、懷しき鄕里の近狀を細々と知るを得るは何よりの慰安に御座候。

燒けたとは言ひ條、流石は東京、此の度の御成婚奉祝頃は何處の街も奉祝飾りを以て埋り光りの都と化し、震災の痛手も何處へやらの有樣に候。小生等が四年前に宮城拜觀に來りし頃より一層表通りは華美なるものに候。奉祝當日の丸の内附近の混雜は、とても想像の外に候。奉祝氣分の漲れる中にも復興の意氣の表はれるを思ひ、心強きことに存じ候。小生も折よく、諏爽たる

摘要

昨年ニ比較シ戸數ニ於テ一六戸減
枚數ニ於テ七六三枚減
減少セル主ナル原因
蔟縮病ノ蔓延シ桑園荒廢セルニヨル
第一區ニ於テハ霜害モ多少影響セルモノヽ如シ

「附記」

第一區	大字十人
第二三區	大字前山東
第四五區	大字前山西
第六七八九區	大字手塚
第十一區	大字新町
第十二十三區	大字山田
第十四十五區	大字野倉

◆……◆　第一に寄りの悪いかと。辛つと顏が揃つてから二時間位は癪に無駄談。調子のよいのは下屋の番頭。眞面目な風をしてゐて案外砕けた黒坂の聖人。煙草ばかり燻らしてゐる。ミキさん。默つてゐる議論家は山極の御神主。一番ヅクのないのがシゲチさん。揃へも揃つて屁を「まる」さんの甘いのには悉く閉口する。後の連中は魂消て目玉をはちくり。ヤヤ〳〵ほいつはほんまによまなかつたじやもい。

◆……◆編輯室◆……◆　土用が來ない内からふん編輯室がダレてはふれから先がホンマに心細い。（編輯小僧）

西鹽田時報

第八號

每月一回一日發行
定價金三錢
廣告料一行金十錢

大正十三年七月廿五日印刷納本
大正十三年八月一日發行
長野縣小縣郡西撫田村大字
編輯印刷兼發行人　樋口秀實
仝縣上田市六二六
印刷所　山浦活版所
仝縣小縣郡西撫田村
發行所　西鹽田書年團

模範村視察報告

（其ノ二）

西鹽田村長　齋藤重太郎

富山縣射水郡横田村治績

本村は銅器の産地として有名の北陸道高岡市に隣接し住民は農業者最多を占め他に多少の工商等を交へて一村をなす

前村長堀仁作氏及現村長堀豊氏共に素封家の出にて重望あり仁作氏は明治四年以來多くの公職を奉じ町村制實施の際には横田村西條村組合村長に擧けられ明治二十九年組合解散せられたる後は横田村長として村治の衝に當り專ら産業を奨勵し或は力を災時の救恤に用ひ公共事業に盡せる事多年功績甚大なるを以て四十年五月藍授褒章を受け尋て職を現村長に讓りて退職せしが爾後も尚能く現村長を補佐して村治の爲めに盡し現在横田信用購組合長として努力されつゝあり

現村長堀豊氏も亦町村制施行以來書記となり引續き助役に選任せられ前村長辭任の後を承けて村長に就職し恪勤精勵殆んど役場を家として一意公事に盡しつゝあり役場吏員も亦各其人を得事務極めて整頓し村内の融和せること推奨するに堪へたるものあり村會議員も多くは各改選毎に重任しつゝあり

本村治績の見る可きものは多々ありと雖も治績の最も絶とすべきものを擧ぐれば

一、共同倉庫　地主及小作者相互の利益を圖らんが爲め往時御倉米收納の一度廢せられたる際村民の相議して設立したる地主及小作人の計算所より繼續し今の形体に改められたるものにして之が經費は關係地主に割當て徴收する規定にして明治三十九年地を役場の隣接地に卜し從來借家を以て充てたるを改めて三十余坪の倉庫二十余坪の附屬建物を新築せり

二、米質改良奨勵　明治二十三年以來毎年十二月八日を以て横田村米穀品評會を開催し共同倉庫に納入する小作米の中より之か出品をなし縣米穀檢査員の立會を得て其優劣を比較し優良なるもの十數等に對しては各種改良農具を授與し且受賞者に對しては其翌年に於ける納入米百分の一以下を割引する規定を立て地主尚ほ小作人との能く融和せるもの固より偶然にあらず

三、地主會　舊藩の時代より今に繼續するものにして地主及小作人相互の親善を計り農業の發達を圖るの主旨を以て設立せらる其經營する所を見るに或は共同倉庫を設置し或は小作農の救濟に勉め又は災害のありたる際は肥料致園藝材園學級園蔬菜園等の區別を附せり別に借地六十坪を以て菜園の試驗作をなす

四、産業組合　明治三十八年より三ヶ年間凶作相踵ぎ農家の困憊甚しく村民は高利を顧みずして肥料等を借入れ之が返濟に艱る者前後陸續として相踵げり地主等乃ち相謀りて産業組合の設立を企劃し之に依りて貯蓄の實行生産資金の供給農産物の共同販賣等に當らん事を期し之か加入者を奨勵せん爲め組合區内の小作人にして組合員となるものには地主會より出資一口に就て金二圓づつを補給し以て出資第一回拂込に充當せしむることゝせり此補給金及其他組合創立費の全部は地主會の負担とし其支出總額千余圓を要せり

横田信用購買組合は斯の如くにして四十二年四月を以て創立せらる現組合員四百貳拾參人出資參萬七千七百余圓貸付金拾貳萬七千貳百七拾八圓貯金八萬五千六百參拾壹圓に上り大正三年産業組合中央會より成績優良の故を以て表彰せられたり

五、不動貯金組合　勤勉貯蓄に依り凶荒災害の備へをなすは産業組合を設立するに至りし主旨の一たり是の故に組合員中最寄の五六人づゝを一組として更に一の小組合を組織し一口の金額を毎月一回參拾錢宛とし小組合員輪番に之を集めて本組合に差出すものとす嚴に規約を設けて不時の出來事天災地變の場合吉凶の際以外には決して之を引出す事を得ざらしむ別に普通貯金として蓄積せるあり産業組合員の任意貯金するものに係る

六、教育　學校の設備完成し約壹千坪の學校園あり風園藝教材園學級園蔬菜園等の區別を附せり別に借地六十坪を以て菜園の試驗作をなす

就學の奨勵に就ては夙に其道を講じ縣稅戸數割二分以下を負担する民家より就學ある兒童に對しては教科書其他學用品一切を給與することゝし之が爲めに年々經費を支出せり故を以て疾病不具者を除くの外村内に不就學者なし出席の奨勵も亦甚だ周到にして冬期除雪の際には青年會をして割雪をなさしめ以て通學の便を圖らしむ

七、自治會　明治四十一年の創設に係り事務所を役場内に置き村長會長たり一月元旦を以て役場樓上に會合を開き四方拜の式を終へたる后前年の村治及本年度の施設計畫を公表し更に注意事項として納稅産業兵事教育衛生等各般の諮詢をなし引續き會員相互の談合打合をなすを例とす

八、納稅成績　納稅成績は多年良好なりしも村稅に至りては多少納期を愆る者ありしを以て理事者は百方說諭し納稅の重んず可きを自覺せしめたる結果明治四十二年以降滯納者なきに至れり

九、村基本財産

現住戸數	四一二戸		
人口	男	一、〇八七	
	女	一、一三四	
耕地反別	田	二六〇町五七二三歩	
	畑	二〇町二二〇四歩	
山林原野	なし		
農家戸數	一八五		

自作二六戸にして自作兼小作及純小作者多し

△白川候の掟書

天明三年十二月樂翁侯松平定信が領内に公布した掟書は好個の民主政治の標本である參考として之を錄すれば左の如し

一忠孝に志厚き者は天の福を得一世安樂となり右兩道に欠けたる者は萬の望み一つも不叶事

一村不和にして公事出入有之候は其村滅亡の基となる事

一夫婦家内の者と仲あしき者は其家を潰し先祖へ不孝第一となる事

一百姓は農業の外に勤めなく商の利潤を望むは身を失ふ基となる事

一鳥獸さへ冬中は餌を運び貯置候人としては糧を心懸けざるは不所存の事

一村の困窮は村長役々の罪たる事

一村長役々の人心得惡しく候へば忽ち一村の難澁となり候病者看病心得あるべき事

一神佛信仰は其所の產神と先祖よりの寺さへ大切に致し信心候へば諸神の加護ある事

一日待神事の寄合には萬の種蒔村の時節のため諸川淺道橋直し等も或は念佛等寄合可然事

一正月も三日迄は可遊四日よりは藥仕事を專一とすべき事

人情風俗

本村は古來一致共同の美風を保ち町村制實施以來村治の平和を欠きたる事なし

村民は競ふて自治を重んじ獨立志操を涵養し上下一致して基本財産の蓄積をなす

青年會　共同一致戮申詔書の御趣旨を奉体し普く會員の奢侈を禁し風俗弊習を矯正し諸般の冗費を省き勤勞に依りて得たる貯金を永く蓄積し其他一般民風の作興をなす村長會長たり

學校に於て擧ぐる諸式の際は毎次名譽職員全部の出席を見るの之れ教育を重んずる現れなりとす

役場より

告示第一六號

大正十二年度本村歳入出決算終了本月十三日本村會ノ認定ヲ經タリ

大正十三年七月十四日

西鹽田村長　齊藤重太郎

記

歳入

一、財産ヨリ生スル收入　一、四二一、二七
二、使用料手數料　五五五、一五
三、國庫下渡金　二、八四〇、八五
四、交附金　八一三、六三
五、縣費補助　四九八、九〇
六、繰越金　一五四、七七
七、雜收入　一、二三二、三二
八、村稅　二七、七四六、三一
九、寄附金　四一七、〇〇〇
十、繰入金　一一七、〇〇〇
歳入合計　三五、八二九、二〇〇

歳出　經常部

一、役場費　四、四六六、八二
二、會議費　八二、八五
三、土木費　五〇七、一九
四、小學校費　一三、六一九、〇一
五、實業補習學校費　二、四二二、一〇
六、傳染病豫防費　三〇、七九
七、虎眼豫防費　一三、二〇
八、勸業費　一一七、六〇
九、救助費　！
十、警備費　二九八、五四
十一、堆本財産造成費　二、八四〇、七〇
十二、財産費　四八八、九〇
十三、諸稅負担　一、四二〇、三〇
十四、神社費　一一七、七〇
十五、雜支出　二七八、五四
歳出經常部計　二六、七〇四、二四

歳出　臨時部

一、補助金　八四〇、〇〇
二、土木費　四、四六、三〇
三、寄附金　四四四、八〇
四、村誌編纂費　三七、四二
五、納附金　二五一、一二
六、表彰費　二八、一八
七、村債費　三三、四〇
八、警備費　一、一一五、〇八
九、財産費　一四七、〇二
十、小學校費　一五〇、〇〇
十一、積立金穀　六、九八
臨時部計　七、五四〇、三〇
歳出合計　三四、二四四、五四

歳出差引殘金千五百八拾四圓六拾六錢

大正十三年度へ繰越

◎學務委員補選

本村學務委員一名缺員の處七月十三日の村會に於て補欠選擧の結果箱田梅作氏當選就職した。

◎書記更迭

既報の通り本村役場書記福田賢一郎氏辭職により一名缺員であつたが七月十四日付金澤欣治郎氏が任命されて就職した。

◎財産組合會

西鹽田村外二ヶ村財産組合は七月二十三日澤山財産組合は仝月二十四日各〻組合會を開いて大正十二年度歳入出決算の認定を經た。

❖西鹽田村外二ヶ村財産組合歳入出決算表

歳入

一金四千五百三十八圓也　歳入豫算高
一金參千九百拾九圓十二錢也仝　決算高

歳出經常部

一金四千百七拾八圓也　歳出豫算高
一金參千六百六拾七圓八拾四錢仝　決算高

歳出臨時部

一金參百六拾圓也　歳出豫算高
一金貳百參拾八圓六拾四錢　仝　決算高
合計四千五百三十八圓　歳出豫算高
仝　參千九百六圓四拾八錢仝　決算高
差引拾貳圓六拾四錢也

大正十三年度へ繰越

❖澤山共有財産組合歳入出決算表

歳入

一金參百七拾五圓也　歳入豫算高
一金四百四拾七圓三十二錢　仝　決算高

歳出經常部

一金參百七拾九圓也　歳出豫算高
一金貳百五拾貳圓七拾五錢　仝　決算高
差引殘金百九拾四圓五拾七錢也

大正十三年度繰越

◎主要食糧增殖督勵委員改選

曩に本縣より嘱托就職中であつた標記督勵委員は本年六月滿期となり夫々後任者内申

告諭第三號

三伏の盛夏將に酣にして漸く傳染病流行の季節に入らんとす幸にして本村は前年以來一人の傳染病を見ざるのみならず一般の健康狀態頓に良好にして農産業の發展と教育の振興に多大の好影響を及ぼしつゝあるは寔に喜ふべき現象なりとす。

是れ平素衛生組合其他關係團体幹部が献身的努力の致す處なるは勿論なるも亦以て一般村民が衛生に理解し保健に協力せらるゝの結果にして本村の最幸福とする所なり。

然りと雖も傳染病たるや何時如何なる機會に侵入突發を見るや計り知るべからず徒に從來の好績に甘し忽緒に付するが如き事あらば或は噬臍の悔を貽すの恨なしとせず。

希くは村民諸君愈々益〻警戒を怠らず保健衛生に留意し災厄を未發に防ぎ以て一村の幸福を永遠に保全せらるゝに努められんことを。

大正十三年八月一日

小縣郡西鹽田村長齋藤重太郎

中の處此程認可され、各農事組合長四十二名が嘱托就職することになつた。

◎蒟蒻栽培地の實地視察

小縣郡農事組合聯合會に於ては廣く副業資料を蒐集しこれが普及を計るべく縣下三班に分かれ副業の實地視察をすることになり去る七月二十二日より二十六日に亘り夫々實行された。第一班は南安地方の山葵栽培狀況、第二班は群馬縣北甘樂郡下仁田地方の蒟蒻栽培狀況、第三班は北佐久地の養鯉事業で、本村よりは竹下技術員第貳班に參加し蒟蒻栽培を視察した。

學校より

◇水泳について

水泳は、一般の体育から見て、夏の運動としては、一番効果が多いもの、又精神の方から見ても、我日本の様に四面海を以て居る様な、國民としては、水におれて居らないこと、水を恐れる様なことは、國民性からみても恥ぢねばならぬことと思はれます只、これには生命に關する一大危險が常に伴ふて居るから、効果が多いと共に、ここに細心の注意が、最も大切だと思はれます學校では、毎日の様に、左の注意をして居りますから、家庭でも、常に御注意を御願ひいたします。

1、學校に居る間、又は學校より、歸宅の途中は、教師の指導なくして自由に水泳することを嚴禁す。

2、家庭より水泳に行く時は、保護者の許しと、適當なる指導者なくしては自由に水泳に行かざること。

3、水泳者の心得

イ、水泳の時間は午前は、九時より十一時迄、午后は二時より五時迄を適當とす。

ロ、水に入る前必ず、陸上体操を凡そ十分位なし、關節、筋肉の運動に故障なき様に注意すること。

ハ、水を頭より全身に、うるほすこと

ニ、水中にある間を短くし、寒きを感せざる程度にて水より外に出る事

ホ、水泳中は決して、フザケル等のことなく、まじめなること。

ヘ、空復のときは、水に入らざること

ト、水泳中も頭部は日にさらさざる事

◇夏の衛生について

1、なる可く生水をのまざること、殊に、運動を終つて后、休息する場合は注意すること。

2、果物其他食物について一層注意すること、

3、身体は清潔にすること。湯に入らざる時は水にてたまたま身体を拭くこと。

4、皮膚と、空氣、若くは、日光に直接浴せしむること。

但し　頭部は日光にあてざる様注意すること

5、夜、はねる時、復部を冷やさない様、特に注意すること。

八月の納稅

金二千百參拾參圓八拾錢也

納稅日　八月二十五日

戸數割前半期分

兵事雜報

●既報の通り本年度簡閲点呼は來る八月貳拾八日午前七時より東鹽田小學校で執行される筈に成つて居ります。

執行官は歩兵中佐本川省三殿附屬下士は輜重兵曹長清水正殿と決定されました。

点呼令狀の交付を受けた者は該令狀裏面の注意を熟讀の上實行を願ひます。

次に未教育補充兵は補充兵證書が必要でありますから若し紛失したか汚損した者は至急村役場を經て再下附願の手續きをして下さい。

●一等看護卒山田寅男君は去る七月十七日歸休にて無事歸鄉された。

●左の諸君は來る十日歩兵第五十聯隊へ演習召集の爲め三週間召集せらる。

歩軍　山極　元君
歩上　吉池二樹男君
歩上　竹下正信君
歩一　平林清君
歩一　山極袈裟與君
歩一　小山哲君
歩一　齋藤慶巳君

（大正十二年第三種郵便物認可）　大正十三年八月一日　**西蘆田時報**　第八號　（三）

◎方面委員の仕事に就て

竹下繁松

社會の總べての事柄が、復雜となるにつれ種々の紛爭や波瀾や弱者落伍者の出來てくるのは止むを得ぬ事であるが之を放任して置く事は國家として、社會として共存を破壞するものである。本縣では此欠陷を出來るだけ少なからしめ、順次社會を改善して共存共榮の實を擧ぐる一つの機關として各村に方面委員を置くの制度を實施されて不肖の如き微力者が其の選に當つたのであるが諸君の援助に俟たれば微力克く其責を全ふし得る所でない。

抑一村一國は多くの者の集りが秩序を立て、共存すべきものなるが故に、そこに起る疾病や欠陷は之を豫防し治療する事は村民國民の誰もが責任ある事で獨り方面委員のみに委ね置くべきで無いのは勿論である、即ち「ソリダリチー」の觀念に連帶責任感に仍て、村民國民の總べてが協力して一村一國の欠陷を補ひ、其の改善に努むべきである此意味に於て方面委員の事業に就ては村民一般の諸君より陰に陽に後援せられ一村幸福と隆昌を期すべく力を添へられたいのである。さて此事業は實際に當つて見ると仲々六つかしい事で、秘密に屬する事は絶對に秘密裡に進捗し他へ洩らす樣ではならぬ事は勿論、機が熟さぬ場合、手遲れになり過ぎた場合等は共に救ひ得られぬ事となる、そこで時機の問題に就き又事數や費用の問題に就いて到底做くたる一人の力にては救濟し得られぬ事が多く生じ來る事と思ふ此に於てか縣下の各方面に目下盛に設立さるゝ方面制度助成會なる後援者が出來つゝある、此會の必要は最も痛切に感ずる所である幸に本村には全村に渉て卅八の保安組合が既成されてあり其の事業は將に自發的の社會事業を目的とする組合である、仍て本村の方面委員事業は此組合の共鳴と活動とに俟つて滿全を期し得らるゝ事を喜び且つ期待し、ひたすら組合の協力を希ふものである。

◎自大正十三年一月至六月　取扱件數報告　西蘆田村　方面委員

要項	細目	件數	摘要	要項	細目	件數	摘要
相談	紛爭調停	五	境介談、契約破棄、小作問題、夫又ハ倅ノ放蕩家內不和合	救護	生計費給與	一	該當ナシ
	人事相談	六			災害救護	一	罹災者救護
	家政相談	二	家政不如意今後ノ方針		窮民救助	一	該當ナシ
	負債整理	二	財產整理負債償還	斡旋	軍事救護	一	該當ナシ
指導	職業相談紹介	三	求財者紹介		葬儀世話	一	該當ナシ
	簡易保險貯金及保險	二		兒童保護	妊產婦保護	一	該當ナシ
	戰友共濟	二			乳兒保護	一	生母死亡
療救	區療費給與	一	該當ナシ		幼兒保護	一	該當ナシ
	濟生會斡旋	一	該當者ナシ		孤兒貧兒	一	該當ナシ
	醫師會斡旋	一	該當ナシ		被虐待兒	一	該當者ナシ
	病院加療	一	該當ナシ		不良少年	一	該當者無
	消毒指導	二	結核患者處置		迷子棄子	一	迷子保護
戶籍整理	無籍者就籍	一	私生子放任	斡旋	里子斡旋	二	預カリ子
	內緣整理	二	自由結婚		就學斡旋	二	雇主へ懇談
	私生子整理	一	私生子認知	其他雜件	購演會斡旋	一	社會課ノ講演
	庶子整理	一	仝		寄付義捐金斡旋	一	災害地へ送金
	婚姻手續	五	戶內婚姻其他		購買金融仝	一	部落改善融和
	離緣離婚	一	協議離婚			二	

◎手塚支部

七月十五日は鎭守の祇園祭である。毎年此日を卜して大字惣代氏子惣代等立合の上手塚の寶物を蟲干することが年中行事の一つとなつて居るので今年も當日型の如く執行されたそうだ。

青年會で栽培してゐる舊小學校跡の桑園で七月十六日夏秋蠶養用桑を入札に附した處九拾余圓になつた。

今年の大旱魃には各所に植付不能地があるに新聞紙上で報導されたが同じ憂目に遭遇した稻田が吾部落にも二反歩余ある。植付後灌漑不能の爲に田面に龜裂を生ずる樣な狀態で大減收を免れないものも少なからずある樣に見受けられる。

夏蠶は掃立當時から連日の氣溫昇騰と桑葉硬化にも係らず日夜兼行不眠不休の連續的努力の賜物か一般に發育良好の樣だ。

◎十人支部

十人養蠶組合では七月六日組合員總會を開き經濟的養蠶法の稱ある別所村倉澤善一氏を聘し講話を聞き尙今年の夏蠶より其の指導を受ける事となつた。

當部落水田反別參拾町歩は植付以來の旱魃にて池水も使ひ果て殊に昨年拾二月以來の雨不足の事とて水源も減じ極度に水不足を來し田の大部は龜裂を生じ葉園は伸長止まり下葉は黃色に變じて落下し農村民は數回の雨乞も其効無く皆々天を仰いで嘆息してゐる。

十人農區では村農會を通じて郡農會より鯉兒の交附を乞ひ十人農區の經營してゐる採種圃に放養することにした、尾數は約千匹で今秋までには立派なものにしたいと苦心してゐる。

春蠶の品種飼育法收繭量調査

補習學校

當校女子部に於て自分の家庭に於ける春蠶の調査を致しました、この調査は本村の實狀を知る多少の參考となりますので掲げる事に致します。然し斷つて置きます事は日一×支四とその反對種と收量との關係の如きは一般の說と批評と違つて居る事でありますがそれは本村の或優良組合が特別に收繭量の多かつた關係からかういふ成績を示したので支四×日一が必ずしも收繭量の多い事を示したものではありませんからその点をお注意願ひます、又一貫目平均繭價の如きも繭質とイコールしません、各品種の總額の平均がかうなつたのであります

◇左に各齡期の飼育狀況を掲ます

飼育法	一齡	二齡	三齡	四齡	五齡	%
全芽育	一七	二〇	二二	一一	七二八	
刻芽育	四	四	二	〇	〇	
刻葉育	四	一	〇	〇		
條桑育					一四	一八七二

備考　調査戶數二五

◇品種別掃立枚數收繭量等は左の如くです

品種別	掃立枚數	上繭收繭量	枚製一枚平均收繭量	一日飼育平均繭價	戶數
一日×支四	七六	四五二、〇〇〇	五、九四七	八、九四	一六
一日×支四	二四	六九、〇〇〇	六、三六六	八、八二	三
中支×巢一四	六	三四、八〇〇	五、八〇〇	八、五三	二
世界大諸柱	三	六一、〇四〇	五、〇四〇	八、三八	三
日×支四	五	三一、〇〇〇	四、三〇〇	八、五〇	一
一日×歐一七九	二	一七、二四〇	八、六二〇	八、五二	一
合計平均	二五二	二四五、二一〇	六、〇二四		

備考　調査戶數二六

◎養蠶中面白いと思ふ事

一　補　女

給葉を一度すればする程、一日たてばたつ程、目立つて大きくなるのが何より面白い。そして多數蠶が揃つて進んでゆくのを見る時、自分等もこんなであつたらどんなによいだらうと、羨ましく思ひます。けれども蠶はどんなに腹が空いて居ても、氣分が惡くても、默つて居るのは氣の毒なやうでもあり又面白いやうな氣もする。

◎同

一　補　女

暑くもなし寒くもない日に廣々とした田圃で涼しい風に顏を撫でられながらすがゝしい氣分で桑を摘むのは愉快です。

上簇の時多數集まつて今迄の苦勞を顧みつゝ樂しく語り合ひながら簇になつた蠶の枚數を數へるのも樂しみの一つです。

◎養蠶に就いて平素考へて居る事

一　補　女

春蠶は左程でもありませんが夏秋蠶の稚蠶專用葉園を拵へて戴きたいと思ひます

又春夏秋晩秋蠶共稚蠶飼育は養蠶組合などで協同してやつたらよろしからうと存じます、勞力經濟からいても設備や管理上から考へても……そしてお互に研究しあつたならばよい結果を得る事が出來るだらうと思ひます。

農家の比較

考へよき農家　考へ惡しき農家

一、廢物で土地を肥し　金肥で土地を荒す
二、自分で自分の土地を耕し　人手で土地を耕す
三、稼で土地を買ひ　惰けて土地を賣る
四、利益を土地より取り　損失を土地より招く
五、土地を財產とし　土地を質物となす
六、副業で收入を增し　ムダ時間を多く費す
七、餘金は銀行に貯て　餘金で株や相場に手を出す
八、野菜物は自分で作る　空地を遊ばして野菜物を買ふ
九、共同心が強い　共同心が極めて弱い
十、西蘆田村農家　此の如き農家一人もなし

暑中御伺申上候

西蘆田村役場職員一同
西蘆田小學校職員一同

南洋より

小池釣夫

故郷を後にしてより早七年の星霜は夢の如くに逝きました。壯心未だ家を思はずとは云ひ乍ら、時あつて靜かなる夜半、椰子の葉がくれに、窓を訪づるゝ月を眺めたり、語る友もなき一人寢の枕に、とう〳〵と響く大津の波の音を聞きては、さすがに斷腸の思ひに堪へず、しば〳〵懷郷の念にくるゝ折柄、此度新らしく發刊せられたる西鹽田時報を拜見して、宛然郷友の全部に御目にかゝつた様な氣がして、實に御なつかしさに堪へられません。

西鹽田より刊行せられしもの、さきに曉鐘ありしも、その響きあまりに、かすかに東天の彼方に消え行き、次に鐵城いでしも時々廢刊せられて、其の及ぶ所いまだ青年の意氣を滿足せしむるに足らざりしが、この時報こそはまさに燃えて熄まざる、西鹽田青年團の表徴として堅實の發達を遂げしめん事を心より希望して止みません。

私は南洋の一角に撓まず苦闘をつゞけて來り老ひ行く年も忘るゝ程です、がそれでも事意の如く成るものは一つもありません。然しそれが人生の本然であつてそこに人生の味のある事を思ひ、ただ其の苦しい然し甘い味に憧憬れて涙と汗と血と肉との中を悠々濶歩して自己の進む可き道を、どこまでも〳〵力のつゞく限り進んで行きます

考へてみるに吾等日本人が世界と共に生存し其の天與の幸福を享有するためには、更に〳〵幾多の教養が必要だと思ひます。武力をよそにして日本の國際的地位は余りに貧弱の極みではありませんか？。

西鹽田を出でゝ世界各地に活動しつゝある博識の先輩は果して幾人あるのでせう！

時報同人諸兄がそれらの人々と堅き連絡を取り、祖先未知の地に歴史の無い新社會を建設し、美田を持たんとする同胞の意氣を、團員諸君に紹介し更に又故郷にのみ存する樂しき團欒をそのまゝ天涯万里の彼方に活動し居る友に通じて、其の荒み行く心を慰め、相俟つて時報の世界的生存の意義を確にせらるゝ事は、何と快哉の至りではありますまいか？。

一寸四方もない様な新聞のひつきれでもつまらぬ仁丹の廣告でもそれが日本字であると云ふだけの事でなつかしさに堪へずだ。「美しきもの常に孤獨の中にあり」てふロダンの言や味ふべし

○

忘れやうと思ふのは既に忘れてゐない證據だ。忘却に最もいゝ手段は忘れんと欲するよりも、考へまいと企つるよりも、別な事を考へることだ。

○

アイロニー（皮肉）を捨てゝユーマー（諧謔）をとりたい。辛辣な批評家より樂天文學者の方がいゝ、浪六や白村よりも漱石や比左良がいゝ。

○

性慾に強く又堪ゆるに強いものは幸福だ

○

不良と大膽と無邪氣と無智とは時に同一の表現法をとる。區別することの困難な程

○

コンペンショナル（因習的）とアムボラリー（一時的）とを捨てたい。エミネンシー（卓越）とポプユラリチー（人氣）とも。かくて專心自己の伸展を心がけたい。

○

他人に働きかけ、他人を受納れ、乃至総てを享受し得る量は自己充實の度に比例す

國境の近況

平北楚山守備隊　小山左京

時報に依つて團員御一同樣の活動の有樣が伺ひ知る事が出來ます　異鄕に有つて是な知ります時こそふんな嬉しい事はありません　小兵も御陰樣で無事國境守備の任を勤めて居ります　何か珍らしい事ごもご思はぬ事もありませんが軍務の繁雜についつい御無沙汰してしまいます。けれごいつも御親切に時報を送つて下さる御禮と諸兄に對する御無沙汰の御詫まで一筆取つた次第であります

鴨綠江を越へ鮮内に侵入しつゝある不逞人の數は精確な事は判らないがざつと二百人位だそうである、從來は冬期間鴨綠江の結氷を最好期として此の時分が一番多かつたけれども昨春來草木の繁茂期を唯一の好期として居るそれは彼等入鮮後潜伏に自由自在にして行動に便なる爲である　一集團多くは八十名數ないもので十數名徒黨をなし巧に各方面に出沒し狂暴を恣にして居る系統は大韓統義府義勇軍系のものと　浪林軍のものとあり互ひに連繫を取り襲撃方法等も漸次組織的になつて來た感がある勿論総てが階級制度に依つて支配されて居る服裝は大抵支那民兵服に似たもので武器としては歩兵銃かモーゼル式拳銃を携帶し脊中には砂糖を混入した麥粉の煎つたものを食糧として脊負つて居る　またどうして手に入れたものか天幕を携帶し人跡杜絶へた場所を選んで宿營の夢を結ぶ事として居るらしい又情況を偵察するものは行商人に身をやつし部落に入り込むものは大抵勞働者の風を裝つて居る、是等の密偵でも皆巧に拳銃を忍ばして居る、浪林隊長には白狂雲と云う獰猛な奴がある、曾て齋藤總督が國境を巡視された折、高山鎭の下流に於て狙撃し一時新聞を賑はしめたのも此奴の仕業である。

其の際支那官憲は彼等の行動に便宜を與へて呉れたと云ふ意味に於て彼は其地の雜貨商人をして新義州より、感謝の二字を刻せる額（金製にして時價六百圓）を楚山對岸）知事に贈呈したるに知事は是を快しとして受けたと云う珍奇な情報がある　彼は上海假政府（大韓統義府の建設される前の名稱）軍務総長の命を受けて居るものと聞いて居る、彼等不逞者は民家を襲ふ計りでなく、郵便物の掠奪を目的として居るそうで。郵便物には必ず着眼する、今迄郵便護衛の巡査など大分やられて居る、何分昨今は高梁玉蜀黍等の繁茂が甚だしいから潜伏自在、千八百萬里と云ふ廣漠たる平北に警戒に任ずる人員が余りに僅少である師團增設の聲熾烈なのも當然である、軍隊の威力に待つより外ないであらう。

（未完）

閑人漫語

柳澤生

日記帳より

○

干渉されるのは一番寂しい。愛し得ぬ人と居るよりソリチュード（孤獨）の方が幸福だ。

○

忘れやうと思ふのは既に忘れてゐない證據だ。忘却に最もいゝ手段は忘れんと欲するよりも、考へまいと企つるよりも、別な事を考へることだ。

○

アイロニー（皮肉）を捨てゝユーマー（諧謔）をとりたい。辛辣な批評家より樂天文學者の方がいゝ、浪六や白村よりも漱石や比左良がいゝ。

○

性慾に強く又堪ゆるに強いものは幸福だ

○

不良と大膽と無邪氣と無智とは時に同一の表現法をとる。區別することの困難な程

○

コンペンショナル（因習的）とアムボラリー（一時的）とを捨てたい。エミネンシー（卓越）とポプユラリチー（人氣）とも。かくて專心自己の伸展を心がけたい。

○

他人に働きかけ、他人を受納れ、乃至総てを享受し得る量は自己充實の度に比例す

暑中御伺

酷暑の折柄村内皆樣の御健全と御幸福とを祈り、併て今後益々御精勵の程を希望致します。

尚異鄕に御奮闘される皆樣からは度々御便りを戴きましても一〻御返事も出さずに失禮致しましたがこゝに紙上を以つて御禮を申上げると共に只管御健康と御幸福の祈願を捧げます。

大正十三年八月

西鹽田青年團

友よなつかし

於國境　S K 生

今日も淋しく暮れました
來る日來る日の暮方に
營舍の窓に身を寄せて
南の空を眺めます
昨日着いた友の寫眞
丸く太つた此の笑顏
そつと取出し窓ぎはで
心行くまで見てました

御寄附

熱土南洋の椰子の繁り深き地に奮闘の生活を送らるゞ小池釣夫氏から時報發刊費の中へ金拾圓の御寄附がありました。こゝに厚く御禮申上ます。

編輯餘錄

○東宮武良子殿下に於かせられては目出度「御異狀」あらせられし由時事新報は報ず。國民は擧てその「御異狀」を謹で奉ると共に「御異狀」あらせられざらんことを祈り奉る。

○恐惶山極閣下御成婚に先んづるふこと一週日同じく令閨の御異狀を聞く。その腕優し。人に見かけによらぬものなり。

○役場の帳記に欠員が出來たのでふんどりそれは美人の御役人を拜まれるかと喜んでゐたら父候ビン。しかし金澤さんは好だ。クラリネットの鍵を押へる時のやうな愛妙な手ギワで御願ひ申す

○郵送する時報が毎月五六通位は戻つて來る。異鄕の人々にして住所變更の場合は御一報煩し度い。ごたなの投稿も歡迎する。論說なり感想なり。出來事なりを遠慮なく寄せて貰ひたい。

○別に投稿の規定はない。十五日迄に集つたものを翌月掲載する。

カメラ

◉今より昔六十年前に大字手塚宇龍王の湧水が旱バツの爲に出なくなつて終つた。たま〳〵天台宗の行脚僧顏潭師がこの地方に遊歷して來たが師の祈願によつて、たちまち又ふき返して來た。

以來師は地方人の崇敬の的となつた。旱バツの折柄古老の間に顏潭師の事蹟が話題に上つてゐる。

◉今度ふうは降るぞ！

大きな雷の音に晝寢の夢を破られた氣早のkさんは密雲な眺めてこう獨ぬを擧げた。うして何時も流される道路へ藁屑を選んですつかり洪水が出ても、いゝ準備をして待つてゐた。幸草な幾度燈籠の雁首へ詰めんだか知れないが窓雨に降らずに雷は遠のいて終つた。

「又駄目かッ」落膽したのはkさんにかりではあるまい。

◉宇宙の大上人竹下無限——と云へば知る人ぞしる、かつて某友が「竹下何時から髯をタテたんだへ？」と、からかへば燕柳君小聲に『タテたらやないよ殘して置いただけさ——』。

（大正十三年八月二日郵便物認可）（第三種郵便物認可）　大正十三年九月一日　西鹽田時報　第九號　（一）

西鹽田時報

戸數割の算定法について

——中産階級の悲哀——

一中階生

1

去る八月一日發行の時報に於て縣稅戸數は苦しい。「無い袖は振れない」のが悲しい割の各戸負担額が發表された。その上位にあつて高額を負担する人が中以下の人の負のゝ苦痛は因より推量するところであるが今日の場合一層憐むべきは所謂中産階級の人たちだ。其の人たちの戸數は他に比して一番多く社會の中堅として表面に起ち公務により本村と比較して大なる相違あることを見出したので、こゝに一言卑見を述べて大方の御敎示を乞ふ次第である。

2

一体戸數割は諸稅の基本とも考へられ。隨て之が負担額を決定するには大なる用意の要ることは勿論である、大きく言へば今日國家が採りつゝある社會政策そのものゝ根本にも觸れることゝ思ふ。現在叫ばれてゐる社會問題殊に階級鬪爭、勞働運動、小作問題等の解決策もこれによつて窺はれるのである。

3

納稅は國民の重大なる義務である。凡ての人が均等に負担する時には問題はない。そして又凡ての人はそれをどんなに望んでゐるか知れない。三井岩崎でなくともせめて町村の最高額を負担するやうになりたいと力めてゐる。而も私有財産制度の現下に於ては財の蓄積が同一でなく隨て所得にも差異あるが故に之に準じて各種の租稅にも等級をつけることが亦止むを得ない。而し何といつても「有るもの」は容易で「無いもの」は中産階級だ。只僅かな稅の差異位で實生活に當ては同位置の交際を余儀なくされてゐる。このまゝに推移するものとしたら真先に亡落するのが中産階級だ。

自分の述べようとすることは暴論でも何でもない。少しく社會政策について思索する人の容易に認容されるところである。

9

革命前のロシアは貴族と農民とだけで中産階級がなかつた。そこにレーニンが出たトロツキーが出。共産主義が生れた。過激派が生れた。勿論これのみを以て直に革命の原因であると斷ずることは不可能であるが。國家の骨子であるべき中産階級の滅亡を傍觀することは國策の採らざるところである。

10

我國の爲政者が、吾が村の當事者がどうか尙一層の考慮を此点に致されんことを切望して止まない。

此の文句々の執筆に係り甚だ不完全ながら以上に留めて廣く諸賢の御敎示に待つ次第である。

妄言多謝。

野の聲

水呑生

或る紙上で某文士が百姓のうつむいて田植する有樣を平和其のものゝ象徵だとし、還慮なく讃美してあつた。其の文に感心した自分は今更斯んなにも百姓てふものは優しいものであつたかと考へさせられた。百姓が默つて働いてゐる間は國は平和だ。もし百姓が土に親しむのをすてゝ何事かを言ひ出す時、それは既に國が健全でない證だ。」といふ意味も述べてあつた。「農は國の大本なり」そうだ。小學校の頃からもう敎へられたことだ。農人が何でも納めたり供給する間は國の機械が動いてゐる。偉大なる百姓。その百姓が今、或る文士の言つた樣に默々として働いてゐる平和の形だらうか。農村の現在といふものに一歩踏み込んで見るがいゝ。そこにはどんな場面が展開されるか。荒癈、疲弊、萎微、そこへ泣面に蜂の旱魃だ。純朴な農村に天譴でもあるまいに之は亦どうした事だらう。しかも日やけの苦しみは第一に農民に襲ひかゝる災害なのだ。百姓は今鬱憤の持つて行きどころもないではないか。野の聲は今靜平を見せてゐる丈の事だ。國民の選良と稱する人達が競つて農村振興建議とやらをしたそうだ。選擧民に對する人氣どりには有効だらうが建議の跡始末はどうなつたらう。農村救濟だの浮ぐ樣な百姓讃美論や、自分らはもう、歯のお呪だてには聞き倦きた。自分等はもう誰を賴るでもない。昔から穩忍性に富んだ百姓の事だ。平和の形にして置かう。考へて見ればやつぱり百姓は土に親しむんだつた。そして今はぢつと耐へて純朴な心になつて雨乞でもすることだ。

第九號

毎月一回一日發行
定價金三錢
廣告料一行金十錢

大正十三年八月廿五日印刷納本
大正十三年九月一日發行
編輯印刷兼發行人　長野縣小縣郡西鹽田村役場　樋口秀實
印刷所　山浦活版所　全縣小縣郡西鹽田村
發行所　西鹽田青年團　全縣上田市六二六

2

隨て之が負担額を決定するには大なる用意の要ることは勿論である、大きく言へば今日國家が採りつゝある社會政策そのものゝ根本にも觸れることゝ思ふ。現在叫ばれてゐる社會問題殊に階級鬪爭、勞働運動、小作問題等の解決策もこれによつて窺はれるのである。

3

納稅は國民の重大なる義務である。凡ての人が均等に負担する時には問題はない。そして又凡ての人はそれをどんなに望んでゐるか知れない。三井岩崎でなくともせめて町村の最高額を負担するやうになりたいと力めてゐる。而も私有財産制度の現下に於ては財の蓄積が同一でなく隨て所得にも差異あるが故に之に準じて各種の租稅にも等級をつけることが亦止むを得ない。而し何といつても「有るもの」は容易で「無いもの」は中産階級だ。只僅かな稅の差異位で實生活に當ては同位置の交際を余儀なくされてゐる。このまゝに推移するものとしたら真先に亡落するのが中産階級だ。

自分の述べようとすることは暴論でも何でもない。少しく社會政策について思索する人の容易に認容されるところである。

9

革命前のロシアは貴族と農民とだけで中産階級がなかつた。そこにレーニンが出たトロツキーが出。共産主義が生れた。過激派が生れた。勿論これのみを以て直に革命の原因であると斷ずることは不可能であるが。國家の骨子であるべき中産階級の滅亡を傍觀することは國策の採らざるところである。

10

我國の爲政者が、吾が村の當事者がどうか尙一層の考慮を此点に致されんことを切望して止まない。

此の文句々の執筆に係り甚だ不完全ながら以上に留めて廣く諸賢の御敎示に待つ次第である。

妄言多謝。

野の聲

水呑生

或る紙上で某文士が百姓のうつむいて田植する有樣を平和其のものゝ象徵だとし、還慮なく讃美してあつた。其の文に感心した自分は今更斯んなにも百姓てふものは優しいものであつたかと考へさせられた。百姓が默つて働いてゐる間は國は平和だ。もし百姓が土に親しむのをすてゝ何事かを言ひ出す時、それは既に國が健全でない證だ。」といふ意味も述べてあつた。「農は國の大本なり」そうだ。小學校の頃からもう敎へられたことだ。農人が何でも納めたり供給する間は國の機械が動いてゐる。偉大なる百姓。その百姓が今、或る文士の言つた樣に默々として働いてゐる平和の形だらうか。農村の現在といふものに一歩踏み込んで見るがいゝ。そこにはどんな場面が展開されるか。荒癈、疲弊、萎微、そこへ泣面に蜂の旱魃だ。純朴な農村に天譴でもあるまいに之は亦どうした事だらう。しかも日やけの苦しみは第一に農民に襲ひかゝる災害なのだ。百姓は今鬱憤の持つて行きどころもないではないか。野の聲は今靜平を見せてゐる丈の事だ。國民の選良と稱する人達が競つて農村振興建議とやらをしたそうだ。選擧民に對する人氣どりには有効だらうが建議の跡始末はどうなつたらう。農村救濟だの浮ぐ樣な百姓讃美論や、自分らはもう、歯のお呪だてには聞き倦きた。自分等はもう誰を賴るでもない。昔から穩忍性に富んだ百姓の事だ。平和の形にして置かう。考へて見ればやつぱり百姓は土に親しむんだつた。そして今はぢつと耐へて純朴な心になつて雨乞でもすることだ。

1

去る八月一日發行の時報に於て縣稅戸數は苦しい。「無い袖は振れない」のが悲しい割の各戸負担額が發表された。その上位にあつて高額を負担する人が中以下の人の負のゝ苦痛は因より推量するところであるが今日の場合一層憐むべきは所謂中産階級の人たちだ。其の人たちの戸數は他に比して一番多く社會の中堅として表面に起ち公務により本村と比較して大なる相違あることを見出したので、こゝに一言卑見を述べて大方の御敎示を乞ふ次第である。

2

一体戸數割は諸稅の基本とも考へられ。隨て之が負担額を決定するには大なる用意の要ることは勿論である、大きく言へば今日國家が採りつゝある社會政策そのものゝ根本にも觸れることゝ思ふ。現在叫ばれてゐる社會問題殊に階級鬪爭、勞働運動、小作問題等の解決策もこれによつて窺はれるのである。

3

納稅は國民の重大なる義務である。凡ての人が均等に負担する時には問題はない。そして又凡ての人はそれをどんなに望んでゐるか知れない。三井岩崎でなくともせめて町村の最高額を負担するやうになりたいと力めてゐる。而も私有財産制度の現下に於ては財の蓄積が同一でなく隨て所得にも差異あるが故に之に準じて各種の租稅にも等級をつけることが亦止むを得ない。而し何といつても「有るもの」は容易で「無いもの」は

4

試に各村の最高及平均負担額について表示すれば次の通りである

	戸數割總額	最高額	一戸平均額	最高ガ平均ニ對スル歩合
	圓	圓	圓	倍
西鹽田	四、二六六	五四	六、二〇	八、六
室賀	二、三七三	八三	五、九〇	一五、一
青木	六、〇〇五	二六六	五、八〇	三九、〇
鹽川	四、一九二	五六	七、五〇	七五、三
傍陽	三、八四四	七〇	四、六〇	一五、二
鹽尻	四、六六〇	五〇六	八、一三	六、二六

尙西鹽田の最高が各村の最高より何等位と略同額に番るかを調べれば

鹽尻　十三位　五六圓　室賀　三位　六三圓
青木　十一位　五五圓　鹽川　七位　四三圓
傍陽　二位　四六圓

右の調査に於て地價金に亘らなかつたことは遺憾であるが地價金は算定基本の三四割に過ぎないのであるからこゝにはしかし重大なる結果は見ないであらう。

5

之によつて考へるとき本村には他村のやうな大い財産家がないのか。畢竟するに貧富の差がそれほど甚大でないのかといふ一つの疑問に逢着する。而し本村の最高額を負担する人の財力が他村のそれに比してそんなに干格があらうとは思はれない。又勿論自分力ではあるが最高額負担者の所得が平均額負担者のそれの八倍六分位しかないであらうとは考へられない。そして同じく苦境にあるとしても中以下の人は義務觀念によつて負債をして迄も負担を認容し眞劍に納入するに反し往々にして高額の負担者が利息勘定を念頭に置いて故意に期日を遲れ尙督促再三の後辛くも納入するものゝあることを聞くに於ては實に說くべき言葉も知らない。

6

我々は尙考へてみる。

我々は毎年所得額を申告する。而も收入の路細い中以下の者は隱すこともなく表はされるが、廣く財を所有するものには故意に隱匿するも調査が詳に出來難い事情もあり所謂「こぼれ」も非常にあること、思ふ。そしてその「こぼれ」は多額の所得あるものにとつては少いものであるかも知れないが例しその一部分をとつて見ても少しじやない。

結局法令の上から可成りの費用を用ふる申告書も單なる形式に過ぎず、何の役にも立たずに片附けられてしまふのみで、最後は「腰だめ」になる。而も村會議員何名かの「腰だめ」になる。そんなことなら初から申告なんぞするんぢあなかつたつけと考へる。村議の自宅を訪問して菓子折を出して釋明する方が早途だとも考へる。

負債が全然算定の上から差引かれないのは今日の稅制上の不完全と思ふが、又老幼病者の控除にあつて所得がマイナスとなるものにも理窟をつけて取るから叶はない。

7

中以下の人が一圓出すよりも中以上の人が十圓出す方が易だ。そして一人が十圓出すことによつて中以下の者十數名の負擔が少くなる譯だ。少くとも現在本村の最高負擔額が他村に比して最低としても二倍、我々の見るところでは三四倍即ち二百圓位にはしてもそんなに酷ではあるまいと思ふ。其に從て中以上を高くし中以下の負擔を低くする方が適宜と思ふ。この計畫の實行によつて中産階級以下がどの位救はれるか知れないのだ。

本年度縣よりの割當額は昨年度に比して約一割減少してゐるらしい。けれども之を戸數割に換算するとして高低なく一割の天引きであるとしたら昨年十圓納めた人が六圓減少するに反し六圓納めた人は六十錢しか減少しない譯で之にも甚だ疑問を抱かないではゐられない。

8

何にしても今日一番苦境に起てゐるもの

□本村内ノ生活狀態調査

方面委員第一期事業中ノ該調査ハ第一回ヲ昨年十月執行ノ處、今回本郡方面委員會ノ打合セニ基キ、本村方面委員ヨリ保安組合聯合會ニ依賴シ各保安組合長ノ助成ヲ得テ第二回調査ヲ行フ筈ナルガ其ノ調査要項ハ左ノ如シ

一自治困難ニシテ保護ヲ要スベキ者

イ極貧者

自分及家族共稼ギ能ハズ、財產無ク、生存ノ資料ヲ得ルニ困難ト認ムル者

ロ貧窮者

財產ノ收入乏シク、病人又ハ老人、子供多ク、稼ギ共、生計困難ノ者

二家政上ノ整理ヲ要スベキ者

イ繼續的ニ家內不和ニテ調停ヲ要スル者

ロ負債整理ヲ要スル者

ハ職業紹介ノ必要アル者

ニ貰子里子虐待兒ニシテ保護ヲ要スル者

ホ不良少年少女

三戸籍上ノ整理ヲ要スル者

イ內緣者ニシテ婚姻手續ノ至難ノ者

ロ無籍者ニシテ就籍ヲ要スル者

ハ私生子、庶子ヲ嫡出子其他ニ整理スル可キ者

ニ事實ハ離婚ニシテ放任シアル者

ホ婚姻又ハ養子緣組ノ手續ヲ了セザル者

以上

注意

方面委員ガ職務執行上必要ニテ戸籍謄、除籍謄又ハ寄留簿ノ閱覽若シクハ其ノ謄本抄本ノ請求ヲナシタル場合ノ手數料ハ徵收セザルモ差閊ナキ旨、司法省民事局ヨリ通牒アリタルニヨリ豫メ御知ラセシテ置キマス

□村內自轉車輛數

本村の自轉車輛數は左記の通りでありますその年毎に增加して行く狀態を御覽下さい。

	大正五年	大正十年	大正十三年
十人	四輛	壹九輛	三五輛
東前山	二	五〇	六六
西前山	八	三二	五壹
手塚	一四	七壹	八〇
新町	一一	三五	五五
山田	三	二七	四〇
野倉	壹	壹	三壹八
計	四參	貳參五	

□本村諸車數調

	現在數
自轉車	三一八
人力車	三
荷馬車	七
荷車	中 壹七四
小 壹二六	
オートバイ	壹
サイドカー	壹
自動車	壹
付自轉車	貳

□旱ばつ對應策研究會

未曾有の大旱魃に遭遇し稻作の植付不可能のもの及植付后灌漑不充分にして田面龜裂を生し枯死せるもの少なからず、加ふるに桑樹及一般作物も成育意の如くならず殊に秋蠶に於ては飼育に術なく徒らに袖手傍觀するの狀態を來たし村當局に於ても種々考究せる結果標記研究會を開催する事になり去る八月二十二日本村役場に開催された。當日參會せるものは村會議員、農會役員、其の他各種團体長六十余名にして別項の通り研究決議し大字總代が實行委員に擧げられ極力奮闘する事になつた。

◇旱害救濟策決定事項

一、低利資金供給に關する件

低利資金は產業組合を通じ出來得る限り多額の供給を仰ぐ策を講ずること

一、食糧品の購入斡旋に關する件

食糧品の購入は產業組合及農會の活動により原產地より共同購入の道を講ずること

一、勞力利用に關する件

村及大字公供の山林、土工、水利事業に對しては從業せしむる策を講ずること

一、勤儉力行の件

各種團体より宣傳により生活改善矯風規約の實行の實を擧ぐること

一、蠶業經營に關する件

晩秋蠶及明年度春蠶に算しては旱害の前略　本年初夏以來今日に至る大旱魃は農村として御同樣憂慮之至りに有之候處就中貴地方稻田の旱魃は殊に甚大の由承り眞に御同情に不堪　村當局各位始め日夜定めし御心勞の御事と深く奉推察候今曉久し振りにて若干の降雨を見幾分の憩眉は開き得たるも　時既に二百十日に直面し其の効果の程度も如何あるべきやと乍陰心配致居る次第に御座候實は參上拜眉の上御見舞可申上之處乍失禮以書面右狀況御伺旁如斯に候敬具

大正十三年八月廿六日　神科村長　唐澤喜三郎

西蘆田村長齋藤重太郎殿

▲納稅日九月二十六日

九月の納稅

一金千〇貳拾九圓參拾六錢　大正十三年度畑租前半期分

一金五拾四圓四拾貳錢　全　年度雜地租前半期分

稅源不明　全　年度所得稅第一期分

□溜池新設設計

溜池の多くある事に於ては川西地方は有名なものだ。それでも今年の樣な稀有な大旱バツに逢つては水の不足に泣かなくてはならない。大自然の前に人工のいと小さきを嘆ずる又宜ならずやだ。

けれどもそれが故に屈しては居られない。最善の方法を盡して生活の安定を求めなければ……

カンバツに直面して、尙この上に溜池の必要を痛感したのは無理ならぬ事だいろ〳〵と考案の末、產川上流の字大手口地籍に溜池を設けたならこんなカンバツの場合にも余程助かる事だらうと云ふので西蘆田、中蘆田、別所の三ケ村ではその設計方を縣へ申請した。

該地は地形上溜池新設には最も勞力がはぶけ且つ最も多くの水量を貯蓄し得る可能性があるので多分其の實現を見をであらう。

嘉永二年大旱バツノ協定書之寫

乍恐以書附奉願上候

去夏カンバツニ而三ノ堰水引之儀及爭論候ニ付而村御呼出御吟味之上寬政七卯年仝樣爭論之節割番林逸八中村治左衛門立入散水ニ而旱附ノ場所ヨリ掛廻シ候樣取扱熟談和融致シ候處年數相立候故双方心得方區々ニ相成リ居候處今般厚御理解被成下割番甲田清太夫甲田勝五右衛門へ取扱被仰付前書逸八治左衛門取扱之散水ニ復シ手塚村呑喰溜乘合水之儀是迄新町貳分十八村壹分五厘之處此度繰替十八村貳分新町壹分五厘之水割ニ致示談以來カンバツニ而呑喰溜水勿村之內通水步切ニ相成候村方ヨリ申談事旱附ノ田場十八村分地字一本柳迄兩村役人ニ而見廻リ依怙無贔負掛廻シ堰水懸リ御田地流末ニ至迄甲乙無之樣掛引實意ニ申談事小前ノ末ニ至ル迄永々遺失無之樣可致爲熟談和融仕候依之御吟味是迄ニ而御流シ被成下双方候然ル上ハ右一件ニ而重而御願ケ間敷儀仕間敷候ニ付乍恐右願之通リ御聞濟被成下置候ハヾ兩村一同有難仕合ニ奉存候以上

嘉永貳年　十人村

西正月二十八日　惣代　用右衛門

仝　半右衛門

仝　富次

組頭　仁右衛門

仝　友左衛門

庄屋　齊藤彦之亟

新町惣代

仝　與五兵衛

仝　恒右衛門

仝　喜右衛門

倉藏

金右衛門

忠左衛門

源兵衛

善五右衛門

長百姓

勘右衛門

組頭　才右衛門

仝　儀右衛門

庄屋添役　市兵衛

庄屋　小泉市左衛門

□會と人

❖所得稅調查會

上田稅務署官內所得稅調查會は七月十八日より上田稅務署に開會、本村齋藤重太郎氏出席なりしが八月十二日調查終了して閉會した。

❖方面委員會。七月二十八日小縣郡方面委員會開會、本村よりは竹下繁松氏出席、種々事務上の打合をなしたる由

❖雨乞の協議

七月三十一日本村農區長會を開きカン魃對應策として八月二日より各大字毎に一齋に雨乞をなすべく協定した。

❖會計檢查

七月二十七日八日の兩日本村の會計檢查があつた郡役所より岡田、德武兩郡書記來廳。

❖伍長に昇進

工兵上等兵大澤吉太郎氏は演習召集を受けて七月二十日より三週間入隊されて居たが除隊に際し伍長に昇進した。

❖財產組合林業委員

八月二十六日、西蘆田村外二ケ村財產組合では林業委員會を開き本年度藤切作業其の他について協議を遂げた。

❖「步むもの」發行

步むもの社編輯に係る氣分雜誌「步むもの」第五號は九月十日發行される由。

支部通信

淺間山行

竹内生

◇藤の木支部の淺間登山は豫定の日より三日おくれて一行十五人は十三日午后九時卅分上田驛を出發した。大屋田中は型の如く過ぎ今度新らしく出來たといふ滋野驛をまご越しに眺めやがて小諸驛に下車、夜の小諸町は割合にぎやかだ。町を上りつめた、社の森で一休みした

遠くから來たらしい一群も休んでゐた。

俺達一行の後から來る者もあつた。若い女も五六人交つてゐた。日中の暑さに引替へて宵の風は心地よいほどの涼さだ。十三夜の月光を路みながら、埃立つ街道を過ぎ薄暗い程に繁つた松並木にさしかゝる一行は歌に話しに非常な元氣だ。

道はだん〳〵けわしくなる　其處此處に休んでゐる者　出懸ける者—山は大分にぎやからしい。うす〳〵聞いてゐた淺間舘に着いた。こゝで茶菓の接待を受け。草鞋のひもをゞて。また歩き出したぎん樽や白樺の茂みは薄氣味惡い程だつた。

川を越へ坂を上り。やがてのんびりとした草原に出た。青いほどに澄みきつた月光—蒼茫とした草叢—海邊の松にも似た奇なるその枝ぶり—丁度油繪にも見るやうな樂園の中で偉大なる、自然の美さを讃すると同時に。なんとなく樂天的な氣分にならずには、いられなかつた。

爭闘の日もわすれて、こんな氣分で一生を送れたならと思つた、こうした觀喜の中にも一行はどん〳〵歩を進めて行く。風の吹く度にがさ〳〵とすれ合ふ熊笹の葉音をきゝながら、谿流に沿ふて進む彼方にぼうーとうす明るい、燈火のあるのに氣づいたあの燈火のある所が觀測所が汗ばんだはだを透して吹く風は。冷たい程の感じをあたへる。觀測所に着いた。

誰彼となくつかれて居るらしい。默込んで休んでゐるのを見ると——

海拔六千有餘尺とか。隨分寒い風が來る—身仕度替へて、また上り初めた。

道はいよ〳〵けわしくなる。月は後山にかくれて、幽かな光を投げてゐるのみ。

ごつごつと尖つた石ころ道　ざく〳〵とした灰砂の道を蹄先上りに辿つて行くのだこんなひどい道を一里餘りも上らなければならないと。云ふのだから一寸骨がおれる峯が見わたせてゐてなか〳〵はかどらない。一休みして。また上る。

夜は次第に明けはなれて來る。やつとの事で頂上に着いた。

ほつと一息せる間もなく。噴火口をのぞく。煙はふわり〳〵と立上つている。穴のそこまで。はつきりわかる。

正服にゲートル姿の學生、洋服姿の婦人旗を押立てた、一團、寫眞器を肩にかけてる英人火口のまわりはなか〳〵、にぎやかだ群集は、ご來光を、いまか〳〵と待ちかまへている

上州連峯の、水平線は眞赤に色どられたおゝ。なんといふ麗はしい光景だらう

あの明麗な幕を展げて、悠々と昇り來る太陽の壯嚴さ—目を見合しても眩しい

あの輝き——讃美の聲は山々に轟く〳〵亦視線を噴火口に、むける。

黄色味をおびた溶岩はだら〳〵と物すごく穴のそこに、流れてゐる。誰かが落した岩石は異樣な響を立てゝ碎ける

山は今靜かだが、突差に爆發でもしたならと誰かゞ言ふ。

爆發したつて—吹きとばされたつて—死ぬ迄の事さ—と空意地にも大氣燄をあげている、だが誰の顏を見ても眞蒼だ、多分寒さの爲めだらう

冷風にふかれながら、火口を一巡していよ〳〵山を下り初めた。行く人、歸る人見返り振り返り。どん〳〵下る

どこを眺めても、夕べ見た景と今朝見る眺めとはその感興を異にしてゐる。

淺岳ホテルに着いた、山の中には珍らしくいゝ旅舘だ、こゝで一休みしてまた下る。

無茶苦茶にたゞすた〳〵と。下つて松並木にさしかゝつた、松蔭が戀しくて堪らない。一行は松蔭の、芝生に腰を下した

申し合せたやうに、すや〳〵と眠つて了ふ目を覺まして時計を見ると二時間あまりもねてしまつた。

午近くに小諸町に着いた、この町で午餐をすませ一時五十分小諸驛を出發した。

うつ〳〵とねむりながら、ゆられながら上田驛に下車した。

一行は豫期以上の快味を收めて午后四時無事歸村した。（完）

東前山支部通信

●雨が降らないと云ふ事がこんなにも恐ろしいものであらうとは且つて思つた事はなかつた。それだのに今年と云ふ今年は誰もがカンバツの怖ろしさを体感せずには居られなかつた。稻は枯死する、畑作物は何一つ豊作のものはない。百姓でゐて胡瓜や茄子を買つて食べなければ汁の實が何もないと云ふ有樣だ。これで今年の年をどうして越さうと云ふのだらう。村の當局者もお互ひの個人も憂慮してゐるのはそこだ。

●雨乞は幾度もやつた。千駄焚を數回行ひ鉦や太鼓を叩いて「雨降らせ給へ」を二六時中繰返して休む時なく祈願をこめたのが幾十ケ村あつたか知れない。けれどもほんとに濕ふ樣な雨は容易に來なかつた。唯來るものは人々の心の中につのる恐慌であつた

●我が東前山ではもう流れる水は一適もなくなつた。用水路は白く乾いて田の稻は一日毎に枯死の領域を擴めて行く

袖手傍觀—既にその爲す術を失してゐる。そこには水論の起こり得る餘地さへもない

●せめて火事でも起こさない樣に——と警報が頻々と來る。萬一の場合には水の調査をして置く必要があると云ふので井戸の水量を測つたり、川を掘つて地下水を溜めて置く所を五六ケ所設けたりした消防組や保安組合の盡力によつて……。

西前山支部通信

此の頃村を一寸廻つて見た時、使場と云ふ使場に非常の時の用意の水か、溜池を近所近所でこしらいて置くのを見た。

自分達としては出來るだけの事はして居るつもりだ、けれど段々弱つて行く、作物を如何する事も出來ず、疑つと見て居ねばならない、人間の弱さをシミジミと感ずる。

年老いた者の話に、百三年前のカンバツには、部落で三ケ所しか水の出る所が、なかつたと云ふ樣な事を聞かされて居る

●今年は春蠶も夏蠶も相應には取れた、けれど秋蠶は如何なるだらうか、雨が其の中には降るだらうと瀕りない事をあてにして居た爲に、漸く今頃掃立する者が、多いのだが飼ふて行かれるやら、飼つて行かれないやらと、心細い事を話し合ふて居る、それでも掃立の出來るだけ、自分達の村はまだいゝのかも知れん、などと慰め會つても見る。廿六日からは龍王山で雨乞をする事になつて居る、降る降らんは、なんとも云へない事だが、未明に起き出で山中の冷水にて身体を清め、チヤンと座して、眞面目に「欽上八大龍神宮、雨降らせ給ひ」と祈願する村人の、眞劍さは、何んとも云ひ知れない感激を起される。

新町支部通信

●未曾有のカンバツで各地の農作物の狀態は、眞に深憂に耐えない。新町區では八月二日より七日間慇代以下有職者は區民を代表し鎭社堂の祝詞の下に鎭守に雨乞の祈念を捧げた。丁度、其の結願の八日の夕刻である。最後の雨乞式として區民一同揃つて拜禮した。神事が濟んで御供への神酒を戴かうとした時、「雨が來る」といふ聲にふり仰げば產川入の空に濃い雲が下りて來たと見る間に次第に擴がつて、女神山、鉄城山は忽ち瀧の樣な雨脚に閉ぢ込められた。轟々といふ遠音が近づいて來るのも凄じい。人々は神の慈雨と稱へ齊しく天を拜した。厚い雲が頭上に覆つて來て大きい滴が落下し初めた。社の雨の境内で神酒を頂戴して歸る時はもう傘の迎へがなくては歸れなかつた。豪然たる雨聲の中に龍王山や榛名山の雨乞の鉦が尙嚴かに聞いた。此の一雨の御陰で一時を持ち耐えることが出來たのであつた。

●神の慈雨に浴した翌九日は雨祭りであつた。午前九時から王子神社で御禮奏上の式があり終て青年によつて吉例の神樂が行執された。午後は古式の「惡魔拂ひ」が執行された。各戸毎を神樂によつて淨め祓ひ、區内の安祥を祈る式である。此の式は久しく中絶した形であつたが、今度殆ど三十年ぶりで行はれたといふ。不景氣は暫く於いて此の日だけは、區を擧げて神ながらの氣分に浸つたのである。（八月二十日）

品評會繰延

沈滯せる經濟界の空氣を緩和すべく去る八月二十一日別所村役場に於て蠶田五ケ村事務研究會を開催し、農會の事業繁縮方針品評會繰延に關する件、外數件を研究協議した結果五ケ村品評會は一年繰延ることに決定した。

庭球野球競技會

十月十二日に上田市で郡聯合青年團主催の庭球野球大會が行はれます。一ケ村で庭球は三組野球は一組出場する事に決定されました。我運動部では九月下旬に選手の豫選會を開き必勝を期して出場したいと思ひますから團員諸君もそれ〳〵ご準備をお願ひいたします。

陸地測量部では！

帝國陸地測量部では今般技術者養成の爲本村及諸地方を測量する由であるが、豫め左記の注意がありましたから御了承を願ひます。

一、測量点標示の爲各地に標旗を建設す此の標旗は既設の三角点及水準点と同樣、作業の基礎として重要のものなれば、其の何たるを解せざる者ありて破壞若くは盜み去る等の事有之ては獨り當業務の進行に防害を與ふるのみならず、個人としては自然法律の制裁を受くる事なれば注意願度き事。

◇北越漫遊

古道

直江津の海岸にて

浪滔々秋立つ音や名古の濱

船小舟海原はれて秋めつし

親らん上人上陸の地を探りて

みほろぎにしのぶむかしや居多の濱

五智如來に詣で、

露散るや法のともしのはたいきに

小丸山別院に上人謫居の跡を尋ひて

ひぐらしやのりの力をかりまくら

盆をどりを見て

人浪のよせてはかへり輪ゆられけり

色鳥のかいはりがはりな鳴く夜哉

海の外にて

小池釣夫

人間は常に變化を好む者であります。進まぬ所動かぬ所變らぬ所そう云ふ所に年百年中暮す事は出來ますまい。

青年諸君がよく實行せらるゝ一年に一回位の旅行がどの位趣味多きものであつて又どの位その一年を生き甲斐があつた一年であつたと感せしめる事が出來るのでせうか都會に住む多くの人士は皆それ〴〵別莊があつて夏に又冬に山を訪ひ海に遊んで其の心身を醫する事が必要となつて居ります。

然し別莊と云へば直に輕井澤や鎌倉が聯想され旅行と云へば直に日光や伊勢位が頭に浮ぶのが常であるが文明が今日の如く進み凡てが今日の如く世界的になつた時に於ては別莊と云ふたら直に夏はシベリヤ冬は南洋旅行と云ふたら印度やアフリカあたりが直に皆さんの頭に浮ぶ樣でなくては行きつまりつゝある日本の將來が氣づかはれるではありませんか。

冬の寒い時チウ〳〵と鳴く雀の聲を聞き乍ら色の白い奥さんがやさしい小兒を抱へて炬燵にうづくまり愛の樣な聲で唱歌を歌ふそれは誠に美しい圖であるけれど世の生活難に苦しめられたる泣くが如く又訟ふるが如きその聲は流石に哀れ深いものです。

それに比べて朝は七十度日中は八十五度年中變りなく朝の六時に日が出で夕の六時に日が暮れ花あり實あり天惠豊かなる綠の葉影に黒く逞ましい五体を横たへ限りもなき太平洋を横目に眺めて將來の雄圖を胸に畫き狹の樣な聲で自己の理想を歌ふて居るのと果していづれを壯なりと致しますか。

南洋では最も肥沃なる土地でも一町歩貳百圓出せば買ふ事が出來ますそれは決して借地ではありません、つまり子々孫々完全に其の地權を獲得するのであつて旭の御旗を其のまゝ根强く殖ゑ付けたのと一寸も變りはありません。若しも其の土地に椰子を植ゑ付けて十年たてばそれより以後百年間位は自分は決して手を下す事なく人まかせにして日本に居ても其の一町歩から一ケ年に二百圓以上の純利益が確實に得られますそう云ふ土地をもしも十町歩持つて居りそこに一つの別莊があつたとしましたらば！二年に一位づゝ友達や兄弟を連れて南洋下りまでの大旅行を敢行致しましたならば、其の愉快は又實に思ひ半ばに過るものがあるでございませう。

皆さんが戀々としてはなれ難き美しい鄉土——鳥瞰の樣に美しい鄉土の——將來と海外のいかなるものかを良く思ひくらべて靜かに皆さん自身の十年の將來を考へて見て下さい。

◻思ふままに

井蛙

稀有のカンバツで先き頃二回行つた千駄焚雨乞の時には、御布令もあつたが、八月六日から弘法山で雨乞を行はれた時には、どういう御考へであつたか、藤ノ木の者は仲間に入れなかつた仝日朝弘法山で鐘の音が聞ゑたので、不思議に思つて藤ノ木の一代表者が登山して、總代樣の御思召を訪ねた事もあつた。

こうした差別ある雨乞は、三日目となつた午後計らずも夕立……然し神の惠は難有いもの雨乞には差別されたが、藤ノ木地籍にも等しく夕立雨は降つた、こうして見れば神の惠には差別はない、公平なものだ。

翌九日に東前山では、雨祭を擧行したが藤ノ木へは雨祭の御布令さいも下さらなかつた、二回も御布令に服して雨乞をしたのだから雨祭の御沙汰位は下さつても、別にとがめ樣な人もなかつたかと思ふ、否御布令を頂くのが當然であつたらう。

曰く「我が身を爪つて人の痛さを知れ」。八日の夕立が十二分に濕つたのか郡下一齊の雨乞の夕べ、東前山ではどうしたのか其筋から差別された譯でもあるまいが、雨乞は行なはなかつた、たとい事足りたとしても郡の布令に共鳴して、悲しみを同じうするのが今日あるべき時代の要求だ。

總代樣私は井中の蛙と同じ樣なもので、宇宙の大海は知りません然し浪は常に水平を欲して止まないものであります、私達もより以上の自覺をします、決して恩に報ゆるに仇を以つてする樣な事はいたしません「借りたを濟すか今爲すか……」

「韓信の股をくゞるも時世と時節」

どうぞ活眼を以て而して公平な內治外交、惠の浪の間に間に生活の出來得る時を期待するのです。

◻悲しい努力

H Y 生

眞白に干割れた田に
未だ生きてゐる稻よ
そしてどうやら穗をのぞかせた
いたましい姿
大きい割間から射し込む光線に
根の底まで燒かれたお前は
穗を拔き出す其の力を
どこから求めたのだ。
訴へてゐる水！水！もつともだけれども怨まないで呉れ。
お前の努力に報ふる術もない
人間の心の中も苦しいのだ。
お前の可憐の姿に涙ぐむ
おゝ、無言の悲しい努力よ。

◻金井榮先生より

長い間御無沙汰致しました。

毎日御苦勞樣です。

乞へど〳〵降らず草枯れたり

今年は春の霜害以來何といふ呪はれた年でせう。

私はバラ〳〵落ちる桑の葉やむざ〳〵枯れてゆく野菜畑を見て悲しくなりました。田がかん〳〵に乾あがつて手のつけ所がない——正直な心で眞面目に働くものが虐げられる——たまらない事です。

御攝養下さい。（八月十五日）

●（編輯室）●寢災の一週年が來た。震災を記念しろと云ふもの、あゝした慘狀は早く忘れた方がいゝと云ふもの、意見は樣々ある樣だ。

●だがあの日の事を想ふそぞつとする。生き長らへ得た事は何人と言つても幸福な事だつた。各々其の人の考へによつて、儀性になつた人々のめい福を靜かに祈りたい。

●編輯室にも悩殺虫が飛び込んで來て、散らかした原稿の上で羽をふるはせてゐる。カンバツ續きで暑い夏も東の間に過ぎて。秋風がさみしく面を吹く。そろ〳〵お互の愼を考へる樣になつて來た。

●今年最終の養蠶も桑不足で繭の高價を羨み乍ら思ふ樣に出來ないとは悲慘な次第だ。蠶や蜜蜂のせつせと働いてゐるのが涙しいくもある。

◻偉大なる母性愛（汽車中所見）

三等車の一室。どこかの會社員らしい一家族が休暇でも貰つて避暑といふ風情。主人は四十五六洋服を着た立派な紳士。奥樣反逆者は奥樣の胸に抱かれて乳を飲みながら眠て了つた。

この頃毎日堀田さま方某氏の名宛で都新聞が別所局から配達される。差出人に吉田とのみ名前を聞洩らしたのが遺憾千万。さぞや放屁一發！　F屋の番頭でメチヤクチヤ……

●雨乞が明日滿願になると言ふ八月七日には午前に小量の雨があつた。大字塚では兎に角明日一日御祓の意味のアメをなして、一先ず打切る事にした。それはいゝ處がさてその御禮を地藏さまに何んと言つたらいゝか？

「澤山アメを降らせて下されて有難ふございはんは過ぎ全然御禮を言はない。譯にはこれも行かない。

惣代さまは頻りと智慧をしぼられたそうだ。

●編輯室のシゲチさんは知る人ぞしる天下のイロオトコだ。それでなすことなすこと可ならざるはなく、喉と云ひ、あの長い身体をひねつての おどりと云ひ、仲々堂に入つたものだ。それがあらぬか某所よりのお便り月に三十四通……

●本村m銀行には桐の下駄が一足も見えないそうだ。そしていつもねらつしやるお三人のお帽子は三年このかた更に變りがないと云ふ。金のお城のお役人さまに、さもあるべき事なり。お金のある人に安心してお銀行へお預けありたいし。

カメラ

金時計の流行—蟻は甘きに集り人は光りに集る。光の中でも金の光が最も尊い。かどうかは、知らないが近頃は猫も杓子もされ見よがしの腕時計。堂上の御役人役場の村長樣にデッカイやつをぶら下げてござる。助役樣のは矢張りデッカイが驚く勿れ動いてゐた例はない。お次の首席黒坂書記閣下は未だ此の間物求めの新品珍寶一。荒井閣下は兄樣からお下がりの銀時計で我慢してゐるとはお氣の毒の次第にこそあんなれ。農會技術員殿みきさんにおかせられては知ゑ人ぞ知る某所吉印菓よりの贈物の金時計とは見かけによらぬ眞面目な人だ。金澤さんは下屋の番頭から借りた樣色りボンの八角金時計。出所は言はぬが花。嫂さは樋口收入役殿。不幸にして持てゐらつしやるとされる方をたものがない。金を預る御役目柄とはいひながらいつも お堅いおさい村民一般から尊敬されてゐる。もう一つお目にかけると、樋口閣長は少時前迄美しい腕時計をヒヤッカせてゐたがその頃さんと見せて呉れない。どうしたことかと問ふて見たら「腕時計はもうあきた」と煙草をばく〳〵

●塩先日のみそ行政視察といふ御旅行で。助役樣以下黒坂、荒井、金澤、樣達が越後の國は直江津にお泊りの節T樣の命に依て上閣下の御執筆に居る美しい繪葉書が某所某名妓の處へ到着したおさが露見に及んだ。音に名高い文學者上閣下のこと故さぞ天下の 名文だつたことだらうが惜しいおさには現像失敗の爲め皆さまの御目にかゝることの出來なかつたおさな謝するにそある。尚々隣村某役場の御二階で何かの集會の折 m さんが道向ふのFEZBZにお合せた 某々名妓と顔を見合せてニヤ

（大正十三年八月二日可）（第三種郵便物認可）　大正十三年十月一日　西蘆田時報　第十號　（一）

西蘆田時報

第十號
毎月一回一日發行
定價金三錢
廣告料一行金十錢

大正十三年九月廿五日印刷納本
大正十三年十月一日發行
長野縣小縣郡西蘆田村大字
印刷所
發行人　樋口秀實
印刷所　山浦活版所
發行所　西蘆田青年團

一大奮起のとき

冷泉

「旱害には、ほんとにこまつたもんだ。何の因果應報で此地方ばかり、否、私だけこうした禍を蒙むるのだ、すべての人たちが平等にうけるなら、まだしもの事、一部の者だけ、こうした天災をうけぬばならぬと、きくと尚更ら癪だ。

もし天や神樣が、ほんとに私の考へて居る樣であつたら、どうして、こうした、不平等な、災を、差別の結果を、目の前にあらはすことがあらう。」と

考へないわけにはゆかない。怨みたくなる心持が、お互の人情だ。

けれど仕方がない。あきらむるより外は。そこが天災だもの。自然といふ横柄な相手だもの。こんな小さな自分一人さへ、自由にはされぬ事が多いもの。

弱い者よ汝の名は女なり。ばかりぢやないこうした經驗を、こうした現實にぶつけられると、強いと自信のあつた自分の、弱さにもあきれてしまう。威張つた、私も自然の前に、ひれふさねばならなくなる。

苦しい經驗だ。にがい体驗だ。

けれど仕方がない。どうにもならぬ。

ひたところでどうにもならぬ。

どうにもならぬどころに、ぐづ〳〵してゐるには、命が短かすぎる。人生の旅には、こんな呑氣はゆるされぬ。

さあ、どうしやう、見限られたどん底。たゝきつけられた、どん底。

いよ〳〵、大死一番。一大試練だ。

この境こそ、事上練磨。工夫。展開。自覺の天地だ。

「窮すれば通ずと」いふも此境だ。

「なげ落された斷崖を、再びよぢのぼりゆく、獅子の兒の勇も」此境だ。

「長持の中にホウリ込まれて、大死一番逃げだす、强盜の兒」も此境だ。

禍は禍だ、けれど禍を轉じて福となすの、自由は、私共の手の中だ。

再び猛進するの、鍵はこゝにあるのだ。

再生の奥義は、只此處に開かれるのだ。

此境の默想こそ、自覺こそ、人間本來に立ち歸れる。人のふるさと。私どもの源へ。

人間生活の根源へ。

此体驗から。此自覺から、生きゆく力の本体が、あり〳〵動きだしてゆくのだ。

苦い味も、甘い味も、それ等はとれて、只眞劍の、强い力が、あふれてゆくばかりだ。

そこに、生命の價と、生活の形式が、なりたちてゆくのだ。

私どもの、今迄の生活。それは、あまりに祖先傳來の恩惠生活に、浸つてはしないか傳統生活形式に、なれてきはしないか。

物質のゆるやかな生活に浴しすぎはしないか。直自覺な生活にすぎてきはしないか。

以上を反省しただけでも、吾等の生活の出發は、途中からでかけた僞物ではないか。

ほんとの、人間生活の出發をしたどは、ごまかされまいぢやないか。

そんなことで、なんで人間生活の本義が、わかるものだ。

命の價がわかるものだ。

歸らないと頑張つた、駄々兒も、今は余儀なく、ふる里へ歸らねばならなくなつた。

自覺の誕生をせねばならなくなつた。

絕壁をもよぢのぼらねばならぬ。

再生、蘇生、命がけで、たちあがらねばならぬ。

いよ〳〵、復興。ルネサンスの期が到來した。

こうして、靜かに、生くべき方向をながめたとき、過去の生活に隨分、疑はしいものができはしないか。傳統的な生活や、習慣となつてきた多くの生活に、ほんとの生活、本來の生活と、緣遠い者ができはしないか。

生くべき、如何なる者かを考ふるとき、ほんとに生活の改善や、矯風の實が、自から要求さるゝことを自覺されるものだ。

私どもは、自分の問題。体驗や、經驗ならでは、自覺の境地には、なれない悲しさがあるのだ。

つとめても、つとめても、足らない處は、こゝではないか。

天災は、やむを得ない。

自然の力には、勝つことできぬ弱い私共。けれど、勝つべきものがある。何だ。

只々それは 自覺だ 反省だ。

過去の生活の殻を破らねばならぬ、破つて破つて、破りぬいて、人間の故郷へ。生活の源へ。幾千年前の祖先へ。歸らねばならぬ。そして、再び スタートをきるのだ。

天災をして、天惠たらしむるものが、永遠の策だ、自然の征服だ。

自然よりうくる、一大試練。私どもはあわてず、へコたれず、之れに直面するのだ。

◈本縣知事告諭

本年七月ノ交ヨリ關西地方ニ流行ノ流行性腦炎ハ急速病勢擴大シ死者其半ヲ算スルノ慘狀ヲ呈シ人心安カラザルノ秋突如縣下伊那郡ノ一部ニ多數ノ患者發生ヲ見今ヤ各郡市ヲ通シテ流行蔓延ノ兆アリ寔ニ憂慮ニ堪ヘズ之ガ豫防警戒ヲ怠ル所アランカ往年猖獗ヲ極メタル流行性感冒ノ慘禍ヲ反覆スルヤモ保シ難シ宜シク日夜之ガ警戒ニ力メ特ニ左記事項ヲ遵守シ恐ルヘキ流行性腦炎ノ豫防ニ一層ノ留意セラルヘシ

大正十三年九月一日　長野縣知事　梅谷光貞

一流行地に於ては可成多數集合を避くる事

一流行地への旅行は可成之を避くる事

一學校工場寄宿舍旅人宿等多數集合する場所は殊に一層の注意を要す

一般に呼吸保護器（マスク）を使用し殊に患家其他感染の虞ある場所に於ては必ず勵行の事

一百倍の食鹽水及五十倍の硼酸水若は微温湯等にて不斷含嗽のこと

一唾痰は唾壺若は布片に採り咳嗽噴嚏をなす時は布片類を以て口を掩ふこと

一頭痛苦熱等身体に異常あるときは速かに醫師の診療を請ふこと

一室内住宅を清潔にし採光換氣に注意すること

一寢具被服類は毎日光に曝露すること

一健康者は患者に接近せさること

一患者は可成一室に隔離すること

一患者治癒死亡後は其臥室寢具飮食器等病毒汚染の疑ある物件の消毒をなすこと

雜草（其の二）

麥花生

◈名のある人によつて成し遂げられた事ばかりが尊い事ではない。凡そ價値あることは誰が成就しても、價値ある事でなければならない。必ずしも光ある業績に比例して聞達が得られるものとは思はれない。併し區々たる聞達に超越して矢つ張りぬうちある仕事はねうちある仕事でなければならない。

「閒どして其れ人無きも自ら芬芳たり今」。見る人のあるなしによつて櫻花の本質的美に變りはない筈である。誰か墨堤の櫻華のみ美にして、信州の深林窮谷の櫻華の知る人少きの故に美ならずと言はん。

◈また此の世の中の事は名のある人ばかりに依つて成し遂げられゝばよい、乃至は事實有名な人にのみよつて成就されて居るとも考へられない。成る程、世間的に功成る者は一將であるかも知らぬが、萬卒の働きを無視する事は正見でない。大將は一人でよい場合でも兵卒は何十人何千人を要するが、而も大將さへすぐれて居れば、兵卒はどんなやくざでも宜いとは思はれない。解放！解放！寡頭政治の世は過ぎた、名聲專制の時代は往つた。今は民衆の世である萬人の時代である。今迄の文明の基調は偏狹であり、固陋であり過ぎた。今日以後の文化は、豈ブルジョヤと言はんや、之に反してプロレタリヤと言はんや、勞働階級と言はんや、男子女子、老年、子供、日本人、英米人、獨佛人、支那人、印度人、地上すべての人のものである事を理想とする、萬人の奮起と精勵と協力とを要求する。名によつて行を二三にして武陵桃源に夢をむさぼつた時代は往つた。今や總動員の世でなければならない。總ての人のすぐれる事を要望する。解放の時は改造の時でなければならない。各自、自覺自敬發奮創造の時でなければならない。萬衆自尊の黎明が來たのだ。吾々はこゝに、すべての人の充分なる自尊から自己創造を、自己創造に泌み出た眞の徹底した社會改造を宣言すべきである、實現すべきである。

註　麥花とは金井榮先生の雅号です

生活改善に就て

西蘆田村長

消費節約とは浪費せぬ事である、奢侈をせぬ事である。儉約をする事である。要言すれば合理的生活を營む事であります。凡そ何れの時代に於ても亦如何なる地位の人でも奢侈は戒めなければならないのでありまず。儉約をしなければならないのでありまず。驕奢快樂は社稷を危うする因で、勤儉質實は國家を盛ならしむる基であります。時代が進み文化が發達するに隨つて生活狀態も自から向上して行くことは固より當然で、敢て否定す可き事ではないが、而も物質文明の流弊たる奢靡や虚榮は嚴に戒めなければならないのであります、特に本年の如き旱魃の慘害劇甚なるの際に於ては一般の努力を促すの要一層切實なるものあるを認むるのであります。殊に世の經濟事情に顧み、消費節約をなし。益々勤儉の美風を作興し。生活の安定を圖り。以て民力涵養の成果を發揚せられん事を希望に堪へない次第であります。

將軍德川家光の勸農禁奢令

三代將軍家光は英邁にして嚴勵諸侯を糾合して祖父の覇業を恢弘し鋭精治を圖り綱紀大に張つた

慶安二年二月家光は天下の農民に對つて勸農禁奢の令を發した箇條書の餘程長文のもので農民の心得を說くこと到れり盡せりである其中の數項を左に抄記すれば

一朝起を致し朝は草を苅り晝は田畑の耕作にかゝり晩は繩を綯ひ俵を編み何にてもそれ〴〵の仕事油斷なく可仕事

一酒を買ひ呑む間敷事

一百姓は末の考へもなきものに候故秋になり候へば米雜穀をむざと妻子にも食はせ候何時も正月二月三月時分の心を持ち食物を大切に可仕雜穀專一に候間麥粟稗菜大根其外何にても雜穀を作り米を多く喰つぶし候はぬ樣に可仕候飢饉の時を存出し候へば大豆の葉小豆の葉さゝげの葉芋の落葉などむざと棄て候は勿体なき事に候

一家主子供下人等まで平生は成べく粗飯を喰ふべし但し田畑を起し田を植ゑ稻を苅り其外骨折り申時分は平生よりは少し喰物を良くし澤山に喰はせ申べく其心付あれば精を出すものに候

一男は作を稼ぎ女房ははたを稼ざたなべを仕り夫婦共に稼ぎ可申然ればみめかたち良き女房なりとも夫の事を疎かに存し物まへり遊山好きなるは離別すべし

しさりながら子供多く有之て前かど恩を得たる女房ならば格別なり又みめざま惡く候とも夫の所帶を大切に致す女房は如何にも懇に可仕事

一百姓は衣類の儀木綿より外は帶衣裏にも仕間敷事

一煙草のみ申間敷候之は食にもならず結局煩ひになるものに候其上隙もかけ代物も入り火の用心も惡く候萬事に損なるものに候事

農民のみならず一般士民にも夙に節儉令を出し之れが勵行を期した（皇朝年鑑に據る）

左之者は一年置きに簡閲点呼を執行されます

イ、兵卒は徴集せられた翌年より十二年に滿つる迄、一年志願出身の下士兵卒は入營の翌年（四月入營の者は入營年）より起算し十二年に滿る迄其他の下士は任官したる翌年志願に因らずして兵卒より下士に任官したる者は徴集せられたる翌年）より起算し十二年に滿る迄

ロ、補充兵（未教育者を除く）は徴集せられたる翌年より起算し十二年に滿る迄

未教育補充兵は徴集年の翌年より起算し四ヶ年に滿たざる者は毎年点呼を執行されます

▲來る十月六日午後一時半より松本市公會堂に於て分會役員懇談會開催せらるにより西蘆田分會よりは理事市村弘氏出席せらるゝ筈

◆若槻内務大臣來村

九月廿一日深井代議士の第四十九議會報告演舌會出席の爲來郡された若槻内務大臣は仝日別所温泉花屋旅館に宿泊、翌二十二日深井代議士其の他數名と共に旱害狀況視察旁々見舞の爲來村され、齋藤村長より旱害狀況を精密に聽取し、「御心配の程は察するに余りあるが對應策に萬遺憾なきを期せられたし」尚村民各位に宜敷くとの意味の言葉を殘して本村を去られた。

◎竹下助役再選

本村助役竹下繁松氏は去る九月二十八日を以つて任期滿限の處、九月十九日の村會に於て後任推薦滿場一致を以て竹下繁松氏を再選した。

◆兵事雜報

▲來る十一月上旬金澤市を中心として執行せらるべき大演習に參加すべき歩兵第五十聯隊は十月十八日朝屯營出發保福寺峠を越ゑ同夜第一大隊第三大隊は青木村浦里村に聯隊本部及第二大隊は別所村中蘆田村西蘆田村に分宿する事に決定の旨其筋より通知ありたり。

▲左の二君は演習召集の爲め歩兵第五十聯隊へ來る十三日より三十日間入隊を命せられた

豫備歩兵上等兵瀧澤啓君仝歩兵一等卒瀧澤伴一郎君

▲本年壯丁現役兵編入者人名

入營部隊	入營期日	氏名
歩兵五十聯隊	明年一月十日	增澤利吉
仝	仝	黒坂喜重
仝	仝	樋口安惠
仝	仝	吉池光元
仝	仝	酒井末治
歩兵八十聯隊	集合期日下不明	矢澤要吉
横須賀鎮守府	本年十二月一日	安藤武次
近衛歩三聯隊	明年一月十日	市村幸一郎

▲仝補充兵編入者人名

甲種歩兵	小松勝巳
甲種歩兵	坂口良黨
甲種歩兵	竹下英雄
二乙歩兵	山極一三
二乙歩兵	吉野忠友
一乙電信隊兵	宮澤基厚

▲出寄留者の爲めに　他出者は寄留地に於て勤務演習應召簡閲点呼に參會せらるゝが便宜と思ひます其れには勤務演習は前年十一月三十日点呼は其年の三月三十一日迄に寄留地市區町村役場を經由して寄留地所官の聯隊區司令官に願出するのであります、其願出の書式等不明の時は村役場へ御照會下さい

兵卒の勤務演習召集年次は豫備役第三年、後備役第三年で召集期間は三週間です、

◆葛苧製造講習會

西蘆田村外二ヶ村財産組合に於ては山野に自生する葛蔓を利用して、葛苧を製造し農家副業の振興を圖るべく標記講習會を去る九月十四日より六日間澤山鑛泉に開催した講師は更科郡日原村の羽賀平治氏で、講習生は四十名

因に講習生五名は引續きフタマタに於て本業に葛苧製造を開始してた

◆勞資協調會勞働部委員會

來る十月二日午前九時西蘆田村役場に於て勞資協調會勞働部所屬委員會を開催し勞銀値下けの件につき協議する筈

◆農事組合長會

拾月貳日午後一時西蘆田村役場に農事組合長會を開き主要食糧增殖に付き村長の訓示並に指示あり、麥作、稻作、桑苗圃管理、其の他數件につき農會當事者の說明に併せて種々協議をなす筈

◆桑苗圃檢查

一反歩五拾圓の奬勵金も貰ねぬ、貰ねるを決する桑苗圃最後の檢查は十月十七日愈々決行せらるゝことになり郡農會より工藤技手出張することになつた。

◆會と人

◉郡長來村

九月五日本郡々長白石喜太郎氏は、東前山宮本養蠶組合の蠶況視察の爲橋詰技手と共に來村された。

◉旱害地免租委員會

九月十四日午前九時より本村役場内に旱害地免租出願委員會を開き免租手續の打合をした

◉兒童保護協議會

九月二十日本縣主催兒童保護協議會出席の爲齋藤村長長野市へ出張

◉溜池新設地實地踏查

曩に其の筋へ出願した溜池新設地形調查の件は去る九月二十二日本縣より北川技手出張、中蘆田別所兩村長並に本村齋藤村長竹下助役立會の上調查を了した。

◉轉進

歩兵上等兵竹下正信氏は演習召集を受けて八月十日松本聯隊へ入營したが除隊に際し下士適任書を附與された。尚歩兵一等卒齋藤慶巳氏も仝上入營中上等兵に轉進

◉方面委員會

來る十月六日長野市に開催される長野縣方面委員總會に本村竹下繁松氏出張

◉學務委員會

九月三十日午前九時より本村小學校に於て學務委員會を開き、實業補習學校學則改正に關する件、校庭運動會並に修學旅行に關する件、其の他について協議を遂けた。

◉活動寫眞會

九月二十七日午後七時より新町座に於て勤儉奬勵に關する活動寫眞會を開き、席上小縣郡長白石喜太郎氏の訓話があつた

◉行政事務視察

九月二十六日埼玉縣秩父郡國神村外二ケ村より行政事務視察の爲本村へ來られた尚十月六日には依田武石兩村より仝上視察に來村の筈

◉接客業者檢診

九月二十二日本村接客業者に對するトラホーム並に結核檢診を施行致しました其成績は非常に宜しく患者數三%

信購組合だより

月日の經つにつれ組合が社會に認められて參りましたことは誠に結構なことで御座います。之からはもつと急速に名を廣め信用を增して行く事は明かなことであります。之は基礎が鞏固で經營宜しきを得組合員諸彦の組合精神御了解の上御利用下さいました賜と存じます。

扨て組合の性質を考へて見ますと之が中々重大な國家政策でありまして長足の進歩發達を來した我國は產業立經濟の發達を計る爲に早く產業組合法が設けられました本村の如きは其最も遲き方に屬しますが發達は極めて迅速でありました。

今や農村疲弊の聲高く全國到る處農村振興の急を叫んで居ます之もいろ〳〵研究の結果結局產業組合の完全なる發達に待つより道なしとされて政府でも極力產業組合の發達を期して指導されて居ます。

私共組合員は益々一致共同の元にお互の責任を重んじて組合の發達に努力せねばなりません以下項を更めて情況を申上ます。

一、最近組合の發展情況左の如し

七月末現在　八月末

	五九名	五九名
組合員數		
出資總額	壹四、壹五〇、〇〇〇円	壹四、壹七〇、〇〇〇円
拂込濟出資	九、〇五〇、〇〇〇	九、二三八、〇〇〇
貯金現在高	九五、七壹壹、七壹壹	壹〇元、四八九、壹九八
貸付金	壹七、壹壹五、八九〇	壹七、壹九壹、五五〇
借入金	壹、壹壹〇、〇〇〇	壹、壹壹〇、〇〇〇
預ケ金	四〇、四四壹、六六〇	六壹、〇七壹、壹〇〇
購買品仕入	四壹、壹壹九、壹〇〇	四七、〇壹八、壹壹〇
購買品賣却	壹四、五九八、壹壹〇	四壹、四壹六、壹〇五

二、九月十八日役員會開會

當日午后一時より本村小學校に於て理事監事信用評定委員外に有力者數十名の會合を開き出資增募の件に就き協議する處あり滿場一致可決極力實行に努力するを期した

增募の理由

本組合は非常な速度で發展致しましたがまだ〳〵前途は遼遠で理想的經濟機關として又金融機關として充分な働きにはまだ不便を感ずるのです殊に今年の樣な旱害に際會しては組合員救濟方法を講ずるのにも充分な活働をなしかねる樣な次第ですし又各員出資六拾圓以上にならなければ政府より有力組合として認められず從て公金を取扱ふ資格もないのです夫れですから目下最大急務として出資增額を斷行せねばなりません。皆さん奮つて此社會事業の爲に是非共增口をお持ち下さる樣皆さんの幸福の上の爲に御願ひ致します

三、肥料購入の件

肥料購入の季節が參りました品名數量記入、至急御申込下さい組合では數量取纏めの上好期を見て有利な處置を採る都合がありますから

急!!

他出中の人にお願いたします。
若し住居を變更された時には直に本團まで轉居先を御知らせ下さい。
每月不明の爲に返送される時報が數通に上りますから。

四、購買品に就て

◎お買物の節は出來る丈現金主義をとりませう

◎通は止むを得ぬ時にして戴きませう

通ですと人情として自然節約を怠る樣になりますから。

◎組合では通をお持ちにならなければ整理上困りますからお貸は出來ません。

◎計算期は三月六月九月十二月末が規定ですから怠りなくお勸定を願ひます。

五、貯金の件

◎貯金は拾錢以上は取扱ひますから多少に拘はらず出來る丈貯金をする樣に心懸けませう。

千里の道も一步より！。

◎御慶事紀念定額貯金の拂込期日をお忘れなくお拂込み下さい念の爲め證書の拂込期日をお覽下さい。

◎尙本年十月十五日迄は此貯金の新申込に應じますから御申込下さい。

六、貸金、利子、購買肥料代金等の返濟期日には確守して下さい。返濟期日に至るも返濟出來ない場合は當事務所へお出掛の上お話し下されば御便宜を計りますから。

（以下次號）

◆東前山支部通信

農閑な季節が訪れて參りました。碧い空を見上げても、はつきりとした輪廓の山の姿を眺めても何んと云ふ心地より此頃でせう。我々の肉体までも或る緊張味を覺へずには居られません。

けれども襲つた吾々の精神生活を想ふ時或る空虛を感じないでは居られません。旱害、收穫皆無、そうした事から受けた精神的不安は！焦燥は！何んと根强く吾々に喰ひついてゐることでせう。

淋しく考へて沈む——そうした結果が厭世的となり、デカタン的となりそしてあの寂しい十九世紀末の人間に戻して行くのであります。

「小人閑居して不善をなす」

せまい自己のみの世界に齷齪する人間は兎角小人の域を脫することが出來なくなります。力めて寬大な心を以つて物事自体の眞相を見つめて行く處に忘れて居たものゝ——未だ知られざるもの、發見をすることに出來ます。

發見を嬉ぶ心——それは科學的精神であり、自然主義的良心であります。

農閑の期は吾々に與へられたる修養の最好期です。能ふ限りの知の世界の擴充と、情意の世界の探求に心して生の力强いあるものに觸れて行きたく思ひます。

今回私共の支部では左記によつて佛敎講習會を開いて心地よい秋の夜を有意義に過したいと思ひます、御希望の者は多數御出席下さる樣御案內申上ます。

◎佛敎講習會

一、日時　十月十五日より十九日迄五日間（每日午後七時より二時間）

一、科目　佛敎概論

一、講師　宗學士中嶋榮知師

一、會場　東前山公會場

一、聽講料　無料

◆新町支部通信

◎氷上王子神社境內高塚は、今回長野縣史蹟名勝紀念物調查委員に於て保存すべきものと認められ、保存物件側へ標札（由來保存注意）を立て、保存上常に留意保護すべき旨、九月二十三日付、其の飾より達しがあつた。

◎旱害の稻を見ては、手を下す元氣も失せたのか今年は、稗拔の成績が餘り香ばしくない樣である。今年の爲といふよりも寧ろ來年の爲だ。現實にのみに拘れず、來年の爲の慮りこそ望ましい次第である。

◆王子塚のこと

本村大字新町、王子神社境內の高塚は長野縣史蹟名勝記念物調查委員會に於て保存の價値あるものと認められ、保存愛護致す樣通牒があつて左配の樣な標札を建設することになつた。

記

一、此塚は古代の築造にかゝる圓墳にして高貴の人の墳墓なり

一、盛土を掘取ること、立木を伐採することを禁ず。

長野縣

◆婚姻に要する費用調查

生活改善の第一步として吾々は自身の生活を如實に見つめる事に出發せねばなぬ。今回小縣郡では、生活にまつはる費用を知る爲先づ婚姻に要する費用が如何程要するか？を調查することになつて來る十月初旬に郡下一齊に、大正十二年十月以降本年の九月に至る一ケ年間に於ける婚姻者に就いて實地に調查することになつた。

右に該當する人々は誤解なき樣にして該係の調查に出張の節は正直に申告せられたしと。

◆前三年幼兒死亡數調

大字別	前三年平均死產數	前三年十才未滿死亡數	全上前三年死亡數
東前山	男 一、六六八 女 一、三三	男 〇、三三八 女 〇、六六	男 一、六六八 女 一、三三
西前山	男 一、六六 女 一、三三	男 〇、三三 女 〇、三三	男 一、六六 女 一、三三
手塚	男 一、六六 女 一、三三	男 〇、三三 女 〇、三三	男 一、六六 女 一、三三
新町	男 四、三三 女 一、三三	男 一、三三 女 一、三三	男 四、三三 女 一、三三
山田	男 一、六六 女 一、三三	男 一、三三 女 一、三三	男 一、六六 女 一、三三
野倉	男 一、三三 女 一、三三	男 一、三三 女 一、三三	男 一、三三 女 一、三三
合計	男 一四、九七 女 九、六五	男 四、九七 女 三、三	男 壹四、四五 女 四、三一

◆庭球大會

本團各支部對抗庭球戰は郡青團競技會に出場すべき選手の豫選を兼ね九月二十五日午前九時より小學校コートに於て行はれた各支部より二組宛の選手を集めて清水先（）の審判により競技の結果

甲組優勝　手塚支部（大島、山下）

乙組優勝　手塚支部（齊藤、山下）

尙甲乙最後の優勝戰は大接戰の裡に乙組の勝利に皈した。終て小學校の六川校長及清水先生の模範試合があつた。

尙優秀なる選手十名は清水先生の指導の下に猛烈なる練習を開始した。

◆野球大會

本團各支部對抗野球大會は來る五日小學校グランドに於て決行の筈。

◆講演會及尙像除幕式來る十五日午後一時より青年と婦人同志會と一しよになつて白石郡長の講演會を開く。一般の聽講を覩迎する。尙當日は前校長尾崎先生の肖像除幕式を行ふ。

◆和歌（旱害偶感）　槇の舍

枯れはてゝ穗なき稻田を見めぐるも心かなしき務なりけり
いかにして重き貧きの務めをは果さんすへなすよしもかな

農村の近況を

補習學校本科四年　小池豊

K様―過日は失禮を申し上げました。直に御返事下すつて有難う御座いました。而し失禮で御座いますが御教訓中の誤解に就いて御言葉を御返し申します。御許し下さい。

K様―農村の青年等は都に憧れて單に農業を嫌ツて都會に集まるんですツて――。本當でせうか？戀しい古里や親兄弟や友を見捨てゝ他鄉に出る其の若人の心持はそんなに單純なもので御座いませうか。

廣く世間の表裏を見て批判する記者生活に存られを兄様の御言葉とも存じません。本當に荒んだ今の農村を良く御覽下さい。此の農村に止まれと言ふ指導者の方がどの位無理なんでせう。

何一ツの娯樂とてなく一生懸命骨身を惜まず文字通り奮鬪努力の結果は物質が滿足に得られないので御座います。

一年一回の近縣旅行も滿足に出來ません。第一旅行等と言ふ事は小學校の時より一度もしたことは御座いません。

夏は登山よ避暑よと人が騷ぐ中に汗だらけになツて暗い朝に家を出て星の夕に家に歸ります。そうして疲勞し切つた躰は夜業に取りかゝるので御座います。此れ全体が物質では利益なしの結果を産みます。

本を讀む暇もない程働いて本を購ふ餘裕さへ無い中からやツと一冊の新刊書を求めます。而して「百姓に本等讀む必要がないと周圍の反對で、ユックリ讀む暇も御座いませんん。修養の道とて無く又まご〳〵して居れば口に鍵がかかります。

貧しい中から己の好む樂器を買つても一般からはナマクラ者扱にされます。（事實音樂家を志すもの青年は農家に不熱心）

周圍の人々の三分の二は毎日の新聞も見て居りません。

百姓なんてこんなに特種な階級なんでせうか。

泥だらけ汗の滲じんだ仕事着で田の畦に居ります、町の者らしいのが輕蔑の目で見て通ります。

小學校の同年位の代用教員様が偉らそうな風をしてシャナリクナリと見向もせずに通りのけます。

上級の學校に行つた友は行會つても話もしません。

東京等に出稼の友が歸鄉の時は一段も二段も高振ります。

將來を考へます。バンの問題にすら不安を感じます。自分の可愛い子の教育も完全に出來ず自分と同じ道を辿らせねばならないことと存じます。

日一日と進む文化には置去りにされます。

K様―これが向上心とか名譽心とかの強い私達青年の毎日繰返すライフで御座います高尚な娯樂もなく完全な修養とてできなく荒んだ心の持主は次第に惡場所に足を入れます。此時舊師や周圍の人々から不良青年扱にされるので御座います。

何んと言ふ悲慘な事實でせう。こんなにされて迄じツとして無限の束縛に甘じて居る事が出來得るでせうか。人間で御座いますか。意氣の旺んな青年で御座います伸びようとする力は御座います。

嗚呼――若人は總てを捨てます。親の愛も先輩の情も愛鄉の心も總てを捨てゝ、おゝ自由の天地を求めます。

K様―今の農村に以上の自由否此の半分の自由が與へられたなら大自然の抱擁と父母兄弟の情の前に若人は全生命を打込んで國家の中堅たる農業の振興に盡す事でせう。どうして此の懷かしい農村を去りませう。

百姓の子も人間で御座います。人並の生活も人並の事業も致したう御座います。

唯一面を見て農村青年の輕薄を論ずる人々の心持が分りません。農業を嫌ふ根底が全然御考へと別の方面で御座います。

而し農業より身体の樂な業務を探す譯でも御座いません、奮鬪努力を意義有らしめようとして又今以上の自由を得んとして焦つて居るので御座います。

農村改造の急務なるを痛感せずに居られません。

亂筆御許し下さい。　一九二四、九、一〇

◆伊勢大廟旅行延期に就いて　補習學校

當校に於ては本年度より男女交互に三ケ年に一回宛伊勢名古屋地方の旅行をする事を計畫致しました。そして第一回男子部の旅行は來年三月の學年末にする豫定でした（女子部は去年の三月末）それで、費用も相當にかゝる事ですから前から貯蓄する方法として七月の農休みごとの盂蘭盆ごとに五圓宛女補生は今年と來年の盂蘭盆ごとに五圓宛殘余は旅行決行時に徵收する事に致しました　處が皆様も御承知の通り春蠶繭の安値その後の旱害は著しく本村の經濟に大打撃を與へましたので遺憾乍ら延期の已むなきに至りました、村の識者中には純感な我々の事なれば此の不況時にも旅行を決行する事と御心配して下さるとの事を間接に聞きました、が學校では去る十九日補習生全体へ延期の通知、又以前貯蓄して置いた者、今回新しく出金した者に對し金の入用の人には申し出で次第拂戻す事及びこんな際でも粒々辛苦小遣を貰はれたのを將來有効の背途に充てる目的の爲めに學校へ貯蓄方を委托さるゝ人には預る旨の通知を出しました。

◆青年團幹事會

本年の大旱魃に處し青年團の取るべき對策に就き協議すべく去る九月十五日午前九時村役場に於て青年團幹事會を開會した

左記の項目に就き村長の訓示あり、之れに對し青年團は如何なる方法を以て進むべきかを研究した外別項協議事項に就き忌憚なき協議を遂げた

村長訓示の要項

一、質實剛健の氣風養成に就て

一、思想の善導に就て

一、勤儉力行に就て

青年團協事項

一、村長訓示の實行方法に就て

一、郡聯合青年團主催野球庭球竝に本村青年團野球庭球競技會に就て

一、圖書館開始竝に圖書購入に就て

一、鹽田五ケ村青年團聯合講協會に就て

一、講習會、研究會の開催について

一、前校長肖像除幕式について　其の他

◆鐵城俳壇　月竝會佳吟

於九月廿三日夜梅の家

△辻間ニサチの折　鐵城庵選

天位　塵掃けば燻醉かに散る日哉　武高

地位　日沒や遠卷く波に千鳥鳴く　鐵春

人位　賑はしふ衆へ行く世や千代の春　鐵春

△前集鳴子に二十三日の内一字結

猿も來て鳥も日もあるや鳴子綱　鐵春

引きこぼす露に日のなる鳴子かな　鐵哉

引かずとも鳥に鳴子の鳴る日かな　武高

羽織着て出た日にも鳥く鳴子かな　清風

△辻間ニサチの折　三峯庵選

天位　余念なく蒐かす連ありけりの月　鶴春

地位　世に詩を笑客の峰や今朝の雪　鐵哉

人位　よく晴れた不二の高嶺や今朝の秋　武高

△澤山から私に來たらし初紅葉　三峯庵

澁柿の實に滿つ秋の野山かな　鐵城庵

月峯　鶴春

△松茸に鎌を結ぶ　鐵城庵選

天位　松茸に狩暮れし歸路や月の鎌　一清

次位　松茸や鎌は氣除けの携帶具　鶴春

△余興まカシの折　鐵城庵合点

親子和樂ぎて安き師走かな　鶴春

巳か身を語りて泣くやしぐみ實　鐵哉

親の思返すまじめやしぐみ實　武高

女郎花かこむ一碑や城の跡　一清

思へ痴の雁の音淋し鴫の宿　清風

音高かに片田の里や時雨けり　竹山

音もなく屋死した夜や霜白し　勝月

音淋し笠に時雨の知る夕　月峯

奥山に鐘の音響く霜夜かな　一清

△辻止め　ヨフクの折　三峯庵選

天位　余念なく蒐かす連ありけりの月　鶴春

地位　世に詩を笑客の峰や今朝の雪　鐵哉

人位　よく晴れた不二の高嶺や今朝の秋　武高

◆補習學校私見　一老青年

燈下に親しむべき候となつた此の際、補習學校に就いて一言したい。

近年補習學校（茲には男子部）の出席歩合が惡くなつたといふことを耳にした。事實としたら默過し難い問題であると思ふ。

補習學校の創始せられてより多年、今では其の發達も著るしく、成績の向上も當然であるべき筈と思はれるに、出席歩合の不良といふことは遺憾である。固より一概に出席歩合の如何を以て直ちに學校の成績の標準とするは早計かも知れぬ。けれども之を喜ぶべき傾向と誰が見やう。

聞くところに依れば先年男補生は「自分らはもう督勵委員あたりから强ひられてやる樣な退嬰的な青年ではない、修學の如きは自主的に進んで努力する」と高唱したといふ。其の言や壯、意氣や昂、其の時私は、是ある哉と感心した。實際私共が夜學へ行つた頃は委員から督促を折々受けた。そして之に對して殆ど何の不平も反抗もなく受入れた。そしてある程度まで此の方が効を奏した。幼稚といへば言へる。けれども今は眼覺めた青年のことだ、斯る事では覺束ないだらう。或は之が進歩した点かも知れぬ。

さにかく現在の狀態は決して樂觀すべきではあるまいと思ふのである。年少氣鋭な活力の充ちた青年を敎養すべき重大な任務ある補習學校であるにかゝはらず前記の樣な賢明な青年が出席すること少いとあつてはそこに何らかの原因が在りはしないか。敎材に對する不滿足か、先生に對する信賴の程度が何うか、攻究すべき餘地は少くないと思ふ。補習生をして補習敎育の價値を首肯せしめる樣、補習學校を充分に信賴せしめるに足る樣、今にして方法を講ずるに非ずんば、農村青年の前途、寒心に耐へぬ次第ではあるまいか。

素より補習學校は業間の修學である。其の實績に對して餘りに多きを期待するは無理かも知れぬ。けれども、今農村問題の頻りに叫ばれる時、健實なる農村青年を作り出すべき補習學校の改善に想到することは勿論て此問題の解決に進む一階梯であるまいか當局者に於て深甚の考慮をめぐらし確乎たる信條の下に青年の指導の任に當られたい。亦補習生も、使命の重大なるに鑑み、あたら青春期の修養を謬らざる樣、猛省一番、堅實に愼重に、向上の路に進まれたく、切に希つてやまないものである。

（大正十三年八月二日 第三種郵便物認可）　大正十三年十一月一日　西鹽田時報　第十一號　（一）

西鹽田時報

農村の危機

故市村金一郎

鉄の喙も充分經驗した事のない自分からこんな事を公言するのは、なんだか僭越と云ふ樣な氣分が湧いて、筆を執るのに躊躇した。然し農民であつて見れば農村の環境については又知らないでもない。だから氣を揉み乍らも筆を運んで試たくなつた樣な次第だ。

農民程斷わず不安の影に纏はれ乍ら苦痛と虐待とに征復されて從順して來た偉大さはない。農は國の本だ百姓は國の寶だなどと恁んな言葉に纏綿され乍ら國家の爲に貢献して來た犧牲はどうだ社會の爲めに蹂躙され落伍者として一人不遇の境地に泪忍ばせた農民階級にも時代思潮は流れて關に曙光を惠まれた喜悅の叫びの樣に自覺は擡頭して來た。虐げられし者の反抗は堤を破壞して流れる濁流の樣に壓迫せられし者の激昂は燄の何ものをも燒滅せずば止まぬ勢を以て社會の導火線へ火蓋を放つ時は迫つて來た。農村振興策だの農村救濟そん麼言葉は既う耳に胝の出來る位聽いた。地租移讓だの農務省の獨立斯んな事の具体化に一縷の望みを掛て慰藉されて居る馬鹿が何處にある。都會の雰圍氣に浸つて、一涙の同情も釀されない政治屋の舌から、吐出される政策が疲弊しきつた農民の生活安定に迄觸れるには、餘りに時日の距離が遼遠ではないだらうか。それでも有産階級に有る者は稀有だが、そんな年でさへ農民には些少の餘裕を見出す爲には何程の努力がいるか分夜。被服廠は人の波を打つてゐた。和尙樣が大皷を打つて南無阿彌陀佛と唱へて居達が、朦々と立上る線香の煙に何人も涙を覺

いだらうか？　假令何かな良策が提供される樣と、それがパンの問題でない以上、饑餓の境遇に置かれて居る農民には何の蘇生もないのだ農業は衰頽へ農村は荒廢へと頽歩の型を見せて不安な農民の魂に恐怖の色を織りこむ許りだ。或者は數千年來傳統して來た。因襲的農業經營法を改革しろ、それには文明を攝取した機械化の應用が農村救濟策には第一だ杯と得意になつて臆斷する者がある。それは曠野や北海道邊の未墾地なら應用も藥にならうが、谿谷と谿谷との間に狹少な耕地を經營してゐる、個人に機械化の應用が何の刺激を喚起しやう。それは共産主義でも實現されて、狹少乍らも耕地整理でも生み出されてからの問題だ。或者は生活改善だ文化生活だ杯と宣傳して救濟の標語ともしてゐる。斯んな事は眞實若しい者の血潮に誤解の影を潛ませるとも、飢つゝある農民にどの位の感激が與へられやう。反つて改善杯を宣言する者は咏嘆に漬菜梅漬の常食位で生計を維持してゐる悲慘な農民の心痛を揶揄する事を識らないからの事だ。ヴイタミンABCを攝れ肉食をしろ間食には消化の良好な何々を攝れやれ營養不良に落入るな恁ん麼事は一度聞けば腦裡に浸みてゐる。餘裕の割出せない農民にそんな調理法は識つてゐても出來兼る事だ此の上農民に向つて節約を奬勵するなんて物が順境に進捗して豊年唄で賑はす樣な年でさへ農民自身には何等の影響もないのだ。總て餘裕を見出す爲には何程の努力がいるか分節約出來やうが一日の糧の爲に戰慄を覺ゆる貧民階級にあつては罵詈された皮肉としら年中齷齪勞働して報酬としての收獲物の

年に一度や二度山海の珍味を喰つて見たいのは必然だ。終日の疲勞を慰す爲に酒の香を讃美する者は熱燗で晩酌の一杯に舌鼓を打つ位は當然過る程だ。プロ階級にあつては斯ん麼些少の事ですら屈從しなければ生計が維持されない場合が幾度あるかしれない此位な事に贅澤だなどと暴言する者はメスを持つて死の宣告を迫るも同然だ、そんな無慈悲な奴には農民擧つて制裁を加へてもよいのだ。農民階級と云ふものを嘲笑して居るからだ、活眼を以て都會のブル階級を見ろと言つてやりたい。白い手に倣た寶石の指輪はどうだ洋館を圍む塀垣の裡には農民の想像も不可能な位に贅澤を盡した、庭園や裝飾品で埋られてゐる。別莊の幾つも持つて自動車で塵埃を渦巻せ乍ら驅廻るブル階級と比較したら懸隔の甚大なのに唯だ驚愕する外はない。運命とは言ひ餘りに無慈悲な奴だらうか。馬車馬の樣に一生を煩雜と苦酷で淋しく葬れる運命と苦痛と云ふ事やパンの惱みも嘗ずに晏氣樓を夢みる樣な裡で生を終る運命！なんと皮肉なコントラストだらう。衰廢から滅亡へと悲境を衍得してゐる農村の環境を目擊しない都會人は農村の田園趣味など讃美して憧憬るゝけれど農村の實狀はそれ程讃美るべき價値が何處にある。それが何程徹底した議論であらうとも糧の爲の此の上農民に向つて節約を奬勵するなんて餘りに大儀じあるまいか。憐愍すぢはしないだらうか。それでも有産階級に有る者は節約出來やうが一日の糧の爲に戰慄を覺ゆる貧民階級にあつては罵詈された皮肉としら年中齷齪勞働して報酬としての收獲物の

大略は地主に献納しなければならぬ。殘部の些少の報酬で生計を維持せねばならぬのだ。期ん麼時に無產の階級の人々は人知れず涙を呑むであらう。順境に進む折でもそんな狀態だ。それが今年の樣に逆境に遭過した場合は人爲の及ばざる天災とは言ひ直接打擊を蒙る農民にあつては大脅威である桑樹の成育は不良從つて蠶種掃立枚數の減少は必然の結果だ。萎縮病の蔓延桑苗の購入總てが農民の恐怖を募らす許りだ。灌漑水の欠乏から田園の龜裂稻の枯死米價騰貴なんと農民は不安から恐怖恐怖から墜落の淵へと追出されるだらう。パンの爲に蘇生計しても四千萬圓内外であるさうだ八億四千萬圓を負擔して只の四千萬圓が農民の爲に還元されるのだと何と涙ぐましい事ではないだらうか殘部の八億は都會の文化施設の爲に貢献してゐるのだ、それで農村救濟杯と思ふからに農民階級のあまりに閉却されてゐる遺憾さが忍ばれるぢあないらうか市付金一部氏は此の稿を殘して永眠されました。これが遺稿になつたのかと思ふと感慨無量です。ここに地下の氏のめえ稿を心からお祈り致します。

◈死と生の回顧

東京　福澤生

九月一日午前十一時五十八分！　滿都を蜘蛛の子の樣に走つて居た電車はぴつたり止まつた。同時に薄晴の空には笛鐘等が爆然と響き渡つた。何處にも一片の煙も見ないのに自動車ポンプは猛獸の吠へる樣なすごい唸を上げて市中を走り廻つた。瞬間！死の神にギッと睨まれて、覺悟も出來なかつた去年の今頃の心持が再び蘇返つて人々は慄へた。

暫くして鐘、汽笛等鳴を靜めた。電車も動き初めた。人々はやつと安心して又何時までも生きて居られる樣な氣持に返つた。

「お前考へたつて駄目だぞ、いつだつて我輩の好きな時はお前を死の神に渡すんだ」ハッと上げた眸に月は空に浮いて見へた。

へずに居られなかつた。花束は山をなして居た。後ろの方から投げる群集の賽錢は自分達の足許迄ザラ〳〵して居た。

やつと參拜し終つて兩國橋まで來た時細い〳〵眉の樣な月が雲の上に浮いて見へた。隅田川には小舟が波を切つて遊んでゐた。さうだ去年の今頃は死の神は何万人の人を被服廠へ集めたことだらうあの舟の人達をも決して許しはしなかつた。舟は燃へ舟上の人は死命に服した。

不思議だ、實に不思議だ、俺はまだ生きてゐる。生の神はまだ俺を死の神へ引渡さなかつた。俺には何も解らない。解ることは生きてゐると云ふことだけは疑へないと云ふことだ。

◈和　歌

○十月九日村有林を視察して

立ち茂る山のさかひを見めぐるは心うれしき務なりけり

おしなべて紅紫色濃くなりぬるに一平青く見ゆる蔦やまもろひとの

心つくしを

○十月二十日村道開通式參列の衆を得てひらけ行く道ぞうれしき村里も進みゆく世におくれさるへく

第十一號
每月一回一日發行
定價金三錢
廣告料一行金十錢

大正十三年十月廿五日印刷納本
大正十三年十一月一日發行
長野縣小縣郡西塩田村大字
編輯印刷兼發行人　櫛田秀實
全縣上田市六二六
印刷所　山浦活版所
全縣小縣郡西塩田村
發行所　西塩田青年團

役場欄

㊐村會招集

十月三日午前九時より本村役場内に村會開會左記の件を附議し何れも原案通り可決した。

一、村及小學校基本財産積立減額ノ件
一、河川産物無償採取認可出願ノ件
一、旱害對應策ノ一部トシテ本年度村稅戶數割輕減ノ件（協議案）
一、本年度歲入出更正豫算ノ件

歲入ニ於テ戶數割附加稅本稅一圓ニ付四圓六十錢ヲ四圓五錢ニ更正。歲出ニ於テ基本財産造成費ヲ減ズ

一、本年度縣稅營業稅雜種稅納額議定ノ件

（自四月至十月義務發生ノ部）

㊐道路開通

本村の主要道路中大字手塚、紺屋村線及大字野倉、保福寺線は地元の奮起により着〻其の改修工事を進めてゐたが何れも十月中旬にその竣工を見るに至つた。

●收穫皆無地稅免除

本村に於て旱害の爲收穫皆無に歸したる土地に對し上田稅務署の實地調査は別報の通りであるが其の地租免除となりたる土地は三十五丁五畝二十七歩にて其の內譯及地租額は左の通りである。

第一次申請の部（全然收穫皆無のもの）

反別　十八町一反〇〇三歩
地價　七千三百四十一圓四十九錢
地租　參百參拾圓參拾六錢

第二次申請の部（收穫七割減のもの）

反別　拾六町九反五畝貳拾四歩
地價　六千百參拾六圓貳拾參錢
地租　貳百七拾六圓拾參錢

免除地租合計金六百六圓四拾九錢

㊐秋季清潔法施行

十月十七日より二十八日に亙つて本村秋季清潔法は全部終了した。雨天やら小學校紀念運動會やらで期間は延びたが概して成績良好だつた。

●村稅減額

別項村會の決議に基いて本村の村稅戶別割は本稅一圓について四圓六十錢賦課の處四圓五錢に減じた爲總計金貳千三百四拾六圓五十六錢減額することゝなつた。而してこの一戶平均二十八圓七十三錢強は二十五圓二十九錢八厘強に減額した。

㊐告第二十三號

府縣制第十二條ニ依リ十月二十日ヨリ十五日間本村役場ニ於テ縣會議員選舉人名簿ヲ關係者ノ縱覽ニ供ス

大正十三年十月十五日

西蘆田村長　齊藤重太郎

●備考

本村に於て九月十五日現在により調製したる縣會議員選舉人名簿に登載せられたる人員は五〇一人であります。而して右期限內に記載脫漏等を發見の場合誤解の無い樣御注意迄にお知らせ致します

◇勞資協調會開會

旱害に依り米の減收に伴ふ小作爭議は必然の結果にして之れが圓滿協調を遂ぐべく去る十月十三日西蘆田村役場に勞資協調會小作部委員會を開會し左記事項を協定した。

記

一、本年度旱害田に對する小作料納入に關しては地主小作人兩者協議の上刈取前適當に協調し納入すること
二、萬一兩者の協調不可能の場合は其の大字協調委員は申出人の希望に依り作柄調査坪刈取を行ひ兩者納得する樣協調すること
三、大字惣代は協調委員と協議し其の大字內の協調に盡力すること
四、大字委員に於て協調不可能の場合は村農會に於て協調すること

◇縣下養蠶組合大會

本縣養蠶組合聯合會主催聯下養蠶組合大會は去る十月二十五日六日の兩日上田市公會堂に於て開催された

本縣知事の產業に關する訓辭に針塚蠶專校長の滿鮮視察談、倉澤連平氏の歐米視察談あり尙ほ縣聯合會提出問題繭價安定策外一件、各郡市提出十四件問題に付き協議研究された。

◇豚丹毒發生

家畜傳染病中恐るべき豚丹毒は遂、此の村にも發生した罹病豚は手塚瀧澤佐治右衛門氏の飼育にかゝるものにして傳染の經路は不明である尙ほ發生と同時に吉田郡枝手來村池田巡査立合の下に嚴重消毒を行つた。

◇桑品種鑑別講習會

去る拾月三十日村農會主催の下に桑樹品種鑑別講習會を西蘆田村役場に開催された。午前は主として學界的分類竝に實用上の分類で午后は各種桑樹の特長殊に現今迷はされつゝある熊本鼠、一之瀨、利桑、富江桑又改良骨桑と清十郎等に付いて巨細に說明があつた。講師は中蘆田村農會技手松澤熊雄氏である。

◇運動部より

十月十二日の郡聯合青年團主催の野球庭球競技會には本團の選手は猛練習をなし必勝を期して出場したが戰に利あらず殊に野球部金澤選手の負傷等もありて野球は縣村に十對八にて敗れ庭球は大島組の二回戰に出でたるのみにて他は一回戰にて敗らる。

㊐野球部

藤山	島川	澤內（恭）
齊橫	前東	金竹 原松 庭內
9	6	1 2 5 8 4 7 5,3,3

㊐庭球部

（竹內（大島（山下（義）
（小池（黑坂（山下

◇丸子で優勝

丸子青年野球主催の野球部大會は十月廿六日丸子小學校グランドで擧行。我が野球部は郡大會の名譽回復の爲めに奮起し富士山依田の强敵を敗り優勝す。

島	松	藤
中	川	內
原	坂	庭
極		
前	小	齊
田	東	竹
春	熏	大
山		
7	5	4 3 2 8 9 6 1 9

習招集を受けて十月十三日より一ケ月間松本聯隊へ入營

㊐縣下消防大會

本縣々下消防大會は十月十七日上田市に於て擧行されたが同日本縣消防聯合會より本村池田繁雄、東川近太郎、池田榮五郎の三氏が表彰された。

◆戶籍主任會

上田區裁判所管內戶籍主任會議は十月二十四日二十五日の兩日西內村靈泉寺に於て開會、本村より荒井書記出席した。

◆測量終る

陸地測量部員陸軍大尉中川泰原氏は九月中旬より本村及附近の土地測量に從事してゐたが十月二十九日測量を了して歸隊された。

◆統計調査員會

十月二十一日午後一時より役場に於て統計調査員會開會諮般の打合をなした。

◇產業組合宣傳活動寫眞開會

◎來る十一月廿四日西蘆田信用購買組合では新町座に於て產業組合宣傳活動寫眞開會す組合員の皆樣に無料にて觀覽に供します、尙當夜は講演も御座います。

◇自家用醬油製造者に

自家用醬油製造者にして現在其の製造を廢止して居るものは十二月末日限り屆出する樣にお勸め致します。

自家用醬油稅は他の稅目と異つて一月一日現在にて調定し其の年の九月と翌年の三月とに徵收されますから失期して一二月頃屆出る樣な事になりますと其の翌年の三月迄課稅されることになります。

◇今月の納稅

一金千八十三圓二十六錢　畑租繩地租後半期分
一金貳百六十八圓十八錢　所得稅第二期分
一金六百五十四圓五十二錢　營業稅後半期分
一金三千九百四十五圓八十三錢　縣稅地租附加稅後半期分
一金貳千百三十二圓三十錢　縣稅戶數割後半期分

●納稅日　十一月二十六日

◇會と人

◆齊藤村長町村長大會へ

十月廿五日六日飯田町に開かれたる長野縣下町村長大會に出席の爲齊藤村長は二十四日出發し二十九日歸村した。

◆旱害地々租免除地調査

收穫皆無地租免除申請に依り第一次調査は十月十日、第二次調査は十月二十三日四日の兩日に亙り上田稅務所員出張調査を了した。

◆武田繁太郎氏

本村大字十人武田繁太郎氏は去る十月十七日より川西傳染病院事務員として就職された。

◆表彰

本村前由養蠶組合及宮本養蠶組合技術員として多年其の指導に任じた、池野谷莊平氏並に野倉養蠶組合技術員倉澤善一氏は十月二十五日小縣郡養蠶組合より表彰された。

◆齊藤村長町村長大會へ

十月廿五日六日飯田町に開かれたる長野縣下町村長大會に出席の爲齊藤村長は二十四日出發し二十九日歸村した。

◆旱害地々租免除地調査

收穫皆無地租免除申請に依り第一次調査は十月十日、第二次調査は十月二十三日四日の兩日に亙り上田稅務所員出張調査を了した。

◆武田繁太郎氏

本村大字十人武田繁太郎氏は去る十月十七日より川西傳染病院事務員として就職された。

◆表彰

本村前由養蠶組合及宮本養蠶組合技術員として多年其の指導に任じた、池野谷莊平氏並に野倉養蠶組合技術員倉澤善一氏は十月二十五日小縣郡養蠶組合より表彰された。

◆行軍來村

松本歩兵五十聯隊行軍は、石川縣下に開かれる秋季演習に參加の途次十月十八日青木別所及本村大字山田に宿營した。本村に宿營せるは第六中隊九十三名。

◆事務視察

十月六日本郡依田村及武石村役場吏員は德武郡書記と共に本村役場事務視察の爲來村された。

◆屑繭整理講習會

野倉婦人會主催標記講習會は十月六日より一週間竹內志計留氏講師として野倉公會場に開會講習生二十八名。

◆兵役優待會委會

十月十四日午後一時より本村役場に於て標記委員會開會本年度經費收入方法及び行軍來村兵宿營につき協議し、尙兵役優待方法について打合せをした。

◆演集指集

歩兵上等兵瀧澤啓氏及瀧澤伴一郎氏は演

信用購買組合

◇信用部より

◎實踐貯金（拾錢貯金）の主唱に就いて

皆さん時は今？　勤儉貯蓄に勇つて努力しなければなりません其して如何なる悲境に陷りたる場合も其れに處するの覺悟即ち備へが必要である事は申す迄もない事です。此度の實踐貯金は字の如く實際に行ふと言ふ事で例へ拾錢づゝでも貯蓄をすると云ふ意味であつて貯金を實行すると云ふ事を最も分り易く表示した好案にして今回縣下五十萬の信用組合員は共同一致此の實踐貯金を勵行いたす事になりました。皆さん時は今？　此の拾錢貯金を始めませう。

◎實踐貯金の方法

實踐貯金は主として家庭内の青少年の名に依つて實行したいのです未だ世上の惡風習に染まぬ拾貳參才の頃から勤儉力行の美風を涵養せしめて以て貯蓄の大切なる所以を体得せしむる事は現今の風潮にありて最も緊要なる事柄で例へ細なる御金でも五年六年と貯蓄した曉は其の子の教育資金にもなれば事業資金にもする事が出來ます。

一、現在小學校生徒及び青年會員婦人會員に最も奬勵す。

一、其の他一般組合員及び家族に於て勤勉の餘剩若くは節約の結果を其の都度何時でも貯金する事。

一、實踐貯金は金拾錢づゝを單位として貳拾錢參拾錢四拾錢五拾錢と累ねて一度に貯金する事は任意ですが只三錢とか五錢とかの端錢はなく必ず拾錢に滿ちたものを貯金する事。

一、實踐貯金帳は全部積みきつて五圓になつて居ります全部御積の時は利息を附して元利共御希望により拂戻しもいたしますれば御指定の貯金にも繰入れもいたします。

一、其他は本組合一般の規定によります。近く皆様の御手元に御通知が參いる事と存じます一日も早く御實行を願ひます。

◎貯金のすゝめの歌

皆様に實踐貯金帳の裏にある貯金のすゝめの歌を御參考までに御知らせします。

○考へふかきかせぎもの
　時計の音を何と聞く
　いつも私をはげまして
　貯金／＼と申します

○考へたらぬなまけもの
　時計の音を何と聞く
　何時も私をそゝのかし
　借金／＼と申します

○ひとつの音を反對に
　聞いた二人の目の前の
　樂と苦勞は舟と石
　浮くと沈むの大違ひ

○それと知つたらさとつたら
　沈まぬための浮袋
　時計の音を何ときも
　貯金／＼と聞くがよい。

斯く時計の音迄も貯金／＼と解釋して戴いて不言實行を希望いたします。こうして貯金を御すゝめしましても知らぬ顏で横道へそれる先方様の多い事は知らぬ理ではないが何處迄も徹底的に普く勤儉貯蓄の實行を促せば何時かは其うした時代おくれの人達も必ず悔悟の期の早からんを信じくれ／＼も御すゝめいたします。斯くして農村の救濟に資し以て共存同榮然して樂しき平和な世界の建設されん事を望んで止まないのです。

◎再び滯納者に申上げます

貸金及び利子購買肥料代雜貨購買代等の返濟期日に至るも返濟に來ない御方は一日も早く御理由御申出でを正直に願ひます。皆さんの信用に懸はる事ですから其して本年は前年にない旱害甚大なる折柄なれば特に皆さんの御便宜を計りますから御話して下さい。

◎「相互扶助は組合の美德です」。……當組合にても近く滯納者へ御催足に廻る事になつて居ります御承知下さい。

◎出資增募の經過

皆さんの組合精神御理解の賜としまして本年の如き旱害甚しき時にも拘らず一大決心を以て强固なる組合の建設の爲に大賛成增資下された事は實に本村の安寧を保つ上に誠に嬉ばしい事です。すでに增口の繼つて御出し下さつた部落も御座いますが未だ御きまりにならない御方は競つて一日も早く御定めの上御申出を願ひます。

◎購買部より

一、旱害救濟の一方法といたしまして役員會開會の結果白米の取扱を爲す事になりました十月十日より並白上白雪印の三種にて四貫八貫拾六貫入と皆様の御求めに便利の良い様に俵裝して精撰いたして取扱つて居りますから御承知下さい。

一、其して秋深み行くにつれ食が進んで參いります其の最も間食に適するものはさつま芋です今年も良いお芋を澤山仕入れて御座います米價の高い折柄特に多く間食として御食べ下さる事を御すゝめいたします。

一、麥粉は現今非常に高う御座います、本組合にては素麵。うどんを澤山に安い所を仕入れて御覽います麥粉の値段よりも現在は安く差上げて居りますから御使用下さい御臺所の手數がはぶけ其の上經濟的です今年は旱害を被れる當地方組合にては其の救濟の一端として食糧品は原價提供の眞心を以て努力いたして居ります

一、日に增し寒さが加つて參ります組合員の皆様風を引かない様に御用意下さい。

組合では本年も綿類ネル類メリンス類木綿反物太物類メリヤス類等非常に格安物を多く仕入れました御安心下さい現今は木綿物類總て一割以上も高くなつて居ります然し組合は此時に於て組合員の皆様に仕入値を以て特に御需要に應ずべくいたして居ります。

一、今月は惠比壽講の月となりました皆様お互に商人の巧言令色に迷はず必需品は買はなければなりませんが眞面目な買物をいたしませう。

惠比壽講の日には組合では特に皆様の御希望にそふべく御便宜を計り色々取揃ひて置きます。

「流行を追ふものは其の日に追はる」とかや組合員の皆様には其うした流行を追ふ様な自分自身を知らない方はなき事を信じて居ります何處迄も勤儉力行に勉めませう。

（一〇、二八、六、生）

市村金一郎氏永眠

本園幹事市村金一郎氏は、病床に伏せてゐたが去る十日藥石の効なく上田病院にて哀しくも永眠された。氏は本年二十一才の前途有爲の青年であつたが天命如何ともするを得ず今回の死を見るに至つた事は、返すゝも哀悼の情に堪へない。

支部通信

東前山より

豫て報告して置いた佛教講習會は十月十五日より五日間東前山公會場に於て開講した。聽講生は六十余名、毎日午後七時より全九時迄二時間宛講師中嶋榮知師は熱心に滿ちた面持にて一氣加勢に何時も二時間づつ通し——。講習生も難かしい佛教の内容ではあつたが倦怠の色も見せずに熱心に聽講してゐた。毎日質問用紙を配布して幾分の時間を質問に宛てたが。質問續出して反響の多かつた事を嬉ばずには居られなかつた。

最後の日には時間を延長して般若心經の講義と讀經とを教はつた。簡單な茶話會に皆打寛いて談笑し五日間の講習は無事に終了した。

●境界標を

鄕社擴野神社では神社有山林の境界に境界標を建てる爲十月二十四日役員全部出動して石柱五寸角に「境」と記した標柱を其の主要境界に建てた。

新町支部通信

當區耕地水田中、旱害特に甚だしいものを調査し、地租免除の申請したところ、去る十月二十四日、稅務署吏員出張立會の上調査の結果、申請せるもの全部免租を認可された。

因に、當區耕地に於て免租となつた水田二十町、面積、二町三反九畝余であると。

十人支部

見學旅行、時勢は進む我等は時勢と供に進みたい、のみか我等青年は時勢の先覺者たらん事を欲するのだ、今年の様な天災多き年に當り、更に深考せぬわけに行かなかつた、天に飛ばんとするバッタ先づ飛ぶに先達ち其足を宿める大け宿めて後に空に飛ぶ、好期を逸せざらんにはそれだけの修養が必要だ、大いに見大いに聞き大いに學ぶ百聞は一見にしかずとや大いに修めんが爲に我大字青年支部に於ては十月一日二日の兩日松本及び西條方面の稻作桑園青年風儀活動及び松本のアルプス号飛行機、兵營工業識驗場染色工藝品評會等徹細に渡つて見學を行つた非常に益する所多かつた一度報告すべきなるも紙面のゆさざる事故略す兵營見學の際成田伍長の御懇力下されし事を深く感謝いたします。

◎御慶事記念として區營にて点火されし外燈も災害の對應策として十月一日より消燈されたが三四燈は有志の力に依つて点火されてゐる

◎大字十人大典記念文庫は十月五日夜より開館初ました、今年は秋期の取り入れ時期も餘り多忙で無さげだに依り其時期にも休館はしない事にした。

手塚支部より

◎幹事兼文庫委員市村金一郎君は、永い間御病氣であつたが、十月十日不幸にして遂に永眠せられた。十二日の葬儀には當支部の支部長始め役員一同會葬された。

◎市村君は病身ではあつたが、就職以來會の爲には献身的な努力を以て日夜奔走されその貢献せられた所は實に多大なものである。今私たち會員一同等しく感謝する所である。今私たち會員一同崇敬と嘱望の的であつた有爲な青年市村君の訃に接しては誠に哀情の情に堪へない。

◎十月十三日午后七時半例會が開かれ會長の簡單な開會の辭が濟むと、「無量寺住職西澤師の僧旋で御出席下された前山寺住職中島師の摩訶般若波羅密多心經に關する講話が始まつた。膝窪版扇の經文が各自に讀配希されて最初に讀方次にその大意と云ふ順序で、講話の内容は逐次深みへと進んで行つた。

◎先生の熱心なる講話の進行に伴つて會員は愈々緊張し、眞劍なる態度は聽くことの熱心さを欠かないことを明かに示して居た。各自の宗教心に何等かの反響があつたに違ない。

◎前會に於ては樋口團長から、田川大吉郎氏の講演概要を聽くことを得、今回また斯の講話のあつたことは、會員の大きな喜である。近頃は漸く緊張した有意義な會を送る様になつた。

◎市村君の後任補欠選擧を行つた結果、幹事に樋口英章君、文庫委員に山下忠一君が當選された。

◎十月六日堀口養蠶組合では總會を開き、諸般の協議をなし、藏船に於ける優良出品者に對して彰狀授與式を擧行した。終つて組合長改選の結果新に樋口又五郎氏が當選した。

◆旅立ちし朝

南洋より　小池釣夫

大正六年四月二十八日

鶏より早く目が醒めた。どうしても眠られない。消さざりしランプの光はぼんやりとあたりを照らして宵よりも細い。

一昨日眞黒になつて煤掃をやつた後なので、何となく座敷の中が廣く感せられて嬉しい。枕元には今日旅立の仕度を全部入れて置いた白い柳行李が意味ありげにつくねんとして居る。

「いよ〳〵今日は旅立の日かな！」そんな考が今更の様に胸にこみ上げて來る。まだ新しい雨親のお位牌は、机の上に置かれてあるのだが、自分にはとてもまともに見る事が出來ぬ程に胸がせまる。

思ひきつて起きた。起きると直にチックを付けて、頭の毛を分けて見た。生れて初めて頭の髪を分けて見たのだ。鏡に見入つた目は何とはなしに曇つて行つて、自分の顔さへも見ぬ様になつた。何故こんなにセンチメンタルになつたのだらう。これではだめだと、氣を勵まして台所へ出た。

姉さんはもう水を汲んだり、火を焚いたりして、色々と一生懸命に餅の用意をして居て下さつた。心よりする旅立ちの祝に好きな餅でも腹一杯食べさせてお別れしようと云ふのである。杵をとつて餅を搗いた。力まかせに搗いた。無論姉さんが合取であ

る。余り力を入れて搗くので、姉さんが笑つた。しかし此の古い臼と杵とで自分が搗く餅はいよ〳〵これが最後であると思へば、どうして力まかせに搗かすに居られようか。上等な餅が出來た。姉さんの手によつて膳が据ゑられ、二人は向き合に座つた。

死んでも骨は故山に埋めぬ覺悟で出る旅立であるが、親類の人にも近所の人にも一人も見立ての膳に待つて戴く事の出來なかつた自分は誠に淋しい事に思つた。

「腹一杯食べて行つておくれ」と云つた姉さんの聲はふるへて居り、目はうるんで居た。

こらへきれなかつた自分の涙は、遂にハラ〳〵と餅の上にまではふり落ちた。切つても切れぬ姉弟二人の見立の膳はいよ〳〵淨化せられて感謝の念が心にあふれた。心殘りの無いまでに澤山の餅を食べた。仕度も全部濟んだので、先雨親の御位牌にお別れ申上げた。何とも云はれない、今更云ふ可き事も無い。「それでは私は行きます」それだけのことを漸くの思で胸の中で云つた洋服に着換へた。小さい時から長らく御世話になつた組合の方々に御禮を申上げ、かたん〳〵御別れ申可く組合中を一軒〳〵廻つた。やがて親切な組合の方々は一人又一人と皆私のかどまで御出でになり、懇に見送つて下さつた。

「永い間御世話になりました、それでは……」漸くの事でそれだけ云つた。どうしても涙は云はれなかつた。姉さんには何と云うておいとましたか今でも思ひ出す事が出來ぬ。たゞつゞけ様に二度ばかり頭を下げた。無言の中に永い間親になりかはつて色々と世話をして下さつた御禮も云へば悪い〳〵弟として常々姉さんを苦しめた御詫もした、更に永久に御幸福で居て下さいと云ふ祈願もこめた……姉さんである、可成播種は苗の準備ない場合に播くことにしたい。播種後は幼植物を保穫する爲に霜覆を施せば一屬完全である、但し嚴冬に播いたものは發芽並生育に長時日を要すると雖も三月に至つて下種せるものよりは良好である、左に栽培法の大要を擧げることにする。

耕種法　整地―此際特に土壌の酸度に應じて石灰を施し中和するの必要がある。

畦幅―二尺五寸採間一尺一箇處、三四粒宛點播する。

肥料―過燐酸石灰五、六貫、草木灰十貫内外冷たい朝風が氣持よく頬を撫でてゆく四遊用ゆ手入及收穫―四月上旬蔓一尺内外に伸長したる時期に枝梢を以て支柱を作る收穫は莢の黄變したるものから摘採するが良いが、之は一回に收穫せんには稈の黄變し中央部の莢褐色變じたる時を度として刈取つて日乾し脱穀調製するのである。

◆お詫び

秋休の頃菊花展覽會を開催する豫定でありましたが、御承知のカンパツの被害を受けて出品價値を具有した様なものが出來なかつたゝめ、農作物の旱害甚だしく爲に一般人心の穩かでないゝとの爲に遺憾乍ら中止するゝにしました。非常に期待して居て下さつた愛好家諸君に誠に申譯ありません。來年は尚一層良種を多數の方々に栽培して頂いて見事なものを陳列して頂きたいと思つて居ります。

（手塚園藝協會）

◆小學校紀念運動會

本村小學校改築紀念第九回紀念式及紀念運動會は十月二十日本村小學校に於て擧行の豫定であつたが天候雨模様なりし爲當日は紀念式だけに止め二十三日の好小春日和を選んで壯んなる運動會を催した。

可愛らしい兒童の遊戲や競技に父兄を初め一般觀客は無上の滿足を味つたものゝ様に見受けた。

◆朝の一時

深谷　中澤重江喜

愉急しい氣笛に樂しい夢路を破られた私は急いで床から飛び起きた。枕もとの時計は丁度五時を指して居る。着物を着替へて洗面所へ入つた。蒸氣のほかは物音もない冷たい朝風が氣持よく頬を撫でてゆく四遊はまだほの暗く、空には無數の星が煌めいてゐる。遠く眠り沈んだ山々を縫めて居る時西恩寺の曉鐘が寂寞を透して流れた。工場内は急に賑かになつた。

とかくする裡に東の空は明るくなつて、靄を破と陽の光がさつと輝いた。露の滿ちた田の面も、森も、小鳥も、歡びの色に照り渡つた。其の光の中に立つた私は、快よく呼吸し腕を振つた。そして今朝も新つた。

「今日一日を無事に送らしめ給へ」と。

此の頃は早起きの癖つき初めて身の健になるが嬉しき

◆綠肥『ザートウヰツケンの』播附

某農會技手

綠肥「ザートクヰツケン」の播種期は田畑を論せず九月下旬乃至十月上旬の約一ヶ月間であつて採種用には之より遲れて十月中旬に渉る期間になつて居る。然しながら前作の手入及收穫等止を得む事情に依つて其の時期を逸する事が往々ある。此の場合播種期を移したとて折角の計畫を放棄するの必要は毫もない。殊に有望綠肥であるに依つて之が急速なる增殖は焦盾の急を告げて居るから、種子の準備さへあれば適當の方法にて栽培して貰ひたい、而して古種子にても保存さへ充分であれば、發芽力には大なる差異がないから、此際持合せがあつたら精〳〵播附けて欲しい。

（一）水稻裏作としての綠肥用

十一月上旬を過ぎると稻の收穫は大部分作條（畦）を二尺設け播種法は條播とす肥料―肥沃なる土壌は無肥料然らざるものは過燐酸石灰反當五貫草木灰同十貫内外を用ゆ

（二）採種用

甘藷及蕎麥類の跡地に栽培する場合は、格別播種期も遲れずに濟むが、菜大根の跡に於ては採種が年内に出來兼ねる事がある而して遲れて嚴冬の候に播いたものは其の後の發育遲々として進まぬ故豫め苗床の準備して之にも苗を養成して移植するが良策である、可成播種は苗の準備ない場合に播くことにしたい。播種後は幼植物を保穫する爲に霜覆を施せば一屬完全である、但し嚴冬に播いたものは發芽並生育に長時日を要すると雖も三月に至つて下種せるものよりは良好である、左に栽培法の大要を擧げることにする。

耕種法　整地―此際特に土壌の酸度に應じて石灰を施し中和するの必要がある。

畦幅―二尺五寸採間一尺一箇處、三四粒宛點播する。

肥料―過燐酸石灰五、六貫、草木灰十貫内外用ゆ手入及收穫―四月上旬蔓一尺内外に伸長したる時期に枝梢を以て支柱を作る收穫は莢の黄變したるものから摘採するが良いが、之は一回に收穫せんには稈の黄變し中央部の莢褐色變じたる時を度として刈取つて日乾し脱穀調製するのである。

カメラ

●本村の統計調査員は澁澤たゞ氣力を持つた若者揃ひだ。

この頃開かれた統計調査員會の際には電燈の灯く頃迄熱心に研究を續けたはよかつたが、意氣投合して十余名の、群勢某所へ突擊――爲に折角の年俸金額は水泡に歸したとか、その儘お泉の藩手番。

●統計調査員長の報告によると組屋村の戸數戸中に於て來春四月頃迄の間に於て出生の豫定人數が十三人であると云ふ。

今年のカンパツに實入りのいゝこと。調査員の念入りの調査は其の勞苦又察するに余りある。

●長者小池德右衛門氏は伸々エライガンである。今は職を辭してキレイな奥様と悠々日遷して居られる。氏には氏一流の德エム哲學があつて何人も一度は氏の御高說にあづかる事をおすゝめする。（ロリ）

●この頃關長さんはどこへ御出掛けにも洋服でござるスタイルのいゝ事つたらッテキなものだ男の編輯小僧連までヨダレを出す位だ。然し惜しい事に足は兄さんより大きいので自分の學生時代の靴で我慢にお氣の毒千番。

●その後助役樣の金時計は健康通復しは々少しのサボりもなくお働きの由福祉室一同喜びの申し上げる次第である。

（大正十三年八月二日 第三種郵便物認可）　大正十三年十一月十日　西蘆田時報　第十二號　（一）

西蘆田時報

第十二號
（臨時増刊）
定價金三錢
廣告料一行金十錢

大正十三年十一月五日印刷納本
大正十三年十一月十日發行
長野縣小縣郡西蘆田村六六
編輯印刷兼發行人　樋口秀實
全縣上田市六二六
印刷所　山清活版所
全縣小縣郡西蘆田村
發行所　西蘆田青年團

詔書

朕惟フニ國家興隆ノ本ハ國民精神ノ剛健ニ在リ之ヲ涵養シ之ヲ振作シテ以テ國本ヲ固クセザルヘカラズ是ヲ以テ先帝意ヲ教育ニ留メサセラレ國體ニ基キ淵源ニ遡リ皇祖皇宗ノ遺訓ヲ揭ケテ其ノ大綱ヲ昭示シタマヒ後又臣民ニ詔シテ忠實勤儉ヲ勤メ信義ノ訓ヲ申ネテ荒怠ノ誡ヲ垂レタマヘリ是皆道德ヲ尊重シテ國民精神ヲ涵養振作スル所以ノ洪謨ニ非ラサルナシ示來趨向一定シテ効果大ニ著レ以テ國家ノ興隆ヲ致セリ朕即位以來夙夜兢兢トシテ常ニ紹述ヲ思ヒシニ俄ニ災變ニ遭ヒテ憂悚交々至レリ

輓近學術益々開ケ人智日ニ進ム然レトモ浮華放縱ノ習漸ク崩シ輕佻詭激ノ風モ亦生ス今ニ及ヒテ時弊ヲ革メスンハ或ハ前緒ヲ失墜セムコトヲ恐ル況ヤ今次ノ災禍甚タ大ニシテ文化ノ紹復國力ノ振興ハ皆國民ノ精神ニ待ツヲヤ是レ實ニ上下協戮振作更張ノ時ナリ振作更張ノ道ハ他ナシ先帝ノ聖訓ニ恪遵シテ其實効ヲ擧クルニ在ルノミ宜ク教育ノ淵源ヲ崇ヒテ智德ノ竝進ヲ努メ綱紀ヲ肅正シ風俗ヲ匡勵シ放縱ヲ斥ケテ質實剛健ニ趨キ輕佻詭激ヲ矯メテ醇厚中正ニ歸シ人倫ヲ明ニシテ親和ヲ致シ公德ヲ守リテ秩序ヲ保チ責任ヲ重シ節制ヲ尚ヒ忠孝義勇ノ美ヲ揭ケ博愛共存ノ誼ヲ篤クシ入リテハ恭儉勤敏業ニ服シ產ヲ治メ出テテハ一己ノ利害ニ偏セスシテ力ヲ公益世務ニ竭シ以テ國家ノ興隆ト民族ノ安榮社會ノ福祉トヲ圖ルヘシ朕ハ臣民ノ協翼ニ賴リテ彌々國本ヲ固クシ以テ大業ヲ恢弘セムコトヲ冀フ爾臣民其レ之ヲ勉メヨ

御名御璽

攝政名

大正十二年十一月十日

國民精神作興ニ關スル 詔書釋義

天皇陛下ノ御思召サルヽニハ。凡ソ國家ガ盛大ニ成リ行ク本ハ　其ノ國家ヲ組織スル所ノ國民ノ精神ガシツカリトシタ強イ所ガアルニ依ル　ソレデ其ノ國民ノ精神ヲ十分ニ養ヒ之ヲ振ヒ起シテ　ソシテ國家ノ本ヲ固クスル樣ニセネバナラヌ

ソコデ　明治天皇ハ大御心ヲ國民ノ教育ニ留メサセタマヒ　我ガ日本ノ國柄ニ本ヅキ其源ニサカノボリテ　御先祖ノ天照大神ヤ歷代ノ天皇ノ殘シ給ヘル御教訓ヲ揭ゲアラワシテ　其大要ヲ明カニ示シタマフタ　明治二十三年十月三十日ニ下シ給ヘル教育勅語ガ　即チソレデアル

其後ニ又臣民ニ詔ヲ下シタマヒテ　マメヤカニ事業ニ從ヒ、勤メ勵ムト共ニ諸事儉約ヲ守ルヤウニト勤メタマヒ、人ニ對シテ誠ヲ守リ義理ヲ重ンセヨトノ御教訓ヲ繰リカヘシタマヒ、カリソメニモ心荒シテ怠ルコトガアッテハナラヌゾト御訓戒ヲ下シタマフタ、明治四十一年十月十三日ニ下シ給ヘル戊申詔書ガ即チソレデアル

教育ニ關スル勅語モ　戊申詔書モ　コレハ皆人ノ履ミ行ハネバナラヌ道德ヲ尊ビ重ンジテ、國民ノ精神ヲ十分ニ養ヒ、之ヲ振ヒ起ス爲メノ大ナル御思召デナイモノハ無イ夫レヨリ以來、國民精神ノ向フ所ガ定マッテ、其効能結果ガ大ニ顯ハレ、ソノ爲メニ我國家ハ非常ニ盛大トナッタノデアル

今上天皇御即位以來、早朝カラ夜半マデ兢々トシテ戒メ愼ミテ先帝ノ御思召ヲ受ケ繼ギテ、御遺業ヲ益々盛ンニシ給ハント、常ニ御心ヲ御盡シ遊バサレタノニ、俄カニ思ヒガケモ無イ今回ノ大震大火ニ遇ハセ給フタノデ、憂ヒ恐レテ心痛ニ勝ヘヌト仰セ出サレタノデアル

近頃學問技術ハ益々開ケテ、人間ノ智慧モ日々ニ進ルシタ、ケレドモ人ノ心ガ　ウカ〳〵シテ華美ニナリ行ク習慣ガ次第〳〵ニ起ッテ、輕ハヅミナ不穩過激ナ氣風モ亦生ジテ來タ

今ノ內ニ此ノ時代ノ惡ルイ風習ヲ改メナケレバ、若シカスルト先帝ノ御遺業ヲモ失ヒ落シテ、折角盛大ニナッタ我ガ國モ衰ヘル樣ニナリハセヌカト、恐シク思フト仰セラレタノデアル

況シテ今回ノ大震災ニ依ル損害ハ甚ダ大デアルノデ、コレマデ進歩シタ文化ノ有樣ヲ受繼ギテ、更ニ之ヲ復興シ、國家ノ力ヲ振ヒ起ストト云フコトハ、皆國民ノシッカリシタ強イ精神ニ依ラネバナラヌ

是レハ實ニ上ニ在ル者ト下ニアル者ト心ヲ協セ力ヲアハセテ、國民精神ヲ振ヒ起シ、弊風ヲ改メ良俗ヲ擴張ス可キ大切ナル時デアル、而シテ國民精神ヲ振ヒ起シ、弊風ヲ改メ良俗ヲ擴張スル方法ハ他ニハ無イ

明治天皇ノ下シ給ヘル、教育ニ關スル勅語　戊申詔書トノ二ツノ貴キ御教訓ニツヽシミテ、其實際ノ効果ヲ擧ゲル樣ニスルバカリデアル

宜シク教育ノ源デアル所ノ忠孝ノ道ヲ尊ビテ智識ト道德ト並ビ進ミテ一方ニ遍ラヌ樣ニ勉メ、國家ヲ治ムル規則ヲ嚴シク正シ、國民ノ平素ノ風俗ヲタヽシ勵マスヤウニシ、浮カ〳〵ト華美ニ流レ勝手氣儘ニスルコトヲ排斥ケテ、質素ニシテ飾リ氣ナク著實ニシテマジメニ、シッカリシテ強クナル樣ニシ、輕ハヅミナ不穩過激ナコトヲタメ直シテ、純粹ニマジリケナク、物事ニ手厚ク公平ニシテ程ヨク正シキ樣ニシ、君臣父子夫婦兄弟朋友ナドノ間柄ヲ明カニシテ互ニ親シミ仲ヨクシ、壯會公衆ニ對スル道德ヲ守リテ、世ノ中ノ定マリタル順序ヲ乱サヌヤウニシ、自分ノ常然爲サネバナラヌ任務ヲ重ンジ、規律ヲ尊ビ、忠孝義勇ノ美風ヲ顯ハシ、博愛衆ニ及ボシテ共々ニ榮ヘ行ク友愛ノ情ヲ厚クシ、各自已レノ家ニ入リテハ恭シクツヽマシヤカニシテ、能ク勤メ勵ミ手早クスル樣ニシテ業務ニ從ヒ產業ヲ治メ社會ニ出デテハ自分一已ノ利害得失ノミニ片寄ラヌ樣ニシテ、力ヲ國家公共ノ利益世上一般ノ務メニ盡シ、因テ以テ我カ日本國家ノ盛大トナリ、日本國民ノ安ラカニ榮エ　社會一般ノ幸福トナルコトヲ計ラネバナラヌ

天皇陛下ハ畏クモ我々臣民ノ心ヲ協セテ御助ケ申上ルコトヲ願ミトセラレ、彌々我カ國ノ根本ヲ固ク動カヌモノトシ、因テ以テ我カ日本帝國ノ大ナル事業ヲ大ニ弘メタヘト希望スル、爾臣民ヨソレ之ヲ勉メヨト仰セラレタノデアル

西蘆田村長齋藤重太郎謹識

◇勤儉奬勵に就て

西蘆田村長齋藤重太郎

我國刻下內外の情勢に鑑み國民たるものは須らく奢多享樂を戒め浪費を節し大に勤儉力行の美風を作興し民資を增殖し一は以て國民生活の安定を圖り一は以て國家生產の增加國力の充實を期するは實に急務たらずんばあらず就ては客年十一月十日下し給へる國民精神作興に關する詔書の煥發日を記念とし一週間內一齊に勤儉週間とし左記に依り協同一致實踐躬行以て優秀なる成績を擧くるに遺算なからん事を望む

一、勤儉を尚ひ業務を樂むこと
二、社會公共の事業に貢獻すること
三、奢侈を戒め冗費を省き生活上の弊風を矯正すること
四、應分の貯蓄を必ず實行すること
五、大正三年制定したる本村矯風規約を此際一層勵行に努むること

口よりも實行——

標語

貯ふるものは
日に強し

今日の勤儉
明日の極樂

改善は臺所
より

稼ぐに追ひつ
く貧乏なし

早起き早寢

勤儉週間

總理大臣聲明書

大戰終結の後既に七年歐米列强は夙に財政經濟の整理緊縮を斷行し其の國民又克く翕然として力を勤儉に致し戰後の經濟、國民の充實二つ乍ら見るべきものあり、飜つて內に省みるに帝國は戰時經濟界の好況に溺惑して人心頽り度を失ひ輕佻浮華の風隨つて生じたる以來節制の加へ難きもの玆に年ある一面戰後の反動を經て經濟界の不況を來し其の整理安定未だ成らざるに際し慘烈無比の災禍に遭遇し財政上の負擔及歲計累年の膨脹と相俟つて俱に重きを加へ一般の消費亦爲めに繁きを致す產業の萎微貿易の逆勢愈々著るしく國家の前途憂慮に堪へざるものあり之將に朝野慓然として改愼し決然立つて國運の發展を企圖し翼力一致風を作興し勇斷以て難局の打開を策すべきの秋なり畏くも九重に於かせられては深く世局を軫念あらせられ客年十一月精神の作興に關する詔書を煥發あらせられ國家興隆の本を堅くするの趣旨を示させ給ふ、然れ共積年の頽風は今尙之れを一洗するに難く奢侈冗費の習ひ未だ改むるに至らざるは誠に寒心に堪へざる處なり、不肖就任以來銳意聖旨に副はんとし先づ庶僚を督勵し官紀の振肅を遂行し依つて一般綱紀の肅正に資することを念とし中央地方を通じて行政及財政を釐革し冗費を節し餘費を捻出して財界の安定、國家の振興を圖り更に奢澤品等の輸入稅に關する法律の制定、其の他各般の施設に依り現下の難局に對する國民の自覺を促し奢侈安逸の陋習を一洗して勤儉力行の美風を振起せしむることを期したり、玆に震災一週年の日に當りて當時を廻想するに百年桔據の都邑一朝にして大半壞墟に期し光景凄愴人をして今尙膚に粟を覺えしめ、爾來一年、復興の事業前途元より遼遠なりと雖も而も暮年ならずして生業の恢復見るべきものあるを認む、艱苦に堪へ窮乏を忍び是れ緊張自ら任ずるものにして初めて能く如斯なると得べし既に此の猛然たる努力の体驗を經たり今即ち當時以來の記憶を新たにして意を決する處あらば克己自制以て陋習を打破する蓋し至難の業に非ざるべし惟ふに深刻なる印象深く永く拭ふべからず是の日を出發點として勤勞を尙び業務を樂しみ無爲徒食を却け年來の頽風を一新して等しく規律節制ある生活に入るは將に爲さざるべからざることたり、不肖は國民が深く自ら當時の心を喚起し相率ゐて質實剛健の風を起し進んで世局匡救の負擔を頒ち以て聖旨を對揚するに遺憾なかるべきを信ず、而して之を實に不肖の切に期待する處なり

大正十三年九月一日

內閣總理大臣
子爵　加藤高明

勤儉奬勵委員會設立

戊申詔書並に國民精神作興に關する詔書の御趣旨を奉載し質實剛健の民俗を作り勤儉力行の國風を興し貯蓄を奬勵し以て國力の充實を計らんとする目的を以て今般西墟田村勤儉奬勵委員會が設置された。其の會則及委員は左の通りである。

◇西墟村勤儉奬勵委員會々則

第一條　本會は西墟田村勤儉奬勵委員會と稱し勤儉奬勵に關する諸般の調査講究並に之が實行に關する事項を掌る

第二條　本會は會長一人副會長一人委員二十名を以て之を組織す
會長は村長副會長は助役之に當り委員は村長之れを委囑す

第三條　會長は會務を處理し本會を代表す
副會長は會長を補佐し會長事故あるときは之を代理す

第四條　本會に幹事若干名を置き會長之を委囑す
幹事は會長の指揮を受け庶務を整理す

會長　齋藤重太郎
副會長　竹下繁松
委員　佐藤三郎　春原義勇
宮澤熊市　樋口一
小林丈助　竹下照之助
曾根正一　佐藤清五郎
武田正雄　黒坂重一郎
小宮山節　宮澤八十八
宮澤友一　市村藤作
樋口勘藏　齋藤廣次
齋藤市太郎　倉澤喜內
池田文治　小林留次郎
宮澤峯三郎　佐藤知
樋口秀實　齋藤夏花
中嶋榮知　宮澤丑太郎
佐藤祐平　齋藤勇
六川靜治　箱田梅作
樋口寄位　黒坂勝
荒井精一　竹下幸
金澤欣次郎

幹事

西墟田禁煙會設立について

助役　竹下繁松

抑々喫煙の弊害は、醫學上に經濟上に一般の認むる所で、法律もこれを認めて居るが故に吾等は法律や規則を俟たず自覺的發奮により、社會に弊害ある事や無駄な事は相互に矯正し改善して文化の進歩に遲れさらんことを期さねばならぬ。

今回全國一切に勤儉貯蓄實行運動が開始さるゝ機會に該り先づ喫煙の弊風を矯め、冗費を節して貯蓄の慣習を馴致すべく、全西墟田の有志者を叫合し、禁煙貯金會を創設せんとす、然し既に煙草の中毒に陷るか又は是を唯一の嗜好としつゝある者を强いて其嗜好を奪ひ禁煙を强要するものでない、其の未だ弊に陷らざるを未然に善導し相互に相戒めて惡風を漸次矯めんとするに外ならぬ、其の貯金の方法、會の事業は會則により明かなれば、同志の諸君奮て入會せられん事を切望す。

△肖像除幕式

尾崎前校長の肖像除幕式は來る十一月十五日午後一時より小學校に於て擧行される尙當日は白石小縣郡長の講演がある。

△墟田五ヶ村講習會

墟田五ヶ村青年講習會は來る十一月二十一日より同二十三日まで三日間、每日午後一時より中墟田小學校に於て開催、講師は上田蠶專教授農學博士早川直瀨氏、演題は「農村經濟」である。

△野球競技會

延期になつてゐた各支部對抗野球戰は來る十一月十六日午前八時より小學校庭に於て擧行される事に決定された。

△防火宣傳活動寫眞

來る十一月十八日晚、新町座に於て、西墟田消防組主催の防火宣傳活動寫眞が開催される。觀覽料無料。

（大正十三年八月二日第三種郵便物認可）　大正十三年十二月一日　西墟田時報　第十三號　（一）

西墟田時報

第十三號
每月一回一日發行
定價金三錢
廣告料一行金十錢

大正十三年十二月廿五日印刷納本
大正十三年十二月一日發行
長野縣小縣郡西墟田村大字
編輯印刷兼發行人　樋口秀實
印刷所　山浦活版所
發行所　西墟田青年團

田園を愛しませう

小縣郡長白石喜太郎氏講演

近頃農村の問題が爲政者及識者の間に漸く論議され研究される様になつて來たことは喜ばしい事でありますが然し如何に農村問題が喧ましく論議され様と、ほんとうに農村に理解を持ち農業と土地とを眞に愛する心がなかつたならば、それは唯議論の爲の議論に過ぎすして、何等農村の發達と農民の力とにはなり得ないと思ひます。

私も四國の田舍に生れて農業には小さい時から親しみを持つて居ります。そして土地そのものが持つてゐる富力に偉大なる暗示と尊敬とを感じて居る次第であります。

大都東京に丸ビルヤ三越の如き豪壯な富力が集められて居やうと、又は華かに着飾つた娘達の仕度に粋を集めた富力を見出さうと、それは何んとなく空虚なものゝ様に思はれます。獨り農村のみ有する土地の富力はガッシリとした、何處迄も落附いた、尊い富であり、力である様に思ふのであります。

吾々は土地を度外視して、その生活を考へることは能きません。國家とか、社會とか云ふ觀念は土地と云ふ要素をおいて築かれるものではないのであります。從つて國家生活、社會生活の向上を考へる時には先ずその土地に對する觀念を正しくする處に原則を置かなくてはならないと思ひます。國家觀念と吾々の實生活とが矛盾のない場合に、國家が我々の生活を保證してゐるのだと云ふことが容易に肯定されるのであります。

隣國支那を御覽なさい。あの廣袤たる沃野を持ち天惠餘りある土地を有し乍ら國民に國家觀念のない爲に同胞相鬩いで乱爭を續けて居るのではありませんか？それは實に痛ましい事だと思ひます。それと云ふも國民に自覺が欠けてゐるからです。

國家と農村との關係を見るに先づ第一國民力——それが國家の力であるとしたならば先づ我々は國民を培はなければならないと思ひます、眞に力に滿ちた國民は狹隘な土地に詰められた都會からは生れません。ゆつたりとした土地に育つて行く農村の子弟こそ眞に國家を双肩に荷ふ力を持つて居るべきではありますまいか？

第二に身体の上より申しますと毎年の徴兵檢査の結果は甲種に合格するものが常に六〇％を〆めて居ります。

今から七八年の統計でありますが日本で都市の壯丁は一〇〇人中甲種合格者三二、九人です

農村壯丁は一〇〇人中甲種合格者三九、六人であります

長壽者について調べて見ても學者の統計に依ると都會よりも田舍の方が遙かに多いとの事であります。

かの有名なトランスバールの戰爭に於て英國では盛んに内地より兵を送つて戰つたけれども、この戰爭は極めて苦戰であつた。なぜこんなに苦戰であつたのかと詳かにその原因を調べた結果、英兵の意外に弱かつたのは壯丁の弱かつた事——即ち都會から出て來た兵士であつた爲だ——と云はれて居ります。

第三に國家經濟上より申しましても、經濟戰の日に月に烈しくなつて行くにつれて國家は常に自給自足の道を講じて置かなければならないと思ひます、今後の戰爭は必ず世界的とならずには居りません、その時に食料の自給自足が行はれなかつたなら國家はどんなに困ることでせう。殊に恐るべき空中戰が行はれる様になつてから爆彈投下等によつて一擧に都會を葬り去るのは容易であります。かゝる時に都會の壞滅が國家の壞滅であらしめない様に——徒らに變則的に膨大して行く都會集中を避けなければならないと思ひます、

第四に吾々は靜かに農村の狀態を見て行く時そこには國粹とも云ふべき精神や物質が少しも損せられず殘つて行くのに氣付きます。然るに都會にはそれがありません。流行から流行へ——少しも深みを見せずに轉々して行くのは何んと云ふ嫌な氣持でせう それでも農村人の心を幻惑して都會は日一日と田舍の人間を吸收して行きます、そして現在では全國戶數の四割余を〆めてゐると云ひます。そして文明だとか開化だとか發展だとか言へば直ちに誰人も都會を想像致します。困つた考へ方だと思ひますがこれも農村及土地の尊さを國民が知らない原因だらうと思ひます。否農民自身すら農村を愛しその尊さを感じて居るものは實に少ない様に思ひます。

都會のあやふやな文明が文明の標準であつてはなりません。健全なる農村の有無—それが文明の標準となるべきであります。外國のことを紹介するにも大てい都會のことをやりますが私は若し自分が外國にその文明を視察せんとするならば先ず其の國の農村に至り村役場について親しく視察して來たいと思ひます。

然るに我國の農村の現狀を見るとだん〳〵疲弊しつゝあります。我が國の統計を見ますと明治三十七年に總戶數八百万戶に對し農家戶數五百万戶であつたのが大正八年には總戶數一千万戶に對し農家戶數は五百五十万戶を示してをります。都市との割合に於て余程減少した勘定であります。然して自作農は年一年と減少して行く傾向があります。これには生計の困難と云ふことが最も原因して居る様に言はれてをりますが、何處かそこに經濟的でない、拔けて居る處がある様に思ひます。殊に冠婚葬祭については無駄な費用を實に多く使つてゐる様には思ひます。これ等は決して研究の余地のないものではなく、そこには經濟上の學問があるのであります。

我が國が立憲政治を敷かれて自由民權が唱へられる様になつてからは、切り捨て御免當時より一躍して自由の恩惠に浴する様になりました。しかしそれと共に責任も重くなつて來たのであります。國民の政治的智識の向上と共に普選は敷かれ、性の障壁さへも去つて婦人參政權をも與へられ様として居ります。けれども謙虚な心になつて果してかゝる自由の空に飛んで充分に其の意義を發揮するだけの自覺があるかと云へば、墟田の地方と雖も尚研究の余地は充分あらうと思ひます。

前にも申しました通り農村振興に理解ある參察者を出すことは必要なことでありますがそれと共に古い人即ち若いものゝ意見を侮蔑する人が文明の固定時代にはある、かゝる人達の爲に若者の引込むのはまだまだ自覺が足りないと思ひます。

自分の鄕土の發達を企畫するのは自分達の務めであります。一度信ずる處を定めたならば勇往邁進して努力することが肝要であり堅忍不倦まぬことが何よりであります。

かの佛國のガンベッターは初め辯護士を開業したけれども其の名知られざりしが故に——そして又年若きが故に誰も相談に來ては呉れなかつた。けれども彼は尚中止することは好まなかつた。堅忍不倦到々六年の間少しも事件に關係しなかつたが、たまゝ〳〵六年目に發した一大事件の爲に大辯論を試みて一躍名を成したと云ふことであります。

農村振興、難局打開、それは農村人の自覺と努力に俟つより外ないと私は信ずる次第であります、

これは十一月十五日本村小學校に於ける講演の概要であります

（文責在記者）

◆初　冬　鷲　村

細道を行く人のありかさふと落葉音して冬さりにけり

口つけし盃持てしみ〴〵と酒のうまさ覺へし日かな

小縣郡西蘆田村

生活改善規約

第一條　本村ハ齊來ノ弊風ヲ矯正シ共同ノ利益ヲ保全スル爲メ本規約ヲ設ケ左ノ各項ヲ確守スルモノトス

第一項時間ノ勵行ヲ期スルコト

一、總テ集會ニハ指定又ハ約束ノ時間ヲ嚴守スベシ

二、事故又ハ病氣ノ爲メ遲刻或ハ欠席スル場合ハ定刻前必ズ司令者ニ届出スベシ

三、夜間他家ヲ訪問スル場合ハ午後十時限リ必ズ歸宅スベシ

第二項服裝及饗應ハ質素ヲ旨トス可シ

第三項年末年始及中元ニ際シ虛禮ニ渉ル物品ノ贈答及招宴ハ之ヲ廢スルコト

第四項新年ノ注連飾ハ質素ヲ旨トシ飾松ハ枝松ヲ用ユル事

二、入退營ニ際シテハ近親又ハ組合以外ノ者ニ對シ饗宴ヲナスベカラズ

三、退營等ノ際土產物ノ配布ヲナサヽルコト

第七項婚姻ニ關シ左記事項ヲ廢止スル事

白無垢絆無垢襠掛綿帽子ノ着用及祝儀

髮水ノモノ等

第八項葬儀ニ關シ左ノ各號ヲ遵守スル事

一、葬儀執行ノ時刻ハ午后二時トス但シ季節其他ノ都合ニヨリ時刻ヲ變更スル場合ハ豫メ周知ヲ圖ルコト

二、部落內ノ會葬者ニハ酒食ヲ饗セサルコト

三、葬具ハ共同備付品ヲ使用スルコト

四、香奠返シヲ廢止スルコト

五、婦人ノ白無垢帷子上ケ綿ハ用井サルコト

第九項風紀習慣ノ陋習アルモノヲ矯正スル爲メ左ノ各項ヲ遵守ス可シ

一、他人ノ所有地內ニテ鰌蝗等ヲ捕獲セザルコト

二、他人ノ所有地內ニテ落葉草木又ハ土石等ヲ採取セサルコト

三、鷄ヲ飼育スルモノハ必ズ飼育場ヲ設クルコト

四、畜犬及水鳥ハ放シ飼ス可カラズ

五、道祖神祭天神講ニ仮小屋ヲ設ケサルコト

六、以上祭典費トシテ金品ノ寄附ヲ請ハシメサルコト

第十項生活改善事項及必需品ノ購買消費ニ關シテハ左ノ各項ヲ遵守ス可シ

一、日用品ノ購入ハ可成現金買トスル事

二、神佛參拜商用旅行ヨリ歸鄉ノ際ハ土產物ノ配布又ハ神社參拜ノ立チ振舞ヲ廢スルコト

三、小兒ノ出產祝床上ケ祝等ニハ客ヲ招待シ酒肴ヲ饗セサルコト

四、羅上ケ稻扱上ケ祝等ノ贈答ヲナサヽルコト

五、小兒ノ出產祝產見舞病氣見舞等ハ可成金圓ヲ以テスルコト

六、床上ケ祝ニ赤飯等ノ配布ヲナサヽル事

七、產見舞又ハ病氣見舞ノ際ハ可成思者ニ接近セサルコト

八、道路河川ニ接シ建物堤防其他田畑等ノ改修ヲ施サントスル時ハ前以テ惣代ヲ經テ村長ニ立會ヲ求ムルコト

第十一項本規約實行項目ノ趣旨普及ニ務ムル爲メ左ノ各項ヲ行フベシ

一、部落ヲ單位トシ年一回以上戶主會及主婦會ヲ開會シ趣旨ノ普及ヲ圖ル事

二、本規約中婚儀葬儀ニ關シ節約シタル經費ノ壹部若シクハ全部ヲ村又ハ學校基本財產ニ寄附スルコト

第二條　本規約ノ實行ヲ期スル爲メ部落惣代ヲ委員長トシ組合伍長ヲ以テ委員トス

第三條　委員長ハ其部落員ヲ督勵シ委員ハ其ノ組員ヲシテ規約實行ノ責任者トス

附　則

第四條　本規約ハ大正十四年一月一日ヨリ之レヲ施行ス

大正三年三月設立ノ西蘆田村矯風規約ハ之レヲ廢止ス

西蘆田村役場

今月の納稅

●村稅第四期
所得稅第一回ニツキ十四錢
營業稅割一圓ニツキ六十錢
雜種稅割全上
聯合衛生組合費一戶當リ金拾錢
納稅日　十二月二十日

一、年始ノ回禮ハ之ヲ廢シ各部落毎ニ時間ヲ定メ村社ニ參拜ト同時ニ祝詞ヲ交換スルコト

二、一月ノ休日ヲ一日二日三日七日十一日十五日十六日二十日大祭日村社祭日祖靈祭日田植休日秋收獲日ヲ以テ村民一般ノ休日トス

第五項休日及娛樂日ヲ左ノ通リ定ム

一、一月一日二日三日七日十一日十五日十六日二十日大祭日村社祭日祖靈祭日田植休日秋收獲日ヲ以テ村民一般ノ休日トス

二、每年秋季ニ於テ行フ校庭運動會當日ヲ以テ臨時娛樂休日トス

三、從來ノ盂蘭盆會祖靈祭ハ九月十四日ヨリ十六日迄三日間トス

第六項兵士ノ送迎ニ關シテハ左ノ通リ遵守スベシ

一、送迎旗優待會以外ノモノハ用ユベカラズ

◆入營兵士壯行會

十一月二十四日午後一時より小學校に於て本年度入營兵士の壯行會を開會した。青年團員、在鄉軍人分會員、其の他村內有志者を網羅して集まるもの實に二百余人、兵役優待會長齊藤重太郎氏の開會の辭についで石森首席訓導、佐藤分會長、樋口青年團長の壯行の辭あり。入營兵士九名を代表して小山久士氏の謝辭が拍手裡に堂內にひびき渡る。盃のやりとりが入營兵士を中心にして盛に行はれる。

最後に齊藤村長の音頭にて兵士の萬歲を三唱して夕陽傾く午後四時半閉會した。

◆前校長肖像除幕

延引して居た前校長尾崎芳太氏の肖像は此度漸く出來上つたので十一月十五日午後一時より本村小學校に於て其の除幕式を擧行した。村議。惣代、其の他名譽職員三十余名の臨席を得て式場は嚴かであつた。

婦人會長齊藤夏花氏の開會の辭が濟むと一堂に集る二百五十余名の青年婦人兩會員は肖像の前に起立——やがて肖像に掛けられた白幕が取り去れると一同敬禮した。

樋口青年團長の式辭が堂內にひゞき渡る。續いて來賓を代表して齊藤村長の祝辭あり尾崎前校長の謝辭ありて後、除幕式はとぢられ引續いて小縣郡長白石喜太郎氏の別項の如き講演があつた。

◆村內各社新嘗祭

十一月二十五日には村內各神社に於て新嘗祭が執行され、本村より左記の通り參向した。尙鄉社蘆野神社には郡役所より加藤郡書記が參向した。

鄉社蘆野神社　立會　樋口收入役
村社蘆田水上神社　齊藤村長　黑坂書記
村社山田神社　齊藤村長　荒井書記
村社王子社　竹下助役　金澤書記
村社八幡社　竹下助役　竹下書記
村社皇子社　立會　樋口收入役

◆伊那地方桑園視察記

先程蘆田五ケ村聯合農會技術員幹事五名は伊那地方桑園視察調查のため派遣され主として飯田町地方の桑園の調查を遂げた、今回は報告の方法をかへて各部落巡回して懇談的に報告する事になり明一月より實地することにした。

栽桑講習會

本村養蠶組合聯合會主催の下に來る十二月五日六日の兩日每日午前九時より手塚公會場に於て郡農會桑園主任技手並に松澤中蘆田村農會技手を聘し栽桑學講習會を開催することになつた、一般聽講生を觀迎すると共に

茄藾栽培に成功

山田北組における茄藾栽培は既報の通りであるが去る十一月十五日摘取をした結果ほゞ成功した、栽培場所は大字山田字上平で土質は粘質壤土にして東に傾斜二〇度位種玉は約十貫四拾坪へ植付け約貳拾貫の收穫があつた。植付當時三十匁位の種は皆んな百匁位に增したので組合員皆んなよろこんでいる。

◆會と人

▲大字惣代會

十一月廿三日午前十時より本村役場に惣代會開會、勤儉奬勵に關する件、旱害救濟資金配當に關する件について協議を遂げた。

▲上等兵に昇進

本村瀧澤伴一郎氏は去る十月十三日より三十一日間演習召集を受けて入隊してゐたが除隊に除して上等兵に昇進した。

▲桑園視察

蘆田五ケ村農會では桑園視察の爲伊那地方へ技手を出張せしめることゝなり十一月六日各村より一名宛都合五人視察に出かけた尙本村よりは竹下技手出張、十日歸村した。

▲視察團來村

十一月十一日北安曇郡陸鄉村ゝ會議員數名は町村行政視察の爲來村した。

▲教員免狀下附

大字山田東川多壽男氏は本年八月教員檢定試驗受驗の結果十月二十三日附尋常小學校準教員の免狀を下附された。

▲入營兵士二人

一年志願兵小山久士氏並に海軍機關兵安藤武次氏は十二月一日各ゝ其の所屬部隊に入營することゝなり十一月末日鄉里を出發した。

▲佛教研究會

前山寺住職中島榮知氏を中心に村內青年有志が集つて佛教研究會が先年より組織されてあつたが農閑期の訪れと共に熱心に研究が續けられ目下每月三回宛研究會が開かれてをる由

▲歩むもの社

詩歌雜誌「歩むもの」第六號は目下原稿募集中であるが發行は大正十四年一月一日の豫定であると、

▲狩獵家打合會

十一月二十七日本村狩獵者十余名は澤山鑛泉松尾旅館に打合せ會を開催した。

◆萎縮病豫防策

竹下幸

桑の萎縮病に付いては日本共通の問題であるだけ學者の研究も仲々盛んであるが惜しい事にまだ諸學者の誘因を証據だてる說が一致しないらしい。

或る學者はこう云ふ「桑樹の繁茂最も旺盛なる時には根の養分は殆ど枝條葉に廻送さるゝものにして此の時期に伐採摘葉するがために根の貯藏養分に欠乏を來たし其の結果として酸化澁素を生し化酵素の作用を妨け遂に澱粉の停滯を來たし桑樹の發育を阻害するが爲めである」と。

又或る學者はこう云ふ「同じく伐採摘葉に依り養分の欠乏を來たし其れがため通管組織を狹ばめ即ち養分の通路狹小となり終に桑樹をして萎縮せしめるものである」と。

兎に角く桑樹の萎縮に付いては困る問題である又た栽培者から云えば、より以上に收葉量を多くしてしかも萎縮させたくないと云ふのだからさりとて萎縮病は竹に花が咲く樣なもので人間の力では如何ともなしがたい相當の時期がくれば自然と罹病しなくなる、だからその時期がくるまでと云ふて等閑に付する譯けにも行かない。

思ふに今日は桑園の革命期であつて當事者諸君が本當に奮起して革命と戰かひ、戰ひのあとの平和を求め樣とする時である、天は我々當事者に最も良い研究材料と最も實行せねはならない仕事を提供してくれたのである我々は有難く試金石として受けいれるべきであるが自分はいま萎縮病に對する學理も實驗ももち合せていない故に私は松本蠶業試驗場にいる鈴木技師の講演中萎縮病簡易豫防策を御照介して參考に供したい

一、苗木に對する注意

一、苗木育成中は摘葉せざること

二、接木の場合穗木台木とも摘葉せざる事

三、苗木の根部に損傷なきもの

四、根部に腺虫其の他寄生虫なきもの

五、苗木の中央を小刀にて切り心髓の直徑が木質部の厚さより小なる物を用ゆる事

二、植付初年の注意（一年ヨリ五年マデ）

一、植付株數は一反歩千二百本乃至千三百本のこと

二、植付當年は伐採後新枝條は二本乃至三本を立たしむること（一本を避けること）

三、植付當年は絕對に摘葉せざること

四、二年目發芽前伐採し新枝條は三本以上立たしむること株は根刈にても八寸以上にあげること

五、全く二年目摘葉はなるべくせざること止むなくは秋期枝條の下半部に限り摘葉すること

六、春蠶用にするか夏秋蠶用に仕立てるかは三年目より分かつこと

七、伐採後の枝條は五本以上たらしめること但し（三年目より伐採）

八、三年目は九月以降摘葉せざること

九、四年目伐採期は普通にして可なり株直しは五日目乃至七日目に行ふこと

一〇、ヂヤミ拂はなさゝること

二、伐採後の枝條はなるべく多からしめること

三、植付五年目は四年目に準して行ふこと

三、肥料に關する注意

一、肥料は植付後三年間は遲効性のものを用い人糞尿の如き速効性のものは施用全窒素量の四分の一以内に止めること

二、施肥料の割合は窒素成分百に對し加里六十内外燐酸は二十内外のこと

三、石灰を少量づゝ使用すること

四、各年施肥量は前述の如く植付當年窒素成分一貫目位より年々一貫目を增し五年目の施肥料は五貫目位となすこと

四、深耕に關する注意

一、耕耘は土壤の如何により二回乃至三回施行すること

二、深耕の一回は春蠶仕立夏秋蠶仕立共枝條伐採後數日目に行ひ必ず根部の先端を切斷すること

五、摘葉に關する注意

一、摘葉は一時になさず順次に行ふこと

◆葛苧製造所より

吉池寅市

講習が終つてから私達數名は二又に於て葛苧製造事業を始めました。

何しろ始めての仕事であるから非常に心配致しました。仲には私達の仕事について嘲笑的態度を見せるものもありましたが兎に角私達はやつて行きました。

その結果立派な葛苧の製品を得ることが出來たのはほんとに嬉しかつたのです。

併し時期が遲かつた爲に勞力の割合に製品の少なかつたのは遺憾でありましたけれど……。

◆旱害救濟資金

旱魃被害農家救濟資金として今般本村信購組合に於ては縣聯合會より一万圓の融通を受け、各部落に對し被害面積及組合員數に應じ夫々貸し付けることになつた。其の割高は左の通りである。

大字十人　壹六〇圓　大字東前山　一六〇圓

大字手塚　壹八〇　大字西前山　一八〇

大字新町　壹〇〇　大字山田　一〇〇

大字野倉　壹二〇

◆青年修養講習會

小縣郡聯合青年團主催の青年修養講習會は十一月二十二日より二十七日迄六日間別所常樂寺で開會された。講習生は一百名と限定し、期間中は常樂寺に宿泊して徹底的に其の修養を圖つたのである。

講師及演題は左記の通りであつた。

演題　講師

農民の倫理、帝大教授　平野義太郎

新文學概論、創作家　藤森成吉

農村問題、帝大教授　那須皓

社會事業一班、小縣郡長　白石喜太郎

觀音經釋義、文學士　半田孝海

尙本村よりの出席者は左の五名であつた。

中澤和作、瀧澤誦、山極辰夫、竹下友治、武田虎麿、

◆野球競技會

十月五日の雨に祟られて延引になつてゐた青年團主催各支部野球競技會は十一月十五日午前八時より小學校庭に開催された。

その組合せ及びスコーアは左の如くである

第一回戰

一（東前山）手塚×五對一にて東前山の勝

二（山田）西前山×三回戰にて八對一の山田の勝

三（新町）野倉×十二對二にて新町の勝

四（十人）不戰優退

第二回戰

一（山田）新町×六對二にて新町の勝

二（十人）東前山×九對一にて東前山の勝

終日に亘つて戰をすること五度――秋の短かき日は名殘惜しくも優勝戰を見るに至らずして暮れて行つた。

越へて十八日微風だもなき午後の校庭に、最後の雄を決すべき優勝戰の幕は切つて落された。東前山、新町の兩軍何れも自重して戰つたが結局十六對一にて東前山支部が優勝した。

◆十人支部より

▲祝賀會。拾月三十一日我が青年支部及び在鄉軍人會第一班と合同して、天長節祝日の佳節を大字集會場に於て祝ひ、惠まれし一夜を樂しく談笑した。

▲實踐貯金、我支部青年會では勤儉貯金週間を記念として、青年會の團体貯金をすることになつた、金額は隨意、會員交代に毎月一回宛つ集金をなす事、元金及び利子は青年會退會の時受け取り得らるゝ事、等の規約が出來た。

▲力行黨の勃起、旱害二分作を目擊してた〻目に涙を溜めて首垂れてゐたとて仕方が無いと力行黨の勃起に依り縣有林拂下げ場所の雜木約五百駄、消炭約百俵程の場面を安價に買い受けてもらつた、大いに努力すべきだ、今冬は懷中は氷の樣に冷めたいが薪炭によつて炬燵丈は暖く出來そうだ。

◆東前山より

▲野球戰優勝

十一月十六日の各支部野球競技會に於て我が支部のチームは幸運にも連戰連勝を重ねて優勝戰に出るの光榮を有したが秋の日脚の短かさに遂に其の日は決勝を見る能はず越へて十八日の好野球日和に新町支部と對戰して見事に最後の月桂冠を得るに到つた。當夜は會員全部一堂に會して祝ちた祝盃を擧げた。戰の跡を顧みて各〻失敗談や功明談に冷たい夜氣のせまり來るのも忘れて語り合つた。

▲山林立木貸却　我が支部所有の山林立木は相當の年所を經て伐採の期に達して居る爲本年度の臨時部豫算に計上して貸却することに決して居つたが秋の收穫も濟んだので去る十一月十九日立木の「目入れ」を兼ねて區劃を定め二十六日競買入札に附した。

▲ピンポン臺を！

我が支部では且つて庭球場の設置を計劃したが或る事情によつてそれは中止の止むなきに至つたが今度は一般の希望によつてピンポン臺を作ることに決定した。

尙この件については中嶋榮知氏の多大の御援助を感謝する次第である。

◆山田支部通信

去る十一月十七日山田支部例會を機として山田婦人會、主婦會、青年會合同主催の下に勤儉奬勵講演會を開催した。講師は齋藤村長にして講演約一時間終つて茶話會があつた

◆漫錄

◎小縣郡聯合青年團主催の講習會は別報の通り去る十一月二十三日より別所常樂寺に開かれたのであるが其の講師藤森成吉氏と那須皓博士とにまつはる一奇話がある。

最初宮下團長等は那須博士の許を尋ねて、是非今回の講習に出席して呉れる樣にと懇願したが、多忙であり且つ出ることの嫌ひな博士はどうしても引受けて呉れない。その中にまだ伺つても見ないのに「藤森氏にも出席して戴く樣御願して參りました」と口を辷らせると那須博士は急に態度を變へて「藤森さんも行かれますか？　それなら僕も都合して行きませう。藤森さんとは十二年前大島で會つたきりですから再會する機會を得る爲に――」と遂に快諾を得た。

一行はこの偶然である奇蹟的事實に驚めたことばかり喜んで、こんごはその調子で藤森氏を說き落したのだと云ふ。

藤森成吉氏の處女作「若き日の惱み」に出て來る農學士黑田さんと云ふのはこの那須博士のことである。

雜草

松江　宮澤生

絲の家のまわりの樹々も朝な朝なの水霜とかにだいぶ色づいて來ました。今年は寒さが例年よりも早く訪れて來たやうな感じがしますが、幹事長始め皆々樣には御機嫌よくいらしやいます事とお喜び申上げられずには居られませんですね、私（關西支部長）も元氣で働いて居りますから御安神下さいまし。

昨日から降り出した雨は未だ止みそうな氣配もない時々横さまに吹き付け、降り注ぐ雨を通して一つの大きい形のものが或は大きく或は何にか不吉の前兆かの如くにぼんやりとしてゐる。雨と風とは此處は特別に重さを持つてゐる、自分が机に向つて息をつかうと窓の方に傾いた時廣々とした或る大きい無形の力を感じた、それは殘酷にもキチン〳〵と確實に恰度自分を殺して了ふかの樣に自分を攻撃して猛り猛つてゐる……雪が一分間程雨と一緒に落ちて來た。

淋しいといふ点では信濃の冬は徹底してゐる、第一に働いているものかなし音がない話しをしかける機會がなく自分だつたら一週間と辛抱が出來さうもない所だが……其處にも矢張色〻の人が住み働いてゐる。特に根強く、且つ單調に見ゐても、柿一ツの熟れ方で其の日否其の一年が浮き〳〵と幸福に暮して行ける。

冬になつて行く松江……淋しい古い〳〵癈れた都會と言つても全くかけはなれた山陰の天地、自分はこう云ふ所が昔からすきだつた、が墳墓と云ふものは忘れ得ない實によいものである。

時々トツコ山や産川が夢寐の間に通ふ事がある人間と云ふものはどんなに離れても、亦解脱して行つても斯うした絆だけは決して斷たれるものではない、ハイマートは惱みの多い人々の魂の宿るところ〳〵シエルターと云はねばならない。

舊慣を捨てかねた西墟田村否日本の農村に對しては自分は敢て積極的なる共營共助と消極的に割據心の打破をとかざるを得ない本々生れた初めから猫の額の狹い國土に他の何れの部分よりも最も神經過敏な山脈がノタウチまわつてゐる、恰度當らずと云へども遠くない小大名を所謂旗本とおそれおほくも天領をばバラまいて大同團結の合法をば無理にもさまたげ、ほくろ多い貧い農民樣をおひ込み「まびき」でいや應なしに息をつかせるのには恰度格好の國だ。

大戰この方根こき攪乱されて了つたところの經濟や政治や思想も未だ尙安定の域には到達してゐない、表はれる地球の表面は目に見ゐない小渦大渦が全く目まぐるしい程盤旋のノタうちである、國と云ふ國も社會と云ふ社會も早くかうした災厄から一時も一瞬時も早く遁れて光風霽月の新らしい境地に飛出し度いと思つているのが、万人の意識から割り出る平凡馬の顏の如き道德としてしかし取り扱つかへないが、この平〻凡〻常識道德の俺まざる實踐窮行より他には現在世界の混乱として秩序統べなきを救ひ以て多くの人々の上に鬱陶しく掩いかぶさつた雲を拂つて安定と光明とを齎すものがないと云ふ事は余の深く信んじてひるかへすべからざる定論である。

◆雜記帳より

小池　茂

人生の主よ！
運命よ、どうかそのまゝでゐてくれ、
君の冷やかな性質は
ちつとも變つてはいけない。
かりに俺がちよつと
善いことを爲て
すぐそれが君に通じて
ほゝ笑むでくれたり、
俺が君に上げた少しの
御褒錢で、
直ぐ「ありがとう」と、
うなづいてくれる樣な
けちな君だつたら
俺はがつかりだ。
君はそんな安つぽい者じやないね。
それで君は又、
俺がちよつと失敗つた
眞似をして、
高の知れた
いたづらをやつたとて、
何にも感じはしまいね。
呑氣な君の眼には
俺のしくじりや
いたづらなどは
氣まぐれな親切……と、
同樣止まらない筈だ、
だが、
それでこそ俺は
安心して君の前で
足をなげ出して、
寢られるのだよ。
俺が隣村へ行つたり、
友達の所へ行く度に
君の眼が彼方へ向いたり
此方へ向へたり、
優しくなつたり、
怖くなつたりする、
そんな君なら
俺は前から
愛想をつかし、
其の上生き甲斐も
失つた事だらうよ。
君はわたいが知れぬ程
冷淡で。
薄情で、
ぬけ目がないやうで
ぼんやりで、
底抜けな呑氣屋で。
ゐてくれゝばこそ、
俺は君をありがたがつて
安心して生きてゐられるのだ。
俺が今急に
家内諸共
地震で死なうが。
又は思いがけぬ
若人から華やかな
月桂冠を
授からうが、
俺は君が
見向いてくれ樣
杯ざゝは
夢にだに思つちあいないよ。

×　×

主よ！
君がさう云ふ
性質でゐてくれる事は、
俺達は
如何に、
其れを…（其の事を）
讃美し、
感謝する事が
本當に……

一九二四―一〇、三

◆講習會の印象

中澤和作

今日は藤森先生の講演でした。時々頓智や皮肉を云ふのでみなが笑ひました。先生は極めて民衆的であり。アナアキスチックでありました。余輿會の催された翌日だつたので私達に向つて「昨晩皆さんは余輿會を催されたさうですが私は非常につかれてゐて出られませんでした。私畢生のうらみでしたよ、何時か埋合せをし樣と思つて居りますハゝゝ」等と笑はれました。「僕はいくらでも原稿などは上げますよ、只で上げてもいゝんですが、しかし、食ふに困るんですからねー」こうした樂天的な笑ひを洩らすことが時々ありました。併し間もなくセンチメンタルな表情に歸つて話し續けられのでした。

「ブルジョアには階級藝術の頭腦なんてないんですよ、藝術の認識が足りないです。一体頭が惡いんですなーだから弱つて仕舞ふ……」などゝ現代上流社會には眞の藝術のないことを痛罵せられました。

何れ報告演舌會の席上で先生の藝術論を御話し仕樣と思つて居ります。

明日は午後平野先生です。

◆編輯室

大正十三年ももう余す處僅かとなりました。過ぎし一年を回顧して見ると樣々な事が記憶に浮びます。その中で最も克明に我々の頭に刻まれた事實は、何んと云つても未曾有の旱魃でありませう。

ほんとに本年は農村の厄年でした。經濟的不安のどん底に沈められて、我々はどうしてこんなに苦しまなくてはならないだらうか？　果して農村には生くべき余地があるだらうか？　と云ふことを根本的に考へさせられたのでした。

國を擧げて農村の問題が研究させる樣になつたことは本年に入つてから著しいものがあつたと思ひます。矢張り單なる天災としての旱魃を見るばかりでなく、それが眞の農村を理解する力に役立つならばこれも災のみではないと思ひます。

昨年は關東の震災で、義捐金品を贈つて農村の物の豊かさを羨やましがられたのでしたが本年は打つて變つて災難は自らの身の上何んと云ふ皮肉なコントラストでせう？時報もこれが本年の最後と云ふことになりました讀者諸君の幸多き御年越を祈つて末尾の時報をお届け致します。

御寄附

左記の通り御特志により時報發刊費の中へ御寄附下さいました。誌上を以て厚く御禮申上ます。

一金拾圓也　樣濱在住　武田好馬殿
一金五圓也　小山小一郎殿
一金五圓也　黒坂直右衛門殿

（大正十三年八月二日第三種郵便物認可）　大正十四年一月一日　西鹽田時報　第十四號　（一）

西鹽田時報

第十四號
毎月一回一日發行
定價金三錢
廣告料一行金十錢

大正十三年十二月廿五日印刷納本
大正十四年一月一日發行
編輯印刷兼發行人　長野縣小縣郡西鹽田村大字
樋口秀實
印刷所　山浦活版所
今縣上田市六二六
發行所　西鹽田青年團
今縣小縣郡西鹽田村

春窓漫筆

退屈居士

◇

歳こゝに改まりて大正は十四年とぞいふ。太陽は千年の昔と異らず、地は萬年の昔と變りなく、人は昨日のそれと同じけれども、僅か一瞬の間に心かはりてかにかくに驅ぎ與する樣ぞあはれにもをかしく心得ね。

◇

一年は三百六十五日、一日は二十四時間とこそ聞け。いづこの戯れ人が氣まゝにつくり出しけん。さるにても人生は五十年、假に預けられたる命も尚二萬日に滿たざるを、喜び、笑き、樂しみ、悲しみ、打騒ぐ聲の絶ねぬぞ笑止なれ。

◇

さても面憎きは一休とこそ覺ゆれ。天下を股に人の世を嘲りて獨り與がりし　フラ〳〵坊主のいみじさよ——

正月は瞑途の旅の一里塚、
めでたくもありめでたくもなし

◇

新年は酒に明けて酒に暮るゝものぞかし酒飲まざらん人の心のはかなさは年寄りてなほ男女の道を知らざるに等しからめ。年若きと年老ひたるとはぢめなく酒欲る人ぞたのもしき。我もなく彼もなく盃盤を舌舐

りつゝ怒號する樣のいかに雄々しく勇ましき。醉うて睡るはよろしく、ヘドを吐く態の氣高さは實にゐも言はれざるべし。

◇

路に追羽根を遊ぶ少女ほど憎きはなし。さあらぬとも狹き田舍の路なるを、醉うて蹣跚とありくに邪魔なるはなけん。老人のヨボ〳〵と行く姿のめでたからざるはいはじ。妙齡のをみなのツンとすましたるは通りすがりに唾を吐きつけてやりたきばかりにこそ。

◇

さるにても今の世に古武士の面影漸く失せて、チヾレ毛唐の習日ごとに跋扈し來りしこそうたてけれ。チョンマゲ大小の品位なく、島田丸髷の落付なし。老ひたるがありきて若きが乘り、親父が働きて息が眼鏡と杖とを用ゆめり。わきて不思議はをみならの髪のうつり變りにて侍れ。幼きも年增も、處女も人妻もなべて七三耳隱しと聞くもおそましきことどもになん。

◇

年老ひたるが無茶に威張るは心もとなし私ごゝろまさりて兎角かたくなる老人は猶路傍の杭のごとけん。退いて若きに讓り老婆を相手に酒飲みゐるをこそ床しといはん

◇

さてもめでたきは青春の男女なるべし。秋の半ごろより仲介する人ありて春の初めに結婚するはうれしからぬかは。まして互

年若くして徒に慮ることの深きは褒むべきにあらず。猪突は戒むべしと雖も余りに分別臭きは却て好ましからず。朝の紅顔夕に白頭となるの例もくすしきことには侍らず物みなに打當り我より壞けん男心あるこそ

◇

なべて物欲りする人の心ほどゞみにくきはなし。されば金ありに余りて心ひそかに煩ひ絶えず、自ら命を縮てる人あり。思ふ女と心中するためしも多かるめれば物を得ることも又喜びにのみあらざるべし。持たぬものは持つものよりも強かるものにこそ。

◇

なほ塵に等しからめ。

◇

◇初春　秀峯生

惠まれし此の新年の歡びの中に躍み出づ若人なりし
鏡かりし雪、淺間も今朝見れば和ぐ春の中にかすめり、
凍てし田の麥の葉先の光りにも春近き香の立つと思ひし、
風一つ見ゆる大空朝春の光り濃りまろき風吹く

謹賀新年

西鹽田村役場
西鹽田小學校
西鹽田村農會
西鹽田消防組
西鹽田聯合衛生組合
西鹽田保安組合
西鹽田郵便局
西鹽田婦人同志會
西鹽田青年團
西鹽田軍人分會
西鹽田兵役優待會

一月行事

一日　(休)新年祝賀式、小學校、各神社
二日　(休)手塚、野倉、十八各支部新年會
三日　(休)東前山、藤之木、各支部新年會
四日　消防組第一部、第二部、第五部役替
　　西前山支部新年會
五日　購買組合棚下し、(八日迄)
　　消防組第四部役替
六日　新町支部新年會
　　消防組第三部役替
　　小學校冬朝休業—十二日迄—
七日　(休)門松下し
八日　入營兵士出郷
十日　田租徴收
　　山田總集會(役員改選)
十一日　(休)消防出初式
十二日　鹽田五ヶ村聯合實業補習學校開校
十三日　小學校、實業補習學校、女子部始業
　　青年團役員新年宴會
十五日　(休)どんど燒
十六日　(休)嫁入、伊勢講お黨
十七日　山田支部新年會、山の神講お黨
十八日　東前山總集會
　　西前山總集會(役員改選)
十九日　手塚總集會
二十日　(休)新町、十八、總集會)役員改選)
廿五日　宅地租、所得稅、縣稅營業稅雜種稅後半期納稅日。
　　山田株式會社株主總會、
廿七日　前山銀行株主總會
廿八日　消防組役員懇親會
三十日　保安組合、衛生組合總會、
卅一日　天下泰平

謹賀新年

西鹽田村長　齋藤重太郎
西鹽田小學校長　六川靜治

謹賀新年

村會議員
佐藤清五郎
武田正雄
黒坂重市郎
小宮山篤
宮澤八十八
宮澤友一
樋口勘藏
市村藤作
齋藤廣次
齋藤市太郎
倉澤喜内
池田文治

惣代
十人
佐藤三郎
東前山　春原義勇
西前山　宮澤熊市
手塚　樋口一
新町　小林丈助
山田　竹下照之助
野倉　會根正一

駐在巡査
池田金雄

賀正

時報編輯局
山浦活版所

◇鼎村ニ於ケル桑樹栽培狀況

竹下幸

一、位置及地勢

鼎村ハ飯田町ヲ去ル東南約拾五丁天龍川ノ支流松川ヲ境界トスル村ニシテ戸數約千戸ヲ有シ元結ノ產地トシテ知ラレタル處ナリ

二、土質

土質ハ南東ノ高層部ニ僅カノ粘質土ヲミルモ多クハ花崗岩ノ風化ニ依ツテ成リタル砂質壤土ニシテ全村ノ約六割ヲ占メ殊ニ飯田町ニ境スル松川沿岸ハ松川ノ氾濫ニ依ツテ構成サレタル運積土ニシテ表土三尺ニ達スルモノ珍シカラズ加フルニ地下水ノ高低宜敷ヲ得地味豊饒ニシテ桑樹栽培上天惠的土質ト云フベシ

三、桑園

本村ニ於ケル桑園面積ハ約百拾五丁八段歩ニシテ田畑面積ノ約六割ヲ占メ多クハ春秋兼用桑園ニシテ春蠶專用桑園夏秋蠶專用桑園之ニ次キ夏蠶專用桑園ニ至ツテハ殆ドナク之レヲ數字ニ表セハ左ノ如シ

春秋兼用桑園	八割
春蠶專用桑園	一割
夏秋蠶專用桑園	一割

四、品種及仕立方

品種ハ主トシテ四方咲ニシテ全桑園反別ノ約九割ヲ占メ他ノ一割ハ改良四方咲（一体一）改良魯桑甘樂桑小牧等ヲ栽植ス四方咲ハ主トシテ根刈仕立ニシテ稀ニ中刈仕立ヲミルモ魯桑甘樂桑ノ多クハ中刈仕立或ハ高刈仕立ニシテ小牧ハ主トシテ速成桑園（稚蠶桑）トシテ栽培セラル

今本村ニ於ケル品種別仕立方ヲ示セハ左ノ如シ

中刈仕立	一割　改良魯桑甘樂桑魯桑
高刈仕立	飛彈桑ノ畦畔ニ点々トミルノミ
根刈仕立	九割　四方咲改良四方咲（休一）

五、肥栽管理

桑園肥培管理ハ頗ル冷靜ノ觀アリ然レ共コレハ當業者ノ不熱心ヨリ來ルモノニアラズシテ我々ノ觀察スル處ニ依レハ之レニハ深キ仔細ノ伏在スルモノアルベシ思フニ當地ハ氣候温暖ニシテ相當ノ濕氣アリ加フルニ天惠的肥沃地ナルカ故ニ桑樹ノ發育良好ニシテ成長期間又長ク放任シ置クモ良ク繁茂スルカ故ニ等閑ニ付セラルヽモノノ如シ今ニシテ我カ地方ニ於ケルカ如ク品種ノ改良ニ力ヲ注キ肥培管理ニヨリ以上ニ注意ヲ拂ハヾ天下ノ模範桑園トシテ誇ルニ足ベキモノアリト信ズ左ニ我カ地方ト異ナル肥培方法ヲ擧クレバ

桑園肥料トシテハ大豆粕過燐酸石炭灰沙等ニシテ反當施肥料ヲ示セハ拾五圓位ナルモノノ如シ又耕耘等ニ於テハ我地方ト正反對ニシテ我地方ハ夏期ニ株間ニ土ヲ盛ルニ反シ夏期ニ於テ株ヲ露出シ畦間ニ土ヲ盛ル方法ニシテ之レハ實ニ桑樹ニ限ラズ一般植物トシテモ良好ナルコトヽ思ハル何トナレバ桑樹ノ根ハ主トシテ畦間ニ伸長シ有ルヲ以テ其ノ養分ヲ吸收スベキ根ニ土ヲ盛ル故根ハ益々伸長シ同時ニ肥料ノ吸收モ充分ニシテ從テ地上部ノ發育モ良好ナラント思惟ス

施肥ハ春夏ノ二回ナルモ蠶沙ハ主トシテ秋期施用スルモノヽ如シ又葉ロトシテ第一歩ニ感シタルハ根葉（小枝條）ヲ整理シアルコトニシテ此ノ地方ハ根桑ヲ以テ夏蠶ヲ飼育シ之レヲ養蠶上ノ副產物トナシ居レリ

五、收獲

當地方ニ於ケル收獲ハ大体我地方ト差異ナク春蠶桑ハ發芽後伐採ニシテ夏秋蠶專用桑ハ發芽前伐採トシ夏秋通シテ摘葉ス

今本地方ニ於ケル品種別收量ヲ示セハ左ノ如シ

四方咲	六〇〇貫	三期通シテ新梢付及當收葉量
改良四方咲	七〇〇貫	全右
小牧	貳〇〇〇貫	全右
魯桑	八〇〇貫	全右

備考四方咲粘土地ニ於テハ貳〇〇貫位ノ如シ

六、病虫害

本地方ニ於テハ病虫害ニ付テハ全ク無關心ニシテ我地方ニ於テ腐心シツヽアル萎縮病ノ如キ罹病セルモノヲ示サヾレハ知ラサルノ感アリ之レ本地方ニ於テハ病虫害ノ發生更ニナク萎縮病ノナンタルカヲ解セサルモ怪シムニ足ラザルナリ

本地方ニ於テハ老廢桑園ハ處所ニ發見スルモ荒廢桑園ハ殆ト見難キ狀態ニアルモノナリ

◇松尾村ニ於ケル桑樹栽培狀況

一、地勢及位置

松尾村ハ鼎村ニ連接セル天龍川沿岸ニシテ東西貳拾壹丁南北參拾丁戸數千百四拾戸ヲ有シ拾壹部落ヨリ成レル下伊那郡ノ模範村ニシテ養蠶盛ンナ地ナリ

二、土質

鼎村ト等シク天龍川沿岸ノ砂質壤土ニシテ中古時代天龍川氾濫ニ依テ構成サレタル運積土トミルモ支障ナク桑樹栽培上鼎村ニ劣ラサル土質ナリ

三、桑園

本村ニ於ケル桑園面積ハ貳百參拾貳丁六段歩ニシテ米作反別ノ約二培ヲ占メ五萬三百參拾八貫ノ生繭ヲ生產スルニ充分ノ桑葉ヲ提供シツヽアリ

コレ桑園ヘ反歩ヨリノ收繭量ハ三期加算シテ貳拾壹貫七百匁ニシテ如何ニ桑園ノ優良ナルカ推シテ知可キナリ

前年植付セル稍々優良ナル桑園（四方咲）一反歩ノ條長ヲ驗セシニ拾八萬尺ニシテ我地方ヨリ約拾貳萬尺ノ差ヲ以テ伸長シヲレリ同途別仕立反別ハ鼎村ト大同小異ナレバ其ノ記載ヲ省略ス

四、品種及仕立方

品種ハ鼎村ト等シク四方咲最モ多ク甘樂桑魯桑等之レニ次キ根刈最モ多ク中刈高刈等之レニ次ク狀況ナリ高刈仕立中特ニ參考トナリシハ同村喬木館ニ於ケル喬木館獨特ノ仕立方ニシテ其ノ方法左ノ如シ此ノ方法ハ大体中刈仕立ニ似テ非ルカ只タ株ヲ貳段ニ作ルノ差異アルノミデアル

先ヅ第一年年目ハ四尺ノ幹ヲ作リ之レヨリ生シタル枝デ更ニ二三ノ股ヲ作リ其ノ各枝ノ二尺位ノ處ヲ株ヲ作ル處マデハ中刈ト變リハナイカ喬木館獨特ノ仕立方ハ其ノ株ノ土ニ更ニ一本ノ幹ヲ立テ相當ノ高ニシテ尚ホ株ヲ作ルノデアル故ニ一本ノ桑樹デモ二段ノ擧式ニナリ春秋交互ニ成條シテ行クノデアル而シテ相當ノ年限ニ達シタル坎ハ上段ノ株ヲ切リ再ヒ株ヲ作ルノデアル換言スレバ一種ノ更新法ヲ行フノデアル、カクスル時ハ桑樹ノ樹勢ヲ長クシ貯藏養分ヲ多クシ絕對ニ萎縮病ヲ發生モシメナイト言ハレテ居ルシカシ喬木館ニ於テハ本年最初ノ試ミニシテ其ノ成績ナカリシヲ隨憾トスル處デアル

五、肥培管理

本村ニ於ケル肥培管理ハ鼎村ト同樣ナルモ其レニ關連シタル施肥ノ法方ヲ記サン

本村ニ於テ特ニ注目スベキハ合理的施肥ト肥料ノ共同配合デアル本村農會ニ於テハ合理的施肥、肥料ノ共同配合ニ力ヲ注キ大正十年十月縣技手小出佐一氏ヲ聘シ一般勸業ノ根本方針ヲ樹立スルト共ニ作物栽培ノ根源タル土性ノ根本調査ヲ行ヒ大正十三年九月漸ク完成シ土性及作物適應セル肥料配合例ヲ成作スルト同時ニ產業ト協調シ肥料ノ共同購入竝ニ共同配合ヲナシ桑園水田ニ對シテハ須カラク肥料ノ單用ヲ避ケ合理的配合肥料ノ施用スベク奬勵シツヽアリ其ノ配合例左ノ如シ

粘質地配合例

種類	用量	含有成分 k	p	k	代金
硫安	貳、五〇〇	四五〇			貳、九〇〇
蛹粉	貳、七〇〇	四〇	一	一	貳、八〇〇
過燐酸	參、五〇〇	一	貳、七〇〇	一	貳、七〇〇
合計	參、〇〇〇	四五〇	貳、七〇〇	一	四、七〇〇

强過燐酸合砂質地配合例

種類	用量	含有成分 k	p	k	代金
硫安	貳、五〇〇	四五〇			貳、八〇〇
蛹粉	參、〇〇〇	一	貳、四〇〇	一	貳、四〇〇
過燐酸	參、五〇〇	一	一	貳、四〇〇	貳、四〇〇
合計	參、〇〇〇	四五〇	貳、四〇〇	貳、四〇〇	四、八〇〇

六、收穫　鼎村ト大同小異記載省略ス

七、病虫害　全右

◇西墟田信用購買組合より

賀正

目出度新年を迎へましたと共に此の大正拾四年即ち復興第貳年の元旦に於て。……私共は目下國家が經濟的危機に瀕し居るにあたり若し此のまゝに進んだならば近き將來に於て如何なる結果を齎らすであらうか此の重大なる時局を充分に自覺して如何にして此の難關を切り拔くべきかに就いて心から考へなければなりません。

如何に政府が產業組合の振興を奬勵し經濟的施設をなし一生懸命になつて勤儉貯蓄を奬勵しましても國民が之れに共鳴し此れを具体的に實行する決心がなければ折角の苦心も水泡に歸します。農村はより以上疲弊します諺にもある如く。

人が馬を河端まで連れて行く事は出來る然しその馬に水を飮ませる事を出來ない馬自身に水をのむ氣がなければとへ馬の鼻面を水に入れてものませる事は出來ないのであります。

元來日本人は確乎たる自信が少なく爲に物事にあくせくとして虛榮心多く即ち日光に虛僞の生活が多いのであります。

今日の不景氣は都會も農村も一樣に苦痛を感じてゐますが否都會以上農村は極度の疲弊に瀕しつゝ在るのではありませんかこれは全く我々農村の人々が自分の生活に對して確乎たる自信なく絕えず都會生活をあこがれる結果ではないでせうか。農村は農村としての文化を建設し都會の長をとり短をすてゝ農村の文化的經濟的發展に努力しなければなりません私共は此の都會即ち資本主義に對抗すべきには是非共此の組々運動によらなければ此の經濟的奴隷からのがれる事は出來ないのであります。其してもつと安心な愉快なもつと幸福な生活をし得る樣勉めなければなりません。

其れには私共は政府の大いに奬勵し色々便宜を與へて呉れる此の產業組合を村民一致して相互に扶助し合ひ何處迄もこうした機關を活用し利用し以て農村の經濟的解決をつけなければなりません。

此の時此の日私共は御互が消費者として充分なる覺醉をし消費節約に勤儉貯蓄に本村にも定められた生活改善規約の實行に大いに努力しなければなりません。

此の任は寧ろ此際一家の結濟の全權を掌握してゐる御婦人の奮起に因るの一層適切にして家庭婦人の自覺以て緊要なるを痛切に感ずるのであります。

本村にも生まれました主婦の會の一日も早く內容の充實に有名無實に終らず大いに發展を望み新しい愛と平和な世界をお互いの生活の上に体驗したいと思ふのであります本村組合も日に月に發展し立派なる組合と成りつゝあるは實に喜ばしい現象で此れ實に組合員の皆樣が組合を理解し利用し愛するの賜であります。

◎昨年十一月廿五日本縣廳より產業主事野坂增田兩主事が御出張なされ本組合の事務の御調査と嚴しき監査が御座いました其の結果は優良なる成績を以て了し郡よりの知らせでも郡內優良なる組合となりました此の元旦に於て組合員の皆樣に御知らせいたし御承知を願います斯く日に月に着實に發展し行く事の出來るは實に御同慶の致りです。日未だ淺きに斯くなりしは大いに此の元旦に於て祝すべきであります。

◎次に本組合大正十三年度內容充實進度表を示せば別表の如くです、

◻本組合大正十三年度內容充實進度表

月別	組合員	出資金	拂込濟出資金	貯金	貸付金	購買品購買計	賣却計	購買品現金
一月	五七二	一三六三〇	六七六三	八〇九五円	一六七八円	四九五六円	一七三円	一七三円
二月	五七六	一三六三〇	六八〇四	八〇九三	一七四七	一一〇八	三七三	四三三
三月	五八〇	一三七〇	六八四	八〇三三	一七六六	一七六六	四三四	四三四
四月	五八二	一三七〇	六八七六	七七五七	二七三三	二七四〇	八九五	八九五
五月	五八二	一三七〇	六八九二	七七二九	二九三四九	二六八六六	一〇九二〇	一〇九二〇
六月	五八四	一三七〇	六九三	八〇三九	二六八六六	三三七六七	二〇〇三〇	二〇〇三〇
七月	五九	一四五〇	九七二一	九五七二	二六三三五	四三三二九	三四五九九	三四五九九
八月	五九一	一四七〇	九七三八	一〇九四九	二三三〇三	四一四三六	四一四三六	
九月	五九一	一四七〇	九七四六	一一三五九	二五八九	四七七三一	四七四五三	
十月	五九三	一四九〇	九七四六	一一三五七	二五八九	五五九〇〇	五五九〇〇	
十一月	五九三	一四九〇	九七四六	一一八〇三	二五八九	五六五八	六二五九八	

備考　圓以下切捨

一ケ年前の數字と比較して見ますれば實に別表の如しこうした表によつて見ましても御互の自覺と各部落民の理解と無理解との差が表示する事が出來るのであります互に助け合ひ時代に後れね樣に心掛けませう。

◎大正十三年十二月廿日迄に組合員の奮起に因つて增口の綱つる所の部落別にすれば

◆出資增に部落別大正十三年十二月廿日迄の申込現在表

部落名	元組合員人數	增資セシ人數	新加入	元口數	增口數	口數合計	組合員計	一人平的口數
十人	四八	四八	內一	一八八	二一一	三九九	四九	八口一四強
新町	六二	五八	二	一〇六	三一一	六四	四口八七強	
東前山	一〇二	九二	一	三五一	三五〇	一〇二	六口五七弱	
西前山	八一	三八	一	一二八	一三六	二四	三口三弱	
手塚	一七一	一三七	二	三九七	一一九	一六二	六口一五弱	
山田	六〇	五一	一	一一四	一二六	二六〇	六口六〇	
野倉	六九	五九	一	九〇	三三〇	四一〇	七〇	六口〇〇
計	五九三	四八三	一六	一二八四	二一九六	三五八〇	六〇九	總平的一人當五口八弱

こうして出資を增加するも即ちお互の財產が出來ると同じ事で出資と利益とは自分の貯蓄が增へた分であります組合としても益々活動の素礎となり出資金は生命なので御座います。

今回增になさらなかつた各位には大いに反省を願ひ以て此の組合なるもの、主旨たる益を其年の收穫高の約一割づゝの淘ぎ減りを防止する事となり、副產物の米糠は無搗精なるが故に利用の道多く肥料に配合して益々肥料價値を增し。家畜の飼料と爲して輸入の豫に勝るは申すまでもなく醬油の原料として小麥に代用し。實に混砂搗精に比し驚くべき利益を生ずるに至ります。

斯くの如く無砂搗精米は保健衛生上及び食糧經濟上の利益莫大なれば大いに消費經濟康狀態が混砂白米使用時代に比べて顯著の差ある事實に付左に其の効果を御參考までに申し本組合にて取扱のタイム式精米（即ち無砂搗米）の普及奬勵をいたします。

◎普及結果は衛生方面より見る時は一年後には胃腸病患者は大いに減少し五年の後には小兒の健康は著しく佳良となり十年の後には小學兒童のむし齒を病むものが大いに減少し二十年の後には出產兒の健全となり壯丁体格の優良となり總て良き方面に進展し殊に脚氣患者の如きは根絕する事が出來ると云ひます

◎尙經濟方面より見る時は一年の後には全國の淘洗に依る損失的六百萬石を回復して。それ丈け米の增收を得たに等しく又每戶炊事するに際し淘洗の手數を省く事が出來。年々無砂精米に依る利益を其年の收穫高の約一割づゝの淘ぎ減りを防止する事となり、副產物の米糠は無搗精なるが故に利用の道多く肥料に配合して益々肥料價値を增し。家畜の飼料と爲して輸入の豫に勝るは申すまでもなく醬油の原料として小麥に代用し。實に混砂搗精に比し驚くべき利益を生ずるに至ります。

斯くの如く無砂搗精米は保健衛生上及び食糧經濟上の利益莫大なれば大いに消費經濟

◇會と人

◆神社會計檢查

十二月十二日本村役場に於て村內各神社の會計檢查執行。郡役所より加藤郡書記來村

◆縣廳へ—

十二月十一日齋藤村長及び鄉社墟野神社々務委員宮澤八十八。黑坂重一郎の兩氏は該神社昇格の件について縣廳へ出張陳情する處あつた

◆川西敎育會

十二月十三日浦里小學校に開會齋藤村長六川校長出席

◆澤山財產組合林業委員會

十二月十六日本村役場に開會來年度事業計劃並に巡回等につき打合せをなし。終つて山田屋に忘年會を開いた。

◆竹下助役

十二月十七日文書主任會議の爲郡衙に出張。翌十八日縣務規程改正の件につき、準則書扱の爲仝じく郡役所へ

◆財產組合視察會

第三部消防組（野倉）では西墟田村外二ケ村財產組合の委托を受けて該組合林の警備に任じて居るが、十二月十九日視察會を開いて各村長助役が參會した。

◆齋藤村長

旱魃被害地に對する縣稅地租附加稅減免の件につき小縣郡町村長會の委員として遠藤中墟田村長、三井傍陽村長と共に十二月二十日縣廳に出頭した。

ただ一つ

一貧民

去る頃或貴族紳士等が、大空會―大食會と云ふ名が一寸見つとも惡いと云ふので改めたんだそうだ―を開いてお互に喰ふことの自慢を並べ合つたと云ふことだ。その席へ出された御料理が勿驚一人前金拾五圓也の支那料理で、それを平げて体重四百匁を增して居たものが第一等だつけそうだ。

×

打ち續く震災や旱害で經濟的大損傷を蒙り、生活難の悲痛な叫を擧げて、押迫る年の瀬に露頭に迷つて居る者が著しい增加をが、面倒な書付を作つて頭を下げて御願しなければ手に入れない貧乏人にとつては、此の際同じ金額であり乍らそれがどれ程有難く尊いものであるか解らない。これだけの金があれば十余日間位の食糧には安心して不斷の勞働を繼續する事が出來る。斯くて作り出された經濟的價値が如何に神聖な貴重なものであるかを不勞遊食の貴族紳士等に充分味はせてやりたいと思ふ。

空論にばかり走つて、現實を知らない奴等には困つたものだ。

少數の人間の腹を徒にふくらませて遊ばして置くと、多數の貧しい人達に例へ一日でも生活の安定を與へて、能力を增進せしめると何れがより多く社會の爲になるだらうか。血あり涙ある人間であつたなら食事を遊戲視して費消する余分な金を尊い生命を維持するにさへ憎んで居る哀れな貧民に惠んでやつては如何だらう、その方がどれだけ金が有意義に費され尊い價直を生ずることになるか知れない。例へ惠んでやらないまでもそうした事は時節柄遠慮したが宜しからうと思ふ。

何とブルとプロとの生活對照は皮肉なもんぢやろ！

×

政府の示された勤儉節約の趣旨には讃成だ。然しいまゝでの祭騷的喧傳がどれ程の効果を奏したか？

大空會員の如きはあらかた顏ぶれのよい人の師表に立つ人達の樣だが、斯樣な人達から豪奢な生活振りをこれ見よがしに示して、自分達食民を愚弄し自分にはそう見ゆる―して居るやうでは到底趣旨の徹底を見實績を擧げることは出來ない。これじや政府のご趣旨も誠に心細い。

こんな一寸した事の樣だが、それが國民の思想に及ぼす影響は余り香しくあるまい

◆農家婦女子講習會

農家婦女子の農蠶業智識の向上發展を計るため本縣農會に於ては左記に依り標記講習會を開催することになつた。

記

一月十五日より四日間　武石小學校
一月十六日より四日間　泉田小學校
一月十八日より四日間　禰津公會場
聽講隨意

◇栽桑講話會

今般本郡農會に於ては栽桑講話會を郡下三ケ所に於て開催することになり目下計畫進行中にして場所及び講師は確固と決定はしないか仄聞する處によれば講師は松本蠶業試驗場鈴木技師に交渉中で場所は中蘆田村、石井公會場、東北繭絲會社である。

◇新町支部通信

◎旱害救濟金貸與。旱害救濟の爲、新町殖産社では、貯蓄金の裡より五百圓、及び、信用購買組合より借入れし二千圓、計二千五百圓を、社員一名に付五十圓宛、低利貸與することになつた。

◎縣有林薪切。旱害に災ひされた農村の多くは一入凋落の風が身に泌みる。けれど不景氣を歎いてのみ居る場合でない。再度、縣有林の特價拂下をうけて薪切に努力した。

◇十人支部

◎道路開通祝。我支部中村を貫通する、中村線は區民一同の努力と土木員の指揮良しきを得起工以來數日を以て完成し拾貳月拾七日の夜開通祝が有つた、時節柄極めて簡單でしかも當を得たる祝ひ區民一同の大いに喜ぶべき處だ。

◎文庫成績、拾參年度當支部文庫貸出成績は次の如し貸出日數廿八日、貸出延冊數五百七拾貳冊、內分け左の如し

科目	大字の圖書	巡回圖書	計
文學	貳貳四	一六四	三八八
講談	六七	一	六八
修養	五〇	一	六一
法經	五	一	六
理科	一三	一	一四
地歷	三三	七	一〇
數學	三		三
雜部	一五		二二
合計	三八〇	一九二	五七二

◇東前山より

◎十二月七日午後七時より事務所に例會を開いた。秋以來會員が三名他出したので、さなくとも會員の多くない本會は何んとなく淋しかつた。然し歸鄉兵士吉田賢男君を迎へてその歡迎會を開くことの出來たのは嬉しかつた。二ケ年間雪の高田に軍隊教育を受けた君は肉体も精神も別人の如く緊張して見へた。

◎何時も講話をして下さることになつてゐる中島榮知氏も都合が惡くて來られなかつた。運動部主任からピンポン臺の費用概算が報告され、山林部主任から立木賣却の經過報告があつて後茶話會が簡單に開かれた

◎十二月二十日は大字の總決算をする日になつてゐる。山林、土木、水路、神社の各委員が事務所に出張して人夫代の支拂をしたり。一年間の費用割宛を徵收したりするのだ。

◎每年のことではあるが。この日が來ると人々は何んとなく年末の氣分を感ずるのである。

◇手塚支部

十八日午后六時例會は開かれた。直に議事に入り、今春大字より何か爲になるやうな事業をやつたらどうかと云つて寄附された金で、其の趣旨に基き公會堂へ黑板新設の件を附議した處、滿場一致可決、其他新年會の件を始め數件は大体原案の通り決定した。小縣聯合青年團の講習會に出席した中澤君から種々の報告があつた。

續いて入營兵及除隊兵の送迎會が開かれた。入營兵市村君の謝辭に次いで、小山君は朝鮮楚山に於ける守備隊は、如何なる任務を帶びて居るか、又如何なる生活をして居るかと云ふ樣なことを述べられ、朝鮮の獨立を企てる逆徒と折々砲火を交へ、奮戰して彼等を擊退した場面などに話が進んだ時は、しみ〴〵軍隊の有難さを感じた。

樋口君は軍艦航空機等に就いての概略を話された。君は特に航空隊に入つて居た爲にそれに關する該博なる知識を以て、矢の樣に發する質問に對して一つ〳〵明細なる解答を與へて呉れたことは感謝に堪へない。御蔭で會員はそんな方面の知識が增した。暇があつたら折々詳細に亘つて話して下されことを希望する。

最後に小島君は野砲へ入營した初年兵時代の懷古談を面白く話つてくれた。

大正十三年最後の例會も、種々有益な話を聞いて、盛會裡に終つた。

◇介殼虫驅除

野倉野區に於ては本年度の介殼虫の發生に鑑み之れが驅除を勵行すべく農事組合長の集會を開らいた而して一般組合員に驅除の方法を知らしめるため農會技術員の出張を乞い藥劑製法及撒布法に付き實地指導を受けた。

◇旱害地水利調査

今般本縣に於ては旱害被害地の水利根本調査をなし將來旱害の禍根を除去すべき計畫の本に兒島技手千脇技手出張して大々的調査を開始した。舊蠟は主として溜池調査にして本年度は水源地、水の消費料其の他水利關係の根本調査をする豫定である。多分三日頃までには完成するらしい。

◆編輯にて

不景氣だ何だかだと言つてゐる裡に甲子の年は鼠の如くに失せた。新しく明けた天地は牛の年、今年こそは何とかざつくりと落付いた年にしたい、牛の樣に……、

　窓たゝず行かば千里の先も見ん
　　牛の歩みのよし遲くとも

まうだ、牛は實實剛健其の物だ、くどうすあぜらすうけず、牛の樣なしつかりした歩みを進めたい、うして常に光明の方面のみを目ざして、どこまでも樂天的に進みたい、何でも晴み出したか大事だ、此の惠まれたお目出たい新年の劈頭から嬉しい氣分で……愛すべき牛の年よ多くの幸をもたらして呉れ、

（大正十三年八月二日第三種郵便物認可）　大正十四年二月一日　西塩田時報　第十五號　（一）

西塩田時報

第十五號
毎月一回一日發行
定價金三錢
廣告料一行金十錢

大正十四年一月廿五日印刷納本
大正十四年二月一日發行
編輯印刷兼發行人　長野縣小縣郡西塩田村大字
　樋口秀實
印刷所　山浦活版所
　仝縣小縣郡西塩田村
發行所　西塩田青年團
　仝縣上田市六二六

補習教育について

六川生

新らしい年を迎へたと思ふ間に今年も一ケ月は、すぎてしまつた。すぎゆく時間がいつも無意でない様にありたいことを第一に祈ります。

古い殻や、過去の遺物に執着して居ると、新らしい天地の回轉も、意義がなくなります、時はたつても、古びても、新らしい希望や、創造や、自覺に生きやうと、目ざめた、そこから、出發することに、時の意義があると思ひます。

今迄、本村施設の補習學校中、男子部は十二月より三月迄、夜學でありましたが、今度、塩田五ヶ村聯合して、此補習教育の實績をあげたい希望のため、中塩田村地籍に、補習學校を設立することになりました一月十二日から開校し、三月中旬迄の教授をすることになりました。

在來の夜學といふのが、長い間の歴史は、ありますが、其効果が極めて、疑はしいものでありましたため、隨分、先輩の方は勿論、學習者自身にも此改善のために、書間教授の要求の切なるものがあり、且つ全國一般に此補習の機運の促進と、法規の改正等が、此處に、五ヶ村、共同による新施設が、生まれました事は、たしかに教育上の一進展であることを信じます。

幸にも、本村在來の在籍者の、大部分が熱意ある學習の態度や、一般父兄の同情と理解とを、得られ、今や熱心に學習のために努力されつゝあるは如何に農村文化の進運に基礎づけらるゝことか喜こばすには居られません。

四五十年前、彼の、デンマルクの農村が頻死の窮狀に際するや、一大愛國者、グルントウイー氏が「まわり遠いことよ」と非難の聲を、あびつゝ彼の國民高等小學校の教育こそ、凡てをすてゝ、第一にと高潮され、人物の養成こそ、此難關を救ふ鍵よと、絶叫された結果、今や此れこそ最とも、近道なりしことを覺りし事實は、何を物がたりつゝあるでありませう。

私共、農民をば「死なず、活かさず」といふ範圍の統治主義や、「學問は士や僧呂の專有だ」といふ封建時代の政治や、道德で領主中心政策の、手段のために、止むを得ず。最低の生活を強要せしめられたことは永い間の訓練や、慣習とは云へ、實に根づよい影響があることを反省せねばならぬと思われます。

明治、大正の代となりて、漸やく、自由の解放を得、權利の獲得は、出來たものゝ世はまだ〳〵、矛盾の多いこと、甚だしい單に、教育の一方面のみ考ひて見ても、近代教育の組織すら、そこに機會の平等は得られない、悲しみが、存して居るではありませんか。

農村問題といふ、聲の、かまびすしいこと農村生活自身の訴へは勿論ですか、上からも。下からも。横からも。縦からも。

けれど、萬法は、一に歸すべきもの、農村の問題は、文化の問題です。

一般文化の進展に、其農村問題の基礎があると思ひます。

どんな手段や方法も、人を離れて、でき得るものがありませうか。

人間の改良こそ、凡ての改良案の出發点で到着点であらねばなりません。

こゝに、問題の鍵があるべきでせう。

一面では、ありませうが、補習教育も此處に基礎を求めねばならないと思ひます。

◈勞働協調委員會

——勞働部協定——

二月一日午前九時より役場内に勞資協調勞働部委員會を開き左記の如く本年度勞働賃金其の他協定する處あつた。

協定事項

一　傭者被傭者は互に相敬愛し土地は國土の根本なるを思ひ、所有者の誰なるを不問、土地と作物とを尊重し生產能率の增嵩に努むること。

一　勞銀は其の勞働に對する報酬なるを以つて農事作業に當りては勤勉熱心に且つ親切を旨とし多く働き多く賃金を得る樣奬勵すること。

一　左に揭ぐる協定賃金は一人前の能率に對する標準にして現金拂を例とす。

一　場合に依り協定賃金にて出來ざる仕事は着手前相互協定をなすこと。

一　上簇其の他の場合に於て特別に勞働せし時は雇主より相當賞與を贈ること。

●勞働賃金

一月　七拾錢……九拾錢
二月　七拾錢……九拾錢
三月　九拾錢……壹圓
四月　壹圓貳拾錢…壹圓四拾錢
五月　壹圓四拾錢…壹圓五拾錢
六月　壹圓七拾錢…壹圓八拾錢
七月　仝上
八月　仝上

（大正二年九月廿五日）壹圓四拾錢…壹圓五拾錢
（大正二年十月廿日）九拾錢……壹圓
（大正二年十一月廿五日）壹圓拾錢…壹圓四拾錢
（大正二年十二月末日）九拾錢……壹圓

（但し女は二割減）

●月雇ノ部

一月、二月、拾四圓（日雇の二十日分）
三月　貳拾圓　四月　貳拾六圓
五月　參拾圓　六、七、八月參拾六圓
九月　十五日迄　參拾圓
（大正二年十二月廿五日）拾八圓
（大正三年一月廿五日）貳拾貳圓
（大正三年二月廿五日）拾八圓
（但し女は二割引）

●繭かき　白一〆目に付き貳拾五錢
　　黄仝　貳拾錢也

●根桑取（一〆目ニ付）
春　拾錢、夏　八錢、秋　五錢

●桑　摘（一〆目ニ付
普通鼠　拾五錢　魯桑系　六錢

●桑畑年中手入（百坪ニ付）
五圓より七圓五拾錢迄

●畑打（百坪ニ付）五拾錢より六拾錢迄
●切込（百坪ニ付）五拾錢より六拾錢迄
●株直シ（一株ニ付）五厘より八厘迄
●水田年中手入　七圓也
●代　掻　二鍬　六拾錢
三鍬　八拾錢
●馬　耕　一毛　六拾錢
二毛　八拾錢
但シ　ウネ返シ　四錢拾
ウネ盛　貳拾錢
●田　植（百坪ニ付）壹圓貳拾錢也
但シ一坪五十株植込標準
●田の草取り
一番　壹圓五拾錢
二番　六拾錢
三番　壹圓貳拾錢
四番　六拾錢

偶感

ダバオ　小池釣夫

日本の教育では復讐を讃美して居る、劍に報ゆるや劍を以てするの復讐である、故に曾我兄弟や四十七士は彼等の前には限りなく尊いものゝ樣に見ゆるのだ。

キリストは自分が磔刑に處せらるゝ時「神よ彼等を赦し給へ彼等は其の爲す可きを知らざればなり」と云ふて今しも自分を殺さんとして居る神を恐れざる自分の仇敵等の罪の赦しを血を吐く樣な熱烈な思ひで神に祈りつゝ殺されて行つた。親を殺した仇に向つて不倶戴天と云ひつゝ直に劍を持つて之に向ひ殺すか或は殺さるゝかして而して後、快よしとして居る日本人と親を殺し自分を殺し子孫を殺し更に神の道をも殺さんとして居る仇敵に對し劍を持つて向はざるのみならず反つて自分自身を其のまゝ其の仇に與へ更に其の仇の爲めに罪の赦しを神に祈りつゝ殺されて行く。

いづれが是であり、いづれが非であるか、いづれが勝であり、いづれが敗であるか自ら明かであろう。

米國の排日に憤慨して米國大使館の近くで割腹して果てた無名の志士があり、國民は是れを國民葬として懇ろに葬つた。

其の志や誠に壯烈極まるものであつてひそかに涙を催さしむるものがある。然し吾等は如何にいまゝしいからと云つて腹を切つて果つべきものであろうか。我等の命は然かく輕々しく神より授けられたるものであろうか。否々神は決して然かく無意義に吾等を生かし給ふたものではない。どうせ死ぬ程の身であるならば直に自らシベリヤの曠野に入り死する覺悟で地を耕し森を開きシベリヤの爲めに生命を捧ぐるか或は直にブラジルに渡りアマゾン大平原數千哩の奥を探りコロンビヤベルーよりチリー、アンデスの高峯を越へアルゼンチンに至る大探險を敢行し南米の富源開拓のために其の一身を捧げ以て日本民族三百年後に於ける世界的繁榮の源泉となつて而して死するは如何。

花を見んには、お互、根に培ふ、努力と勤勉こそ、第一義であると信ぢたいものです。

偶感

ダバオ　小池釣夫

日本の教育では復讐を讃美して居る、劍に報ゆるや劍を以てするの復讐である、故に曾我兄弟や四十七士は彼等の前には限りなく尊いものゝ樣に見ゆるのだ。

キリストは自分が磔刑に處せらるゝ時「神よ彼等を赦し給へ彼等は其の爲す可きを知らざればなり」と云ふて今しも自分を殺さんとして居る神を恐れざる自分の仇敵等の罪の赦しを血を吐く樣な熱烈な思ひで神に祈りつゝ殺されて行つた。親を殺した仇に向つて不倶戴天と云ひつゝ直に劍を持つて之に向ひ殺すか或は殺さるゝかして而して後、快よしとして居る日本人と親を殺し自分を殺し子孫を殺し更に神の道をも殺さんとして居る仇敵に對し劍を持つて向はざるのみならず反つて自分自身を其のまゝ其の仇に與へ更に其の仇の爲めに罪の赦しを神に祈りつゝ殺されて行く。

いづれが是であり、いづれが非であるか、いづれが勝であり、いづれが敗であるか自ら明かであろう。

米國の排日に憤慨して米國大使館の近くで割腹して果てた無名の志士があり、國民は是れを國民葬として懇ろに葬つた。

其の志や誠に壯烈極まるものであつてひそかに涙を催さしむるものがある。然し吾等は如何にいまゝしいからと云つて腹を切つて果つべきものであろうか。我等の命は然かく輕々しく神より授けられたるものであろうか。否々神は決して然かく無意義に吾等を生かし給ふたものではない。どうせ死ぬ程の身であるならば直に自らシベリヤの曠野に入り死する覺悟で地を耕し森を開きシベリヤの爲めに生命を捧ぐるか或は直にブラジルに渡りアマゾン大平原數千哩の奥を探りコロンビヤベルーよりチリー、アンデスの高峯を越へアルゼンチンに至る大探險を敢行し南米の富源開拓のために其の一身を捧げ以て日本民族三百年後に於ける世界的繁榮の源泉となつて而して死するは如何。

◇大字惣代會

一月十五日午前九時より本村役場に大字惣代會を開き左記の件につき協議打合をして午後三時閉會した。

一、地租附加稅減免に關する件
昨年の旱害に依り收穫著しく減少し旱害地に對する地租付加稅納付の資力なく該付加稅の減免申請者に對する取扱方法は左の如し
イ大正十三年度其の町村の縣稅戶數割一戶平均額の二分の一未滿を負担するものは左の區別に從ひ地租附加稅を減免す
平年收穫高に比し七割以上減收　免除
平年收穫高に比し五割以上減收　十分ノ五
ロ大正十三年度縣稅戶數平均額以下にして且つ平均額の二分の一以上負担するのは左の場合に限り地租付加稅を減す
平均收穫高に比し七割以上減收　十分ノ五
ハ大正十三年度縣稅戶數割一戶平均額以上を負担するものに付ても特別の事情ある場合に減免を許可せらるゝことある可し此の場合に於ては願書は別に調製のこと

二、勤儉奬勵に關する件
本件に關しては先に屢々打合せる處にして相互に之が實行に努めつゝある處なるも現下の狀勢は一層之が實行を要望するものあり殊に目今は時節柄農閑期にあるを以て或は無爲徒食の風生ずるの慮無きに非ず
尙一月は各種の會合交際等に傚り生活上の冗費比較的多くを以て此際一層所定の規約勵行計劃實行に勗め以て勤儉奬勵の實を擧ぐるに努むること

三、除雪勵行道路愛護に關する件
除雪勵行道路愛護に關しては現今其の成績良好と被認に到りたるは御同慶の至りなり今後尙一層道路愛護の趣旨徹底を計ると共に除雪勵行に充分の御督勵を加へられ萬遺憾なきを期すること

四、就學兒童に關する督勵の件
イ就學申立
本年四月一日入學すべき兒童の保護者は一月末日に限り村長宛就學の申立をなすべきにして毎年の例に依れば申立書を印刷に付し配付するにも不拘往々届出を怠る向ありて整理上困惑を來せり。幸に今後各位の援助督勵に依り届出洩なきを期せんとす
ロ就學免除及就學猶豫の出願
不具疾病及び發育不充分又は貧困其の他に依り就學の猶豫又は免除を出願する向は一月末日限り其の保護者より村長宛出願村長は之に意見を付し二月十日限り郡長へ出願する儀に付き各部内に該當者ある場合は失期せざる樣特に注意相成度し
猶不具疾病發育不完全兒童の分は醫師の診斷書を要し貧困其他の分は學務委員二名以上の調査書添付を要するものなれば相當時日に餘裕ある樣注意相成度し
ハ就學督勵
小學校在學兒童の缺席者出席督勵に關しては常に學校職員學務委員と共に相當努力しつゝあるも之等機關を援助協力し一段の督勵をすること

五、實業補習教育に關する件
本件に關しては各部落に於ても從來夫れ〴〵御配慮に依り或は授業料の補助等相當援助の方法を講究されつゝある所なるは寔に悦ぶべき事なりとす
今回男子部教授を墟田五ヶ村聯合の上施行する議成立し本月十二日より九週間晝間教授を開始せり之れが出席生徒に就ても一段の御後援を煩はしたし

六、窮民救助に關する件
近來社會組織の複雜となるに連れ諸種の事情に依り社會より落伍するの貧窮に陷るもの多きの感あり之等は國家鄉黨の爲め面白からざる傾向を來すものなれば隣保相援けて其の欠陷を戒め之を未前に防ぐの道を講ずるは最も必要の事とす
各位は常に部内の安寧に心掛け萬一貧困に陷り救穫を要するものを發見したる時は之を當役場に報告すると共に之れが救護相助の道を講ぜられ度し　以上

◇村會招集

一月十六日午前十時より役場に村會を開いて左記の件を議定した
一、自治功勞者表彰の件
一、大正十三年度更正豫算の件
一、西墟田村役場處務規程改正の件
一、仝　村土木請負及び物件の賣買規程設置の件
一、土木請負規程廢止の件

◇村會議員總選擧

本年四月一日には、本村々會議員の總選擧が行はれる、議員の數は拾四名で、町村制改正の結果、一級二級の別が無く、一日に一齊に行はれて一齊に選良が發表される吾々は吾々の代議機關を選出するのであるから、最も眞面目に愼重に選擧をせねばならぬと思ふ
選擧人名簿は、選擧期日前六十日即ち一月三十一日現在に依り調製されるので其の日公民權の無い者は、選擧權も被選擧も無いのである
選擧人名簿は二月二十日より七日間、役場で一般の縱覽に供し三月二十七日に確定する、誤謬等の修正は確定前に夫々手續をせねばならぬのである
被選擧權は、町村制第十五條の二項乃至七項該當者を除くの外、本村の公民は皆資格を有するのである

御注意！

▲縣稅營業稅雜種稅に關し廢止を爲さんとするものは來る三月末日迄に届出を願ひます
▲村人足料金を受らるゝ方は整理上來る三月末日迄に役場へ受取方御出頭下さい

◇二月行事

一日　勞資協調委員會（勞働部）
二日　西墟田村養蠶組合聯合會總會
四日　學務委員會
五日　澤山財産組合委員會
八日　道祖神祭　信用購買組合總會
九日　村農會評議員會
十日　衛生組合總會（日時を變更して）
十一日　紀元節祝賀式
（各種表彰式）
十二日　西墟田村外二ヶ村財産組合委員會
十五日　第二回勤儉奬勵運動施調期間（一週間）
澤山財産組合會議
十七日　西墟田村外二ヶ村財産組合會議
十九日　村農會總會
廿一日　祈年祭（各神社）
廿五日　田租納稅日
廿六日　村會（本年度豫算議決）
廿七日

◇役員異動

一月の總會に於て各大字惣代の異動は左記の通りである。

大字別	新任者	前任者
山田	東川幾太郎氏	竹下照之助氏
野倉	竹内榮吉郎氏	曾根正一氏
新町	山極伴藏氏	小林丈助氏（再選）
十人	佐藤三郎氏	

◇縣道工事施行

縣道別所丸子線は大正十四年度本縣豫算に計上されて左事施行することになつたが事業緊縮の折柄其の全線の工事をすることは能はず、東墟田村柳澤の池下より約半分（二百五間）の工事をすることになつて來る三月中に工事に着手する豫定だと云ふ。
本村地籍内にして工事施行の方は、東墟田村界に寄つた所僅か三十五間ばかりであるが橋梁は鐵筋コンクリートにするので其の工費は本村地籍内だけでも千五百圓位はかゝるだらうと。

◇西墟田聯合衛生組合より

大正十三年度清潔法施行の結果其の成績良好なる組合は左記の通りであつた。

本年度		前年度
山上手組		山上手組
手下堰口組		手下堰口組
野新田組	山東組	
山東組	山北組	
西宮原組	野新田組	

◇現役兵所屬部隊

昨十三年徵集兵現役は去る一月十日左記の通り入營せられ軍務に精勵せられつゝあり

◇補欠入營兵十二名
昨年壯丁檢査の結果甲種に合格せるもの、中今回補欠召集を受けて佐藤勝己君は一月十九日松本五〇聯隊へ、坂口良黨君は一月三十一日朝鮮八〇聯隊へ各々入營された。

◇會と人

◇講演會
野倉青年會及婦人會は聯合して一月二十四日公會場に講演會を開き、安樂寺住職の般若心經の議義及齋藤村長の勤儉奬勵に關する講演ありしと……

◇土木委員會
一月二十六日、本村土木委員會を開き、村長及助役と共に土木委員一同村内道路及び橋渠を視察し、本年度の土木に關する豫算を作製した。

◇戶谷部長轉任
別所派出所の戶谷部長は今回豊科警察署へ榮轉された。

◇水利調査
昨年十一月より十二月に亘つて墟田地方全般の水利調査に任じてゐた、本縣土木課小島、千脇の兩技手は一月二十七日より再び調査に着手された。
因に二月二十日頃には調査終了の豫定であると

◇簿記講習會
本村農會竹下技手は農家經濟簿記に關する講習の爲左記日割を以つて、各部落を巡廻し毎夜二時間宛講演を續けてゐる。

西前山	一月二十一日	二十二日	
十人	二十三日	二十四日	
手塚	二十六日	二十七日	
野倉	二十八日	二十九日	
山田	三十日		
東前山	二月一日	二日	
新町	三日	四日	

歩五〇ノ二　增澤利吉　歩五〇ノ十　吉池光元
歩五〇ノ七　黑坂喜重　歩五〇ノ三　酒井末治
近歩三ノ二〇市川幸一郎　歩六〇機關隊矢澤要吉

支部通信

□新町支部通信

乾坤一轉して茲に紀元二千五百八十五年牛年一月一日過去現在を通じて再び廻ぐり來たらざる初日は東天に輝いた午前八時、例年の如く區民一同社前に集い新正の賀辭を交換し總代の迎春に就いての感想を聞く、曰く鳥兎忽々として茲に多事多難印象深き大正十三年を送り新らしき新年を迎ふる事になりました、誠に慶賀に堪へざる次第であります、思ふに私共は仮令過去現在が悲運にあり逆境に沈みても明日からは否新年からは心の馭に鞭ちて堅忍不拔、不撓不屈以て洋々たる前途に向つて勇往邁進すべきである、と終りに萬歳を聲朗らかに三唱して散す。

五日午前より青年會の新年例會は開かれた午前中は役員の選擧全會員の役割及昨年新設せられた若衆勘定等であつた、近來稀有の大旱害を見舞はられた割合に若衆の三德の貫數であつた事は驚き入つた、是れには何か依りて來る所以がなくてはならぬ、思に新町青年は常に勤儉力行怠ることなく不時の用意周到なるに基因すると思つた。

次に本年度より十有餘年間途絶してゐた毎月一回の例會を開くことに可決せられた毎月口角泡を飛して大に時事を論議し含味するであろうと今より例會の隆盛を期す、最後に粗酒ではあつたが互に胸襟を開き腹藏なき意見の交換及唄の虫干をして目出度く會散す。

當區の最高齢者　八十九才女
　　八十六才男

五部消防役員選擧の結果部長中井嘉工門君小頭箱田重雄君福田三政君武田駒之助君等才幹秀でたる新進猛者出ます。

□十人支部

又一つ増した青年會の仕事、時間勵行の民衆的自覺につれて各戸の時計正確と云ふ事が必要となつた、それに就いて我大字にても毎月一日拾五日午鐘を打つて各戸の時計を正確にする事となり午鐘打ちは又もや青年會の仕事の一つに加つた、一月十五日佐藤會長が第一回の午鐘を打つた、非常に良成績だつた。

毎年五名宛交代にて區民を代表して伊勢大神宮に參拜する事となつて居る、今年も佐藤知君佐藤三郎君武田定雄君齋藤洋爾君小林元助君等は一月六日大字を出發して同月拾四日無事歸宅せられた。

特志家、生活改善と云ふ言葉は折々聞くが其の實行は餘り行はれぬ今度我大字の武田幸次郎氏は夫人故ミカ子女史の葬儀に當るであろうと今より例會の隆盛を期す、最後に粗酒ではあつたが互に胸襟を開き腹藏なき意見の交換及唄の虫干をして目出度く會散す。

當區の最高齢者　八十九才女
　　八十六才男

五部消防役員選擧の結果部長中井嘉工門君小頭箱田重雄君福田三政君武田駒之助君等才幹秀でたる新進猛者出ます。

□十人支部

又一つ増した青年會の仕事、時間勵行の民衆的自覺につれて各戸の時計正確と云ふ事が必要となつた、それに就いて我大字にても毎月一日拾五日午鐘を打つて各戸の時計を正確にする事となり午鐘打ちは又もや青年會の仕事の一つに加つた、一月十五日佐藤會長が第一回の午鐘を打つた、非常に良成績だつた。

毎年五名宛交代にて區民を代表して伊勢大神宮に參拜する事となつて居る、今年も佐藤知君佐藤三郎君武田定雄君齋藤洋爾君小林元助君等は一月六日大字を出發して同

□塩田公民實業學校の開校

塩田公民實業學校は豫定の如く去る一月十二日午前十時より中塩田小學校に於て開校式を擧げました。先づ竹下西塩田村助役の開會の辭、有賀東塩田校長の式辭、郡長代理宮原郡書記、齋藤運平氏の祝辭がありそれより各職員の紹介があつて閉會致しました、當日は塩田五ヶ村の村長學務委員會議員諸氏の多數參列あり盛會でした、生徒は式後中塩田齋藤校長の勉強に關する注意や其他の話を聞き教室に宛てられる五加の籔室二棟へ案内せられ各學年主任教師の訓話を聽き放課となりました、そして十三日より毎日授業をして居ます、因に各學年各村生徒は左の如くです

村	前期	後期一年	全二年	全三年	計
富士山	一一一	三一	三一	一八	
東塩田	一一〇	九一	六一	三六	
中塩田	〇一八	一六	二〇	五四	
別所	〇一	一六	八		
西塩田	一二〇	一九	二〇	六〇	
計	三六〇	四八	六五	一七六	

□山田納稅組合表彰さる

大字山田、上組、東組、中組、北組の四納稅組合は組合組織以來十余年間相互に扶け合ひて常に完納の美蹟を繼續して來たが、昨年十月天長節祝日の佳辰に名古屋稅務監督局長より左記の表彰狀を授與された。

表彰狀

長野縣小縣郡西塩田村

山田（上組東組中組北組）納稅組合

協同納和夙ニ租稅道德ヲ重ンジ率先納稅組合ヲ組織シテ官民相互ノ利便ニ資シ以テ自治納稅ノ美績ヲ繼續スルコト久シキニ亙リ組合ノ基礎益堅實ヲ加ヘタリ斯ノ如キハ眞ニ健全ナル國民精神ノ結晶ニシテ曾ニ模範納稅團体トシテノ使命ヲ全フセルノミナラズ延テハ勤儉貯蓄思想ノ涵養ニ貢獻シ且隣保相扶ノ良風ハ以テ四隣ノ善化ニ及ホストコロ亦尠カラズ洵ニ他ノ龜鑑トスベキナリ仍テ天長節祝日ノ佳辰ニ方リ其ノ功績ヲ推奬シ茲ニ之ヲ表彰ス

大正十三年十月三十一日

名古屋稅務監督局長正五位勲三等杉一郎

二つとや三眠起までは氣をつけて
室の空氣に注意せよ注意せよ

□御寄附

本村大字十人武田幸次郎氏は故令閨の葬儀に際して金五拾圓を本村小學校基本財産の中へ御寄附になりました。誠に御篤志の至りであります。

□時報發刊賀の中へ

左記の通り御寄附下さいました。誌上を以つて厚く御禮申上ます

一金武圓也　輕井澤郵便局内　中嶋　誠殿
一金拾圓也　小學校内　無名氏

□人口動態

昨十三年度本村人口動態を見るに本籍人に於て死亡六四、出生一一六、婚姻六六、家督相續一六、分家一三、入籍六、轉籍三、養子緣組一三、國籍喪失一、離婚二、戸籍訂正一、追完一、非本籍人では死亡六、出生二、婚姻一にして此外に死産が二一であると。

□青年團役員異動

本年一月本團役員の異動は左記の通りである。

幹事野倉吉池源一　新任者　前任者
仝（西前山）宮澤茂士　内田文彌
支部長（山田）竹下照司　宮澤兵部
文庫員（藤ノ木）竹内留治　竹下德人
竹内丑雄

□青年團役員新年會

一月十三日午後一時より別所温泉花屋ホテルに於て新舊役員送迎の意を加味した新年宴會を開いて、村長樣校長先生を顧問として御招待した。不景氣の十三年度を送て愉快な十四年を迎へる樣に各自素晴しい氣燄を擧げて午後十時散會した。

□數へ唄

小宮山榮吉作

—養蠶に因める—

一つとや人々勝れたよき蠶
　育てゝおくれよ家の爲國の爲

二つとや三眠起までは氣をつけて
　室の空氣に注意せよ注意せよ

三つとや皆さん蠶は福の神
　大事に育てゝ頂戴な頂戴な
四つとや夜晝寒さに氣をつけて
　寒さの時には焚火しな火を入れな
五つとや何時も蠶が當る樣に
　新る神樣佛樣佛樣
六つとや無理なる願はなりませぬ
　働くよりは外にない外にない
七つとや成るけよい樣な桑を取り
　食慾程度を增すがよい增すがよい
八つとや休まぬ中は氣を付けて
　蠶の身体に注意しな注意しな
九つとや忘う云ふ具合に育てたる
　蠶は必ず大當り大當り
十とや取つたお金を貯へて
　參拜旅行でもしておくれしておくれ

大正拾參年中帝國事件番附

●東ノ方

大關	普選案綱要樞密院に御諮詢 十二月
關脇	首相貴院改革を議會に聲明 七月
小結	政府四個師團廢止言明 十一月
前頭	衆議院解散 仝 一月
同	清浦內閣成立 十二月
同	日露交涉解決の望み見ゆ 三月
同	米國に排日問題起る 七八月
同	稀有の大旱魃
同	水平社員德川公に辭爵を迫る 八月
同	明治神宮競技第一回大會開かる 十月
同	政務次官制創設 八月
同	勤儉週間 十一月

年寄　攝政宮御成婚式　一月
行司　攝政宮御慶事大饗宴　勸進元　西塩田時報

●西ノ方

大關	大不敬漢靑波大助死刑 十二月
關脇	行財政大整理 十月
小結	三派聯合して加藤內閣成立 六月
前頭	衆議院議員總選擧 五月
同	清浦內閣總辭職 六月
同	政友會分裂して政友本黨生る 一月
同	絲價慘落蠶絲業者悲境に陷る 六月
同	國際聯盟會議に日本の主張通ず 九月
同	帝國在鄉軍人會國庫補助運動 七月
同	國際競技に日本選手初めて得点 七月
同	武藤山治氏等の實業同志會現る 四月
同	關東鑑福井縣沖に座礁す 十二月

萬壽姫の話

—村の傳說其の三—

信濃國手塚の里に源義仲の將手塚太郎金刺光盛と云ふ侍があつた、光盛の娘に唐絲の前と云ふものがあつて、拾八歳の時鎌倉に召されて源頼朝に仕へた壽永二年の秋の頃頼朝は義仲の振舞を憤り之を攻めやうと謀つた唐絲は事の由をこま〴〵と書き其上父光盛に信濃越後二國を賜らば頼朝を無きものにしやう、就ては木曾重代の脇差を賜はれと云ひ送つた、義仲は唐絲の請を許し其謀の成るを望んだ唐絲は之より頼朝を狙つてゐたが藥風呂をたてた時遂に風呂奉行土屋三郎に脇差を見付られて訴へられた頼朝は之をいぶかつて唐絲を松が岡殿にあづけた所が三郎は唐絲の室から義仲よりの手紙を見付けた之でもつて頼朝は唐絲を召して責めようとした松が岡殿は其の禮を欲いたのを憤つて召に應せしめないで密に信濃へ送つた武藏の六所で梶原景時に行きあたれば唐絲は捕はれて又鎌倉へ届けられた松が岡殿景時の無禮を咎めやうと憤つたから頼朝は唐絲を裏の石の牢に入れてしまつた手塚の里には六拾歳になる祖母と拾二歳になる娘の萬壽姫とがある、風の便でこの由を聞いた萬壽は鎌倉に上り幾年も頼朝に召使して之を探り如何にもして母を援けやうと考へ乳母の更級に打明けた更級は其孝心に感し何處迄もお伴してゝ其の夜直ちに出發した明くれば萬壽が居ないので跡を追つて見たら雨の宮で追いついた、祖母は鎌倉行きを思ひ止めやう泣きとめたが遂に決心を飜す詮もない、よつて五郎丸を添へて立別れた。深志の里を過ぎ淺間の煙に思をよせつゝ上野武藏を過ぎ三十二日目に鎌倉についた。翌日事の由を認めて五郎丸に持たせて國元へ皈らせた、其後萬壽はつてを得て鎌倉に奉公することゝ爲つた。二十日ばかり悲んだり疑つたりして氣を揉んだが石の牢の所在も母の樣子も耳にすることが出來て只管時の至るを待つてゐた。三月二十日の鎌倉山の花觀の日となつた御邸中総出で人一人も居ない時こそ好けれと俊忍ん雪の下、萬年變らぬ龜かへの谷鶴のから聲で萬壽は石の牢前で母に過つた。夢かと許り喜び志の程を申し上げて一夜を短いとかこちて立ち別れた次の年正月二日頼朝祈念の獅子の間の疊の縁に六本の小松が生へた阿部仲望と云ふ博士を召してとはせたら「松は千歳の齢あれば君は千代を重ねて六本の小松にて六千歳榮ゑ行く試しである」と申し「之に依つて鶴が岡に相生の松ヶ枝を移し十二人の處女を求めて今樣唄はせて神德を壽ぐがよろしからう」と逃べた。頼朝は之に從ひ處女十一人迄選んだが今一人選び出すに困りはてた更級は此時と局へゆき萬壽の今樣上手のことを申し出た。どう〳〵萬壽は其選に入つた彌正月十五日宮前の左には頼朝を始め大小名右には大御所を

西鹽田信用購買組合

本組合第四年度第五年度事業狀況を示せば左の如し

摘要	大正十三年度末現在	大正十四年度末現在
組合員	五六八名	二〇五名
出資口數	一三六二口	三二七口
出資金	六、八五四円	一六、三五〇円
出資拂込高	四〇〇	一、一四〇
借入金	九、一九二	一三、一七〇
預ケ金	七、八二一	一六、一七五
貯金額	一〇六、四六六	一〇五、〇九二
貸付額	八五、一三八	一三、〇八三
購買品仕入高	七六、九七三	二一、四二〇
内產業用品	三八、九六	四二、三五
經濟用品	三八、七七	五〇、一七七
購買品賣却高	九九、四九〇	一〇六、四六〇
内產業用品	三三、三二八	三七、一七二
經濟用品	三七、一七二	四六、八五五

備考（圓以下切捨）

始め大小名の奥方果ては鎌倉の貴賤上下滿々てゐる、さて今樣の舞は始まる一番は手越の長者の娘千手二番はきせつのかめづる三番は遠江國ゆやが娘しづう四番は武藏國入間川の白拍子牡丹五當は即萬壽である十三の春花の眞袖を返し麗の聲で「鎌倉は八つ七つがうとうけ給はる春は先づ咲く梅が枝に鶯の宿かすらんと上手に謠ひ納めた。其時萬壽は其場で髮を切り墨染の衣に身を變へ「我親は御裏の石の牢にある唐絲でございます。されば四才で捨てられましたが去年の春事の由承はり、あるにもあられずして母の命に代らうと此處迄參りました。此度の引出物には母の命に我身を取りかへ給へば幸と存じます」と云ふ。頼朝は聞いて驚いたが何かさて歩度の喜びには世の中に惜むものがあらうぞとて唐絲を石の牢より出させて萬壽に下された。萬壽は母に抱きつき唐絲は我子にすがり嬉し泣きに泣きあつた。頼朝始め誰もたれも人の寶は子に勝るものはないと感じあつた。かくて頼朝は尚引出物をとらせやうとて信濃國手塚の里一萬貫の所を下され御臺樣からは黄金一千圓富士のゆき綿一千束を贈られ大御所樣よりは砂金五百兩美濃の上本一千匹を與へられた。そして暇とらせて親子諸共信濃國へ皈された、程なく手塚の里へつき二年の歳月祖母ひとりの詫住居涙のひぬ時はない。其處へ芽出度皈つたのである、一家旅孝の德神靈の加護とて其子孫は長く繁昌してゐると云ふことである。里傳に鹽田平の南方舊手塚村を光盛の本居と云ひ西鹽田村手塚區小字立石及び堰口に跨り舊字大城と云へるは手塚氏の邸邸と傳ふ又信濃守源爲公の孫に植田太郎輔頼あり其男に手塚次郎輔光あり輔光の男に太郎光頼ありこれ手塚村の住人にして本居を以て氏と爲すと云ふ（村誌）又爲公の子に依田六郎萬壽の至孝更級の義氣の範となすべし。追記目下舊大城の東方に唐絲觀音現存す大城附近には舊字名に城の鐘下と云ふ所あり。其他城にちなめる字名及堀跡等あり。

信用購買組合定期總會

來る二月八日午后一時より本村小學校に於て第五年度組合總會開會す。尚當日產業組合に關する有益なる講演ある筈。

◆編輯室

●原稿の集りの悪いのに何より閉口致します。出來事なり雜報なり感想なりを遠慮なく何方も御投稿下さる事を希望致します。

●時報は村の新聞です、お互ひがこの機關を利用して便利なものにして行きたいと思ひます。それには矢張り皆さんの御投稿に俟つ事が第一であります。

●編輯が濟んでホッと一息つく頃は十二時過——冷たい夜氣が背に逼つて、原稿を整理する手先は冷たくなつてゐます。

●皆さんの御手許へ届く日の少しも早かれと願ふ次第であります。

◆海から山から

◎組合の金澤さん曰く「組合の酒類購買高を一昨年と昨年と比較すると、總額に於て二千圓許り昨年度の方が減少してゐます。これはいろいろ原因がありませうけれども兎に角いゝ傾向だと思ひますね」

◎役場の盛ちやん——「禁煙會は出來たがまだ手塚ではトリ締る役人がなくて困るからオメでも心配して早く何とかやつておくれや——」。

◎此度西前山養鷄組合といふ有志者の會が生れた。役員は組合長瀧澤ゝ之助氏副西澤龍端氏、幹事前島權太郎氏堀田政盛氏

◎役場の荒井さん曰く「困つたもんですナア、本村に於ける昨年度死產數二十六で小縣郡では勿論縣下でも第一番に多いさうです。何とか甘い相談にお願ひいたしたいもんですナア」。

◎或る人よりの御註進によれば手塚紺屋村は地理違へり。深しの里は東筑摩郡に深志あれど又地理違へり（深しの里は元此の地を東松本村西松本村と稱せしことあり作者の松本を深しの里と云へしならんか）之れに似よりの地名は小縣郡の東部に深澤あるのみ、これらの里或は文飾に出でたるべきか鄕土傳說として採りて以て唐絲の忠烈萬壽の至孝更級の義氣の範となすべし。追記

組の法螺吹會では放養してある犬猫鷄等を毎晩胃の中に葬るさうです。御用心！

◎村長樣曰く、勤儉奬勵については大字の主婦會や婦人會等に出席して大いに宣傳して來たが、二月十五日からは第二回の勤儉週間になるので當日は東前山の主婦會に出席することにしました。二月は豫算の編成があるので各種の會合で程んどあいてゐる日はありません——と

◎村道內村線中、字澤山鞍淵附近の大きな岩石を破碎して道路を改善すると云ふのに對して澤山礦泉松尾善作氏は五拾圓の寄附を申込んだと。

◎昨年の旱害を蒙り所得が減損した爲、所得稅の更訂を稅務署へ出願したものか本村には十六名あつた。

◎校長先生の十八番の歌を御紹介する、曰く「鶯が梅の小枝に晝寢して蕾枕に花布團空吹く風に目を覺し空を眺めてホーホケキョ」。

（大正十三年八月二日 第三種郵便物認可）　大正十四年三月一日　西瀘田時報　第十六號　（一）

西瀘田時報

第十六號
每月一回一日發行
定價金三錢
廣告料一行金十錢

大正十四年二月廿五日印刷納本
大正十四年三月一日發行
長野縣小縣郡西瀘田村大字
編輯印刷兼發行人　樋口秀實
仝縣上田市六二六
印刷所　山浦活版所
仝縣小縣郡西瀘田村
發行所　西瀘田青年團

一ツの祈り

宮澤兵部

此の頃いたましく感じた事の一つは、自分の家がまずしいと頭に深く〳〵浸み込んで居るではないかと考へられる○○さんの兄弟達だ。私は村の小さい者で、あの様に家の事を頭に浸み込ませて居る小さい者をそんなに澤山は知らない。

教育の必要、今更私が云ふ迄もない事だ。其の還境によつて頭に浸みこんだ、天性の様に浸みこんだ自分達の考へを大きくなつてから不必要な、否、惡いと考へられた時、それを取りのぞく爲にどの位の努力が必要だか。

それは血の出る様な闘ひである、肉を切られる様な辛らさである。

自己教育の必要は、其の苦しみ、其の闘ひにあく迄根强く、闘ひ通すシッゴキ自信を持つ爲に努力したい。學校教育は、自己發展により良く進む事の出來る素養を作つて頂くためではないだろうか！。

一ッの不安と焦燥に襲はれながらも、豪慢の云ひ方だが、一ッの興味を以て見て居る事は、小さい者が大きくなつて行くと云ふ事だ。

人間である以上、例へ及ばないながらも眞面目に小さい者に接して居られる先生を見た時には、何とも云ひ知れぬ有難い感謝の念と、自ら頭の下る尊敬の念とは、自分の様な何にも知らない者にも、ムラ〳〵と起つて來るのである。

自分は、一ッの祈りがある、それは農村に生まれた者が、眞心から農村をきらはない様な心になつて貰ひたいのだ。頭から農村は、いやな所と、頭に浸み込まない様に勉めて行きたい。例へ頭に浸みこんでも、それを展開して行く事の出來る素養を頭にやしなつて置きたい。

農村は如何に、いゝと口に云ひ、又文に書いたとて駄目だ。還境が農夫に、眞面目に働いて居る者に、ヒガメを以て見て居る、今の世の中。天才のみが偉いと考へて居る自分達、悲しい事に自分はそう植ゑ附けられて來てしまつたのだから、如何に反抗的に考へて見ても、已れの内心を見る時には、それを肯定しないわけには行かないのだ。

然し只一ッ今も自分達に望みのあるのは、教育の力を味方として、自分達の醜い考へと闘いつゝ幾分でも、各々自分達の職業に落ち付いて居られる様に、教育されん事を祈る者であります。

こんな事私が云ふべき事ではないかも知れん、けれど只皆様と一所に、一生懸命で最上への歩みをヌルキながらもたどつて行きたいのです。

私達の内心に潜んで居る、かよわい生命の力をどうか助けて下さい。

私の失禮の所と、不都合の所を、みんな赦して下さい。幾分でも取り柄が、有つたら手を握つて下さい。

△

◎家庭の不和。

斯うした事が、俺になぞ解るべき筈もないが、然し自分の心持を尊重されると云ふ事は、理窟なしに氣持ちいゝものだ。

出來るだけ、折れて貰らいたい。救し合ふて貰らいたい。一人の人の「對者の」考へを出來るだけ尊重して貰いたい、是れは第三者の願ひだ。

自分達は各々、足りないのだと云ふ事を、本當の心から考へる事の出來る様に努力して行きたい。そうして生活に表して行きたい。それが自分への自分の願ひだ。

◆川西病院の一般診療

川西十ヶ村傳染病院では今回石井醫學士を囑托し普通醫院を兼營することになり設備も萬事整ひ三月一日より一般診療に應ずることになつた診療規定左の如し

一、患者は有料患者、低額患者甲、低額患者乙の三種とし

一、有料患者は小縣醫師會の定むる藥價

一、低額患者甲一日分藥價十五錢乙一日分五錢とす尙困窮者は評議員會の決議により其藥價を免除す

一、普通患者は午前中に來院診療を受くべし藥取りも亦同じ但急患は此限りに非ず

一、醫院の休日は毎月五日二十日と定む

◆悲しみ多し（日記の一節）

中澤多七

二月十五日

、、、、さん來訪。この人を自分は珍らしく立派な人物だと思ふ。本當に自分達貧乏人の代表として村會議員に選び得るなら申分のない人物だ。

恁ふ云ふ人物が世間に受の惡いのは余りに當然のことだ。

こんな際に小作人とか、ともかく無產者の組織の出來てゐないことは實に遺憾な事だ。

どうして自分達の仲間は何時までも眼が醒めないのか。

それにしても思ふ。

自分が最つと腰の强い人間であつたら、この無產者の組織に向つて一骨折るのだが社會的に無力であり、且つ無氣力であるは、自己の血、肉、生命、の糧として自分を犧牲にしても、この人達の爲に盡すのだが、自分は、自己の生活に追はれて、この人達の爲に盡す事が出來ない。

自分を省りみて悲しく思はずには居れぬ。弱者はかく永久に獨り悲しみ多いのであるか。

自分はどもかく自己を一個の人物に完成させしめぬばならぬ

いまはともあれ物事に手を出す可きでない。

この堪へ忍ぶべからざる、あらゆる事物に直面してゐるにしても疑つと忍ねばならぬ。

はちきれるまでに自己が完成し充實した時に猛然と當り散らさぬばならぬ。

涙を呑んで忍ばねばならぬ。忍ぶのだ！忍ぶことがこの際の自分自身への一つの充實と完成への一歩なのだ。

嘲笑も侮蔑も亦苦悶も忍辱も貧も凡て自分を目がけて投げつけられる一切の出來事は、自己の血、肉、生命、の糧として自分は祈りを以つて、拒むことなく攝受せねばならぬ。

大成は偶然にてはあり能はぬ。

過ぎたるは及ばざるに如かず。

未成品に失意なし。

天才を自分は望まず。亦自分は天才ではないのだ。

大器晩成。

凡俗の見てもつて手のとゞかぬほどの未成品ほど末のたのもし。

世人の意表に出づる程の大成と完成の餘裕と末知の運命を彼は隱藏してゐるのだ。

小器早成に終るべくんば寧ろ自分を未成品のまゝ自分を斯くあらしめよ。自分は斯くあれ。終らしめよ

いまにみろ。

これこそ今日の我が忍ぶべからざるを忍ぶ者にとつての、對者に、そして自分自身に投げつけられる肚の底からの沈痛な言葉であるのだ。

歲入出豫算

◇收入

一金六百五圓也　歲入豫算高

◇支出

一金六百五圓也　歲出豫算高

收支差引皆當

◇歲入之部

一、會費　二九〇
二、補助金　一五〇
三、寄付金　五〇〇
四、雜收入　九〇
五、操超金　二五
合計　六〇五

◇歲出之部

一、事務所費　三五
二、會議費　四四
三、事業費　四三五
四、補助費　二〇〇
五、負擔金　二七
六、雜支出　一〇
七、豫備費　三四
合計　六〇五

❖大正拾四年度西瀘田村分會收支豫算書

（項目ヲ略ス）

◇收入之部

第一款　繰越金　參拾圓
第二款　財產收入　四拾圓
第三款　會費　貳百參拾壹圓
第四款　寄附金　七圓
第五款　實費微收　六拾圓
第六款　雜收入　六圓
收入合計　參百七拾四圓

◇支出之部

第一款　事務費　六拾貳圓
第二款　會議費　百拾圓
第三款　事業費　七拾七圓
第四款　基本財產造成費　五圓
第五款　負擔　四拾圓
第六款　豫備費　貳拾圓
支出經常部計　參百拾四圓

◇支出臨時部

第一款　事業費　六拾圓
支出臨時部計　六拾圓
支出總計　參百七拾四圓
收入支出差引皆當
西瀘田村分會

◇事務報告書

大正拾參年壹月一日ヨリ仝年拾貳月參拾壹日ニ至ル壹ヶ年間本村役場ノ取扱ヒタル事務ノ概要ヲ摘錄シ左ニ之ヲ報告ス

大正拾四年貳月貳拾六日

長野縣小縣郡西壕田村長齋藤重太郎

記

一、施設ノ大要

農村自治ノ根本精神ニ則リ　民心ノ統一ト和衷協同ノ實生活ヲ基根トシテ、村治千歲ノ大計ヲ策立スベク、教育、產業ノ振興、交通ノ計畫、生活及風敎上ノ改善、消費經濟等ノ諸施設ヲ怠ラズ村內各種團体ヲ督勵助長シ、相聯繫シテ時運ノ進化ニ順應スルニ努メタリ

二、吏員名譽職ノ異動

三月十九日再選就任

名譽職專務衛生委員　小林留治郎

三月十九日當選就任

名譽職常設土木委員　瀧澤賢輔

五月七日辭職退任

有給吏員　書記　福田賢一郎

七月十三日再選就任

名譽職　學務委員　箱田梅作

七月十四任命就職

有給吏員　書記　金澤欣治郎

九月廿八日再選認可

名譽職助役　竹下繁松

三、事務處理分担

竹下助役　文書、庶務、學務、社寺、土木、林務、社會事業雜務

樋口收入役　金錢出納、會計事務、財產保管

黑坂書記　地理、國稅務、議事

金澤書記　衛生、縣稅、村稅務

荒井書記　戶籍、兵事、庶務

竹下書記　農商工務、產業統計

四、文書及庶務

社會文化ノ漸進ト國運ノ伸展ニ伴ヒ、町村事務ノ激增著シク、逐年繁劇復雜ヲ極メ文書ノ收受及ヒ整理ニ就イテハ、分担吏員ノ努力ニ俟テ敏速處理ニ努ムルモ今一ケ年間ニ取扱ヒタル文書收受ノ件數ヲ示セバ左ノ如シ

甲號受付　千百六十一件

乙號受付　八百六十七件

丙號受付　四百二十八件

官報縣報　三百八十四件

告示告諭　三十三件

戶籍受付　千二百十一件（寄留受付共）

合　計　四千八十四件

五、議　事

時勢ノ進運ニ伴ヒ、意志機關ノ活動ヲ要スルコト愈々多キヲ加ヘ、從テ議會事務ノ整理モ亦重要ノコトナルヲ以テ議員ノ精勵ト相俟テ其ノ整理ニ遺漏ナキヲ期セリ

今一ケ年ニ於ケル村會ノ開會數並ニ議件數ヲ示セバ左ノ如シ

村會召集　回數十二回　此日數十二日

議案件數　五十件（件名省略ス）

六、學　務

小學校及實業補習學校共、內部ノ監督、敎育能率ノ增進ニ就テハ專ラ六川校長ニ委任スルモ、學務委員ト協力シテ就學ノ督勵、出席歩合ノ向上、敎務ノ整理等ヲ注意シ、學校醫ヲ督シテ兒童ノ衛生ニ遺憾ナキヲ期スル等、機宜ニ適當ノ措置ヲ講シタリ

其他學齡簿ノ整理、學事統計、學事報告等敏速處理ニ努ム

猶ホ社會敎化、風敎上ノ改善ニ關シテハ戶主會、主婦會、靑年團、婦人會、其他各種團体ノ共鳴ニ俟テ生活改善規約ノ勵行又ハ修養施設タル各種講習會、圖書館等ノ經營、時報ノ刋行等時代ノ要求ニ遲レザラムコトヲ期セリ

今、大正十三年末現在、小學校及實業補習學校ノ職員、兒童數左ノ如シ

校名	敎員數	區分	男生徒	女生徒	計
小學校	本科正敎員九人、專科正敎員一人、尋常科准正三、代用三	尋常科	二三三	二六九	五〇二
		高等科	四九	五三	一〇二
實業補習學校	助敎授三人、囑託敎授十人	前期	一八	一九	三七
		後期	六一	九九	一六〇
合計	二十三人（囑託ヲ除ク）		三四四	四三九	七八三

備考　實業補習學校ハ女子部敎授ハ前年通リ小學校舍ヲ兼用セルモ男子部ハ本年最初ノ試ミトシテ壕田五ケ村聯合ノ上晝間敎授トナセリ

七、社　寺

國體ノ精華ヲ發揚シテ、大和民族ノ粹ヲ保全スルニハ先ツ神佛崇敬ノ思想ヲ普及シ國家ノ緩急ニ應シテ奉公ノ實ヲ擧ケサル可カラザルヲ以テ神社ト寺院ノ隆興ニ就テハ常ニ協賛助ヲ怠ラズ逐年繁劇ヲ來ス社寺事務ハ敏速處理ニ努ムルト同時ニ前年部落有財產統一ニヨリ神社有ニ歸屬シタル財產ノ管理方法ヲ愆ラサル樣督勵セリ

二月十四ヨリ二日間ニ渉リ祭式並神社會計ノ講習會ヲ開キタリ

猶ホ四月十五日ハ鄕社槪野神社甲子大祭ノ執行アリ村內一般之ニ參加セリ

八、勸　業

產業及商工業ノ振否ハ啻ニ村經濟ニ影響スルニ止マラズ延テハ國家經濟ノ消長ニ及ボス所大ナルヲ以テ、農蠶業方面ニ在リテハ專ラ村農會ノ活動ヲ促シ生產能率ノ增進ト農業經濟ノ復興ニ努力セルモ偶々數十年來、稀ニ見ルノ大旱害ニ際會シ農作農蠶共ニ大減收ヲ來タシ一般農家經濟上ニ大打擊ヲ招來シタルヲ以テ、產業組合ノ活動ト相俟テ農業資金ノ融通調和ヲ講ジタリ

猶ホ旱魃對策ニ就イテハ村農會ノ各農事組合、養蠶組合並ニ主要食料督勵委員ノ活動ヲ促シ機宜ノ處置ヲ講シタリ

本一ケ年ニ於ケル農產物ノ重ナル生產高ヲ擧クレバ左ノ如シ

米	大麥	繭　貳九、一五二圓
穀	小麥	八七二石　一〇、〇一二圓
	大豆	一九四石　一、五一〇圓
加工品（干柿	凍豆腐）	二六石　二、三五二圓
		三、三五貫　三、九五八圓
		一、六〇箱　一、九五一圓

九、統　計

統計ノ事務タル、町村勿論、政府及地方廳ガ施政方策ヲ確立スルノ根基ヲ作ルノ資料トナルベキヲ以テ、迅速且ツ的確ヲ要スルガ故ニ產業方面ニアリテハ、產業統計員十五名ヲ督勵シ其他各係協力ノ上各種統計事務ノ調查的確ヲ期セリ

十、林　務

村有林二拾五町五反八畝拾七步ノ中、既植地保護手人及倭林作業ニ就テハ林業委議第一〇號

大正十四年度村稅ハ左ノ課率ニ依リ賦課スルモノトス

一地租割地租金壹圓ニ付宅地地租金廿八錢　其他地租金六十六錢

一國稅營業割本稅一圓ニ付　金六十錢

一所得稅割本稅一圓ニ付　金十四錢

一戶數割縣稅戶數割一圓ニ付金三圓四十錢

一縣稅營業稅割本稅一圓ニ付　金六十錢

一縣稅營業稅割本稅一圓ニ付　金六十錢

一縣稅鼈種稅割本稅一圓ニ付　金壹圓

內遊興稅ハ木稅一圓ニ付

大正十四年二月二十六日提出

小縣郡西壕田村長齋藤重太郎

員五名ヲ以テ專ラ其任ニ當ラシメ受托縣有林ノ經營ハ縣當局ノ指示ニ基キ巡視員四名ヲ督勵シテ保護經營ノ万全ヲ計リ縣下ノ模範林トシテ推賞セラルヽニ至レリ

其他社寺有、私有ノ森林ニ就テモ常ニ造林思想ノ普及ニ努メ經營ヲ誤ラザルベク努メタル結果、漸ク林產物ノ輸出ヲ見ルニ至リ從來ハ木炭等ヲ多ク他ヨリ輸入シタルモ近年著シク木炭ノ製產ヲ增加シ其額實ニ三万餘貫（十三年度生產）ヲ示スニ到リタルハ最モ喜ブベキ現象ナリトス

十一、土　木

常設土木委員一名ヲ增員シ三名ヲ以テ每ニ管內ヲ巡視セシメ道路、堤塘河川橋梁ノ常時修繕ヲ怠ラズ尙ホ先年交通調查會ノ答申ニ基キ路線ノ整理、道路計畫書類ト圖面ノ調製中ナリ

猶ホ濟路改修工事、新設工事ハ年々增加ヲ見、其ノ延長左記數字ヲ示セリ

大正十三年中改修了シタル路線四線ニシテ此延長六百六拾五間

大正十三年末現在

路線一、一五一線　十万六千二百十三間

橋梁　三九橋　百五五間

一二、戶　籍

人口ノ增加ト社會組織ノ復雜ニ伴ヒ戶籍事務ノ劇甚タルハ年ト共ニ著シキ感アリ願書、屆書ノ受理發送等ハ總テ法令ノ定ムル所ナルヲ以テ些ノ怠慢ヲ恕サズ常ニ裁判所ノ監督ト共ニ研究調查ヲ怠ラズ敏速且ツ正確ニ處理スルニ努メタリ

大正十三年中取扱ヒタル戶籍受付件數ハ前揭ノ如クニシテ年度末現在ノ戶籍人口ヲ示セバ左ノ如シ

戶籍	男	女	計
人口	七六四	二、〇三二	二、〇三九　四、〇五二　入寄留者
	一、七二〇	一、八五五	三、五七六　出寄留者
本籍	一、九六	一、九七	本籍　五人三分〇
現住	三、八六	三、〇〇	現住　四人九分〇

一戶當リ人口

問、入退營兵ノ送迎、在鄕兵ノ指導訓練等ハ專ラ在鄕軍人分會並ニ兵役優待會ノ活動ニ俟テ遺憾ナキヲ期セリ

大正十三年末現在　本籍軍人數ヲ示セバ左ノ如シ

（表、以下次號へ續く）

◇大正十四年度歳入出豫算

◆歳　入

一金貳万八千百五拾八圓也　歳入豫算高

◆歳　出

一金貳万四千六百八十三圓也經常部豫算高

一金參千四百七十六圓也　臨時部豫算高

合計金貳万八千百五拾八圓也

歳入出差引皆當

大正十四年二月廿六日提出全日決議

小縣郡西壙田村長齋藤重太郎

◆歳入ノ部

款

一、	財産收入	一、六〇五圓
二、	使用料手數料	五〇四
三、	國庫下渡金	二、六三〇
四、	交付金	七八三
五、	縣費補助	六八四
六、	繰越金	七六一
七、	雜收入	六三五
八、	村　稅	二〇、四五六
九、	寄附金	一〇〇
	歳入合計	二八、一五八

◆歳出ノ部

歳出經常部

款

一、	役場費	四、五二三
二、	會議費	九九
三、	土木費	四五五
四、	小學校費	一四、五九九
五、	實業補習學校費	二、一一一
六、	傳染病豫防費	三八
七、	虎眼豫防費	一四
八、	勸業費	一三〇
九、	救助費	五
一〇、	警備費	二六七
一一、	基本財産造成費	二一六
一二、	財産費	五八三
一三、	諸稅負擔	一、〇一三
一四、	神社費	一三八
一五、	雜支出	一二
一六、	豫備費	四七九
	經常部計	二四、六八二

◆歳出臨時部

款

一、	補助金	八八〇
二、	土木費	一、八九八
三、	表彰費	五〇
四、	村債費	六五
五、	積立金穀	一三
六、	寄附金	五二〇
七、	社會改良費	五〇
	臨時部計	三、四七六
	歳出合計	二八、一五八

◇西壙田村外二ヶ村財産組合歳入出豫算

◆歳入ノ部

款

一、	財産ヨリ生ズル收入	七〇〇圓
二、	使用料	二七〇
三、	繰越金	一八〇
四、	分賦金	八〇〇
	歳入合計	一、九五〇

◆歳出經常部

款

一、	役場費	三三九圓
二、	會議費	五五
三、	財産費	二二二
四、	基本財産造成費	一、一一一
五、	諸　稅	一〇七
六、	豫備費	一一六
	經常部	一、九五〇

◇澤山財産組合歳入出豫算

◆歳入之部

一、	財産收入	三七五圓
二、	使用料	五五
三、	繰越金	一三六
	歳入合計	五六六

◆歳出經常部

一、	役場費	一三九
二、	會議費	四七
三、	財産費	六〇
四、	基本財産造成費	二四〇
五、	諸　稅	三〇
六、	豫備費	五〇
	經常部計	五六六

◇自治功勞者表彰

本村宮澤久三郎氏は多年公共の事に竭し熱誠自治の進善に努められ、其の功績多大なりしにより自治功勞者として表彰規程により二月十一日紀元節の佳辰に本村々長より表彰狀並に銀盃一組を授與された。

支部通信

◇東前山より

◆經濟簿記講習　二月一日二日の兩晩東前山公會場に於て竹下技手の經濟發記講習開催。

◆主婦會。二月十五日午前十時より主婦會を開き、齋藤村長の勤儉奬勵に關する講話並に前山寺住職中嶋榮知氏及び黒坂重一郎氏の生活改善に關する主婦の覺醒を促す處あり。種々實行項目につき打合する處あつた。

◆お祝ひ。小松千代太郎氏長女小松つるよ氏は西内村に良緣あつて二月十五日結婚式を擧げられた。

◆敬老會準備。青年會婦人會の年中行事の一として敬老會についてその打合をする爲二月廿四日事務所に兩會役員會を開いて期日、方法等協議した。

◇新町支部通信

盛大なりし區民慰安會

一月卅日の晩公會堂に於て青年會及び婦人會合同にて現今極度に悲觀沈倫憂鬱性におかされつゝある區民の爲め何等かの方法に依り此の窮境をば慰安せんと考慮の末浪花節の大家、保野のオショッバイや事と末廣亭靜若を招き血有り涙だある乃木大將出征兵士慰問及抱腹絶到御膳の宿替所ろ、正直久助等都合二席彼一流の樂目と音聲を以つて聽衆を心醉せしめた。

青物市場の建設

軍人會の肝煎にて此の度撿田見劇場前に於て四月頃より各方面の賛助を得て青物市場を設置する事となり目下會員諸君は寄附金を募集して居る從來青物市場設置の儀は數年前より提唱せられて居たが其の機熟せず今日始めて實現の運びとなつた、農家の福音は言ふに及ばず、需要者の便利も此の上ない、村内各農事組合員諸君が此の擧に賛動せられ利用せられたならば大いに得る所があると思ふ。

新町座の初興業

西前山の有志にて舊劇浪花瀧丸節劇を十五十六兩日開演初日は木戸〆切の盛況を呈し二日目も可成の入場者有り久しく鳴りものを聞かざりし新町座も初興行より此の盛況を見大賑かであつた。

◇十人支部

我大字農區に於ては二月十四日午前各小農事組合役員總出で先に早害見舞として郡農會より村農會の手を經て、大字に分配された藁、籾及び籾殻を分けた、藁は申込者に、籾は米作する者に對し一戸二升宛、籾殻は、各組合に平等に組合分にした。因に種子は關取り及び女瀧の二種である、一同は非常に大喜で有つた。

◎本月上旬十人報德婦人會に於ては總會をせらるゝそうだ、講師の招聘處女會員方の餘興數組等非常に成大に出來ると云ふ話だ。

◎二月二十五日村農會竹下技手を招して醬油の製法をおそわつた、非常に簡易で美味だそうだ、仲々大人氣。

◎區民諸彦よ各自及び公衆の爲に私達の仕事を御愛し下さい、時計は一日十五日の午鐘に。危い物は區内五ヶ所の危險物入れに讀書は每日曜開場の大典記念文庫へ。靑年會。

◇通信員移動

時報通信員の内左の諸氏新任された。

新町　横山　實

西前山　增澤延壽

會と人

◆水利協調會

大字十人、新町地籍の水利問題協調會は二月二十二日午前十時より本村役場に開會兩大字の代表者數名宛出席協調につき熱議する處あつた。尚次回は三月二日開會豫定の由

◆女子師範入學者

松本女子師範學校本年度入學の第二部生入學試驗合格者中本村中澤はる女、小池なかの兩氏合格。

◆新年祭

二月二十五日新年祭に本村小學校全生徒は撓野神社に參拜した。

◆林業委員選擧

西壙田村外二ヶ村財産組合林業委員齋藤勇氏は三月限り任期滿了の處二月十九日の組合會に於て選擧の結果再び當選された。

◆高齡者死亡

本村最高齡者黒坂はま氏は二月廿五日逝去された。行年九十五才

◆澤山組合會議員

東前山春原種藏氏は　月　日村會に於て組合會議員に當選された。

◆澁澤榮作氏死去

村農會評議員、信購組合理事澁澤榮作氏は二月十一日流感にて逝去された。

◆家庭料理講習會。

本村婦人同志會主催料理講習會は二月二十一日より三日間、小學校に於て開催ジャガ薯や豆腐の原料で美味しさうなお料理が澤山出來たと。

◆臺灣より

臺灣高雄州高雄族後町萩原造船所内　金澤森吉

（前文略ス）委細の御書面に依り御地の狀況承り文明の進歩速かなるに驚くと共に物價の變動生計難の模様等手に取る様にて心細くも存じ候へ共世事天候の如く雨後必ず晴を看る事自然の定義に有之落膽せず愼重の態度を採り居り候中には經濟社會の形勢又御身を利するの好運循環し來ること期して待つべしと奉存候左は去り乍ら不景氣は當臺灣も決して内地に讓らず最も臺灣米を喰すれば目下壹斗壹圓拾五錢は飛切り上等に候當地も最早郡縣の制度と相成り所得稅等の徴收も余り輕ろからず苦情八方に起り中々喧しく候内地よりは比較的暮し好く思ふ事には生計費の安價にして衣服も防寒の時期短き事に候只今大寒を目前に扣へて稀れに暖き日は袷衣一枚にて麥酒を傾る事珍しからず又冬服外套と云ふ日も有之候も夜明け日暮位にして日中外套を投げ出して汗を拭ふと云ふ有様其れも弦一二ケ月にて直ちに夏衣に飛び移る事に御座候

當造船所は鐵工木工其他木挽製材部の手傳人夫等二百人位の工場にして一日大工三圓六十錢鑑工三圓五十錢にて早出居殘り等分增を併せて百五拾圓位の收入ある船大工は場主より一段割合よろしくと存せられ候以前とは違ひ臺灣全島至る處不景氣にて關東震災後東京より渡臺せし人も有之候も稼口なく實に氣の毒に見受けられ候製糖事業の不振に連れて一般の不景氣商業家の店を仕舞ふ者陸續有之候（中略）

亞熱帶則ち常夏の氣候秋の紅繁と冬の銀世界を見る能はざるは殘念に候高山には雪も降らぬ譯には無之臺北は又當地より一段寒く附近の山に降雪する事あれば小學四年生以上を伴ひ校長等の先導にて見學せしむる事有之候概して臺灣の土人は雪を知らず氷も領臺前は知るに由なく内地人の移住後製氷に依て始めて（アイスクリューム）の名を覺へたる事に候陳者渡臺（明治三拾三年）當時は全島到る處舊來の儘にて豚糞の如きは狹き往來に充滿し不潔なる事名狀しがたく疾病大に流行し同行十五人中死亡者甚敷小生も近き將來に於て必ず黄泉に出立するならんと覺悟を極め居り候折柄彼の惡性マラリヤに襲はれ愈々と決心致候處其時は從貫鐵道の敷設中にて小生も三谷と云へる土工の部屋にて日々土坪等取調べ官へ報告するの任務地に素養ある者一人もなく小生の死亡は三谷一家の大不幸なるを以て遠き臺南の病院に入れ充分なる治療をせしめ他の人々より特別の取扱なりしを以て一命を取り止め病氣根絶して今日に至る迄三日と寢たる事なきは無學文盲中の大學者たりし故なりと思出しては今笑の種と相成居り候。

當時は下水の準備水道及電氣等に至る迄行屆き且建築條例に依り衛生に適する住家の構造殆んど理想に近く臺地の如きは街市整然煉瓦造にて三層四層の商店軒を連ね外觀の美なるに引換へ月々建築會社へ拂込の多額なる。不景氣の今日にて嘸々御困りの事ならんと察しられ候尤も稀れには自費建築も有之候、酒類は專賣以前に釀造したる殘品正宗金鶴等は四合入一本壹圓拾錢として專賣局より賣出しあるも別に專賣局にて新規に釀造したる米酒と云ふ名稱にて人身に害なき様余り强からず貳拾五度の燒酎四合入一本三拾七錢にて賣出し其他五拾錢の新酒も發賣相成り居り候一日に五合の米を要するとして副食物代參拾錢彼の米酒「コップ」一杯を晩酌と定めて陶然として盞中に入る此經費金四拾六錢之れにて副食物の三拾錢は實に贅澤にして立派なるものに候尤も當高雄港内漁船數十隻毎日入港し漁類は期季に依り仲買の手に渡り内地へ送る程故夕刻貳拾錢前後の切身を買受け生にて造り夕喰を過し其余は鹽にして明日に回し朝喰以上を伴ひ校長等の先導にて見學せしむる野菜は茄子、菊、瓜、（サヤエン豆）大根、蓮根等四時絶ゆる事なく牛房、馬齒莧の如きは内地より送付を受くる事にて格高なり。此覺へたる事に候陳者渡臺（明治三拾三年）當時は全島到る處舊來の儘にて豚糞の如きは狹き往來に充滿し不潔なる事名狀しがたく疾病大に流行し同行十五人中死亡者甚敷小生も近き將來に於て必ず黄泉に出立するならんと覺悟を極め居り候折柄彼の惡性マラリヤに襲はれ愈々と決心致候處其時は從貫鐵道の敷設中にて小生も三谷と云へる土工の部屋にて日々土坪等取調べ官へ報告するの任務地に素養ある者一人もなく小生の死亡は三谷一家の大不幸なるを以て遠き臺南の病院に入れ充分なる治療をせしめ他の人々より特別の取扱なりしを以て一命を取り止め病氣根絶して今日に至る迄三日と寢たる事なきは無學文盲中の大學者たりし故なりと思出しては今笑の種と相成居り候。

當時は下水の準備水道及電氣等に至る迄行屆き且建築條例に依り衛生に適する住家の構造殆んど理想に近く臺地の如きは街市整然煉瓦造にて三層四層の商店軒を連ね外觀の美なるに引換へ月々建築會社へ拂込の多額なる。不景氣の今日にて嘸々御困りの事ならんと察しられ候尤も稀れには自費建築も有之候、酒類は專賣以前に釀造したる殘品正宗金鶴等は四合入一本壹圓拾錢として專賣局より賣出しあるも別に專賣局にて新規に釀造したる米酒と云ふ名稱にて人身に害なき様余り强からず貳拾五度の燒酎四合入一本三拾七錢にて賣出し其他五拾錢の新酒も發賣相成り居り候一日に五合の米を要するとして副食物代參拾錢彼の米酒「コップ」一杯を晩酌と定めて陶然として盞中に入る此經費金四拾六錢之れにて副食物の三拾錢は實に贅澤にして立派なるものに候尤も當高雄港内漁船數十隻毎日入港し漁類は期季に依り仲買の手に渡り内地へ送る程故夕刻貳拾錢前後の切身を買受け生にて造り夕喰を過し其余は鹽にして明日に回し朝喰以上を伴ひ校長等の先導にて見學せしむる野菜は茄子、菊、瓜、（サヤエン豆）大根、蓮根等四時絶ゆる事なく牛房、馬齒莧の如きは内地より送付を受くる事にて格高なり。此

事枚擧に暇あらず、尚農業の仕方等も内地と變りたる事種々有之様に候へ共余り管々しければ後便に讓り候（中畧）（二月廿日投函）

◆告示第八號

大正十四年四月一日本村々會議員ノ總選擧ヲ行フ、其ノ選擧會場、投票ノ日時、選擧スベキ議員數左記ノ如シ

大正十四年三月　西螺田村長

記

一、選擧會場　西螺田村役場

二、投票ノ日時　大正十四年四月一日　午前九時ヨリ午後四時迄

三、選擧スベキ議員數　拾四人

信用購買組合より

●既報の如く二月八日本村小學校に於て本組合第五回通常總會開會組合員數六百八名中出席數三百三十五名過半數に付開會を宣すは午後二時なりき。

組合長理事齋藤重太郎議長席に着き議事錄署名委員に山極平太郎福田駒太郎の二氏を指名し議事に移る。

第一號案原案通り異議なく滿場承認す。

第二號案より第六號案迄此れ又提案通り滿場贊成決定す。

第七號案本組合監事滿期に付之れが改選を行ふ事を述ぶ組合員竹内武内氏より本案は選擧を用ゐず總て前任者を當選したるものと決定したき動議を提出之れに陸續として贊成仍て議長は前任監事黒坂重市郎、佐藤清五郎、瀧澤清松、小林丈助、瀧澤清吉、齋藤市太郎、池田文治の七名を當選者と確定す。

◆偉いづぐし

福田眞澄

▲感じました園長の御手の内を總會に縣技師を賴んでおいたらやはり腹が痛いと見ておじやんだ。すると直ぐ琵琶師太田姫水君が來る、來て見れば寸敵な別嬪で聲も亦。草影になくキスの如く黄い聲だつけ。助役さんも、あれは善い、其のアクセントは確かに心の底から洩した聲らしかつた。園員はヨダレ、タラ〳〵〳〵余興は太田にかぎる。

▲副園長さんも偉い園の仕事の電氣料の集金に頭を煩はす意味で謝禮金を園より出すと言ふたら、會社から出るソンニ杯と電車賃で過多だと。自轉車があるから運用し電車賃は組合の貯金？。塵もつもれば山となる。

▲竹下さんは俺の様に三分虛榮に憧憬れて長髪にし初めた。野心滿々たるに情けないかな。まだヒキ延ばして松金香か雪上香を。淸人さんおめの内にボマアドあるくせに何うしてつけんだい。あゝ理解た勤儉週間だ損長さんが講演してあるくんだから其れも道理だ。道理で幹事連にも長髪二三あつた盆が來ないのか油のけがない、其れもそうだ。

◆健康第一

池田廣

修養も大事だ、勉强も第一だ、が然し健康を害ねてはならぬ、大いに體育の練磨に勉むる可きだ。世の中には反對に健康を誇りにあらゆる不自然、不衛生を敢て自慢らしくやつて居る愚にも付かぬ人間がある。後の不幸をも知らずに彼等は自ら健康を破潰するものだ。健康！おゝこの健康こそ我々の唯一の武器だどんな災難に出逢つても、健康でさいあれば或る程度迄は堪ね得る事が出來る。如何なる希望も、野心も健康なくして成功することは至難だらうと思ふ。

い職業的學校を建てたそうだ。同校では近く活社會に送り出される小學校子女の爲、職業教育を授けるものである科目は「勞働について」とか「石材について」其他金物より小縣産業部會深澤書記氏の産業組合員の心得べき事項に付有益なる講演あり。總會は實に盛會にして圓滿に了せり。

●組合員の皆様よ最早や春肥の購入が濟みましたか。大部分は御申込になりましたがまだ〳〵御見受けするに何んの御用意もない御方が澤山ある。例へ豊年一つでも御入用だつたなら出來る限りは用意の早いが安心だ。もしも組合にかゆい所がある人は色々迷はずに一日も早く組合へやつて來て理由を話し、道開けて。何時も申す事ですが相當義務を盡したなら。組合では例へ精算が濟まずとも。貴下方を信用して注文肥料の配布やら色々便宜を考へます。僞り言はず何ん時も誠の事をなしたなら心樂しく幸多く。最後の勝利も得らるれば總ての神は其人を扶ける事を信じます。

●諸君よ諸君、今や戒心留意の時なるぞ、區々たる事情に軋轢せず、さゝたる感情に衝突せず。互に誠意相助け。產業組合を利用して一家の經濟を豊にし、以て國家の隆盛を圖るべし。二、二五、NK生

◆變つた農村の學校

埼玉縣の模範村である藤澤村では珍らしい職業教育を授けるものである科目は「勞働について」とか「石材について」其他金物より小縣産業部會深澤書記氏の産業組合員の心得べき事項に付有益なる講演あり。總會は實に盛會にして圓滿に了せり。

●組合員の皆様よ最早や春肥の購入が濟みましたか。大部分は御申込になりましたがまだ〳〵御見受けするに何んの御用意もない御方が澤山ある。例へ豊年一つでも御入用だつたなら出來る限りは用意の早いが安心だ。もしも組合にかゆい所がある人は色々迷はずに一日も早く組合へやつて來て理由を話し、道開けて。何時も申す事ですが相當義務を盡したなら。組合では例へ精算が濟まずとも。貴下方を信用して注文肥料の配布やら色々便宜を考へます。僞り言はず何ん時も誠の事をなしたなら心樂しく幸多く。最後の勝利も得らるれば總ての神は其人を扶ける事を信じます。

●諸君よ諸君、今や戒心留意の時なるぞ、區々たる事情に軋轢せず、さゝたる感情に衝突せず。互に誠意相助け。產業組合を利用して一家の經濟を豊にし、以て國家の隆盛を圖るべし。二、二五、NK生

（大正十三年八月二日可 第三種郵便物認可）　大正十四年四月一日　西塩田時報　第十七號　（一）

西塩田時報

第十七號
毎月一回一日發行
定價金三錢
廣告料一行金十錢

大正十四年三月廿五日印刷納本
大正十四年四月一日發行
編輯印刷兼發行人　長野縣小縣郡西塩田村大字
樋口秀實
印刷所　山浦活版所
全縣小縣郡西塩田村
發行所　西塩田青年團

無題錄

竹下生

△官位や爵祿は帝國の一呼吸でいくらでも製造出來るが唯眞の人のみは神樣のみ是を造る事が出來るのだ、今の世はやれ華族の殿樣のと勿体らしい名前は腐る程あるが徹一貫の眞徹の塵の眞の人たり得る者果たして幾人かある。

△金でお辭儀をさせる者、金にお辭儀をする者、共に金より外に世に貴むべき物のある事を知らぬ輩で例へば牛肉の外に美味を知らぬ犬と余り遠くはない、こんな奴が幾千万あつても我々から見ると瓦石の累々として轉つて居ると毫も異らない

△然し考へて見ると可愛想な者だ、受け難き人身を受けて此の人生の眞味を解し得ず虛榮も、虛飾との間に何の自覺も意識もなく茫々焉として長くもない一生を過すのは所謂醉生夢死とは是れの如き生活を指すものだろう！

△世が進んで、空では鳥と競爭し水の中では魚と競爭する位に文明は進歩して來た又產兒制限をする位迄人々も殖へて來たがこれは只頭數の話しで眞の人間は文明と人の頭數に逆比例して減じて行く。

△繭は蛹を保護する上には必要なものではあるが一人前の蛾となるにはその殼を破らねばならない、それと同じ樣に我々が一人前の人間になるには因襲とかその他を打破せねばならない。

△石橋を叩いて渡るが且老人の特長だ、一本橋を飛んで渡るが青年の特長だ、老人の特長をして青年の特長に勝れる事はない皆其の特長を發揮せるによりてこそである。

◆……男なんかに女の心理が解つて堪るものですか。と。言はれちやあ一流石の男もタラリボーとなる。流石は女だ。ウメイ修辭法を案出したものだ。之を即ち烏賊式墨汁吹修辭法と言ふのだ。之の修辭法の陰に陰様にボウ〳〵と長くし南瓜頭へチック付けて左右にベッタリ分けた樣は丁度馬の立髪と同樣だ嘘美なる哉〳〵そして頭の先から足の先迄「メッキ」づくしだ。分た頭は天ぷらメッキ。はめた指輪は金メッキ。着て居る着物は絹メッキ。履いてる下駄は桐メッキ。斯くの如きスタイルをしてテク〳〵歩く奴が當世大流行の專賣特許の色男だ。

◆……何んな女でも自分が世界一の女だと思つて居るから豪儀なもんだ。うつかり異性を輕蔑しよう物なら忽ち女子侮辱罪に問はれますぜ。前途有意の青年諸君用心〳〵

◆……人生……◆

人生とは內に愁有り。外に金有り。酒有り。女あり。樓臺あり。花有り。錦繡有り。名譽有り。て「慾を釣出す」。釣出されて活動す人生とはかくの如きのみ。

御寄附

一、シンガー裁縫ミシン機　壹臺
本村小學校備品　木下喜市郎殿

一金拾五圓也
時報發刊費の內へ　小林三吉殿

一金五圓也
仝上　小山新殿

和歌

槇の舍主人

齋藤村長殿の重ねて當選せられしを壽きて

村長のつとめは重し位山

ふたゝひ三度分けのほりつゝ

紫のくもこかゝれふじ波の

なかきは花のこゝろなるらん

兎糞錄

竹內忠雄

光陰は矢の如く月日に關守なし。ア、實に斯の如し。前途遼遠なりと雖も。時は常に經過しつゝあり。勉めざるべからず。續まざるべからず。

◆……或る學生あり。勉強せよ。と命せざれば勉強せず。唯慢然として遊ぶ、余假あればヤブレターを書く。あゝ勉強は人の爲か。自分の爲か。

自己を救へ

中澤多七

農村問題の解決は何によつて行なはれるのだろう。政治か。資本主義か。社會主義か。私はそのどれでもないと答へざるを得ない。今日の農村問題乃至農民問題を解決するものは、農民自らを措いて他にはないと私は言はざるを得ない。

自己を救へ！　この言葉は農民に與へられた言葉に他ならないのだ。

都會政治家も田紳政治家も等しく農村振興を論じてゐる。然し彼等に信を置き得るだけの素朴を今日の農民は喪つてゐる。

議會に幾度農村振興案が現はれ、そして幾度議會を通過しようとも、農村回復は議會からは下りて來ない。

農林省もいよ〳〵獨立するらしい。しかし農林省から農民救濟の神樣は出て來ないこと顯らかだ。

いゝ本だ。この人の文章はなんでもないようで、何回もよむほど、うまみの出てくる文章だと思ふ。別に技巧らしい何物もなし足の先迄「メッキ」づくしだ。分た頭は天ぷらメッキ。はめた指輪は金メッキ。着て居る着物は絹メッキ。履いてる下駄は桐メッキ。斯くの如きスタイルをしてテク〳〵歩く奴が當世大流行の專賣特許の色男だ。

◆……何んな女でも自分が世界一の女だと思つて居るから豪儀なもんだ。うつかり異性を輕蔑しよう物なら忽ち女子侮辱罪に問はれますぜ。前途有意の青年諸君用心〳〵

◆……人生……◆

人生とは內に愁有り。外に金有り。酒有り。女あり。樓臺あり。花有り。錦繡有り。名譽有り。て「慾を釣出す」。釣出されて活動す人生とはかくの如きのみ。

いゝ本をよみたい

（日記の中より）

コーコン

武者小路實篤氏の「泉と鐘」と云ふ。時にふれて書きなぐつたかの樣な、短かい隨筆やら感想やらを集輯した本を買つてみました。

資本主義や社會主義が農村農民のために、どれだけの味方なのだ。資本主義と社會主義は都會の中に爭つてゐればよいのだ。農民は是等のものに利用されるゝとも彼等を利用する事は出來ないのだ。

農村を振興せしめるものは我等みづからだ。他の何物の手も借るを用さない。農民よ。農村を振興せしめよ。そして我みづからを救へ。

或る人が農村はまだ眞に行詰つてはゐない。徒らに行詰つた〳〵と叫んだとてどうなるものか、行詰つたと云ふことが今日では一つの流行語なのだ。行き詰つたと言はなくては新人でないからだ。行詰つたと云ふ言葉から農民はまづ捨てよ、農村問題解決の初一步は農民がこの言葉から先づ解放さるゝ事だ。そして農民みづからの頭と手足とをもつて農村は回復しなくてはならぬ。と。雙手を擧げて私はこの說に贊成する。

日本の農村は北歐諸國の農村を學ばねばならぬ。農民自ら農村を救ふたことに於て

日本農民に一日の長を彼は持つてゐる。仔細に彼をまなべ。

土に還れ、とは室伏高信氏の說くところだ。前號に宮澤兵部さんがいふてゐる如く農民が農村を嫌つてゐる中は農村振興は駄目だ。今日の教育が一休駄目なのだ。今日の教育は都會教育なのだ。農村子弟には別の教育を施さなくては駄目だ。今日の教育者は多く農村から出て、都會教育によつて憎みなく農村を捨て去ることを學んだのだ。彼等は土地を愛することを知らない。かゝる教育者に我等の子弟を任して置くんだもの、農村を嫌ふてはならぬと云ふのは無理な注文なのだ。

再びいふ。土に還れ。

自らを救ふ農民の頭と手とはウスボンヤリでは居られぬ。悠々乎耕而不顧。これの農民は封建時代の遺物である。大古の農民の姿である。支那三千年の昔の人民を評した言葉である。みづから考へ、北歐諸國の農村に學びもつて自らの手に救へ。（三月二十七日）

告第十號

本村長齋藤重太郎任期滿限ニ付キ後任者選擧ノ處左記ノ通リ再選本月十日認可就職ス

大正十四年三月十一日
西塩田村助役　竹下繁松

記

西塩田村公民　齋藤重太郎

事務報告書（其の二）

大正十三年末本籍軍人數

陸軍	將校	士官	下士	兵卒	計
	在鄉軍人	三	七二	三二	一一二
	現役兵	一	三	二四	二八
	合計	四	一〇	二五	二一
海軍	將校	士官	下士	兵卒	計
		一	一	一	三
		一	一	五	五
		一	一	六	七

一四、衛生

本村衛生組合を督勵し、春秋二季の清潔法は勿論、トラホーム檢診、治療、種痘の接種、傳染病及結核の豫防に努むると同時に、村内醫師と聯絡して一般の保健に注意し其の處理上遺憾なきを期せり。

一五、地理

土地の事務は逐年異動地の多きを加へ、地目變換、土木工事に伴ふ分筆、異動煩雜を極め、殊に用惡水路の無償讓與地に對する地番の新設等に關し書類、地圖面の調製又は所有權移動に因る臺帳の整理は細心の注意を要するを以て主任書記を督勵し敏捷に之が處理をなせり。

一六、稅務

稅務の整理と課稅の公平とは納稅義務者の好感を馴致し、延いて納稅成績に影響する處大なるを以て細心の努力を以て公平なる賦課に努め且つ主任書記を監督勵奬、事務の澁滯なきを期せり。

殊に大旱害に起因する無收獲の地租免除又は減稅に付いても極力其の手續の敏速處理に努めたり

大正十三年中定期及隨時に徵收したる稅額を示せば左の如し

稅種別	調定金額	令書發付數	調定回數
國稅	八六二、九八〇	六二一枚	七回
縣稅	二六、九四〇	五五三枚	三九回
村稅	三、八三、〇〇〇	三、五五六枚	四三回

◉四月の稅金

一金參千八百〇六圓十三錢也

大正十四年度村稅地價割

❖納稅日　二十日

計　四八、四九二、九二〇　一五、二四四枚　九六回

一七、會計

金錢出納の事務たるや町村行政上、最も主要なる事務にして之が正否は、一村の興廢に係る重務なるを以て諸帳簿及証憑の檢閲監査は極めて嚴正を守り村長の例月檢査の外、監督官廳の檢査を受け、別に村會議員立會の上、臨時會計檢査を執行し其の嚴正を期せり。

徵稅の成績は各大字總代の斡旋と納稅組合の活動に依り納稅義務思想の向上を來し納期内の納入率は每納期百分の百を示すに到りたるはまことに喜ぶべき現象なり。

殊に本年は名古屋稅務監督局より模範組合として大字山田部内に四組の納稅組合表彰せられたるは名譽とする所なりとす。

以上述ぶる所は事務の一端に過ぎず詳細に渉りては村勢一班の球計表及び歲入出決算表に依り報告するの機會あるべし。

◆村會議員總選擧

本村々會議員の總選擧は既報の通り四月一日午前九時より午後四時迄西墟田村役場に於て執行するのであるが選擧係並に有權者數は左の如くである。

選擧長（村長）　齋藤重太郎

選擧係　黑坂　勝
　〃　荒井精一
　〃　金澤欣治郎
　〃　竹下　幸

選擧立會人　西澤茂一郎
　〃　小池恭太郎
　〃　小林丈助
　〃　荒井邦一

有權者數

十人區	四四	東前山	八七
西前山	八三	手塚	一八一
新町	八三	山田	六七
野倉	六九	計	六一四

◆村會議員候補者

今回村會議員改選期に當り左の諸氏公認候補者として三月廿日發表せらる

十人區　武田助左衛門　佐藤清五郎
東前山　黑坂重市郎　小宮山　基
西前山　宮澤八十八　宮澤友一
新町區　山極喜三郎　小林留次郎
山田區　齋藤市太郎　野倉區　平林祐藏　曾根正一
手塚區　樋口左近　市村藤作
樋口秀實

◆お知らせ

學生通學專用自轉車、及び農業專用荷車は本年度よりその稅金が半減されることゝなりました。學生用自轉車を持つてゐるものは四月一日現住の該學校長の證明書添付役場經由で届出して下さい。

農業專用荷車については追て其の手續きを御知らせします。

◆西墟田郵便局へ

電話事務開始の認可申請

郵便局の設置は本村の久しき要望であつたが、大正六年漸く其の設置を認可せられて公衆の利便は多大なるものであつた。

以來八年間取扱數量は年と共に增加し、產業の發達、世の進歩は今又電話の必要を感ずること切なるものあるに至つた。

今回本村ではかゝる公衆の要望に隨伴せんとして三月六日名古屋遞信局長へ電話通話事務開始の認可申請をなした。

◆西墟田軍人分會より

陸軍紀念日。

今年はいろ〳〵の方面から見て、國家としては勿論、箇人としても、追憶の非常に深い、あの明治三十七八年戰役の恰度滿二十週年記念にあたりました、あの當時軍籍にあられて、親しく戰場に起ち、死生の間を往來なされた、先輩軍人方々の感慨無量の程、御察しするに餘りあるものがありませう。本年は特に其の戰爭に參加なされた方々と共に、この記念日を祝し、又思ふ存分追憶に耽つて、尙ほ稍もすると誤解され易い、軍事思想鼓吹の爲めに、當日は左記の様なことをいたしました。其の費用として特に、戰爭に參加された先輩軍人や、西墟田兵役優待會、竹下才三九殿等の各位から多額の金品や御盡力に預りました御寄特に對しては紙上を借りて厚く御禮申上ます。

記

一、分會總會（午前）
二、戰役廿週年記念式（午後）
三、戰病死者追弔法要
四、記念演奏、薩摩琵琶
五、祝宴

微力なる軍人分會のために、當日御參列の榮を賜はりました、來賓各位に對しては厚く御禮申上げます。　西墟田軍人分會

◆青年團事業分擔と其の役員

世の進歩につれて青年團の事業も數多くなり總てに於て徹底的な事業も出來ず不行届であつたので去る三月五日幹事會の折にそれぞれ事業部を設け主任及委員を選出し團の向上と事業發展を計る事といたしました

一、時報部　主任　中澤多七
　委員　武田駒之助　竹下照司
　〃　竹内丑雄
一、修養部　主任　武田駒之助
　委員　黑坂舍人
　〃　樋口岩次郎
　〃　中澤多七
一、圖書部　主任　佐藤彌
　委員　竹下德人
　〃　吉池源一
　〃　竹内仙太郎
一、電燈料部　主任　黑坂勝
　委員　鷲原義男
　〃　齋藤清人
一、庶務記錄　主任　竹下幸
一、會計　主任　山極博人
一、運動部　主任　齋藤清人
　委員　宮澤茂士
　〃　山極盈
　〃　福田三政

◆會と人

◎音樂會

三月十日午前九時より本村小學校生徒の音樂會が開催され、可愛いゝ兒童の獨唱齋唱等が二十數回、レコードの曲目、ハーモニカの獨奏等があつて賑かであつた。

◎表彰。大字野倉山極まつよ氏は模範勤續勞働者として三月二十一日本縣より表彰された。

◎相續稅調査、三月十九日相續稅調査の爲箱山稅務署屬來村被相續者につき調査する處あつた。

◎虎眼檢診、三月十三日より四日間各大字に亘つて虎眼檢診を施行したその結果患者數を示せば左の如くである。

十人	四人	東前山	二二人
西前山	一〇人	手塚	一八人
新町	一〇人	山田	二五人
野倉	一四人	計	一〇三人

◎講演會、堰口養蠶組合主催桑園改良講演會は三月十九日午前十時より組合事務所に於て蠶專助教授樋口琢麿氏を聘して開會した

◎畜產講話、三月十六、七、の兩日手塚公會堂に於て小縣郡吉田抜手の畜產に關する講話があつた

◎村議選擧に關する有志會、三月十二日午後一時より手塚公會堂に於て手塚社交倶樂部主催各大字惣代、青年會役員其の他有志の村會議員選擧に關する協議會があつた

◎紀念撮影、村會議員の改選を前にして前村會議員一同は二月二十七日豫算議決の日に紀念の撮影をなした。

◎種痘施行。三月二十日二十一日の兩日種痘を施行した、第一期（大正十三年生）九十三名、第二期（大正五年生）九十六名。

◎圍長のおめでた。青年團長樋口秀實氏には今度目出度婚約なり、四月一日自宅にて華燭の典を擧げられるとぞ。

◆無題　曲水生

砂原やくみつほぐれつ戀の猫
陽炎ふ野に孫の守する老母哉
春野原働く身には望あり
雪解して川水ませり千曲川
日のくれを病の床の花淋し

●西壚田信購組合より

◆三月五日本組合信用評定委員會開會。委員は詳細に渉り組合員の信用程度を評定し本年度信用程度表を作成した。

◆三月九日午後一時より事務所に於て役員會開會左の諸件を協議した。

一、倉庫狹隘の爲め不便を感ずるを以て之れを增築する事。

一、事務室即ち信用部增築の事。

一組合の宅地内に井戸無之不便に付井戸を掘る事。

一、産業組合法發布貳十五週年紀念事業として自作農創設並に桑園改植等規定を設け資金を低利に貸附る方法を設る事。

一、出資口數少數なる部落には特に此際募集を勸誘する事

一、事業發展上並に一般組合員の便宜上奬勵委員設定の事。

一、新町在鄉軍人會主催にて靑物市場建設に付き之れに對し寄附をする事。

右之事項を協定し猶倉庫並に事務室增築に付ては低利資金を借入れ工事をなし工事委員に囑托することに決議せり。

工事委員に瀧澤清松、黑坂重市郎、武田正雄の三氏囑托せられたり。

◆三月十三日午後事務所に工事委員三名參集し工事豫算を定め種々工事に付協議ありたり近く增築の起工をみるであらう。

◆三月廿一日長野縣信用組合聯合會總會及長野支會總會が長野市に開催され當日本組合よりは箱田專務理事出席せり。

◆紀念事業としての自作農創設資金特別低利貸付規程を示せば左の如し。

第一條自ラ耕作ノ用ニ供セントスル土地買入レ若クハ其ノ目的ヲ以テ買入レタル土地ヲ維持スル爲資金ヲ要スル者ニ對シ適當ト認ムルトキハ本則ニヨリ其ノ資金ヲ融通ス。

第二條本資金ノ貸付ヲ受クルコトヲ得ベキ者ハ組合員ニシテ左ノ各號該當者ニ限ル

一現ニ農業ヲ營ミ且將來農耕ニ從事シ五反歩以下ノ土地所有者又ハ無所有者ニシテ勤勉ニシテ信用確實ナルモノ。

二耕地購買額ノ一部ヲ自己貯蓄ヨリ支出シ得ルモノ。

第三條本資金ヲ貸付セントスルトキハ左ノ各號ニ依ルモノトス。

一貸付ノ金額ハ買入金額ノ四分ノ三以內トス。

二買入タル土地全部ヲ擔保トナスコト。

三購買セントスル耕地ニ抵當權ノ設定アルトキハ其ノ抹消登記ヲ了セシムル事

第四條貸付ハ年賦貸付トシ特別ナル低利ヲ以テシ年賦ハ十ケ年ヲ限度トス。

第五條債務者ニシテ契約ヲ履行セザル場合ハ契約事項ノ變更ヲ爲スコトアルベシ。

附則

本規程ハ大正十四年四月一日ヨリ實施ス。

◆桑園改良資金貸付規程は左の如し

第一條組合員ニシテ養蠶組合農事組合等ノ施設方針ニ基キ桑園ノ改植又ハ桑苗木ノ育成ヲナサムトスルモノニハ本規程ニ依リ低利資金ノ貸付ヲナスモノトス。

第二條本規程ノ資金借入ヲナサントスルモノハ團体長（養蠶組合長農事組合長）ノ証明アル借入金申込書ヲ以テ申込ヲナスコトヲ要ス。

第三條貸付金ハ一口百圓ヲ超過セザルコト

第四條貸付金ノ利率ハ理事會ニ於テ決定スルモノトス。

第五條貸付金ノ用途ヲ過リタルモノニハ中途償還又ハ利率變更ヲナスモノトス

附則

本則ハ大正十四年四月一日ヨリ實施ス。

◎組合官傳標語◎

一、賣るも買ふも貯金をするも組合一つで用がたる。

一、村と組合一つのものよ組合榮ゆりや村も富む。

一、勤儉貯金し組合利用すれば身も立つ村も立つ。

◆組合員の皆樣桑園の施肥が濟みましたか組合にては農繁期の間は少し位の肥料は倉庫に備へて置きますから、播込、不足等の場合は早速組合事務所へ來て御話し下さい出來るだけ便宜に間に合はせますから施肥期を誤らぬ樣出來る限り窒素燐酸加里肥料の配合を適度に施用して下さい。

◆農家に最も必要なる我々のエネルギーの原素たるべき味噌の仕入期となりました。昨年の旱害にて當地方の大豆の收獲が少なう御座いましたが皆樣御用意が出來ましたか。未だ豆の準備もなく入用な方は組合に御出なさい。良い安い大豆が澤山御座いますから安心して御需要なさい。

◆春蠶の掃立をする日も何言ふ間もなくなりました。お互に何んとなく心忙しい日が續き色々の準備に忙殺されます。組合員の皆樣養蠶用炭の御用意が出來て居りますか。御用意のない御方は一日も早く御注文下さい。

◆昨年旱害の爲組合にては十月以降米類を取扱ひ居りますが今回特に美味なそして非常に格安な米が澤さん入荷いたしました。御不足にてこれより購入しようと云ふ御方は大至急御申込下さい米は特に組合では元價を以て皆さんの御需要に應じる事になつて居ります即ち旱害救濟の一端として！

一時に一俵と入用でない御方の特に便宜を計り俵の外に八貫入、四貫入、の白米にして取扱つて居る事は皆樣の御承知の通りで御座います。何時にても御入用の際は御利用下さい。組合は皆樣の店でありますから。

◆組合の目的は共存共榮にあるのです。

（NK生）

支部通信

●手塚支部より

◇西澤眞二氏は多年靑年會役員として本會の向上と發展に御盡力下されしが今回停年に達し正會員より特別會員になられたに付き多年の勞を謝する爲め感謝狀を贈呈した。

◇特別會員西澤眞二氏は今回機械体操用金棒建設費の內へ金參圓也御寄附せられた

◎敬老會、三月二十八日前山寺に於て靑年婦人兩會主催にて敬老會を催した。會員の趣向になる余興が澤山あつて一般の觀覽者も百余名に及んだ。招待するもの七十才以上の老人廿二名。

◇昨年の旱害に鑑み一の堰の修理をなすべく工事に着手した水の漏れない樣にコンクリートで固めて居る、每日砂やセメントの袋を積んだ自動車が夥ひよくやつて來る。

◇吾々のお座敷靑年會館とそれに隣つた蠶種催靑室も余程工事が進んで左官やさん疊屋さんが每日出入して居る竣工の曉はしんみりした御座敷氣分の靑年會が出來そし蠶種も安心して催靑する事が出來るとて區民一同大よろこび。

◇手塚金井竜王澤の出水が昨年以來極く少なくなつた今に雨が降れば出る雪が降れば增へると纔觀して居つたが從々水は細くなるばかりだ今度金井組では集會を開き思案余つて此處に神主に賴むで四月一日竜王樣の祭典をし水の多く出るやうに祈願すると云ふ。

◇敬老會。靑年會婦人會共同の年中行事の一なる敬老會は四月五日と決定しました當日來會する七十才以上の老人は四十五人ばかりあります。當日は余興に會員の芝居や義大夫があります。

◇靑年會例會。支部例會は三月十五日にありました。當夜は四月一日改選せらるべき村會議員の候補者に滿場一致左の諸氏を推選いたしました。市村藤作氏、樋口左近氏、樋口秀賢氏。

◇村會議員候補者詮衡會。村會議員候補者詮衡會は社交俱樂部靑年會主催の下に十八日公會堂に催されました、その結果は靑年會に於て推選せし三氏に決定せし事は靑年會萬歲でありました。

●東前山支部より

◎藤ノ木支部と合同、樣々と折衝を重ねた結果今回漸く藤ノ木支部と合同することになつた。團体の大きくなることは結構なことだ。本會の前途の爲に團員諸君の御了解と御賛成とを得て祝福して貰ひたい。

◎復雜な關係を持つてゐた東前山部落と藤ノ木部落とも同時に融和合同が出來て將來の爲に嬉びに堪へない。

◇敬老會、三月二十八日前山寺に於て靑年婦人兩會主催にて敬老會を催した。會員の趣向になる余興が澤山あつて一般の觀覽者も百余名に及んだ。招待するもの七十才以上の老人廿二名。

●西前山支部より

◆救濟事業

當區にては旱害救濟事業の一つとして現金人夫料制により二月下旬より三月上旬に亘り區有林の杉檜等の間伐をなせり。其間伐丸太の第一回競賣を三月十一日午後一時より第二回競賣を三月二十一日午後一時より執行賣却代金九百有余圓に上りたり

◆講習會。當區婦人會はさきに開かれし婦人同志會主催の料理講習會に出席せし人達に依賴し會員一般に料理法を知らしめ而して其製品を敏老會に利用すべく三月十四日中禪寺に於て各種の料理講習會を開く

◆敬老會。當支部及婦人會は三月十五日午前十時より中禪寺に於て敬老會を開く。貧しき催しではあつたが幸ひに主客の心から滿足らしき有樣に會員一同喜びあつたことだ。そしてお互ひに滿たされた心地して和氣あい〳〵裡に午後五時閉會。

當日の主客（七十才以上）は十八名最高齡者は八十一才宮澤清重翁なり。

●山田支部通信

◆例年の樣に二月から早起會を行なつて居る朝空に鳴渡たる鈴の音は私達前途の何物かを意味し抱く希望の幕を開かれる樣に感じる。そうして自ら床を離れたくなる。かふ言ふ意義ある早起會の經續は八年にんだ其の効果の多大なる事は一般の注目する所となつて居る。

◆當支部員伊藤嘉壽人君は昨秋上京中某所に於て幼兒の溺死せんとする所を見て一命を賭し漸やく其の幼兒を救助した。去る二月二十六日太田警視總監より功勞証に金一封を以て表彰された。

◆去る一月廿七日より四日間養蠶敎師認定試驗あり竹下友治君は受驗の結果無事合格した。

◆山田女子報德會では今度嫁さんに行く人に記念品を送呈して送別會を催し其の祝福を祈ると言ふ。

◆小學校より

昨年の行事

大正十三年度の本村小學校の行事中の重なるものを示せば次の如くです。

四月一日 入學式。未來の大臣や令婦人の素質をもつた小供が七十九人入學。

四月廿八日 麗らかな一日を。思ふさま自然の懷ろに抱かれる心持で遠足しました一年別所、二年大法寺、三四年丸子、高等科八幡様。

五月八日 考古學の權威鳥井博士が村の古墳を調査されてから、子供の間に感うした趣味を持つて古器土器の蒐集をやる様な風が見ねて來ました。

五月十三日 尋常五六年は直江津へ修學旅行をいたしました。赤い夕陽に輝く日本海に始めて面した印象。永久に忘れんとし忘れ得ざるものでせう。

五月廿七日 海軍の紀念日、剛健な精神と

拜啓

時下春寒料峭の候益々御健勝奉賀候陳者西蘆田青年團に於て時報御發刊の趣き一二御送附に預り其の近況を知を得たるは實に欣快とする處に有之候御承知の如く小生は多年他に在つて自村の實情すら詳かにせず候得共聞く所によれば我西蘆田村は産業に教育に交通に其他各種の方面に著しき發展を來たし地方既に優惡の町村に數へらるゝに至りたりと之れ素より村民各自の自覺は勿論なるも村當局の施設宜しきを得たる結果と確信仕り本村の爲め慶賀措く能はざる所に有之候希くは今後益々村治の爲め御奮闘切に熱望仕り候

須坂町　（以下省略）

三月十日　小山　新

健全な身体の試練として、郷土の山、鐵城山頂を踏破しました。

七月二日 手塚消防組よりポンプを寄贈され少年消防隊の基本教練を習ひました。

七月廿二日 學林の手入。身長に餘る草を薙ぎ倒す心持は、愛林觀念の涵養にも増して新天地を開拓して行く壯快さを覺られます。

七月末 炎天に野球庭球の猛練習が行はれ附近の諸學校と花々しい戰跡を遺しました。

九月廿七日 本郡教育部會主催の野球戰に活躍。第三回戰に上田と五對一で惜敗。

十月三日 秋日和を遠足、尋一二鴻ノ巢尋三四須川、尋五六鹽泉寺、高一、丸子、上田

十月五日 高二は諏訪松本方面の秋をさぐりました。心なくも降り敷きる秋雨は連日でほんとに可愛そうでした。然し幸病氣もなく衝天の意氣で歸校した。

十月廿三日 校庭運動會。日頃の練習も際だつて、數十番に渡る競技遊戲は可愛いものゝ極みでした、殊に子を持つ親の心には。

十二月五日 父兄懇話會を開きました。子弟の教養に熱心な方々は大低お出掛け受持と懇談されましたが、未だ半數にも足りないのは遺憾です。午後は生徒の音樂會を開きました。

十二月十七日 高等科の實習によつて得たものゝ試食會をいたしました。家の御飯より自分の勞作によつて得た學校のものゝ方がおいしかつたとは、異口同音の囁き。

二月三日 流行感冒のため欠席兒童百四十名早歸も多く罹らぬ者は一學級二三名位で授業を進める事さへ出來ぬ位でしたから、三日間臨時休業をしました。

三月十日 陸軍紀念日には紀念講演の後音樂會。小鳥のやうな聲が塲外へ洩れたことでせう。

三月二十三日 證書授與式擧行。

◉修卒業式

本村小學校修卒業式は補習學校女子部と同時に三月二十三日午前十時から擧行されました。學事報告に次いで證書を授與し、學校長の訓辭及來賓一同を代表して、齋藤村長の祝辭、在校生總代大口靜男瀧澤きよしの送辭、卒業生總代樋口賴俊宮澤きよじの答辭があつて閉式しました。

因に本年度の修卒業生の狀況は次の如くです。

學年	修業生	卒業生	不進級	皆勤生數
尋一	一（病）	八六		
尋二	〇	一〇		
尋三	〇	一六		
尋四	一（欠）	二六		
尋五	〇	二〇		
尋六	〇	一三		
高一	〇	一四		
高二	〇	一九		
計	男三一 女二五 二八	男六一 女五九 一二三	男三 女五	

昨年度ト比較　八増　六減　一増　八九減

補習女子部

卒業生	三年	一三名
修了生	四年	二四名
前期		九名
高等科		二名
修業生	前期	九名
	後期	四六名

◉湯壷の中　凸坊生

とある夜の錢湯、四十五六の勞働者風の男、ヒゲむしやな方は甲高い聲で、低い受身の聲はヤセ形、相手に語ると言ふよりは浴中の誰にも聞かせる調子。

上田橋の仕事はねらい仕掛だなあ。

こんな在郷にや過ぎもんだ。

ヒゲモーター（壓搾空氣を）仕掛でガタ〳〵ジューとやりやあ、うまい具合に碾り込むんだから。

ヤセトンカチ一本宛釘を打つとは大した異ひだ。世は至つて來たなあ。

ヒゲ文明ちゆうやつあ吾々勞働者を益々排斥しやがらあ。

ヤセどうしてつて。機械仕掛で何でもするから俺等の仕事が無くなるじやあねいか。

ヒゲそりやそうだ。今度の工事なんざあ前の上田橋の半分も三が一も、人足は居やしねい。

ヤセそれだけでも勞働者の仕事が減るやつを。大學を卒業する野郎共みんな機械やなんか發明したがつてゐるんだから小供を上の學校へでも出せる樣なのは財産家だ。其の親父は生活改善だ何だと言つて、仕事は中止ちや延期ちやと來やがらア。

ヒゲそうだ親父は名乘をあげて大手攻、枠はこそ〳〵搦手攻。

ヤセ（義大夫調子）「そりや聞にませぬ半兵衛殿」ちや口が上りだ。不景氣が益々不景氣になつてしまふ。

ヒゲ改善したくも仕所がねいね。苦しまぎれのやけ酒あほりやあ、內の嚊がふくれやがらあ。

ヤセ改善〳〵と言ふが、一体宣傳なんか景氣のいゝ節約出來る時やりやいいだ。むゝ。大正八九年の戰爭中途は油うつて日に三雨からになつたからなあ、一晩に三十兩と飲み上げちやつた事があつたさあ。

ヒゲ今日ちや華族だ資本家だと云ふ連中が自分でだまつてやつて居ればいいだ。「コレラ」さあ、それいつか房總へコレラが流行した時お上の禁止で鮨なんか東京へはビタリと來なくなつたと言ふじやあねいか、あはゝゝゝゝゝ

ヤセ成程そりや名案、貴公役員にでもなつて俺達の景氣のよくなる事でも考へたらどうだ。それも人助けだ。

ヒゲそりやなあ、あるさあ。

ヤセすぐ名案が出るのか。

ヒゲ大震災！破壞！あの時は東京へ行つた連中はふところを善くした物だ。そう言ひやあ、あの○○の火事で俺あ隣の屋根屋はおかけで冬仕事があつて、なんだか肴買へる樣な景氣だせ。

ヤセ巡査樣居ねへでいゝが、高い聲しちやあ言へねいなあ……。

ヒゲエヘ……。

（をはり）

◉蘆田公民實業學校卒業式

今年創めて立たつた蘆田五ケ村聯合の補習學校は一月十二日より三月十四日迄毎日五時間乃至六時間宛五加の仮校舍內で授業をして居りましたが三月十四日に授業を終り去る二十日午前十時より中蘆田小學校講堂に於て証書授與式を致しました。郡よりは郡長殿郡視學殿來臨せられ五ケ村の村長學務委員並に村會議員多數參列され盛大な式が擧行せられました。因に卒業生徒數は六十六名內本村生徒數は二十四名です。

（池田）

〔編輯室より〕

別項の如く青年團の事業乃至事務の成績を睹るべく各部に分擔して處理することになり、當「時報部」を私共が受持つ事になりました。まつたくの未經驗のものゝみて、うまく遣り遂げ得るかどうか甚だ危ぶまれる次第ですが、幸にみなさんの親切な御敎導等によつて、漸次習熟を積みもつて皆樣の期待に添ふことに勉めたいと思ひます。

やうやく寒氣もやはらいで來ました。是からの農家の皆樣の御奮闘のほどが思ひ遣られます。

土手の枯芝を掻き分けてその根下に目をつけてみるとそこには青い芽ぐみを見ます。私共はその青い芽ぐみを見ると何とも言へぬ生々しさを感じます。力を感じまして强くつよく生きるものゝ力の象徵をそこに感じずには居られません。私どもは人間の生命の奥底に潛むこの生命力を强く深かく生かしきるところに言ひ知れぬ美を感じないでは居られません。私どもは生命觀の弱いものに美を見出すことは出來ません。

冬の休養生活から轉じて積極的生活に向ふ折柄、村民諸子並びに團員の皆樣に强くあなた方の生命を生き切つて下さることを私共はこの編輯室の一隅より完望する次第であります。

本號も編輯はスッカリ遲れてしまつた。こんどからは間違ひなく一日には發行して行きたい。

寄稿はなるべく自ら恥じない程のものを送つて下さい。字詰は一行十九字（〇）。ハ一字ニ見ル一行數はかまひません。支部通信は文の簡潔に心掛けて下さい。

（大正十三年八月二日 郵便物認可 第三種郵便）　西鹽田時報　大正十四年五月一日　第十八號　（一）

西鹽田時報

第十八號
毎月一回一日發行
定價金三錢
廣告料一行金十錢

大正十四年四月廿五日印刷納本
大正十四年五月一日發行
長野縣小縣郡西鹽田村役場
編輯印刷兼發行人　樋口秀實
全縣上田市六二六
印刷所　山浦活版所
全縣小縣郡西鹽田村
發行所　西鹽田青年團

愛の營み

秀三

女が保護神の役をつとめる此の感動あり魅力ある家事の戯曲……絶望はしまい。女はまだ愛することを知てゐる。其の愛するや、何といふ努力が女の中にあるぞ！　いかに女が生活を創意するぞ！　そしてその巣を防禦するとき如何に征服しがたいものとなるか。――ロダン――

農村の婦人たちよ――

私は今あなた方の社會的位置の重大さとあなた方自身の思索の方向とを考へる時に、あなた方に一層の自重と奮起とを庶幾するが爲に心から申上げたいことがあるのだ。

幸にあなた方の寛恕と宏量とによつて幾分なりとも反省せられ、耳を藉して頂ける点があるならば大なる喜びとする所である

農村の婦人たちよ――

「變るのが進歩だ」といふた人もあるが、さりとて近代的推移の道程が餘りに目まぐるしいことを思ふと自ら迷路に踏み込んだ時のやうな氣分を排し得ないのだ。

あらゆる社會運動、宗教運動、勞働運動階級闘爭、小作問題、婦人問題……と擧てくれば正邪曲直の差別さへつき兼る譯ではあるが而し決して迷つてはならないのだあなた方はどこ迄もあなた方の位置を究めあなた方自身の爲にそして又社會の爲に、徐にあなた方のコースを瞭然と捕へて頂かなくてはならない。

農村の婦人たちよ――

今日の都會文化(?)發達の過程が必ずしも社會文化の上に貢献する所大なりと考へてはいけない。更に農村文化の遲々たることを、その社會文化に對してギャップの少なくないことは措いて都會文化に劣ることを嘆ずる必要は更にないことを強く心に銘じなくてはならない。

都會と農村との關係が社會の發達に猶圓と中心との如きものあることを思はなければならない。是を誤て思慮を濫り却てあなた方自身を破り、社會の癈頽を醸すやうなことは苟且にもあつてはならないことだ。

農村の婦人たちよ――

間違つてはいけない。

農村に生れたあなた方はどこ迄も農村にゐて社會苦、世界苦を忍べといふのでは決してない。只自らを省ることもなく一途に都會を慕ひ嫁するにも農業を嫌つて表面華美なる都會生活に憧憬することは何といふ間違ひだらう。

新潟縣のある地方などでは婦人は悉く都會に出でて自ら職業を求め偶々歸鄉する時にはジョロ〳〵した不自然に「垢抜けた」浮薄な裝飾に身をやつして農村ではまだ聞いたこともない「船頭小唄」や「籠の鳥」を唱て青年を驚かし農業勞働者に嫁するものは一人もないといふ話もあつたと聞いてゐる。

農村の青年が都會に走る者の多いのにも青年自身が都會を憧憬する以外に此様な事實も幾分含まれて彼等を都會に驅る原因となる様に考へることも全然當てゐないものでもないと考へるのだ。

農村の婦人たちよ――

第五十議會に於て婦人參政問題が上程された時に所謂中央の先驅者たる婦人たちの傍聽者を前にして、婦人に參政權を與へるなら先づ農村の婦人からと說いた一議員もあつたといふことだ。これは單なる皮肉のみと見るばかりでなく若干の眞理もあることを認めないではゐられない。其れ程あなた方の責務が大きく重いことを先づ考へられたいのだ。もつともつと自重し徒に頽廢した都會文化に追隨していく必要は更にないことを深く考へて頂きたいのだ。あなた方自身をもつと深く堀り下げて其處にあなた方の本統の生命を植附けてどこ迄も其の伸展の爲に強く戰ふだけの勇氣と自負とを持て頂きたいのだ。

農村の婦人たちよ――

婦人解放論もよいのだ。婦人參政論もよいのだ。要は只あなた方自身本然の生命と其の理想とに正しく忠實であつて欲しいのだ。婦人が男子に對し、家に對し、社會に對してその分つべき責任を重んじ之を全うするに勇敢であれと望むまでだ。一家を善く修めることは延て一國をよく修める道であることを知て頂きたい。農村を眞に愛しては之を完全に進ましむることは即ち社會そのものゝ完成を計ることだ。言を換へればむことが最も大きい自然の愛の表現ではないだらうか。私たちは男でも女でも先づこの自らの立脚点に深い尊敬と強い力とを認めなくてはならないのだ。

農村の婦人たちよ――

強いこと――それが男性の持つ尤も尊いものであり、優しいこと――それが女性の持つ尤も秀れたものではないだらうか。

あなた方はもつと優しくあつて欲しい。男性を壓迫するよりも兎角閉口垂れ勝なそれを優しい愛を以て抱き、それを慰めそれを勵まして其の迷誤より覺醒せしめ、私たちの生活を一層樂しく明るく力あるものにして貰はなければならない。兩性の交渉も凡ての社會問題も其處に育む所のものをもつと自由に廣く平和なものに迄伸展していかなければならない。其處にあなた方の採るべき大きい路があるのではないだらうか何の爲の農業嫌惡、何の爲の小さい不平が存在しよう。あなた方のもつ尊い愛の光のみが此間に起て美しい輝きを放てゐるのだ

農村の婦人たちよ――

あなた方の中で本統に之等の点について眞劍に考へてゐられる人がほんに僅かのやうにしか見受けられないと考へるのは私の辟見ばかりであるのだらうか。あなた方が農業勞働を嫌ふのも、それほど深い根據の上に立つ傾向ではなく單なる虛榮心が比較的質實な變化に乏しい農村生活を欲しないからであるのだと思ふ。あなた方が都會を憧憬するのは其處に於ての職業を擇ぶものではなく其處にある所の華美らしく見ゆる氣分を憧憬するものであるとしか考へられない。

都會に出でたる人が會々華美を裝ふて歸鄉するのはあなた方にとつてどれ位强い誘惑であるかは推察し得るが其れ以上に其處に住むための生活苦を見逃してはならない或る人の實話に「普斷のまゝで恰度上京した知人などと途で逢つてもこちらから言葉をかけることは心に濟まないと思いながら出來ない、それほど慘めな風をしてゐる」といふのは大に味ふべきことではないだらうか。營養不良と生活苦とから神經を沮喪せしめ蒼白くなつた容貌を樂をしてゐるから見逢へる様になつたと羨むのは何といふ滑稽だらう。

農村の婦人たちよ――

どうか確り考へて頂きたい。

あなた方が粗衣を纏うて野に出るのがどうしてあなた方のプライドを傷つけるものだらう。あなた方が多くの子供を産み育てる爲に寢食を忘れるのがどうして非文化的生活なのだらう。誤れる都會文化の濁流があなた方の手によつて堰止められ輕薄なる青年をして反省せしめる爲にどうしても努力して頂かなくてはならないのだ。

農村をして此のまゝ放置したなら將來は甚だ憂慮すべきものあることを考へて頂きたい。そして此の危機を未然に避けて而も凶禍を轉じて祥福を齎らすところの原動力となるものは只あなた方農村の婦人たちを除いては他にないのである。

農村の婦人たちよ――

此んなことを數へあげたら切りがないのだ。今は只賢明なるあなた方の頭腦に依囑して結論に急ぐのみだ。

どうかあなた方はあなた方の持たれる尊い愛の心を抑壓げて眞に落付いた剛健な農村文化の設立に盡力して頂きたい。

あなた方の手になされなければならない仕事は無限に殘されてゐる。そしてあなた方の愛の營みは誓て美しい實を結ぶだらう生活改善も消費節約も勤儉力行も言葉は舊いが仕事は永久に新らしいものだ。男性によつて築かれたと見ゆる過去の文明も其の蔭にはあなた方の偉大なる努力の結晶を沒却することは出來ないのだ。

遙莫、人類永遠の幸福は懸てあなた方の自重と奮起とにある事を申上げて筆を擱くことにする。妄言多謝。（一九、五、四、三〇）

他府縣優良消防組視察に就て

上小消防組同盟會評議員
西鹽田消防組頭　齋藤　勇

上小消防組同盟會本年度事業として他府縣に視察員を派し其實況を視察し以て其進歩發展に資せんとする計畫の下に一行五名を靜岡縣に派遣する事となり不肖幸に其末班に加り四月十三日出發翌十四日同縣警察部保安課に至り同縣消防一般施設狀況を尋ねそれより優良組たる濱松市消防組及濱名郡富塚村消防組を視察したり仍て其大要を摘記し消防組員並に村一般各位に報告す

一、同縣消防組數は二百七十六組々員五萬五千八百二十三人一市町村一組制にして未設置町村十個村あり而して農村消防員は五戸乃至八戸に對し一名の標準なりと云ふ然し實際は公設以外に私設消防組員有にもよるなるべし猶同縣には少年消防隊小學校生徒を以て組織するもの八十五組又漁村には婦人消防隊を組織し此數十二組あり又縣消防組聯合會も組織せられありて同會本年度豫算は一萬四千四百十二圓にして內縣費補助は三千圓を支出しあり事業として毎月三回消防新聞の發刊財務上傷痍疾病死亡者の慰問救濟功勞者表彰其他講演視察等をなしつゝあり

二、濱松市消防組は七分に分ち一部の定員五十五名とし外に私設は四十組も有り一組凡そ五十名なり而して本年度警備費豫算は一萬九千七百六十圓なり組員年手當は組頭百五十圓副組頭五十圓部長二十五圓小頭二十圓消防手十三圓なり設備としては蒸氣喞筒六臺瓦斯倫喞筒一臺なり公設貯水池四十六個を有し一ヶ所の水量は五十石乃至二百石を蓄ふ其他稍小なるもの二十個所に設置しあり事業としては常に火防の完きを期せんが爲め一個年十回乃至十五回の演習召集を行ひ其都度器具機械等の手入注油等を行ひ火防宣傳を爲す其他功勞者の表彰等をなす又聯合會濱松支部にては少年消防隊の功勞者に對し年々一隊一名宛表彰し賞牌を授與しあり

三、濱名郡富塚村消防組同村は濱松市を距る西北方里余の農村にして多少の商工業者を含む戸數五百三十戸人口三千二百人を有す消防組は明治二十九年の組織にして組定員百三十名とす之れを現役とし更に豫備員六十名を置く現役年令は滿十八歳より三十五歳迄三十六歳より四十歳迄を豫備役とす役員は組頭一名副組頭一名副組頭代理一名小頭九名と定む豫備役の任務は自村災害の場合は豫備長及副豫備長は詰所に出動するも組頭及警察官の通知なき場合は他村に出場せず同村本年度豫算は二萬七百十三圓內警備費二百八十圓にして組員全部無手當なり毎年出初式には宴會に代ふるに一人金二十錢づゝを給與せりと同組事業の重なるものは火防幹部の監督指導の下に演習を爲し非常時に於ける沈着なる動作の訓練及避難準備の訓練を涵養せしめ一少年消防隊の火防の爲め各戸巡視注意を與ふるが如きは一般人に對しての感情等の邊に於て最も良好なる成績を擧げつゝあるは其最も取て範とするにたる事業と思料す。

以上は極めて其一端を述べたるに過ぎざるも又以て參考となし之れが研究進歩發展に資せられん事を望む。

◆今月の納稅

田租、第四期、　六百六拾五圓拾四錢
地租附加稅　未定
納稅日……五月二十五日

◆地租附加稅減免

昨年の旱魃被害を受けて收護者無に歸した土地は既報の通り村內を通じて四十町歩に及んだのであるが皆無と云ふ程でなくとも著しく減收した處が百町歩以上もあつたので資力減少到底地租附加稅の負担に堪へずとして本年一月中地租附加稅減免願を縣知事宛提出した者の中本村分左記の通り減免許可となつた。

尙該減免額は收入役に受領方を委任し大正十三年度地租附加稅徵收額より還付を受けるのだと。

記

金百參拾四圓也　地租附加稅減免額　本村人八十一人分

◆自轉車鑑札付替に就き

來る十四十五日の兩日に亘り本村內自轉車鑑札付替のため郡役所より係員出張せらるゝに就き自轉車所有者は洩れなく出頭せられたし

十四日　東西前山、山田、
十五日　十八、手塚、新町、

◎場所本村役場庭每日午前九時より午後二時迄

◎印形及び役場よりの通知書必ず御持參のこと

◎雨天の場合は延期す

◆解決を見る迄

竹　內　生

本問題を提出するや當組合にては四名の委員に交涉一切を依托し事の期成に全力を注いだのであります、問題は日を追ふて進み合同並に融和問題を二月五日付け、春原總代殿宛てに請願書を提出いたしました決して本問題は今日此の頃突然に起つた問題ではなかつたのでありまして遠き幾星霜の昔よりの宿題でありました。

請願の動機並に理由

多年其筋よりの訓戒にもとづき自覺の向上に勤めて居りましたが、なか〳〵曙光を拜するまでには猶幾星霜を期待するやも計り難く愈々自力に依つて解決を告げなくては六ヶ敷い問題たる事を自覺して、茲に請願することになつたのであります、時代の要求に順つて御了解を求め憂愁の社會を逃れ光明の彼岸に到達して、大正聖代の恩澤に浴したいと言ふのが本意でありました、然し不幸にして事不成功に終るとも暴力に訴へて解決を告げるが如き極端な主義でなく何處までも溫和な態度で天地の公道に從ひ人事を盡して天命を期待するの覺悟を以て飽くまで本問題の促進に努力したのであります。

請願條項

一、集會は總て參與し言論の自由と選擧被選擧權を與へられたきこと

二、共有山林合同については大正六年五月分與せられたる蔦ノ巢を返還し共有山林に平等權を與へられたき事

三、共有金は分配せられ今後新期計劃を建てられたき事

四、吾等を鹽野神社の氏子に加へ其他の祭典は平等に行はれたきこと

五、青年會婦人會は合同せられたきこと

右條項を御承諾せられ舊來の因襲を打破し圓滿なる部落の建設に御盡力せられん事を奉懇願候

二月五日　正副代表者連署

東前山總代殿

本問題を提出するや當組合にては四名の委員に交涉一切を依托し事の期成に全力を注いだのであります、問題は日を追ふて進み相互集會を催し協議する事拾數回、大いに熟議して模範的融和を結合しようと言ふ。意氣は彼我共に漲つて居たのでありました三月十一日相互の交涉委員懇談會に於て略々結末を告げる事になりまして、第一項は原案に了解を得、第二項は山林の一部當組合の共有地として分譲、第三項は共有金人頭割及び共有物權加入を通算して當三十戸の負擔總計金壹千百七圓〇七錢五厘也但し拾ヶ年々賦償還年利八分、第四項は鹽野神社々有金の內へ應分の寄附を募り合計壹百八拾圓也、第五項は青年會に於ては僅少の額を出金し婦人會は無條件にて合同が出來ました、右の條項相互の理解に依つて圓滿な解決を得ました、提案中當方の當局者が余り熱心過ぎた爲め示威運動と誤解を招いた事は遺憾でありました、相互の讓歩と相互の理解に依つて圓滿な融和の模範を顯はす事が出來而して第三者の勞を辿らずして解決の實績を得たるは、當東前山の一大誇にして縣下に於て類を看ざる功しであります。

「桃と櫻の隔もこれて同じ風吹く春の村」

大いに私達は此の事實を高唱して敢て社會に公表する次第であります。

三月二十六日融和合同祝を擧行し青年會では大日本建國の礎を紀念する四月三日をトして合同祝を行ひました。

今日如斯優遇に接するに當り回顧拾八年の昔日暗黑の內より當部落を、お救い下されました故宮澤正躬先生並に樋口左近先生の溢るゝが如き熱情は今尙は記憶に新たなる事でありまして兩先生の恩惠は永遠に傳へて深く感謝するものであります、猶ほ多年當部落の爲め陰に陽に御盡力を賜はりました諸賢に略儀ながら紙上を拜借致し右顚末の御報告を兼ね多年の御同情を感謝いたします。

（をはり）



小學校だより

四月一日新に入學した兒童は、男子四十五名女子三十二名で合計七十七名です。

本校に特異な現象とされた女子の多數と云ふ例年のレコードを破つて男子は遙かに十三名の多きを示しました。因に是等兒童は大正六年四月一日から大正七年三月三十一日迄の出生です

中等學校の入學試驗に合格した者は次の如くです

上田中學校　金井好衛　平山武男
福田金一郎　和田米作
山極作守　佐藤清巳

上田女學校　春原芳治

小縣蠶業學校　宮澤敏雄　齋藤儀雄
黒坂四三

丸子農商學校　吉野袈裟人　鷲原正樹

職員の交迭

舊職員の轉退職せられた者。

清水誠一郎氏　小縣依田校へ　二
今井謙郎氏　諏訪平野校へ　二
瀧澤　勇氏　退職　二
齋藤夏花氏　退職　七
小池かたゐ氏　退職　四

（下記ノ數字ハ本校在職年數ヲ示ス）

新任職員

芦田安吉氏　小縣傍陽校より
龍野進午氏　新
關　正司氏　新
小出きくの氏　新
峯村　美氏　下高井瑞穗校より

◆村會開會

改選後第一回の村會を四月十三日本村役場に開會、會議に先だち抽籤を以て議員の席次を定めた。其の結果左の如し

席順	氏名	席順	氏名
第一番	宮澤友一	第二番	小林留次郎
第三番	宮澤八十八	第四番	黒坂重市郎
第五番	齋藤市太郎	第六番	山極喜三郎
第七番	市村藤作	第八番	曾根正一
第九番	小宮山　節	第十番	武田助左衛門
第十一番	樋口秀實	第十二番	樋口左近
第十三番	佐藤清五郎	第十四番	平林祐藏

午前九時半開會左記の件を決議した。

一、土地買入の件
財産組合に於て買入の分畑二反二歩
一、土木委員滿期改選の件
選擧の結果瀧澤重氏再選
一、專務衛生委員辭職承認の件
小林留次郎辭職承認可決
一、仝補欠選擧の件
選擧の結果吉野茂七氏當選
一、臨時會計檢査立會人選擧の件
選擧の結果左記當選
黒坂重市郎　佐藤清五郎　宮澤八十八
以上

◆村史編纂委員會

大正九年に設置された本村々史編纂委員會は其後着々材料の蒐集に努めて來たが、今回愈々之が編輯をする運びとなり四月二十七日午前九時より役場内に委員會を開いて具体的に編輯の方法等を協議した。重なる協議事項は

一、編纂に關し專門の技術者依頼の件
郡史編纂主任小山眞夫氏に依頼す
二、村誌（地誌的）とするか、村史（歷史的）とするか？
村誌と村史とは自ら編纂の組み方相違あり。村史とすることに決定
三、文体は文語体にするか口語体にするか？口語体にすること
四、記述は詳細具体的にせんか爲已に提出せられたる資料以外に更に蒐集の必要あり其の方法
各部主任を招集し打合すること
五、委員の希望條件
等であつた
事業が漠然とした大きな事業だけに其の出版を見るには未だ多くの年月を要することであらう。
因に委員は左の如くである。

會長　齋藤重太郎　幹事　竹下繁松
委員　宮澤久三郎　仝　宮澤丑太郎
仝　武田繁太郎　仝　六川靜治
仝　佐藤　知
補助委員　樋口寄位

◆兵事雜報

▲大正十四年度海軍簡閲点呼並に召集事務檢閲を左記の通り執行せらるゝ筈にて点呼參會者は　一等兵曹宮澤喜熊君　一等水兵樋口作彌君の二名なり
期日　二十三日午前八時半
場所　小縣郡役所

▲本年徵兵檢査は來る七月十三日より本郡内に開始せらるゝが本村は仝月二十一日午前七時三十分より小縣郡役所にて執行せらるゝにより受檢者は今より然るべき用意が必要である、尙受檢者に關する注意事項は次號にて報導す。

◆飼育上に於ける蠶兒鑑定大要

橋詰

◎初眠に良く揃ふ蠶は三眠も揃ひ上簇も無事なり
□眠蠶は初め透明となり漸次暗褐色を呈して脫皮す此時風を避くべし
○上簇中の温度は低温よりも稍や高温に利あり
○上簇中の換氣は食桑中よりも注意を要す平和なる家は蠶當り不和の家は豐蠶稀なり春は嬉しや二人揃ふて蠶飼の業よ給桑分箔した換ひ眠起の工合に注意すら　ちいと豊作ぐいなし
（ひやひや）

○頭部の堅大なるは健蠶なり
△尾端に糞を吊す蠶は概ね微粒子病なり
○小寄する蠶は健蠶なり
△糞を附着するは弱蠶なり
△健蠶は常に桑を食し弱食は何時も桑を餘す
□眠前に乾けば就眠早く温ければ足止め遲る
□遲眠蠶の淘汰は夕方に行ふが良し
○朝の眠除は就眠揃ひ午後の眠除は就眠後れて揃はず
◎三眠の齊否は養蠶豐凶の別れ目なり
蠶の眠起は初眠に不齊なるものは二眠に敢て不良ならざれども三眠に著しく不齊となり更に四眠は稍や揃ふも上簇に至つて全滅す

◆東前山より

●四月三日——
麗らかに晴れて春の氣分の横溢するこの日、年中行事の一つである塔野原の掃除を會員総出で行つた。
午後は藤の木支部との合同祝宴會を事務所に開いた、中島顧問、春原総代の臨席を得て會員総數四十餘名になり得た嬉びを一堂の中に漲らした。

●四月例會、四月十二日午後七時より例會を開いた役員補欠選擧の結果左記諸君當選
評議員　安藤安喜　文庫員　小宮山源一

●新植作業、昨年伐木した青年會所有の林地へ落葉松及扁柏を植栽することになつて四月十八日に第一回の作業でした。扁柏植栽は五月上旬に行ふ筈

●婦人會でもこれから農繁期を除いて毎月例會を開くことゝなつた。四月は十二日に開會六川校長の有益な講話があつたと。

●花見の季節が來た。塔之原の櫻も氣候が遲れた爲五月十日頃でなければ滿開とはならぬであらう。

●買い物狂歌

東京市商工課

ゴボウ
あめ色の皮が滑らくて中細を選べ太きは堅く隙間あり　蓮根
色澤がよくはだも白ふてすんなりと中肉のもの甘味けれ　甘藷
色赤くはだ滑らかに目は細く肉は緊りて黄色ながらし　馬鈴薯
皮薄く目は淺くして滑らかに津輕北海會津ものよし　甘藍
なるべくに緊りがよくて色白く目方があつて莖のなきもの　里いも
玉子形粒がそろふて燒けがなく肉眞白なるを眞品と知れ

會と人

▲學生消息
宮澤　亮氏　松江高校卒業　帝大理學部へ入學
小松　清氏　金澤高工へ入學
宮澤　基厚氏　癈前高工卒業
瀧澤　勇氏　長野師範二部へ入學
白倉　高木氏　上田蠶業卒業
竹下友之亟氏　上田蠶絲專門へ入學

▲歸鄉兵士、砲兵軍曹黒坂勇君、仝一等卒小山豐君の兩氏は滿期並に歸休により五月二日歸鄉の筈

▲稅務協議會、四月二十四五日の兩日戸倉小學校に開かれた上田稅務員管内稅務協議會に本村黒坂、金澤兩書記出席

▲村議送迎祝賀會、四月三十日午後一時より本村小學校に於て村會議員送迎祝賀會開催、百三十餘名の參會者を得て盛會裡に午後五時散會

▲視察會。西蘆田村外二ヶ村財産組合では恒例により五月一日組合林視察會を催した參會者は組合會議員、林業委員、校長村長、役場職員、青年會長大字野倉役員等六十餘名である。

▲大字総代會、四月二十四日大字総代會を開いて村議送迎會、清潔法施行、登記所費用負担其の他數件を協議し、了つて前衛生組合長宮澤峯三郎氏に慰勞金百圓を贈つて其の勞をねぎらつた。

▲所得金額申告者、四月三十日迄に提出すべき所得稅課稅標準申告書を該期日迄に役場經由提出したものは村内僅か三十名である。

▲小山眞夫氏來村、村史編纂委員會の委托を受けて小縣郡史編者小山眞夫氏は四月二十九日來村、村史編纂委員と種々打合をする處あつた。

小松清吾　學藝部主任　木下幸

部落協同實習地設置に就いて

西墟田實業補習學校　池田基覽

實業補習教育の國家の存續發展上重大なに巨細となく指導さるゝ子弟に事新しくこの關係を及ぼす事や、斯教育の發展即ち有爲んな施設をして多少家の經濟にも影響を及の青年男女の養成が國民生活の向上に將又ぼすと合点のゆかぬ方もありませう。これ各々の經濟生活乃至自治生活に重大な影響は一應尤もな議論とは思ひますが飜つて其を及ぼす事は、歐州戰爭を一轉期として世の日常の樣子は農蠶業の至難な事は年長者界各國の爲政者に依り識者又は一般民衆にが担當し唯部分的にあれをやれこれをと單より叫ばれ且認められゝ樣になりました。に勞働に從事のみせしめる事が多いと思ひ

我國に於ても爲政者は關係法規の改正に ます。一國に二王なしとか牝雞晨を告ぐるは云々といふ諺の如く一家が家長の指揮の補助奬勵策に講演に講習に種々劃策され各下に統率され行動する事は我が家族制度の種團体亦農村振興に公民的教養を施す上に美点として家庭内にあつてはこれが當然の注目し期待して居る所であります。又我々事だと思ひます。されど我々は日常生活の は年々小學校卒業兒童の上級學校へ入學す些事と雖も終始一貫自分が手を下しその事るものに對し家庭に殘る大部分の兒童を見柄を仕上げた時言ひ知れぬ愉悦を覺ゆ又顧る時に各町村の發展上各人能力の伸長上斯

告示第十一號
本月一日執行シタル本村會議員總選擧に於テ左記ノ者當選ニ付此旨告示ス
大正十四年四月六日　西墟田村長齊藤重太郎
記
西墟田村十四番地　佐藤　清五郎
全村三十二番地　武田助左衛門
全村大字前山四三〇番地　黒坂　重市郎
全村全三五六番地　小宮山　蟷
全村全一九九番地　宮澤　八十八
全村全一六九番地　宮澤　友一
全村大字手塚九六五番地　樋口秀實
全村全九七六番地　市村藤作
全村全二〇四番地　樋口左近
全村大字新町三〇番地　山極　喜三郎
全村全四五五番地　小林留次郎
全村四六七番地　齋藤　市太郎
全村六三五番イ號地　曾根正一
全村大字野倉七三二番地　平林祐藏

教育の重大な意義及び使命を感するものであります。以下此教育上季節教授をなす場合（通年制に對し）夏季實習期に於ける施設の有効の一方法と稱さるゝ各部落協同實習地設置に關し記述して村内各位の理解と後援とを得たいのであります。

全國一般に實補專任教員の設置しある學校に於て季節教授をなしつゝある場合四月―十一二月頃迄の間即ち實習期と稱さるゝ期間、協同實習地の設置を要望し苦心しつゝあるのでありますが遅々として好模範を天下に示す所は餘り多くないのであります。例を本郡下にとりましても曲りなりにも設置しつゝある學校は前年度に於て當校及び他の一ヶ所のみであります。川西地方に於ては當校を以て嚆矢とするのであります。將來本郡の實業補習教育史が編まれた場合にはその一頁を飾る事が出來ると思ひます。空想は暫く止めまして此實習地が教育上如何なる意義を有し如何なる目的の爲めに村内各部落に設置を熱望し計劃を進めつゝあるかを述べたいのであります。

農家の子弟として父兄により傳統的家業たる農蠶業それも年々違ふ天候や其他日夕るゝ欠点を認める事が出來ると思ひます。苦心を嘗め活經驗を積まれた年長者の膝下

尙其他兩者知識の相違、經驗と學理の杆格、心理の溝渠等は一家内にありて兩者互に自己の所信に進まんと主張して相容れぬ時は家庭の平和を亂し不愉快に月を送る事がありはしないかと慮るのであります。

然るに年齡に於て經驗に於て知識や教育の餘り隔らない然も日夕顏を見合せて居る生徒等が互に寄り合つて借地の事から計劃を立てゝ勞力の分配や施肥の事實挙く事等その實習に關係し附隨する總ての問題に現實に直面し解決しつゝ進めて行く事は農業の本質に觸れ農業經營の實際に當つての大なる修養であり大なる收穫であると思ひます。又新しい從來此地方に栽培されなかつたもので將來此地方に普及の必要ありと思はるゝものゝ試作等個人としては實行至難の事も協同研究により皆の知識の總和により試作する事は容易に出來得る事と思ひます。

又私の立場としても小學校の農業科担任の傍廻るのでありますから時間の郡合上實習地といふ對象物を中心に生徒の勤惰を先づ作物の生育肥培管理の上に表現さるゝを視適切な指導と注意をなし得るのであります。

又生徒は實習地の設置により多少社會の注意を惹く爲め嘲笑を潔せず名譽心奮發心を刺戟して源心の努力を傾ける結果信賴すべきは青年、相談相手は子弟と兩者の融和を計り共に農業の進化を促す事が出來ると思ひます。又國体的訓練を積む結果親密の度を增し公共心を涵養し人生の途上大なる精神陶治が行はれます唯茲に私共の注意すべき事は農繁期の家庭勞力との衝突引いては一家の經濟の影響を最少限度に止めなくてはならぬ事だと思ひます。

次に當實補校に於て大正十一年度以降の實習期に於ける事業を御知らせ致します。十一年度に於ては村農會の水稻試驗を委託され當時の學則による本科四、五年が担當する事になりました。私は赴任當初より又或近村に於て補習校生徒が担當した處肥培管理を思つた爲め遂試驗不可能だつた事を知つて居りますので果して好結果を得るか否かを氣遣つたのでありましたが生徒が責任を重んじ精勵しました爲め計劃通り試驗を完了する事が出來ましたのは方面を以前より少しく代へた私のスタートの事業として内心大なる喜びでありました。（尙此試驗の一部稻作と三要素は大正十二年三月發行の教育時報第三號に揭載致しました）

大正十二年度に於ては水稻試驗田は廢止となりましたので新しく標題の協同實習地を設置する事になりました。或部落の生徒の候補地を定め總代さんの了解と助力を得て行きました所本當に私が聞いて涙のこぼれる程親切に萬事の世話をして下さいました。その感激は永久に忘れる事は出來ませんん。他部落の生徒も總代さんの處へ行つた處劍もホロゝの挨拶「そんな事しなくもよいと」の事好意をもつて戴けなければそれ迄ですが否定する事は果して穩當の筆でせうか？。而し生徒は奔走して實習地は出來ました。第一年目に東前山には水田八十坪蔬菜園百廿坪。新町には蔬菜園百五十坪手塚全百五十坪。山田は水田二百五十坪出來ました。殊に山田の生徒は山田地積に借入地がないので手塚横堰下迄來て試作しました。本當に熱心なものです。（山田の實習に關する調査收支計算等は既に昨年の西墟田時報第五、六號に揭げました）

大正十三年度第二年目には東前山前年通り西前山新設蔬菜園六十坪山田變更實生桑播種蔬菜約四十坪でした。

本年度は既に手塚樋の口に於て蔬菜園約百坪久保金井其他聯合蔬菜圃魯桑播種豫定地約百坪。西前山魯桑播種豫定地蔬菜圃各約百坪宛試作する樣決定致しました。生徒數が皆無又は極少數の處がありますがこれを除いて（少數の所一二名の所は出來れば好都合ですが）全村に普及させたいと思ひます。どうか村民各位におかれては學校の趣旨を御了解下すつて此擧が教育上の效果を一層大ならしめ村産業の發達に一段の光明を齎す樣御後援を御願して擱筆します。

尙補習學校の事に關し御意見なり御要求なり御知らせ下されば幸甚と存じます。

手塚婦人同志會より

◇紀念品贈呈式

時恰かも梅花綻ひ初めし四月十二日手塚婦人同志會にては大字公會堂に於て前會長樋口菜子樣の退職に當り在職中會の發展隆盛の爲め忠實に御盡力下されしを感謝する意味を以て會員多數出席致し尙大字總代樣にも御臨席の光榮を得て盛大なる送別會を催し、席上紀念として鏡臺一個と感謝狀とを贈つた。尙午後一時より紀念撮影をする豫定の所相憎の雨天の爲め殘念乍ら中止のやむなきに終つた。會員の一夜神かけて祈りし甲斐ありて天祐か翌日は天晴かにして恰かも撮影の好日和此期逸すべからずと手塚公園（椿名山）に於て菜子樣を眞中に紀念の撮影をなし樂しく解散した。

◇……編　輯……◇
◇……餘　錄……◇

●先頃所用で俗に云ふ山中の七二會村へ行つてきた。想像よりもヒドイ處で驚いてしまつた。然しまだ並は是で山中の人口だとの事だつた。七二會村の殆ど、どこからでも川の流れは、えんゝゝと展開されてゐへる。山も日本アルプスへかけて幾重となく疊まれてゐる。

●水利が惡いので水田は極く少ない。らしてセイセイ三十坪もあるのは大きい方である。他は殆ど蓼作で丁度男も女も此出ての手入の眞最中であつたが、その邊の無肥料に近い蓼を見る樣だつた。蓼作の後へは大豆乃至小豆蕎蓼を作るのだらうだ。

●桑園は見當らなかつた。

●最近養蠶を遣り初めたての事だが、見るべき程の桑園は見當らなかつた。

●よくもあれだけの山を開墾したものだと思はれた。あれ丈の山を開墾する日になれば野倉山の奥邊りには余すところはなからう。らして立派な一村が出來るだらう。

●然し彼の地の人達の純朴さには敢意が拂はれた。

●舞遠永い春日も暮れて陽川の邊りを獨り疲れた足を引摺つて來た時は更に淋しかつた。（コーコン）

◎誌上のどく名又は雜號は差迫へありませんが編輯者迄姓名を御知らせないものは載せ兼にゆきませんから寄稿者は御注意下さい。

（大正十三年八月二日 第三種郵便物認可）　大正十四年六月一日　西鹽田時報　第十九號　（一）

西鹽田時報

第十九號
每月一回一日發行
定價金三錢
廣告料一行金十錢

町村自治について

小縣郡書記　岡田忠一

我國町村制を實施してから既に三十有七年の自治に付いて之を述べて見たいと思ふ此に垂んとするのである其の歳月敢て短かしと云ふを得ないが町村の實況を看るに其の進歩發達は頗る遲々たるの觀がある眞に町村が國家百世の基礎を鞏固ならしむる根抵たるに至るの日は果して百年河清を待つの慨なきを得ないのである。

思ふに町村の進歩發達は町村の人々が皇室を中心とし忠君愛國の精神に基きて制度を緯とし運用の智能を經とし共同一致隣保團結の實を治め得ねば眞に其の目的を遂げ得べきものでない現に我邦町村が未だ有終の美を濟す能はざるは畢竟町村の人々が制度を知得せず立法の精神を了解せざる爲其の運用宜しきを得ざるに基因するものと認めざるを得ないのである。

之れ即ち近時世に自治教育を唱ふるものある所以であらうと思ふ私は茲に町村民として必要なる事項を項を逐ふて記述し以て皆さんの參考に供したいと思ふ。

一、自治の意義と其の効用

自治と云ふ事は文字の示す如く自己が自己の事を處理すると云ふ事である斯く解する時は家の戸主が其の家を立つる事も青年會が其の會の事を會自身で處理する事も皆自治であつて府縣郡市町村は勿論法律に依つて設けられた産業組合とか商業會議所とか水利組合とか稱する團体についても皆自治が存在するのである私は茲に於ては此等廣義の自治でなく町村と云ふ地方自治團体は各地方の實情に適應し行政上の成績を擧ぐる事を得るのである

二、自治は直接利益の關係を有するものを以て其の行政事務に參與せしむるが故に常に誠心誠意を以て其の成績を上げん事に努め意志の疎通を圖り易く且經費を節約して行政を爲さしむることを得るのである

三、地方の行政事務に參與せしむる事を得るが故に地方人は漸次公務に熟練し遂に國家の政務にも參與するの智識を涵養する事を得るのである

四、國家の官吏殊に内閣大臣の如き官吏が屢々更迭することあるも自治行政に付いては其の影響を蒙ること尠なく常に着實なる行政を爲すことを得るのである

五、國家の區域は廣大なるが故に治者と被治者との意思疎通し難く爲に諸種の弊害を惹起する事あるも地方自治團体の區域は狹少なるを以て意思の疎通圖り易く民情を斟酌する事は因より言を俟たない處である然し乍ら國家の委任によりて行ふ行政であるから國家の行政は常に調和し統一せらるべきもので之と背馳して苟も國家の監督を受くべきは固より當然のことである。

地方自治は國家の進運に伴ひて發達したものであつて國家社會の上に大なる効用を現はすものである其の効用は政治上より見たるものと法律より見たるものとによつて異るものがある然れ共要は自治の制度が地方行政上國民の幸福を增進するの大なる効用を有すと云ふ事に歸するのである今之れを詳述すると

一、地方には各地特殊の事情があるから地方自治團体をして其の行政を行はしむる時を立つるの根源は國家の政務を地方に分任し地方人をして之に參與せしめ一は以て中央政府の煩雜を省き一は以て國民の本務を盡さしめ斯くて政府は政務の大綱を握り方針を授けて國家統御の實を擧ぐる事を得ると共に國民は自治の責任を分ち以て專ら地方の公益を圖るの必を起すに至るのである又國民の參政の思想が發達するに從ての制度を運用し參政の實を擧げ叡慮に對し奉らねばならぬ茲に於てか皇室の恩惠と國民の忠誠と相合して自治の發展を促進し遂には日星を瞭るが如く明らかな事である。

（未完）

六、自治は一に公共心の發達に待つべきものなるが故に其の行政は常に公益を主として行ふの精神に出で政黨の勢力の消長個人の權力の盛衰により何等の影響を受くる事なきものである地方自治の効用は前述の如くなるが故に此の効用を一層大ならしむる事は一に自治の開發進歩に待つべきものである。

二、町村制々定の本旨

町村制々定の本旨は自治及び地方分權の原則を實施するに外ならないのである即明治維新後は我國の政務は悉く集めて之れを中央政府に於て統べたのである即中央集權で廣義の自治でなく町村と云ふ地方自治團体をして其の行政を行はしむる時は各地方の實情に適應し行政上の成績を擧ぐる事を得るのである

二、自治は直接利益の關係を有するものを以て其の行政事務に參與せしむるが故に常に誠心誠意を以て其の成績を上げん事に努め意志の疎通を圖り易く且經費を節約して行政を爲さしむることを得るのである

三、地方の行政事務に參與せしむる事を得るが故に地方人は漸次公務に熟練し遂に國家の政務にも參與するの智識を涵養する事を得るのである

四、國家の官吏殊に内閣大臣の如き官吏が屢々更迭することあるも自治行政に付いては其の影響を蒙ること尠なく常に着實なる行政を爲すことを得るのである

五、國家の區域は廣大なるが故に治者と被治者との意思疎通し難く爲に諸種の弊害を惹起する事あるも地方自治團体の區域は狹少なるを以て意思の疎通圖り易く民情を斟酌する事は因より言を俟たない處である然し乍ら國家の委任によりて行ふ行政であるから國家の行政は常に調和し統一せらるべきもので之と背馳して苟も國家の監督を受くべきは固より當然のことである。

地方自治は國家の進運に伴ひて發達したものであつて國家社會の上に大なる効用を現はすものである其の効用は政治上より見たるものと法律より見たるものとによつて異るものがある然れ共要は自治の制度が地方行政上國民の幸福を增進するの大なる効用を有すと云ふ事に歸するのである今之れを詳述すると

一、地方には各地特殊の事情があるから地方自治團体をして其の行政を行はしむる時を立つるの根源は國家の政務を地方に分任し地方人をして之に參與せしめ一は以て中央政府の煩雜を省き一は以て國民の本務を盡さしめ斯くて政府は政務の大綱を握り方針を授けて國家統御の實を擧ぐる事を得ると共に國民は自治の責任を分ち以て專ら地方の公益を圖るの必を起すに至るのである又國民の參政の思想が發達するに從ての制度を運用し參政の實を擧げ叡慮に對し奉らねばならぬ茲に於てか皇室の恩惠と國民の忠誠と相合して自治の發展を促進し遂には日星を瞭るが如く明らかな事である。

（未完）

大正十四年五月廿五日印刷納本
大正十四年六月一日發行
長野縣小縣郡西鹽田村役場
編輯印刷兼發行人　樋口秀實
印刷所　山浦活版所
發行所　西鹽田青年團

副はざる心

舍人

草よ！畑の草よ！
お前は何故斯ういふ所へ生いたのだ
私は……
のびやうとするお前に對して
かほどまでに、しいたげる心はないけれども……
自分が生きんとする爲めに作る
作物の爲めには
お前の犧牲が要るんだ
おゝ草よ！
お前だつても他の作物と一緒に
花を咲いて
そして實を結びたいだらう
それは私も知つてゐる
けれども草よ！
私はお前を憐れと思ひながら
矢張りお前を犧牲にするのだ
それは……
私の希ふところではないけれど
どうすることも出來ない
仕方がないことなのだ
おゝ草よ！
ゆるしておくれ。

銀婚祝賀式

五月十日——

聖上皇后兩陛下御大婚後こゝに二十五年銀婚の祝典を擧げられる日。本村に於ても皇運の無窮を壽ほぐべく午前八時村内各名譽職一同小學校に參會して小學生徒職員一同と祝賀式を擧行した。先づ君が代に始まつて兩陛下の御眞影は開かれる。敎育勅語捧讀が濟むと嬉びに滿ちた六川校長は高臺に立つて式辭を述べる、聞くものゝ何れの顔にも今日のよき日を壽ほぐ嬉びは見られた。かくして精神的の祝賀式は午前九時を過ぎて閉ぢられた。この嬉びを記念する爲に植樹でもしては——と云ふ村長の發案に村議一同は誰一人として異存はなかつた。協議は一決して五月十八日村有林の視察を兼ねて紀念植樹を大字野倉字矢瀨尾の村有地籍へすることになつた。

五月十八日——村會議員大字惣代其の他村内有力者は村長並に林業委員に引率されて紀念植樹をするべく豫定地に出立した村有林の年々に榮へて行くのを見て一同は定めし明るい村の前途を嬉んだ事であらう。かくして豫定通り植樹して、陽當りに面した白砂の原に祝杯を擧げたのであつた。

徵兵檢査を受くる者の心得

一、頭髮は可成短く理髮しおくこと
二、眼鏡を使用しあるものは檢査時之を持參する事
三、褌は越中褌若くは六尺褌を用ゐる事
四、酒氣を帶びて檢査場に出頭せざる事
五、檢査前に必ず入浴し特に耳腔を淸潔になし置くこと
六、檢査場内にては喫煙せざること
七、金錢其他貴重品は可成携行せざること
八、服裝は可成紋付羽織を用ひ禮を失せざる限り質素なること
九、受檢に際し檢査官よりの質問の應答には明瞭活潑なるを要す
十、中食は必ず携行すること

尙此外追て送達すべき徵兵檢査通達書の裏面に記載の壯丁心得を熟讀の上遺漏なき樣せられたし

●兵事雜報

△徵兵令第十二條により願書提出濟の者は小宮山源一君、福田眞澄君とであります

△來る六月二十三日執行せらるゝ海軍簡閱点呼執行官及召集事務檢閱官は左記の通り公報がありました

簡閱点呼執行官兼召集事務檢閱官
海軍大佐　平山榮
召集事務檢閱補助官
海軍主計特務中尉　塙善次
簡閱点呼執行官附
海軍一等兵曹　大島義雄
仝
海軍一等主計兵曹　高橋三吉

●今月の納稅

一金六百拾九圓四拾錢　國稅營業稅前半期分
一金參百六拾五圓四拾錢　仝縣稅附加稅
▲納稅日　二十五日

△過日滿期除隊せられし砲兵軍曹黑坂勇君は退職特別賜金として金貳百九拾參圓を下賜せらる

△本年度壯丁適齡者中瀧澤勇君は一年現役兵の資格を得たるに因り七月九日上田市徵兵署に於て受檢せらるゝ筈

支部通信

●東前山より

銀婚紀念植樹。五月九日會員總出で塔之原の會有林地へ銀婚紀念の植樹をした。心をこめて植へた扁柏は定めし根づきがいゝであらう。

觀櫻會。塔之原の櫻は平年よりも遲れて五月七日頃より咲き初めた、昨年の旱魃の精か花は何時もより淋しかつたが九日より十二日頃迄の觀櫻客は少なくなかつた。靑年會でも例によつて九日に觀櫻會をした。春蠶掃立。十五六日頃發生の豫定のゝが氣候が遲れた爲十八日頃が大並だつた。數回に亘る降灰で何んとなく不安を覺へる。

●手塚支部より

第十五週年祝賀會。我が靑年會が創設されて茲に十五年目に當るのでそれを紀念し祝ふ意味を以て四月二十六日祝賀會を開いた手塚公園の觀櫻を兼ねての積りであつたが合憎の雨天の爲能はず、無量寺を借りうけて、そこで宴會を開いた。總代協議員の參列を得て盛會を極めた。

五月例會。五月十五日例會を開いた、愈々農繁期になるので例會は今月を以つて最終とし九月迄休會する事になつた。當夜はレコードのいゝ音をきいたり簡單な茶話會を催ふし、お互に健康で働らく事を祈り合つて別れた。

靑年會館落成。大字では曾て決定してゐた靑年會館の修築落成をみたので、靑年會に五月二十五日引渡された。是からは大威張で新らしい會館でピンポンも出來ることになつた。

●新町支部通信

●十流祝披露俳句大會　參月中旬本村雅人有志の主催にて近隣に其の名聲嘖々其の人有りと知られ、連戰連勝遂に弓十流迄も勝ち得たる鐵哉竹山雨雅の十流祝披露の意味を以て俳句大會を催せられた斯道の大家伊藤松宇先生外十數名の宗匠來會極めて盛大なりき

●敬老會　例年の如く靑年會婦人會合同にて四月二日公會場に於て開催せられ先に料理講習會に出席せられし諸孃に依り腕に覺への美味なる御料理に老人方に舌鼓を打たした。午後は會員の大根役者を向ふに廻す樣な珍藝續出主客に多大の滿足を與へ盛會裡に閉會因に七拾歲以上の老人拾六名なりき。

●水利問題解決十八對新町の水利問題は樣々折衝を重ねた末此度無事解決した。

●座額奉納　昨夏未曾有の旱害の砌り氏子一同雨乞の祈願を罩めしところ神德明らかにして慈雨を降らせ給ひ爾來災難の年を平穩に過させ給ひしは氏子中の深く感激するところとなり區内雅伯相謀り洪大なる氏子神社の靈德を奉謝せん爲此の程新町氏子中の雅伯より多數の名吟を得座額となし四月廿五日奉額す課題は四季乱へ結字「王子神社御惠奉謝瓢塚祈願農民」の中隨意

●靑物市場初開場　既報の如く西蘆田軍人分會第五斑の發起に依る靑物市場は四、九デーとして開催せられ五月十四日を以つて初開場となつた。當日は會員諸君が早朝より自動車を驅つて大々的に近郷一圓を宣傳し午後二時より市場開場を祝賀の爲め新町區民一同及村内名譽職員及露店商人一同を招き盛大なる祝賀會が催せられ夕景より多數の露店は開かれ見物がてらの人出に賑はい一通りでなかつた露店賣上四拾五圓六拾五錢極めて盛大なる初市場なりき、尙席料は金拾錢であると。

●西前支部通信

五月十日銀婚式の當日を期して婦人會靑年會と合同にて塔之原で觀櫻會を行つた。出席者八拾餘名。

會員藝者の隨等あり。一般花見客を驚かせた。地元の人の言ふところによるとこんな賑かな事は近年稀に見るところだと。

●山田支部より

平支部は五月二日御慶事紀念事業の一たる砂防工事をした、そして午後は其の慰勞を兼ねて、花見會をした、贊成者も數名あり尙甘黨は會員の反數以上もあつた、甘黨の年と共に增加して行く事は嬉しい事で尙嬉しい事はゲコも左黨もそこに何のへだてなく和氣藹々として全會員滿足して盛會裡に終つた事だつた。

會と人

△齋藤村長縣廳へ。五月六日本村齋藤村長は旱害救濟資金の件に關し縣廳へ出張。

△官行造林豫定地踏査。五月六日上田營林署長與石義智氏本縣農林技手市川豊藏氏及び本郡安藤技手等來村林業委員齋藤勇竹内榮五郎兩氏の案内にて本村外二ヶ村財産組合の官行造林豫定地の踏査をした

△觀櫻會。五月九日東前山區の招待を受けて役場職員一同塔之原に觀櫻、仝日は小學校の職員生徒も全部仝所に觀櫻。

△登記所開廳。上田區裁判所中蘆田出張所は其の後着々改築工事を進めて來たが五月三日愈々其の落成式を擧行し村長大字惣代其の他關係者一同を招いて盛大なる祝賀會が催されたと——

△淸潔檢査。五月六日以來各大字に亘つて施行して來た淸潔檢査は天候其の他の事情によつて長引いたが十二日に全部終了した。

△自轉車鑑札着替。四月十八日縣令を以て自轉車取締規則改正となつた結果鑑札及び車輛記番號を着替へることゝなり本村に於ては五月十四、五の兩日村役場に於て福井郡書記來場鑑札着替を施行した。

△白倉米吉氏。購買組合雇員として長く勤續した白倉米吉氏は依田村に良緣を需めて四月二十五日限り組合を辭した

△瀧澤正江氏快氣。本村外二ヶ村財産組合林業委員瀧澤正江氏は昨年來病床に呻吟してゐたが四月頃より快方に向つて今は全く快癒された。

△購買組合理事會。五月二十一日組合事務所内に開會。雇員後任者其の他の件に關し協議した。

△女神山へ。靑年團役員一同は五月二十七日村有林視察を兼ねて女神山へ登山した

△見學旅行。實業補習學校では五月二十六日六川校長池田敎諭引率の下に長野方面に見學旅行をした。

小學校だより

▲兒童身体の狀況に就いて。

身体を阻害し知育の偏重に傾く現代の一部の教育は教育の悲劇であり破綻である。智德の啓發は健全なる身体の持主たる者に於てこそ始めて意義あり且つ圓滿なる人其のものも育成せられる。然るに卓上の論としては体育を力説よる者も、其の實知識の度のみを以て人を評價するの偏見に陷り易いのは現代の傾向ではあるまいか。我西蘆田小學校の兒童が帝國の幾百萬の少年の体格に比べて、如何なる地位にあり亦如何なる欠陷を有するかを調査することは均齊の發育を希求するの点に於て、換言すれば、より善い体育を施すの指針を與ふるの点に於て、研究の疎にすべからざる問題である。毎春の檢査が統計のための統計たらしめずして。價値あり意義あらしめるために、發育狀況を比較し、依つて生ずる原因の那邊に存するかを探求し、採長補短以て健康の増進を計りたいものである。

◆本校兒童身体發育狀況比較表

（一）身長

身長	男子	女子
年齡	全國廿一ケ年平均	全國廿一ケ年平均
七	三、五三	三、四八
八	三、六七	三、五三
九	三、八三	三、七八
一〇	四、〇〇	三、九三
一一	四、一三	四、〇八
一二	四、二六	四、一六
一三	四、四二	四、二四
一四	四、六二	四、三三

身長	男子	女子
年齡	本校平均	本校平均
七	三、五五	三、五二
八	三、七二	三、六三
九	三、八一	三、七八
一〇	三、九三	三、九三
一一	四、〇八	四、〇八
一二	四、三〇	四、一六
一三	四、四一	四、二四
一四	四、六五	四、三三

（二）体重

体重	男子	女子
年齡	全國廿一ケ年平均	全國廿一ケ年平均
七	四、八六二	四、五二〇
八	五、一三七	四、九二六
九	五、四六六	五、三八五
一〇	六、〇八七	五、八五六

体重	男子	女子
年齡	本校平均	本校平均
七	四、七四二	四、五五五
八	五、一三七	四、九二〇
九	五、六六八	五、五八八
一〇	六、一四三	五、八六六

（三）胸圍

胸圍	男子	女子
年齡	全國廿一ケ年平均	全國廿一ケ年平均
七	一、七九	一、八〇
八	一、八五	一、八二
九	一、九一	一、八四
一〇	二、〇二	一、九〇
一一	二、〇九	一、九六
一二	二、一六	二、〇三
一三	二、二五	二、一二
一四	二、三五	二、二三

胸圍	男子	女子
年齡	本校平均	本校平均
七	一、八八	一、七三
八	一、九三	一、八二
九	二、〇三	一、八四
一〇	二、〇九	一、九〇
一一	二、一〇	一、九六
一二	二、一二	二、〇三
一三	二、二三	二、一二
一四	二、三四	二、二三

胸圍	男子	女子
年齡	全國廿一ケ年平均	全國廿一ケ年平均
七	一、七四二	一、六五三
八	一、八二九	一、七二四
九	二、〇三三	一、八二〇
一〇	二、二五四	一、九二〇
一一	二、四九四	二、〇四四
一二	二、七五〇	二、二五〇
一三	三、〇九二	二、五二〇
一四	三、四九六	二、八四四

胸圍	男子	女子
年齡	本校平均	本校平均
七	一、七四二	一、六五三
八	一、八五九	一、七二四
九	二、〇九四	一、八二〇
一〇	二、三五〇	一、九二〇
一一	二、六五〇	二、〇四四
一二	二、八五二	二、二五〇
一三	三、一八二	二、五二〇
一四	三、五八〇	二、八四四

（四）其他の身体狀況

發育	甲	乙	丙	營養	甲	乙	丙	脊柱彎曲	鱗齒	近視眼
要項	長野縣兒童ノ歩合			長野縣全体ノ歩合						
本校歩合	一八、五五	五八、二七	二六、一三	本校歩合	五八、二七	二五、四二	五、一三	四、一四	五、二四	四、一九
	六〇、三六	二四、五六	五、一三		六〇、〇〇	三三、九四	九五、三一	〇、四七	四、一九	四、三
	二一、〇九	五五、一三	一七、一三		二三、〇〇	五、一三	四、一四	〇、〇七	七、一三	六、一七
	一八、五五	五八、二七	二六、一三		一六、三二	五八、二七	二五、四二	〇、四七	五、二四	四、一九
	六〇、三六	二四、五六	五、一三		六〇、〇〇	二五、四二	五、一三	〇、〇七	四、一九	四、三
	二一、〇九	五五、一三	一七、一三		二三、〇〇	三三、九四	九五、三一	〇、〇七	七、一三	六、一七
	一八、五五	五八、二七	二六、一三		一六、三二	五八、二七	二五、四二	〇、四七	五、二四	四、一九
	六〇、三六	二四、五六	五、一三		六〇、〇〇	二五、四二	五、一三	〇、〇七	四、一九	四、三
	二一、〇九	五五、一三	一七、一三		二三、〇〇	三三、九四	九五、三一	〇、〇七	七、一三	六、一七

右の四表に於て身長体重共に超過の大勢を見るに胸圍に於ては極めて優位にあるは快とするに足れり、十一歳の男子の身長平均六分の不足と、十歳の体重男女共に劣れるは何が故か。他の一般が超過を示せばこそ奇異にも感せられる。蓋し十歳並に十一歳は大正四五、年の歐洲戰亂時代の出生に當る。更に是れを長野縣同年兒童に比べると、身長体重共に遙に劣り、胸圍のみは上位を示してゐる。由來本縣は山岳國にして空氣清澄、生活狀態の餘祐、体育の尊重等の総合されたるもの因を爲すか果を爲すか常に全國平均を超過してゐる。本村兒童が同縣内のそれに劣る点あるは留意を要する事である。

其他身体の狀を見るに發育甲乙共に多くして丙の少なきは極めて好成績であるを示すのである。大畧に於て体重を身長にて割りたる商が全國同年の平均指數に相當する者は乙、該年齡より一年上の年齡の指數以上至當とするも甲の極めて多く丙の如き更に一人をさへ認めず。脊柱の彎曲、トラホーム患者の少き、何れも佳良にして、喜ぶべき現象なるも鱗齒と近視眼の多きは遺憾とする点である。鱗齒は口腔衛生の勸説を要する。試みに一學級四五十名の兒童中齒を磨く者を檢ぶるに僅々二三名に過ぎぬに驚く。營養食の研究盛んなる今日、消化器たる齒の衛生を疎かにするは、鳥の一翼を失ひて舞にんことを焦せるにも似て居る。近視も見逃すべからざる大事である。暗い光線、讀み物の活字の小さきなどの影響も少なからぬものがあると思ふ。

營養を示す時は甲と見れば大差はない。營養は醫師の肉眼上の鑑別なれば其の標準の立場によりて多少相違あるものと見るを更に以上なるものがあるかを調査する事は、より深き意義あることである。

即ち本校十ケ年延人員、六千人の兒童の平均を調べ増加の數を圖表すれば次の通りである。

（五）本校十ケ年平均（大正五年ヨリ大正十四年ニ至ル）

（男子）

身長	本校十ケ年平均	一ケ年増加分	全國廿一ケ年平均一ケ年増加分	本校十ケ年平均	一ケ年増加分	全國平均一ケ年増加分	本校十ケ年平均	一ケ年増加分	全國平均一ケ年増加分
年齡									
七	三、五二			四、五五五			一、八四		
八	三、六六	一、四	一、六	五、一三七	〇、五八二	〇、五九	一、九八	〇、一四	〇、一六
九	三、八三	一、七	一、五	五、六六八	〇、五三一	〇、五九	二、一二	〇、一四	〇、一六
一〇	四、〇一	一、四	一、五	六、一四三	〇、四七五	〇、五九	二、三〇	〇、一八	〇、一六
一一	四、一六	一、五	一、五	六、六一八	〇、五三	〇、五九	二、四八	〇、一八	〇、一六
一二	四、三一	一、五	一、五	七、一七四	〇、五五六	〇、五九	二、六六	〇、一八	〇、一六
一三	四、四九	一、八	一、五	七、七三〇	〇、五五六	〇、五九	二、八四	〇、一八	〇、一六
一四	四、六五	一、六	一、五	八、三〇四	〇、五七四	〇、五九	三、〇二二	〇、一八	〇、一六

（女子）

身長	本校十ケ年平均	一ケ年増加分	全國廿一ケ年平均一ケ年増加分	本校十ケ年平均	一ケ年増加分	全國平均一ケ年増加分	本校十ケ年平均	一ケ年増加分	全國平均一ケ年増加分
年齡									
七	三、四七			四、五五五			一、七一		
八	三、六六	一、九	一、六	五、一三七	〇、五八二	〇、五九	一、九八	〇、一四	〇、一六
九	三、八三	一、七	一、五	五、六六八	〇、五三一	〇、五九	二、一二	〇、一四	〇、一六
一〇	四、〇一	一、四	一、五	六、一四三	〇、四七五	〇、五九	二、三〇	〇、一八	〇、一六
一一	四、一六	一、五	一、五	六、六一八	〇、五三	〇、五九	二、四八	〇、一八	〇、一六
一二	四、三一	一、五	一、五	七、一七四	〇、五五六	〇、五九	二、六六	〇、一八	〇、一六
一三	四、四九	一、八	一、五	七、七三〇	〇、五五六	〇、五九	二、八四	〇、一八	〇、一六
一四	四、六五	一、六	一、五	八、三〇四	〇、五七四	〇、五九	三、〇二二	〇、一八	〇、一六

△ハ全國平均ヨリ劣ルモノヲ示ス

右表に於て見るに、男子は平均一ケ年一寸五分の身長と六百目の体重を増し胸圍に七分の大いさを加へつゝある事になる。十四歳に於て、一躍他の年齡の比率を摩するは兒童期より當に青年期に至る著しい表徴である。斯くして精神的にも之れに伴ふ變化を來すことなれば、教育の任にある者は勿論父兄たる者は閑却すべからざる問題である。

女子に於ては身長の延び方少なき十歳十二歳が共に胸圍の増加も少く、体重のみは男子の波狀を示すに反し最も順調に其の加率の狀を見るも異とするに足るに、更に胸圍のみは既に十三歳にして飛躍的の増加を見るは、男子に先んづる性の一班を覗ふに足らんか。

更に之を我帝國二十一ケ年の兒童平均に比するに、体重身長共に劣る男子が、胸圍のみ廣きを見るは極めて奇異なるもの、換言すれば身長の短い目方の輕い横太りの狀態である。然しそれは數を離れて通俗に想像する程變異なもので無いにせよ。均齊の發育に非ざるは言を待たぬ。其の原因や如何。土地か人か？幼時に於ける重みを負はせる勞働の程度。營養等に研究の餘地の存する所である。

女子は体重に不足ある外多く優位にある。殊に男子と比するに於て幾段の宜しきを見るは、其の在籍兒童が同年の男子の數に常に超過しつゝあるの点と相合することに依つて。連關する何物かをつかめるが如くほのかに微笑を禁じ得ないものがある。

以上は本校兒童身体の狀況の大略である。圖表は指針を示すに過ぎない。之れより得たるものによつて直接兒童の敎養に腐心することが第一義である。大方諸賢の御參考に資する次第である。

（文責在筆者）

金澤だより

高工　小松　清

北の國にも春は漸く訪れて來ました。今日は珍らしく暖い日でした。一週間と云ふ苦しい忙しい授業を終つた私達にとつて樂しい日曜が來たのです。故郷を離れて僅かに十余日——けれども相變らず故郷の事が偲ばれてなりません。親しい友達、懷しい父母——さうした慕はしい姿が面前に思ひ浮べられます。そして我知らず呼び掛け樣として悲しい幻の影を追ふのでした。黃昏の淡い影が靜かに四邊を罩めて空の星か一しほその輝を增す時、一增沈痛な懷鄕の念に驅られるのであります

私が此處に來たファーストインプレッションは金澤は感じのいゝ所と云ふことでした、天候の變化の多いこと、言葉の解らないこと、美しい女の居ること（これは冗談ですが）さうした總てが私の第一印象でした。言葉の解らないには驚きました。早口でお國言葉で半分程も聞き取れません この頃は學校にも馴れて來ましたので割合に愉快です。しかし何處か慌しいせゝこましした氣分の流れてゐるのを感じない譯には行きません。敎科書は圖法の英語の原書より外ありません。一年間の放從な生活が思ひ出されます

明日は日曜です、まだよく知らない金澤の郊外を私は彷徨ひたいと思つてゐます。

（一四、四、二八）

農村の雜感

市村克人

皆さん達の農村問題に對する文章を拜見し私も此の問題につき少しく所感を述べ批評をあふぐ。

農村は行詰て居ると云ふ說と近來の流行語であると云ふ說が學者達の爭の種となり盛に文章に於て言語に於て何れも最らしい理屈を並べて居る然し何れが事實かは知れないけれど未だに解快はつかない。眞實行結て居るか或は行詰て居ないか知れないけれどあまり融和の狀態でないことは爭はれない事實である。然し此の問題は學者達にお祭的に騷ぎ立てゝ玩弄さるべきものでない。私達農民がしんみりと考ふべき問題である。農村の疲弊先づ私達は此の原因を知らなければならない。農村の疲弊と云ふも皆同じ原因であるとは云へない。農業とは大略なる職業上の分類である。現今の所土地を使用して生產に從事する職業を農としてある。然し業態に於ては甚だ趣を異にする。田を主とする者蠶業を主とし田を副業として農業を營む者或は林業果樹蔬菜等を主とする者皆農と云ふ完詞が附せられ居るのである土地を使用すると云ふことには變りはないが生產物に於ては甚だ異なりたるものと云はねばならぬ。從つて此等のものが利益損失を同ふすべきものでない。そこで各自農民が如何なる原因にあるかを知らねばならぬ。斯に附加へて置きたいことは國家農村と云ふも一つ農村の集合である、吾々が國家農村の經濟狀態を研究する前提として自己農村の經濟狀態を研究するが必要であつて此をぬきにして國家農村問題を論ずるは否論であると思ひ此の意味に於て述ぶることゝする。吾が長野縣は大体に於て蠶業を主とし稻作を副業として居る農と見るもたいした間違はあるまい。そこで蠶業を主とする吾が農村疲弊は如何なるものに原因するかと云ふことを知らなければならない、思ふに桑園の荒廢である、萎縮病である、此の萎縮病が吾が長野縣の農村の經濟狀態に一大惡影響を及して居ると云ふも間違はあるまい。此に於て私達は桑園の改良蠶兒飼育法、稻作栽培法、肥料施用法等をお互に研究して現今の逆境を防ぐが疲弊せる農村を改得せしむるが第一步ではあるまいか。稻田を主とする農村の狀態は良く知らない。然し大体より見るに土地が狹く凸凹であるから從て大規模に稻を作ることが出來なく機械を使用しない結果人夫を多く用す人と云ふものゝ價値を重せられる今日に於ては甚だ不利のことである、然し機械を使用しないと云ふことが總ての原因とは云へない、一定面積より比較する時は外國より收穫量が遙に多い此れ小規模の農業の得點である、島國は島國的の機械の改良を行ひ猶農民が土壤及肥料の性質等を研究して眞に土地を愛したなら未だ相當に利益の平均此等は生產上に依る原因である、然し此を絕對的のものとすることは出來ない、時代と云ふことは出來ない。趨勢上一般人間があらゆる慾望の高潮に達したことである、隨つて副產物として浮薄な人達が製造されて來ることが又一つの原因となるのである、此等はブルジュア階級及敎育者が其の責を負はなければならない更にいま一つ原因は農民が一般から尊重されない結果農民自身が自己の職業の尊さを知らないことである、凡て人類社會に農を離れて一日も生きて行かるべきものではないのである、工業を營む原料は何にあるか商品として販賣するものはなんであるか、皆農民の生產物以外に一つもないと云ふも過言ではなるまい、英國は商工業を以て國勢ひ最らかつた。妻帶されはヅヤがなくなつて前からヅベラな例の四君のことであるから定めし煙草ばかり燻らしてゐるであらうと思ひの外、事實は反對でセッセと領收書と會計簿を突合せたり算盤を持つたりしてゐる。外の連中日莫なばちくり「どうして貰はそんなに精出すんだ」と言へば「早く歸りたいのさ」ッて無くて七くせとか、役場で開く樣々の會の特色か御紹介する。

大字總代會。流石は大字の人望を一身に集めて立つた人達だけあつて溫厚篤實、何等非点の打ち樣がない。だが一ツ如何に申せば九時開會の定刻が十時半に開會になれば關の山だ。

軍人會役員會。規律嚴肅な軍隊生活をして來た在鄕軍人の選り出しではあるがどうした事か出席人員が誠に少ない。何時の會議も半數を超ゆることは少ないとか、流會になる樣では心細い。

消防組役員會。寒傑揃ひの會合では集まつたが最後容易に立除がない、會議は午後四時頃濟んでも解散は九時か十時頃、其の間にあほる酒の量は一人當一斗とにうその樣な話。

青年會役員會。會議は大概は晚であるがこれも容易に退散しない。不良分子が二三あつてみんな歸つても申し合はせた樣に十二時過迄殘つてゐる。明日の朝になつて見れば戶棚や押込に入れておく、お莫予や御馳走は空つぽになつてゐる。役場のおさめさん「若い者だもの無理はない」不良の二三これを聞いて「ギヤフン」

村會。何人のお世話にもならない。色々云ふよりも議員にしやう。採長補短　以つて村治の發展に心掛けて貰ひたい。

●國賀組合の宮澤さん。眞面目な顏をして何を云ふかと思へば「近頃晚婚者が多くなつて來たがこれは要するに相當の機會がないからだと思ふ。自分はこれから結婚媒介をして社會事業に幾分盡したい」と。希望者は御申込あれ。

カメラ

●何はともあれお目出度いことは青年團の幹部で樋口、武田、佐藤、竹下の四君が揃ひも揃つて四月中に妻君を迎へたことだ。これ迄妻君のあつたものは幹事中これ迄妻君のあつたものは幹事中

小學校今年度の學年學科擔任者

尋一（東）若林　理雄
（西）小出きくの

尋二（東）土屋　信
（西）廣田　千枝

尋三（東）青木　信一
（西）芦田　安吉

尋四（南）小池　茂
（北）峯村　美

尋五（東）幸雄
（西）綱島　進午
龍野

尋六（東）正司
（西）石森　郁太
關

高一　田中　信義

高二　佐藤　知

農業　池田　基寬

裁縫　小島　正

●小學校の春季遠足

子供の學校生活で最も樂しい事の一に數へられる遠足會は去る四月廿八日に行はれました。この日は降りもせず照りもせぬ遠足には最も相應しい日でした。以下學年を追つて遠足先を書きませう。

尋一は八木澤のお天神樣と別所へ行きました始めて遠足する一年生は大喜びの事だつたでせう。殊に電車や自動車を數多見て樂しみだつたでせうが引率の先生は轢かれはせぬかと縣道を上る時は大心配だつた事でせう。尋二三は泉田の大日堂へ尋四五は西內の鹿敎湯へ行きました。尋六は依田村須川の山の神樣へ詣で丸子へ行きました。

高一二は佐久の布引へ行き小諸の懷古園の咲き始めの櫻花を觀往きは徒歩でしたが還りは汽車でした。遠足や旅行に病人の出る事は一番困る事ですが病人もなくて結講でした。

（大正十三年八月二日 第三種郵便物認可）　大正十四年七月一日　西塩田時報　第二十號　（一）

西塩田時報

農村經營に於ける 一考察

黒坂勝

那須皓博士は何かの書物に「農村運動の一同生産への道を曲りなりにも辿りつゝ今日將來は決して急進的なものではあり得ない併し一度動き出した時には何物もこの遲々たるさり乍ら原始的力強さを有する運動を阻止することは能きないであらう」と云ふ意味のことを言つてゐる。

實に田舍の特色は徐々に―しかも確實なる歩みの中にあり、國民性の堅實味も又其處に窺はれる。資本主義文明が如何に農村を脅かさうと、赤化思想が如何に其の渦巻を見せやうと、其の爲に田舍の總てを風靡することは容易であり得ない。其處に土に根ざしたもの、強みがある。

機械萬能、工業萬歳の現代に於て農村は文字通り何等の誇張もなく疲弊してゐる。けれどもそれは決して自滅すべきものではない。永遠ある土によつて自らの事業を自ら營んでゐるからである。

兎に角農村は疲れてゐる。農村問題の論議されて止まないのは當然である。けれども農村の歩みは決して突進的に理想へは進まない。

私は今こゝ數年間の農村の變遷を考へて見る。組織の上に於て、思想の上に於て、あらゆる諸施設の上に於て、それは確かに徐々ではあつたが進歩して來てゐることを見逃がす譯にはゆかない。資本主義經濟が農村にも魔を及ぼして自給自足から分業生産へ―（本質上眞の分業ではあり得ないが）個人本位、家庭本位の生産から組合經營、共同生産へ―と進んでゐるからである。

農村經營に於ける 一考察

黒坂勝

第二十號

毎月一回一日發行
定價金三錢
廣告料一行金十錢

大正十四年六月廿五日印刷納本
大正十四年七月一日發行
編輯印刷兼發行人　長野縣小縣郡西塩田村大字
　樋口秀實
印刷所　山浦活版所
發行所　全縣上田市六二六
　全縣小縣郡西塩田村
　西塩田青年團

農村經營に於ける一考察　黒坂勝
村史の編纂進捗
編輯後記

蟲の驅除豫防、其の他様々の点に於ての効果は枚擧に遑ない程である。

けれども現在行はれてゐる程度の組合の事業は疲れたる農村を復活すべく余りに大なる力とはなり得ない。共同經營の眞の効果を治めんとするには各人がより共營共存の思想を深めて農業生産を合理的に導かなくてはならないと思ふ。

個人經營が、廣汎なる土地の上に立つ農業に於て如何に無駄の勞力を費して居るかは想像するに難くない。そして農村の疲弊が勞働過乘と生産不足に起因することは何人も否定しないであらう。果して然らば無駄の勞力を有効へ導き、生産の增加を計ることは現在の農村を光明に浴せしむる有力なる方法ではないだらうか！かゝる意味に於て私は組合組織の生産に進むことを高調したい。それにはお互に目前の利益にばかり心を奪はれてゐては駄目だ。公利公益の爲に盡すことが又自分への忠實な務めであり利益であることを忘れてはならぬと思ふ。要するに各自がその人格を尊重し合つて組合の事業にいそしむならばその成功は疑ひない。ある理想的農業經營の調査によると二反歩の田を耕すのに十九人あれば可能であると云ふ然るに現在の狀態に於ける稻作は三十餘人の勞力を要すると云ふではないか。然らば經營の如何は一反歩の耕作に於て十餘人の勞力を少なくすることが出來得る譯である。

最小の勞力を以つて最大の生産を得ることは總ての生産の理想でなければならない。

各農家の有する耕地は各々離れ〳〵に轉在してゐる。一部落の最北に居て最南に耕地を有するもの、甚しきは他村地籍内に迄出作してゐるものが仲々少なくない。これ等は永い年月の中には可成多くの無駄な時間を費してゐる譯だ。即ち實際の勞働時間は少なくて往復に多くの時間を費してゐる。この時間を經濟的に使つて行くことだけでも大きな利益となるのではあるまいか。

これを組合經濟にするならば、組合員の耕作地は全部組合に集めて終ふのである。そして事業計劃を立て、組合員がより有利なる經濟的の場所に働く様にするのだ。土地を提供したものには一定の地代を支拂ひ、肥料は組合の購買部に於て購入し合理的に施肥する様にする。そしてそこから擧る生産物は必要の經費を控除して勞力歩合によつて按分配當をする。かゝる組織の下に於ては各人が自己の利益の爲に全力を盡すことは勿論、隣人の爲にも助力を惜まないであらう。

村史の編纂進捗

本村、村史編纂に關しては、前號報導の如く小山編纂主任の手に依り、專ら資料の整理中であるが、曩に各部落より提出したる資料中、不明の点三百餘項に渉り、部落の資料蒐集委員に依りて再調査を續行すると同時に、宮澤（久）佐藤の兩編纂委員、專ら、重要資料に就き調査中である。

猶ほ小山編纂主任は實地實物調査と編纂上に關する打合せの必要上、去る六月十日より四日間、本村に滯在、遺物、遺跡、城趾古文書等に付き編纂委員と共に實査されたり。

因に、女神山城趾、踏査の際、大字野倉穴平附近に於て、旌塚三個の新發見があつた。右は當日の大收獲にして、女神城趾に有力なる意義を與へるものであると云ふ。

編輯後記

兎まれ農業經營はかくして組合共營の合理的へと進まねばならぬ。吾々は大きな期待を以つて來るべき其の日の前に心の準備をして置くことが肝要だ。組合員がもつと〳〵共同心を培つて團体的訓練を積んだ上でなければ其の成功は期し得ない。徒らに制度ばかりが殘つて靈のない中世紀に於ける宗教の如くであつてはならない。一歩進んだ施設の出來た時にはそれに副ふべく思想が出來て居らなければいけない。

西塩田の三十餘の農事組合養蠶組合が（其の前に農事組合養蠶組合の提携乃至合同が出來れば結構であるが）かゝる境地に達した時村全体は豊かな嬉びの生活に息づくであらう。

元來有機的生産を司る農業勞働は創造的活動を表現するものとして單なる手段ではなく直ちに生活目的の一部となり得るものである。吾々農民があらゆる苦闘を續けつゝも尚農業を讃美して心強く勞作に堪へて行くものは恁うした根據を有するからである。トルストイが農業に心を引かれたのも武者小路氏が新らしき村の建設を志したのも元來の人間生活の目的をそこに見出したからである。

土に根ざした生活――それは永遠に讃美されなくてはいけない。文明がその過失を新しく作つた都會万能の弊は纔調の現象としてやがて土に還つて行くべきである。あらゆる輕率なる文明が引き戻しても引もどしても尚且つ本然の姿から遠ざかつて行かうとしてゐる時、生活目的の上に立つて自らの仕事を自ら經營して行くことは何んと云ふ力強いことであらう。

政治的、社會的に農村の位置を高めることは目下の急務であるがそれと共に農業經營を合理化することは何時の時代になつても必要のことである。

デニマルクの農園―廣々と開けた耕地の彼方此方には綠滴る森が轉在する、道路が開けて人々は耕作にいそしんでゐる、さうした光景を想像して世界の最も進歩してゐると云はれる農業國を想ふ時、組合農業經營の上に立て吾々の環境にも豊かな農園と生活の悦樂とを漲らしたいものである。了

◈村會開會

六月三月午前九時より役場内に村會を開會した。出席議員十一名、欠三名にして左記の件を議決した

記

一、寄附採納の件
金貳百四拾圓也　大字山田惣代より大字山田事務所敷地買入代金の内へ寄附

一、基本財産繰入の件
金參拾七圓也　土地買入代金に充當

一、本年度歳入出追加豫算の件
既定豫算額に對し五百四拾七圓の追加
内譯すれば財産費貳百七拾七圓、村誌編纂費貳百七拾圓

六月十日の村會に於ては全員出席左記の件を議決した

一、電話架設費寄附の件
今般本村役場へ別所郵便局特設電話區域

今月の納税

宅地租第一期分
縣稅增徴稅雜種稅前半期分
村稅戸數割半額
納稅日　七月二十五日

代理業
一金八圓　一人平均四圓
一等　一人　納額　四圓貳拾錢
二等　仝　仝　參圓八拾錢

請負業
一金四拾圓　一人平均五圓
一等　四人　各人の納額五圓五拾錢
二等　仝　仝　四圓五拾錢

旅人宿業
一金拾四圓　一人平均七圓
一等　一人　納額　八圓
二等　仝　仝　六圓

職工業
一金八拾五圓　一人平均貳圓五拾錢
一等　六人　各人納額參圓四拾錢
二等　八　仝　貳圓八拾錢
三等　八　仝　貳圓五拾錢
四等　六　仝　貳圓拾錢
五等　六　仝　壹圓六拾錢

一、全年度縣稅雜稅稅納額議決の件

料理店業　村位等級三等
一金拾八圓　一人平均九圓
賦課人員二人平均額賦課

飲食店業
一金貳拾圓　一人平均四圓
一等　一人　各人納額六圓八拾錢
二等　二　仝　四圓四拾錢
三等　二　仝　貳圓貳拾錢

理髪業
一金拾四圓　一人平均七圓
賦課人員二人平均額賦課

湯屋業
一金五圓五拾錢　一人平均五圓五十錢
賦課人員一人平均額賦課　以上

◆所得調査委員選舉

上田税務署所轄内所得調査委員及補欠員の選舉は六月二十日執行した、本村内有權者は十四名にして内投票せるもの十三名、開票の結果は所得調査委員十三票遠藤用治郎仝補欠員十三票關恒一郎であつた。二十二日の選舉會に於て左記の通り當選の旨通知があつた。

記

所得調査委員	山崎幸助	
仝	小井土周造	
仝	兒玉衛一	
仝	伴雄三郎	
仝	柴崎新一	
仝	田中忠兵衛	
仝	遠藤用治郎	
仝補欠員	春日六郎	
仝	齋藤寛吾	
仝	矢島里治	
仝	關恒一郎	
仝	青木政治	
仝	小泉亮三	
仝	吉池幹	

以上

信用組合より

◎六月七日監査會開會
當日監事佐藤清五郎黒坂重一郎池田文治齋藤市太郎小林丈助（出席順）外欠席午前八時より事務所に集合各帳簿に渉り詳細に監査し其の正確なるを認め午後五時終了し五月末貸借對照表作成翌八日縣知事へ報告せり。

◎箱田專務理事全國産業組合大會出席
去る五月十一日出發山口縣山口市に開會の全國産業組合大會十五、十六、十七日間の三日間に渉り出席せり歸路は北陸に廻り諸々視察をなし歸れり

◎六月十二日組合使丁欠員の處新町役員の勞により西村橘平氏就職せり。

◎六月二十日工事完成
四月以來工事中なりし組合事務室並に倉庫増築は全く工事成り漸やく事務執行上何かと都合よくなりました。一歩〳〵理想に近く發展する事の出來るは誠に御同慶の至りです

◎食糧品特別取扱
白米玄米は引續き取扱つて居りますが今回六月より押麥の取扱も始めました、尚家畜飼料の偕からや麩等の取扱もいたしてゐます御承知の上御利用下さい。

◎文化服の取扱
現代に相應しい最も經濟的なそして便利な文化服が參りました。一度皆樣御使用下さい。
本組合にても色々と農業者の被服の改善に留意し今回此處に取扱を始めた次第です。
尚勞働服、作業服、尚又小學生服の取扱ひもいたして居ります是非御使用下さい。

◎夏肥の御注文を願ます
生糸の高値と米價の良い爲益々肥料暴騰し各種肥料皆高値出現せり。本組合にては錬メ粕、魚粕、硫安等品質のよき價の安き物あり至急御注文下さい。

◉汗々流して貯金に入れて
貯金出す時うや汗に問へ
◉無駄に使ふなわかの金さ
貯金しませう信用組合へ

西墟田信用購買組合狀況

組合員數　六〇九人　五月末現在
出資金　參五〇七〇円〇〇〇
拂込濟出資金　壹四六七壹、五貳〇
貯金高　九九壹參〇、貳五六
貸付金　六參九七九、六〇〇
預ケ金　參貳九五九、參壹〇
借入金　參四貳〇、〇〇〇
購買品仕入高　貳七七八五、壹五〇
購買品賣却高　參五九七八、貳五五
延納貸高　貳七六〇、六九〇

犬に鑑札

縣稅賦課取締上畜犬に對しても總て鑑札を附せしむることに決定し、今般規定が公布されました。其の實施については左記により取扱を致すことになりましたから畜犬所有者は御承知置き下さい。

記

一、畜犬には畜犬取締規則に依り届出を爲すと共に犬鑑札の交附を受け其の頸部に附着せしむること

一、犬鑑札は納税人の便宜上各町村長より交付の事

近日中に鑑札の交附を致しますから豫め頸輪の用意を願ひます

△會と人▽

△齋藤村長　六月四日、八日の兩日小縣郡町村長會出席の爲郡役所へ出張、六月十一日西墟田郵便局長外二名と共に電話架設の件に關し名古屋遞信局へ出張十四日歸村した。

△協議會　六月九日墟田五ヶ村會議員學務員及村長校長は午後一時より中墟田小學校に協議會を開き、五ヶ村聯合補習學校今後の方針につき協議をした。

△新井技師來村　縣農會技師新井健作氏は本村原苗圃並に鑑況を視察の爲め來村し本村に於ける原苗圃及鑑況視察し同日歸長す。

△梅谷知事鑑況視察　去る六月四日梅谷縣知事は鑑況視察の爲め來村し宮本養蠶組合及庚申養蠶組合を視察した。

△國勢調査事務主任會　六月二十日荒井書記は標記主任會議のため小縣郡役所出席

◆役場へ電話が……

川西に電話のない村が……と何時も第一番に指を折られる中にあつた本村も今度と云ふ今度は先ず役場へ電話が架設されることになつた。

西墟田郵便局へ電話架設の件については從來當事者の間に色々と計劃され通話事務開始の申請を其の筋へ出願したこともあつたが色々の支障があつて未だ思ふ樣な運びに到らないのは遺憾である。

今度別所局の區域外加入として役場へ架設することになつたのは兎に角本村の發展上將來の爲に嬉ばしい、これが導火線となつて郵便局へも購買組合へも其の他有要の場所へ架設する日も遠くはあるまい。

六月七日村會議員及大字惣代の聯合協議會を開いて萬場一致右の件を可決し、越へて十日の村會に別項の通り特設電話加入の件及電話架設費寄附の件を議決した。

因に經費は架設費千二百圓、維持費百圓内外の豫算にて本年中には竣工する見込であると。

小學だより

五月五日　學校役場及學事關係職員の意志疎通のため懇親會を開きました。

五月九日　塔の原花見。花より團子と言ふされど團子あつては花を專らにすることが出來ない。

五月十日　天皇陛下御結婚滿廿五週年の奉祝式擧行。

五月十四日　本村出身小池釣夫氏より椰子の實二個を贈られた。一個は植ゑることにし他の一個は切つて白い果肉を大勢の職員と生徒とで味はつた。

五月廿三日　乙組職員會、土屋文明氏の藝術に就いての所感講演あり。

五月廿七日　海軍紀念日。例年の通り鐵城登山を爲す筈であつたが教育部會の都合で紀念講話に變更した。信濃教育會上田小縣部會の總集會あり。東北師國大學教授文學博士石原謙氏の古代希臘の思想と教育と題する講演あり。

五月廿六日　六川校長池田助教諭引率の下に女子補習生四十二名、長野農事試驗場を視察した。

五月卅日　野球シーズンになつた。職員野球團は浦里校へ遠征し、同校職員團と二十四對零と言ふ開闢以來多く見ないスコーアで大勝した。

六月一日　運動部東墟田校へ遠征、今年度の處女試合、野球は十九對一の大勝、庭球は五組試合中三組の勝。

因に庭球部は土屋小池の二氏專ら指導の任に當り。野球は網島芦田の新進を加へて田中青木の諸氏コーチに餘念ない。

六月一日　午後職員野球團中墟田小學校へ遠征、我先攻にて五回戰共に得点なく頗る緊張した仕合振りを見せた。本年度は青年團の野球部と好取組として、ファンは鶴首して期待してゐる。

六月八日　中墟田小學校運動部來校、庭球部は試合三組にして全勝、野球部は五對零の敗、練れ方に於て大いに一日の長がある。

六月九日　職員有志は飯山方面へ視察旅行を行つた。百聞は一見にしかずと言ふ古い諺は常に新しい意味を加へてゐる。

六月十日　養蠶の繁忙時となつたので、三週間農事休業とした。

△建物建築稅

本年四月一日より表記の新稅が縣稅課目課率中に加へられました本年四月一日以後新築增築及び改築したる時は其所有者は直に村役場に御屆を願ひます。

◆建物新築稅

土藏造　一坪年稅五〇錢
木　造　一坪仝　二〇錢

地下室又は二階以上は二坪を以て一坪となす

◆免稅点

一、三ヶ年以內の災害復舊
二、十五坪未滿の木造住宅
三、假小屋、堆肥舍、門、塀柵其他五坪未滿の建物
四、移轉再築
五、農業倉庫法に依り設けたる倉庫

△稻品種分布調査

今般縣農會に於ては稻品種分布の狀況を調査し今後の稻作上の參考に資すべく夫々其の歩を進め本村に於ても依賴に依り調査することになり農事組合長其の調査員として活動することになつた因に七月二十五日迄には分布狀況(本村丈)が正確に知れる

◆蔬菜病虫害驅除

天候不順の然らしむる處か本年は一般蔬菜に病虫が非常に發生し農家として欠くべからざる蔬菜類が收獲覺束かないので一般の心痛は一方でない殊に手塚新町前山地方における蚜虫の發生は夥しいものである。

村農會に於ては是等害虫の驅除を勵行すべく各農事組合に通牒を發し組合一齊に驅除すべく力めてゐる藥品は除虫菊加用ボルドー液又は除虫菊石鹼水である

△手塚支部より

◎春蠶も陽氣の不順にもかゝはらず、大した異蠶も出さず、大体に上結果を以つて終結したのは、何よりと言はねばならぬ。是も偏へに近時養蠶家の熱心と技術の進歩による結果である、それに繭價も思つたよりよくてなにしろ仕合せなことである、それにしても平均掃立枚數が四枚强にしか當らないのだから困つた事である。

◎夏蠶の共同催靑ももう遣つてゐる、養蠶家も實に並大抵の辛苦ではない。

◎田植。田植も六月十七八日頃から初まつた。二十八九日頃が眞盛り。

△西前山支部通信

火事のこと。

五月二十六日保科彦次郎さんの家が燒けた彦次郎さんも婿に來たばかりで隨分驚いた事だらうと思ふ。

一ばん氣の毒なのは家の叔母さんだ。

一粒種の善吾さんが亡くなつたばかり今度婿さんを貰つてやれよかつたと思つたら又今度火事。なんて氣の毒な叔母さんだらう

火事の事を云へば水の事を考へる。

あの近所は堰があるといふ名ばかりだ。いつでも川は眞白に乾いて居る。

なんとかしなければならないと思ふ。

△十人支部通信

共同新聞從覽所大正十三年度精算報告書

收入の部

一金貳拾壹圓〇八錢也
　賛成者出資(二十四人)
一金拾八圓拾四錢也
　大正十三年度新聞賣却代
一金貳圓貳拾七錢五厘也
　前年度繰越金

計金四拾壹圓四拾九錢五厘也

支出の部

一金參拾四圓也　新聞代(三種)
一金五拾錢也　從覽所二ケ所謝禮

計金參拾四圓五拾錢也

差引殘金六圓九拾九錢五厘　後期繰越金

右ノ通リ報告候也

大正十四年四月卅日　取扱者　小林　勝

●春蠶賣却　青年會經營桑園の春蠶を五月卅日入札法により賣却、案外高値に賣れて一同大喜び

●銀婚式紀念植樹　銀婚式紀念として氏子惣代、初見委員、によつて大字皇子社境內にヘンバク三百本植樹した

△婦人會處女會幹部協議會

五月十三日小縣郡役所にて郡內婦人會及處女會幹部協議會が開催せられた、本村より出席せられた方は、荒井こま氏　樋口よし氏　廣田ちゑ子先生　の三名でありました協議大要左の通り

一、婦人會處女會は理想としては分離獨立するを可とするも本郡の現狀に鑑み各町村の事情により處女會を婦人會中に抱擁するか若しくは婦人會中に處女部を設置するを適當し認む

二、處女會員年齡は小學校卒業後二十五才の未婚者の範圍を理想とすれども本郡の現狀としては三十才迄の未婚者を範圍とするを適當と認む。

三、設置區域は町村單位とすること。

四、幹部組織は會員中より組織するを適當と認むる說が多數。

五、財政の問題は町村府縣國等の當局者は婦人團体の財政に向つて一層考慮を加へられたきこと。

六、事業は將來の事業以外に時代の趨勢に鑑み更に体育衛生に關する施設をなす必要あり。

七、各町村婦人團体と連絡の必要を認むも此の際としては單に殊種事業の合同より始むるを可とす。

尙これ等の具体的方法に必要なる委員は郡長に一任する事に決し解散。

●奇特な靑年

逢い此の頃藤之木地籍にかゝつてゐる石橋がふとしたはずみで二三寸程次目が開き自轉車や荷車の通行が不安であつた。それをみた竹內萬之助君外二名はみの危險を取り去るべく直ちに修理し通行人に安全を與へた。

△村農會採種圃田植

西墟田村農會水稻採種圃田植は受托組合下堰口農事組合の手に依つて施行された。當日は村農會より齋藤會長並に技術員出張組合よりは各家とも御夫婦御揃へにて出掛け午後五時植終て一同紀念撮影をし、結實良好なる樣簡單に祝宴を擧げた。

△工業試驗春繭購入

松本工業試驗場に於ては今般試驗繭を購入致すべく技師二名宮本養蠶組合へ派遣せしめ收繭調査の上四百貫購入し去る六月廿六七日兩日に亘り夫々輸送した尙ほ試驗用として中奥支四號交配五ッ口堰口養蠶組合より購入し同日輸送した因に堰口養蠶組合より選別されたものは左の五氏である

齋藤重太郎　箱田茂作　保科由太郎
小山吉郎右工門　樋口寄位

△倉庫燻蒸

前山銀行年中行事の一つである米穀倉庫の燻蒸は來る七月五日午後村農會技術員立合にて施行される事になつた、藥品は二硫化炭素で室內を密閉して燻蒸するのであるが漏洩する恐無きを保し難たいので周圍に對し火氣に注意する樣取計らつてゐる、尙一般の參觀する樣希望してゐる。

△心配無用か

桑園の荒廢に伴ふて桑苗の養成は夥たしく增加した殊に接木の臺木たる實生に於ては尙更の事で本村に於て播種されたものゝみでも一年四升四合で一合千本宛の生産あるものとしても十四千五百本で況んや一合で滿足に生育し六万本の生産あるものとすれば六拾萬本からになる斯くすると生産過剩で困りはしないかと今から心配してゐる

ラメカ

◇……◇　五月○○に二人の不良が直江津海岸へ旅行に出掛けた。歸つてから某旅館の女中へ宛て、左の樣な手紙を出したことが露見に及んだ。

「この頃御地に遊びました際は色々ありがとうございました。御隊様で愉快な旅行が出來たと誰も云ひます。あの晩戴いたバナヽの味のおいしかつたことは永久に忘れません。もつと深山下されば尙更忘れいなかつたかも知れません。折を見て信州へも海を見に來て下さい。若し生き赤らへてゐたら御案內致しかねませんかも知れません……」

旅窓漫錄

W I 生

◎たつた一臺の客車と貨車とを連結した飯山行の列車は、奥信濃の視察に杖を曳いた私達の一行を乘せて、恐ろしい左右振動を起しながら、ひたばしりに走つた。

◎薄濁りの水が緩やかに動く千曲の流れに添ふて進む車窓には、新らしさを誇るにも似た立ケ花橋や、時代めいた舟橋などが新緑の木蔭に隱見して無聊をかこつ旅客の心を慰めた。

◎飯山の驛に下りた私達は、驛前に並んだ自動車や、赤土の新道、新築されて行く家屋などに若がへつて行くかのやうな市街を直觀した。且て十餘年前此の地を踏んだことを思ひ出した。長々と續いた舟橋に太古の姿をした人達の渡つた事を思ひ出した。蓑簗（みのダシ）だれの暗い家並に奥信濃の氣分を味はつた事を思ひ出した。息づまるやうな其の日の墨つた空は、この地にふさわしいとも想つたことを思ひ出した。

◎眠つたかの様な街に鐵道は布かれた。始めて煙筒が此盆地に聳いた時、闇に煽く稻妻の如き強い光りと刺戟とを感じられた事だろう。馬車が自動車に代り藁屋根がトタン張りに光るばかりでは無い。

◎惠端禪師が主道庵主に參禪して得道の晩年郷里のこの地に濫觴たる草庵を結ぶ所謂正受庵は、街の西小高い山の中腹にある。彼の衣鉢を繼いだ白隱が弟子入の際三度迄も突き落された數尺の崖には往の葉茂つて。老樹の木影にあやめの花は咲く。

◎おふじさん實の小袖ぬがしやんせ、雪のはだにが見度うござんす」―白隱禪師が筆、富岳の畫である。僧俗共に蟬脫した彼れの人間らしい情味の溢然たるものがあつて、亦なく懷かし味を覺ゆる。同禪師の作なる庵主の木造、古劍の銘の外惠端が高弟宋覺。東嶺の墨蹟も見らる。

◎市街の東北千曲の岸邊、鬱蒼たる老樹の丘は古城趾である。天正中上杉家築いて川中島の押へとなしたもの。維新本多氏二万石の封地である。高社山を境とする所謂岳北の平は一望指呼の中に在る。小學校は眼下に並んで、黌板を下げた小供は寫生を終へて下り、理科を學ぶ女生は草花を捜して上る。効外教授にこよ無き環境を羨やしくも思ふ。

◎今宵の宿を野澤の湯に求むべき私達は谷街道に添ふて谷間を走る飯山鐵道を更に北して、上境驛に下車した。川とし言へば瀧つ瀦をなす驅さのみを見てゐる私共には、流るゝともなく流るゝ千曲の川の渡舟に少からぬ蝸氣なゆとりさを味はつた。

◎道は清い小川に添ふて爪先上りに登る。梅雨霽れの午後の陽は遠慮なしに照つて新調の帽子さへ隙間を透して、首から背も浴びられた。靜かに湯の香にひたる時其處には名譽もなく戀もなく亦金もない悠久なる自然の姿と溶け合つた空なる自己其物である。自分の姿その物の存在をさへ忘れてしまふ。そして其處には他の何物に依つても容易に得難い境致が体得される。無一物中も亦無盡藏である。時と物とに緊張し切つた現代の生活にはかゝる悠々たる氣分をこそも味ふべきだ。尺蠖は延びるために縮む。

◎清泉と熱湯とは到る處に湧く。其最も高温なる地獄谷の熱泉中には、野澤菜、路、蕨などゆだし、一服の間にゆだるも温泉獨特の情調である。女竹、木通（アケビ）も亦是に從して細工に用ゐてゐる。

◎村の北端參差たる欅、鬱蒼たる老杉の間に古社寺がある。廣大なる古寺には二重の塔さへも備へて。七堂伽藍に丹青の美を競ひし往時も偲ばれる。

溪間に雪を持つた毛無の山嶽に。重なる幾重の山脈を越ねて遙かに妙高の雄姿を望み、雪の黒姫戸隱の連山も眺めらるゝ

◎此の湯は地方の草鞋がけの湯治客を主としたものである。自炊場がある。設くべき遊び場の何物を持たなかつた。一年中の疲勞を洗ふ慰安場と限つたものだ。

鐵道は布け自動車さへ登るやうになつた近年は、避暑がてらの湯治客が遠く京濱地方から押し寄せて、盛夏の頃は空室無きに至るとか。冬はスキーの學生の宿舍となる。斯くてカツフエーが出來、玉突が設けられ、三弦の音さへ響いて、地方人が唯一の慰安場は次第に其の時と場所とを制限されて行く。

おたより

福澤龍登

永い御無沙汰致しました。いつも故郷の友人のことなど想ひ、且つ様子など御聞きして見様と思つゝ居乍ら御沙汰して居る自分が不思議の氣さへします。養蠶も眞盛りでせうが蠶の機嫌は如何でせうか？村の盛衰も之れに依ること甚大だと思ひます。あの辛苦してゐる農家の人々に幸あることを祈つてゐます。――後略（六月十五日）

村の傳說

（四）

弘法大師

昔々弘法大師が自ら永住しやうと思ふ地を見つけて精舍を建てやうと日本國中を巡り歩いた、そうして此殿城山の靈地であるのに目をつけて峯から峯谷から谷と隈なく探つた所が山谷が九十九谷すらなかつた「若し百谷あつたなら吾玆に永住せんものをと云ふて立ち去つたと云ふことである。

元木の地藏

前山村の澤山に稀有な大木があつた弘法大師が巡國のついでに之を觀て靈木だとして其の幹を切り自ら地藏尊の像を刻つたそして澤山の一峯で岩石平坦の場所を見たて、此處に安置した又其柳の末木で造つたのは藥師佛の像で今中野の堂に安置してあることを「元木の地藏」とよんでゐる元木の地藏は手塚堰口の藏六庵にもち下し、後に無量寺に安置した。

ちがひ石

殿城山の頂の西方なる佛殿の跡と云ふ處や北方の獨鈷山、弘法山には小さな十字形の石が澤山でる之をちがひ石と呼んでゐる一、宮本養蠶組合　組合長西澤茂一郎

農事視察

農事の改良は學理や實際ばかりでは出來ない、學理と實際と相和し自個の体驗と他人の体驗とを取入れ長短補足して初めて健實なる改良發達が出來たのである。その意味に於て學理を研究するは勿論自個の体驗を豐富ならしめ又他の實際を視察する必要もある本村農會に於ては村内各種の特殊な研究及實際に付て一般會員に紹介し其の狀況を視察せしめ農事改良の一助にしたいと力めている。今其の主なるものを示めすと次の様である。（七月視察に適當のものゝみ）。

一、宮本養蠶組合　組合長西澤茂一郎

視察すべき事項

一共同催春同乾繭室

二見本桑園同共同桑園

三養成苗圃及苗圃

四全芽篠桑育の狀況並に繭の均一販賣

五組合積立金の積立方法

二、山田東組農事組合　組合長竹下幸吉

一組合員の事務分担の狀況

二改良苗代（共同）一反歩（集圃）二反歩

三肥料の共同購入竝に共同配合

四害虫共同驅除　五綠肥採種圃

三、十人四組聯合農事組合　代表佐藤三郎

一米採種圃　麥採種圃

二耕地整理の狀況

四、下堰口農事組合　組合長小山文太郎

一桑苗圃原苗圃竝に接木の狀況

二米採種圃竝に植付の狀況

五、上下久保農事組合

一組合員の蔬菜共同苗圃

二養成苗圃竝に原苗圃

七、新町五家農事組合　組合長小林柳平

一新町青物市場四九デーに於ける農家副業品の共同販賣の狀況

七、地幹式、中刈仕立、高刈仕立の栽桑法

西前山宮澤武雄氏經營、宮澤地籍に在り

八、山中高助の山形式の栽桑法

東前山第四農事組合竹内善治氏經營藤之木地籍にあり

九、熊本鼠蚴飼式の仕立法竝に綠肥栽培

竹下幸吉氏經營山田早生稻田地籍

十、蒟蒻栽培

山田北組農事組合經營　上平地籍

十一、ホツプ栽培竝に人參栽培

野倉荒井邦一氏經營　穴平地籍

十二、坂田式米麥栽培法

赤池米吉氏經營　佛境地籍

十三、サフラン栽培

黒坂宮治氏經營　中原地籍

十四、養豚

倉澤倉平氏經營　同氏裏

十五、共同催青

手塚養蠶組合聯合會經營大字手塚公會堂の綉　以上

尙ほ農會に於ては近く標札を立て一般參觀人の便に供するとゝ

長野縣小縣郡

土地

役場位置　大字手塚字立石

面積　一方里六分

廣袤　東西一里二十丁　南北二十一丁

管轄沿革　往古不詳文治二年十人村、前山村、手塚村、山田村、野倉村ノ五ケ村共ニ拔田ノ庄ニ屬スルノ記事東鑑ニ見ル寛永十五年前山村分レテ手塚村トナル寛永十五年前山村ノ一部ヲ分離シテ手塚新町トナル明治七年東西前山合併シテ前山村ニ復ス明治八年手塚村ノ一部ヲ分離シテ手塚新町トナル明治十三年手塚村ニ復ス明治二十二年五月手塚村再ビ分離シテ手塚村及ビ新町トナル明治二十二年五月自治制實施ニ伴ヒ十人村前山村手塚村新町山田野倉村合シテ西拔田村トナル

部落數　官有地一民有地一

土地（臺帳面）

	地積	地價
田	一反	一、八六六円
畑	三、二三〇	七、〇三六円
宅地	四〇九	四六、九二六
山林	三、九三八	一、三七
原野	八四、六九	八七
其他	三	一
計	四九七	一、九四五、四二
免租地	一	四、二三九
他市町村住民ノ本市町村ニ有スル土地	五八五	六、七一九

其他

戸口

	男	女	計
戸數			一五
人口	一、八四三	一、七七一	三、六一四
人口計			三、六一四
本籍	一、八四三	一、七七一	三、六一四
現在	一、七三三	一、七七四	三、四九六
出生	一、七三三	一、七七四	三、四九六
死亡	一、七三三	一、七七四	三、四九六
婚姻	一	一	二
離婚	一	一	二
死産	一	一	二
人口增加	一	一	二
海外渡航者	一	一	二
内地殖民地	一	一	二
入寄留者	九五	九三	一八八
出寄留者	二六	二五三	四八九
男女歩合	一〇三	一〇〇	二〇三
人口增加歩合％	一	一	二
現在一戸當人口	四、四八		
女百人ニ付男	九七、八％		

氣候

	温	結霜	降雪
最高	九五	初月日	初月日
平均	五八	終月日	終月日
最低	下一五	五月十七日	十二月六日
	十一月七日		四月廿七日

動態

	四	二	三	八	一
官國幣社	一				
縣社					
鄉社					
村社					
無格社					
神職					
基督教會					
特別保護建造物及國寶					
神社寺院佛堂	四	二	一	一	一

社寺

曹洞宗	一
眞宗	一
天台宗	一
眞言宗	一
淨土宗	一
其他	四
住職	四

消防

組數　一
部數　一
人員　五
喇筒數　一
經費總額　九〇〇円
火災度數　一
損害見積額　八〇〇円
赤十字社員總數　二五〇
愛國婦人會員總數　三一

議會

	衆議院一縣會	市町村會	市町村會議員一人ニ付有權者歩合
有權者	三四五	五三	六四
議員數	一	一四	三、八

文書取扱件數

	公	私
收發	書記一人當取扱件數	區長若ハ市町村長一人當取扱件數
	一、七〇五	部落總代一年四三
吏員	一年四三	四一〇
統計委員	常設	臨時
調査員	書記	定員
	七	一五
報酬及給料月額	書記一人當人口	一四
	助役一收入役一書記	五
	月三六	三、五〇

人口動態

	出生	死亡	婚姻	離婚	死産
男	二五	二九	三	二	二
女	二五	二九	三	二	二
計	五〇	五八	六	四	四
男女歩合％	一〇〇	一〇三	一〇〇	一〇〇	一〇〇

教

小學校

本校一分教場一尋常學級一高等學級二復式學級一尋常一學級平均兒童高等一學級平均兒童

	二	一	三	一	三	一	四	二
學齡兒童	在籍兒童		日々出席平均兒童		前年度卒業兒童			
就學兒童	男	三三〇	男	二四二	男	二四一	男	二五
就學歩合	女	三二三	女	二五二	女	二三六	女	二四七
不就學兒童	計	六四三	計	四九三	計	四四	計	四九
就學歩合		九九、五九		九八、六〇		九九、五五		九九、三一
尋常	一	二四二	一	二四二	一	二五二	一	二五
高等	一	五七	一	五四	一	五四	一	五四

本正教員一尋正教員一准教員一專正一代用

財

國稅

	地租	所得稅	營業稅	相續稅	酒類消費稅	鑛業稅	其他	計
	六〇九、八六円	一、三四一、二九円		一、三六八、七円				

縣稅

	地租附加稅	所得稅附加稅	國營附加稅	其他國稅附加稅	縣營業稅	雜種稅	戸數割	計
	七、五三七、六三円	二五、九七円	七三〇、六五円		一円	九九、三〇円	一円	八、六六五円

地租附加稅一所得稅附加稅一國營附加稅一其他國稅一縣營附加稅一雜種附加稅一戸數割一

業

養蠶

	春蠶	夏秋蠶
蠶種	一、八〇〇	
	三、七二〇円	一
桑	四八一	五〇〇
反別	一四、二〇〇	五五四
見積反別	一五、一〇	三、一三六
	四、八〇〇匁	二四、五四
收繭量	四、〇〇〇	
價額	園	
	計	
	二七、八	
	九	
蠶種一枚當	製造戸數	
桑反別	普通蠶種枚數	
二七、二反	普通蠶種價額	
	原蠶種枚數	
	原蠶種價額	
	計	
	一	
	三、七二〇円	

耕地整理

	施行認可	工事終了
個所	後ノ面積	工事費豫算
面積		反當工事費
	二六、三〇五	一〇〇〇〇
一	一	一
	三七五	三七五
	耕地整理擴張施行ヲ得ヘキ面積	
	田	畑
	一	一

森林面積

	用材	薪炭材	竹	副産物	總價額
御料國有林	一石				
公有林	一				
民有林	二八	四五二	一五〇	一〇	一、二五九
計	二八	四五二	一五〇	一〇	一、二五九
	二〇七反	二八六	三七五	三反	一八六七反

林野産物

	木炭	茸
御料國有林	一、七〇〇	
公有林	一	
民有林	一	一
計	一	一
	三、二九〇	一、八〇〇

銀行

	行社數	資本金	拂込額	積立金	純益金	配當額	配當率	純損金	預金高	貸付金高
	一	一五〇、〇〇〇円	一〇六、五〇〇円	七〇、九三〇円	一七、八九九円	九、八五五円	九分	一	三七、二七	四三、七三

會社

	二
	五三、八三〇
	二、八〇〇
	四、五六
	三、四三
	二、五〇〇
	一割
	一
	一

質屋

	一
	一
	一
	一
	一
	一
	一
	一
	一

種類別組合數　組合員數平均　組合員數　拂込出資金　預ケ金　貸付金　販賣高　利用金

産業組合

	信用購買組合
出資口數	六一〇
出資金	一
諸積立金	一九、八五三
借入金	五九、八三三
貯金	四四、九五〇
購買高	九六、一三四
剩餘金	一

農會

	會員數	總代數	豫算總額	事業費一分賦額	一人當一調停又ハ仲裁件數
	八三	四二	三六二〇円	一七、一四円	一、〇九六

全上會員

勞資協定一小作協定一

肥料

	金肥	堆肥	綠肥
	一八、五〇五円	四五〇	一〇〇
	二、〇〇〇	二、八〇〇〇貫	三五〇
	三九、五〇〇円	四、五一〇円	二五
	一、〇五〇	五七、五〇〇円	
	五七、五〇〇円		

稻作用　麥作用　桑作用　其ノ他　消費總額　農家一戸當消費價額

製造栽培戸數　數量　見積價額　農家一戸當消費價額

家畜

	牛	馬	豚	山羊緬羊
年末現在	二	四四	四〇	五四
出産	一	五	三九	一五
斃死	一	一	一	
屠 頭數	一	一	一	
屠 斤量	一	一	一	
屠 價額	一	一	一	
乳牛	一			

家禽

	鷄	鴛	七面鳥	計
	二九〇	一	一	二九二
	二四四	一	一	二四五
	二三〇	一	一	二三二
	六四五〇	一	一	六四五二
	三八七〇	一	一	三八七二

	年	比
累	十三年	五七、三一〇円
	十二年	五二、三七

飼養戸數　成禽數　雛數　產卵個數　產卵價額

	飼養戸數	成禽數	雛數	產卵個數	產卵價額
	二七二	八			

西鹽田村一覽

大正十五年四月調

育

教員

	人員	俸給 最高	俸給 最低	俸給 平均
男	六	一三〇	四五	七九
女	三	五五	五五	四五
男	二	一	一	一
女	一	一	一	一
男	一	一	一	一
女	一	四五	四五	四五
男	一	四〇	三五	三八
女	一			
計	一四			

教育費

	經常費 臨時費	計
十四年度	一四、八九八円	一四、八九八円
十三年度	一七、〇九五	一七、〇九五
十二年度	一七、〇九五	一七、〇九五

	小學校經常費
大正十四年度	一四、〇〇〇円
同上生徒一人當	四四九

義務額超過月額 五七七

經常費總額ニ對スル授業料ノ割合 四四六

市町村費ニ對スル小學校費ノ割合 四四九

經常小學校費就學兒童一人當 二八、五五九

青年團

會名	會員數	基本財産	一ケ年間ノ經費	事業大要
西塩田青年團	二五五	五〇円	六〇五、〇〇〇	講演會講習會 發刊 電燈料ノ集金、圖書縮ノ刷寫
西塩田婦人同志會	二八七			
東前山處女會	五三		三〇〇、〇〇〇	講演會講習會
西前山處女會	二九	四七六	一〇〇、〇〇〇	講演會敬老會
新町處女會	一五	七五	五〇、〇〇〇	
十人處女會	二二		一〇〇、〇〇〇	生活改善勸儉貯蓄ノ奬勵敬老會
山田禁煙會	四九		一〇〇、〇〇〇	
一館	一	六八四	一〇〇、〇〇〇	禁煙貯蓄

婦人會等

	會員數	開館日數	閱覽人員	經費	備考
圖書館 私立	一	一八五	三〇	一七〇	二〇円

其ノ他學校

	校數	教員 男	教員 女	生徒 男	生徒 女	卒業者 男	卒業者 女	經費	備考
實業補習學校	一	一		一		一		一円	

勸

生産物

	總價額	農産	工産	林産	畜産	水産	鑛産
十四年	七四四、三四四円						
十三年	六四五、八二二						
十二年	七三七、一三六						

主要農産物

種類	作付反別	收穫高	價額	反當收穫高
粳米	一五六三	四三一〇石	一五一、九二〇円	二七〇合
糯米	三三八	五七二	三一、四〇〇	一、〇九三
大麥	四八五	九三	一、〇九三	二五〇
小麥	一三六	二四	四、〇八〇	一五〇
大豆	一五五	三、七一〇	二、一〇〇	一〇〇
小豆	四三	四〇	一、〇〇〇	九五〇

農家戸數

	農家戸數 計	組合數	組合員數
自作	二九		
小作	一七六		
自作兼小作	二九		
計	六九四	二	六四六
農事小組合	三〇		
養蠶組合	一四		
計	四四		

主要工産物

	製絲	座繰絲	玉絲	酒造	瓦
種類					
工場數	一	一	一	一	一
製造高	一〇三〇貫	三三五	七三	三三〇石	三五、〇〇〇枚
價額	二三、二七〇円	一三、一七五	六、四八〇	一九、八〇〇	二、〇〇〇
職工男	一	一	一	一	一
職工女	一	一	一	一	
職工計	一	一	一	一	

政

税

	税	加税	附加税	附加税	計
	三、八〇三、八二	三一、一五八	七四三、二四	三五〇、三二	一、六二〇、一〇一四

基本財産價額

	土地	建物	立木	公債株券	現金	その他	計
	一円	一円	一円	一円	一円	一円	一円

市町村歳入歳出

歳入	財産收入	市町村債	役場及會譯	基本財産積立
	一、二〇五円	一円	四、八二一円	三九円
歳入 他ノ科目ヨリ繰入	五四	村税	土木費	二、五七二
交付金	七二〇	國庫下渡金	二九二五	
補助金	六八四	繰入金	三七	
寄附金	三四〇	その他	二、一四〇、八	
繰越金	一、三四	計	三、二九七	
歳出	教育費	衛生費	公債費	諸税及負擔
	一四、八九八	一三	六五	四、〇三九
歳出	勸業費	警備費	其ノ他	計
	一、五四〇	三、五二	一、八七九	三、一九七

寄附及補助費 一、五四八

兵事及衛生

壯丁及軍人會

	檢査人員 甲	乙	計	丙	丁	戊	計	合格者	不合格者	會員總數	軍人分會 一ケ年總費
	四三	三	二	二七	六	二	一七	一			

衛生

	醫師	藥劑師	産婆	看護婦	聯合衛生組合長	全上副長	全上顧問	衛生組合數	全上組長	全上副長
	二	一	三	二	一	一	七	一	三五	三五

傳染病

	病名	患者	治癒	死亡	患者一人ニ對スル傳染病豫防費
トラホーム		二九〇	一	五	三〇
受檢人員	重症甲	一重症乙	輕症甲	輕症乙	疑似病甲	疑似症乙	檢診百中患者一ケ年經費
	五	三〇	五〇	一	二、八五七	一四円

	隔離病舍及傳染病院	市町村立町村組合病舍病院	病床	病舍病院	病床
	一	一	一	一	一

交通

道路

	國道	縣道	市町村道	計
	一	三一	四八	四九

通信

	郵便局所	切手賣捌所	電信電話取扱所	船	汽車	電車
	一	六	二	一	一〇	三

	停車場	町村内哩	乘降客人員	全上金額	發着貨物	着貨物
	一	一	一	一	一	一

	牛馬車	人力車	荷車	小船	自轉車	自動車	普通自動車	乘用	荷用
	一	一	一	一	一	一	一	一	一

摘要

一人又ハ一戸當

税

	直接國税	縣税	市町村税	計	戸數割 附加税	一戸
大正十四年度	一二、六八五円	二四、〇八	三四、〇五	六八、二一	一人	四、〇七
大正十三年度	一二、〇四四	二四、〇四	三五、〇七	七一、一五	一戸	二五、二六
大正十二年度	一三、一六八	二三、七三	三一、四八	六七、三七	一戸	二六、九二

經費

	市町村總計	役場費	教育費	土木費	衛生費	その他	計
大正十四年度	四三、三五	六、七四	二〇、六四	三、五六	一六	二、四	一三、〇七
大正十三年度	四三、九〇	七、二八	二二、九五	七、九六	二五		一五、九二

一戸當

	一戸當
大正十四年度	一、〇二一円
大正十三年	一、一五七

生産物

	總價額 一戸當	米收穫高 一人當	麥收穫高 一人當	農家一戸ニ付 田	農家一戸ニ付 畑	養蠶家一戸當收繭
	八九四円	九六五合	一二〇	二、九二五歩	二、九二五歩	五九貫
	一、一五七	五、五三	二八〇	二、九二五歩	二、九二五歩	八〇

養蠶家一戸當收繭 五九貫

耕地反別

	田	畑
	四、八二一	四、九〇〇
	四、八二一	四、九〇〇

農家一戸ニ付桑園反別

	桑園反別
	四、一〇〇歩
	四、二〇〇歩

養蠶家一戸當

	養蠶家一戸當
	八七、一四五貫
	九〇、〇〇〇貫

醫師一人ニ付人口

	醫師一人ニ付人口
	一、九〇五
	一、九〇五

産婆一人ニ付戸數

	産婆一人ニ付戸數
	一、二七〇
	一、二七〇

金肥消費農家一戸當

	金肥消費農家一戸當
	八七、一四五
	九〇、〇〇〇

備考

山浦印刷

◆西塩田村

村長　竹下繁松
助役　黒坂重市郎
收入役　樋口寄位
書記　金澤欣次郎
全　黒坂勝
全　荒井精一
全　福田正雄
技術員　武田芳春
學務委員　六川靜治
全　宮澤友一
衛生委員　吉野茂七
土木委員　保科由太郎
全　瀧澤重
全　瀧澤賢輔
林業委員　春原義勇
全　樋口勘藏
全　樋口左近
全　小林丈助
縣有林巡視員　小林丈助
全　竹内平十
全　樋口左近
全　瀧澤與四郎
大字總代十人　佐藤三郎
東前山　鷲原義男
西前山　吉澤政太郎
手塚　小池恭太郎
新町　山極伴藏
山田　東川幾太郎
野倉　竹内榮吉郎

齋藤勇
小宮山篤
佐藤三郎
池田文治
齋藤廣次
小林丈助

西塩田村外二ヶ村財産組合會々議員　小林留次郎
瀧澤正江
齋藤市太郎
佐藤清五郎
瀧澤清松
黒坂重市郎
宮澤八十八

川西傳染病院組合會議員　宮澤久三郎
瀧澤清松
齋藤市太郎

◆西塩田郵便局
局長　山極八太郎

◆方面委員
竹下繁松

◆駐在巡査
荻原三平

産業統計調査員　武田市左衛門
西澤恒雄
瀧澤廣次
宮澤茂士
吉野忠友
市村誠
中澤和作

全　春日茂
全　川上理
全　龍野進午
全　増田新三郎
學校醫　方平吉

西塩田村農會　會長　竹下繁松
副會長　黒坂重市郎
幹事　福田正雄
評議員　春原義勇
宮澤八十八
樋口左近
瀧澤賢輔
東川幾太郎
福田駒太郎
武田正雄
竹下繁松
黒坂重市郎
武田芳春
佐藤拾次郎
齋藤洋爾
武田市左衛門
佐藤倉太郎
竹内豐次郎
竹内孫市
西澤官兵衛
安藤廣實
大庭宇次郎
小宮山宗壽
池田繁雄
小出留十
腰田内匠
小松長次郎
瀧澤清吉
宮澤八十八
瀧澤喜治力
柳澤喜巳
西澤

都農會代議員
縣農會議員豫備議員
農會技術員
農會總代

理事　佐藤三郎
全　小宮山篤
全　春原種儀
全　宮澤八十八
全　宮澤友一
全　福田庄市郎
全　山極乾
全　樋口一
全　小林留次郎
全　竹下秀太郎
全　竹下照之助
全　曾根正一
全　池田榮五郎
監事　佐藤清五郎
齋藤市太郎
黒坂重市郎
全　瀧澤清松
全　小林丈助
全　瀧澤清吉
全　池田文治
全　瀧澤喜熊
事務員　宮澤直人
全　保科よしの
全　齋藤卓

◆西塩田消防組
組頭　樋口寄位
全代理　荒井精一
一部長　市村弘
二部長　竹下亥地人
三部長　荒井邦一
四部長　黒坂哲太郎
五部長　中井嘉右衛門
消防醫　佐藤高紹

◆西塩田村兵役優待會
全　佐藤知弘
全　市村弘
全　黒坂哲太郎
全　竹内正一
全　瀧澤伴一郎
全　西澤八郎
全　竹下亥地人
全　武田市左衛門
全　山極忠恕
全　齋藤源一郎
全　荒井精一
全　福田三政
全　竹下德人
全　吉池二樹男
全　安藤幸
全　宮澤茂士

班長
第一班長　小林勝
第二班長　瀧澤啓
第三班長　瀧澤伴一郎
第四班長　市村弘
第五班長　福田邦治
第六班長　竹下正信
第七班長　山極國時

◆西塩田婦人同志會
會長　六川靜治
副會長　武田美な
幹事　中井ちよの
全　竹内延子
全　池田とめこ
全　宮澤みよし
全　大庭益雄
全　樋口義雄
全　市村とめ代
全　佐藤じゆん
全　小木曾欠

村會議員

武田助左衛門
黒坂重市郎
宮澤友一
市村藤作
樋口秀實
山極喜三郎
佐藤清五郎
小宮山節
宮澤八十八
樋口左近
齋藤市太郎
曾根正一
小林留次郎
林祐藏

◆學校組合會議員

佐藤清五郎
樋口左近
宮澤八十八

◆川西道路組合會議員

齋藤重太郎
佐藤清五郎
宮澤友一

澤山財產組合會議員

樋口左近
武田正雄
春原種儀
宮澤友一
曾根正一
瀧澤重
倉澤喜内
宮澤久三郎
福田駒太郎

土地調査員

黒坂邦一郎
山極博人
福澤利只
竹下照司
東川孝
荒川邦一
吉池良平
佐藤三郎
瀧澤定巳
驚原義男
吉澤廣次
宮澤兵部
金澤欣次郎
齋藤清人
樋口博人
福田賢一郎
山極國時
吉池作平
竹下幸
荒井精一
竹内已代治
宮澤友一
佐藤三郎
驚原義男
橫山健治
福澤利只
保科德吉
福田正雄
保科由太郎
齋藤一二三
小山文太郎
山極乾
小池德四郎
市村弘
樋口勘藏
吉野茂七

西塩田小學校
校長兼訓導

六川靜治
石森郁太郎
田中信義
佐藤知信
土屋信
若林理雄
小山久士
小池茂
廣田千枝
小出きくの
峰村美
小島正
室賀袈裟雄

訓導
農區長
會長
幹事
副會長
幹事

竹下繁松
佐藤知弘
武田市左衛門
西澤恒雄
安藤幸
增澤延壽
宮澤茂士
西澤眞二
樋口秀實
福田賢一郎
宮越常太郎
齋藤慶巳
齋藤新
小林繁虎
竹下正信
竹内海一郎
坂口辰十
平林祐藏
小林乙作
東川幾太郎
東川忠市郎
宮澤兵部
金澤欣次郎
齋藤清人
樋口博人
山極博人
福田賢一郎
吉池作平
竹内已代治
宮澤友一
佐藤三郎
驚原義男
吉澤政太郎
小池恭太郎
山極伴藏
竹下幸吉
山極博

西塩田村聯合衛生組合
聯合會長

齋藤重太郎
副長
大字總代

西塩田信用購買組合
組合長理事
專務理事

箱田梅作
武田正雄

◆村誌編纂會

會長
竹下繁松
幹事
黒坂重市郎
委員
武田繁太郎
宮澤丑太郎
補助委員
樋口寄位
宮澤久三郎
六川靜治
佐藤知信

◆西塩田村軍人分會

會長
佐藤知弘
副長
市村弘
理事
荒井精一
宮澤茂士
瀧澤伴一郎
黒坂哲太郎
幹事
竹下亥地人
和方平吉
評議員

◆西塩田青年團

團長
樋口秀實
副團長
武田駒之助
理事
山極博人
齋藤清人
支部長
武田駒之助
十人
山極博人
大澤三平
黒坂舍人
西前山
手塚樋口勇
山田齋藤恒
野倉山極盈
小山保長
吉田信夫
宮澤茂士
中澤和作
東川孝
池田榮人
幹事（支部長ハ幹事兼任）
小林慶一郎
小林薫
文庫員
春原正造
宮澤茂士
曲尾智明
小池豐
保科和雄
東川多壽男
池田榮人
竹内むつ
荒井かつよ
柳澤あいし
驚原よし江
曲尾たまよ